

熊本市子どもの生活等実態調査

結果報告書

平成30年2月

熊本市子ども支援課

目次

はじめに

1. 調査概要	1
2. 配付・回収状況	
3. 世帯の所得と貧困線	
4. 報告書の留意点	

第Ⅰ章 子どもを持つ世帯へのアンケート調査～保護者に対する調査結果～

1. 属性	7
(1) 回答者の続柄	
(2) 世帯構成	
(3) 父母の状況	
(4) 住居	
(5) 等価可処分所得	
2. 子どもとの生活	12
(1) 健康状態	
(2) 保護者が食事を作る頻度	
(3) 保護者が家にいる時間帯	
(4) 放課後一緒に過ごす人	
(5) 一緒に遊びや料理、会話等をする時間	
(6) 日常生活における子どもとの関わり	
3. 子どもの教育	19
(1) 子どもの成績	
(2) 通学状況	
(3) 子どもの進学	
(4) 低料金で利用できる学習支援制度の利用意向	
4. 学校・地域との関わり	22
(1) 子どもの学校行事に参加する頻度	
(2) 地域の行事に参加する頻度	
5. 経済的状況	23
(1) 手当や援助等制度の利用状況	
(2) 経済的要因による困難なこと	
6. 将来への希望や悩み事など	29
(1) 将来への希望の有無	
(2) 悩み事の有無	
(3) 相談できる人	
7. 熊本地震後の生活状況	31
(1) 住居の状況	
(2) 地震前と現在での就業形態の変化	

- (3) 地震前と現在を比べた収入の変化
- (4) 就業形態の変化と収入の変化

第Ⅱ章 子どもを持つ世帯へのアンケート調査～子どもに対する調査結果～

1. 属性	35
(1) 回答者の学年	
2. 生活状況	35
(1) 健康状態	
(2) 生活習慣	
(3) 食生活	
3. 放課後の過ごし方	41
(1) 放課後の居場所など	
(2) テレビやゲームなどをする時間	
(3) 自分が使うことができるもの	
4. 勉強と学校生活	48
(1) 家庭での勉強・読書	
(2) 塾やスポーツクラブ、習い事	
(3) 学校は楽しいか	
(4) 進学希望	
5. 将来への希望や悩み事	57
(1) 将来の夢・希望など	
(2) 悩みや相談について	

第Ⅲ章 要支援者アンケート調査～保護者に対する調査結果～

1. 属性	65
(1) 居住区	
(2) 回答者の続柄	
(3) 世帯構成	
(4) 父母の状況	
(5) 住居	
(6) 等価可処分所得	
2. 子どもとの生活	71
(1) 健康状態	
(2) 保護者が食事を作る頻度	
(3) 保護者が家にいる時間帯	
(4) 放課後の過ごし方	
(5) 一緒に遊びや料理、会話等をする時間	
(6) 日常生活における子どもとの関わり	
3. 子どもの教育	76
(1) 子どもの成績	

(2) 通学状況	
(3) 子どもの進学	
(4) 居場所の利用意向	
4. 学校・地域との関わり	81
(1) 子どもの学校行事に参加する頻度	
(2) 地域の行事に参加する頻度	
5. 経済的状況	82
(1) 養育費について	
(2) 経済的要因による困難なこと	
6. 将来への希望や悩み事など	84
(1) 将来への希望の有無	
(2) 子どもへの信頼と期待	
(3) 悩み事の有無	
(4) 相談できる人	
(5) 現在または将来望む子どもへの支援	
7. 熊本地震後の生活状況	88
(1) 住居の状況	
(2) 地震前と現在での就業形態の変化	
(3) 地震前と現在を比べた収入の変化	
(4) 就業形態の変化と収入の変化	

第IV章 要支援者アンケート調査～子どもに対する調査結果～

1. 属性	91
(1) 通っている学校	
(2) 年齢	
(3) 家族構成	
2. 生活状況	92
(1) 生活習慣	
(2) 食生活	
3. 放課後の過ごし方	98
(1) 放課後の居場所など	
(2) 居場所の利用意向	
(3) テレビやゲームなどをする時間	
(4) 自分が使うことができるもの	
(5) アルバイト	
4. 勉強と学校生活	107
(1) 家庭での勉強・読書	
(2) 塾やスポーツクラブ、習い事	
(3) 学校は楽しいか	
(4) 進学希望	

5. 将来への希望や悩み事など	115
(1) 将来の夢・希望など	
(2) 悩みや相談について	

第V章 支援者ヒアリング調査結果

1. 学校関係者	121
(1) スクールソーシャルワーカー	
(2) 指導主事	
(3) 養護教諭	
2. 公的相談機関関係者	130
(1) 区役所保護課職員	
(2) 主任児童委員	
(3) 母子・父子自立支援プログラム策定員	
(4) 養育費専門相談員	
3. 児童福祉施設関係者	139
(1) 母子生活支援施設	
(2) 乳児院	
(3) 児童養護施設	
4. 公益団体関係者	146
(1) 子ども食堂	
(2) 学習支援塾	

資料編

1. アンケート自由記述について	149
(1) 保護者の悩み、意見、要望	
(2) 子どもの悩み、意見、要望	
2. 調査票	161
(1) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票（保護者用）	
(2) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票（子ども用）	
(3) 要支援者へのアンケート調査票（保護者用）	
(4) 要支援者へのアンケート調査票（子ども用）	

はじめに

1. 調査概要

(1) 調査の目的・趣旨

子どもの将来のために必要な環境整備と教育の機会確保を図るため、子ども達がどのような生活を送っているかの実態や、特に経済面や社会的な理由による困難を抱えている子ども達の課題を把握することで、今後の施策検討のための基礎資料とする。

なお、この調査は熊本県と協調し、調査項目等を調整して実施した。ただし、熊本地震に伴う住家の被災状況や保護者の就労変化等については、熊本市独自の調査項目とした。

(2) 調査対象

① アンケート

調査種類	調査対象	対象世帯数
子どもを持つ世帯への調査	小学5年生とその保護者	3,012世帯
	中学2年生とその保護者	3,024世帯
要支援者への調査	・ 中学1年生及び中学3年生の就学援助制度利用世帯 ・ 12～18歳の子どもがいる児童扶養手当受給世帯 ・ 12～18歳の子どもがいる生活保護受給世帯 の子どもとその保護者	2,988世帯

* 子どもを持つ世帯への調査は、回答が可能な年齢や他都市の実施状況を考慮し、対象学年を選定した。

* 要支援者への調査は、就学援助制度利用世帯、児童扶養手当受給世帯、生活保護受給世帯から無作為に抽出した。

② ヒアリング

支援者（学校関係者、公的相談機関関係者、児童福祉施設関係者、公益団体関係者など）

(3) アンケート調査項目

- ・ 世帯の属性（家族構成、収入・就労状況）
- ・ 生活状況（生活習慣、親子の関わり）
- ・ 学習・文化面（進学意向、塾や習い事）
- ・ 物質的剥奪（食料、文具・教材、医療、制度）
- ・ 社会関係の欠如（相談相手の有無）
- ・ 心理・精神面（自己肯定、悩み事）など

(4) スケジュール

7月3日～7月21日 子どもを持つ世帯へのアンケート調査実施（学校経由配布）

7月13日～8月3日 要支援者へのアンケート調査実施（郵送による配布）

7月下旬～8月下旬 支援者へのヒアリング実施

8月～10月 集計作業

9月中旬～12月 分析、まとめ

11月中旬 子どもを持つ世帯への調査結果概要公表

2月 調査結果報告書公表

2. 配布・回収状況

(1) 子どもを持つ世帯へのアンケート

地域的人口バランスを考慮し、人口按分により区ごとの世帯数を設定し、各区内の学校の小学5年生及び中学2年生の在籍数に応じ学校を選定した。選定した学校の小学5年生と中学2年生の全員に配布した。

配布・回収方法は、学校を經由し行った。

- ・調査期間：平成29年7月3日～7月21日
- ・回収期間：平成29年7月24日～7月26日

【回収率】

①学年別

小5、中2とも回収率に大差なく、全体で76%を超えた。

		配布数	回収数	回収率
小学5年生	保護者	3,012	2,329	77.3%
	子ども	3,012	2,325	77.2%
	計	6,024	4,654	77.3%
中学2年生	保護者	3,024	2,274	75.2%
	子ども	3,024	2,263	74.8%
	計	6,048	4,537	75.0%
全体	保護者	6,036	4,603	76.3%
	子ども	6,036	4,588	76.0%
	計	12,072	9,191	76.1%

②区別

中央区で7割に満たなかったが、他の区では8割近い回収率となった。

	配付数	回収数	回収率
中央	2,440	1,689	69.2%
東	3,550	2,802	78.9%
西	1,292	991	76.7%
南	2,392	1,829	76.5%
北	2,398	1,876	78.2%
不明		4	
計	12,072	9,191	76.1%

(2) 要支援者へのアンケート

就学援助や児童扶養手当、生活保護受給世帯など2,988世帯を対象に郵送によりアンケート票を配付、回収を実施した。

- ・調査期間：平成29年7月13日～8月3日
- ・回収期間：平成29年7月18日～8月25日

【回収率】

約3割の回収率となった。

	配布数	回収数	回収率
保護者	2,988	934	31.3%
子ども	2,988	910	30.5%
計	5,976	1,844	30.9%

3. 世帯の所得と貧困線

所得による影響を分析するため、保護者アンケートの世帯の可処分所得から所得分類を行った。

(1) 等価可処分所得及び貧困線の算出方法

世帯の所得について、国の「国民生活基礎調査」による「相対的貧困率」の算出方法に沿って、独自に「貧困線」を設定した。

なお、国の「国民生活基礎調査」による「相対的貧困率」とは、対象者や調査手法等が異なるため、国の「貧困線」や「相対的貧困率」と単純に比較し得るものではない。

①世帯の可処分所得

設問「前年の世帯全員を合わせた所得の合計（収入から税や社会保険料を支払った後の額）」の選択肢の中央値（「200万～250万円未満」と回答した場合は225万円）をその世帯の可処分所得と仮定。

②等価可処分所得

①の世帯の可処分所得を「世帯人員数の平方根」で除して算出。

③等価可処分所得の中央値

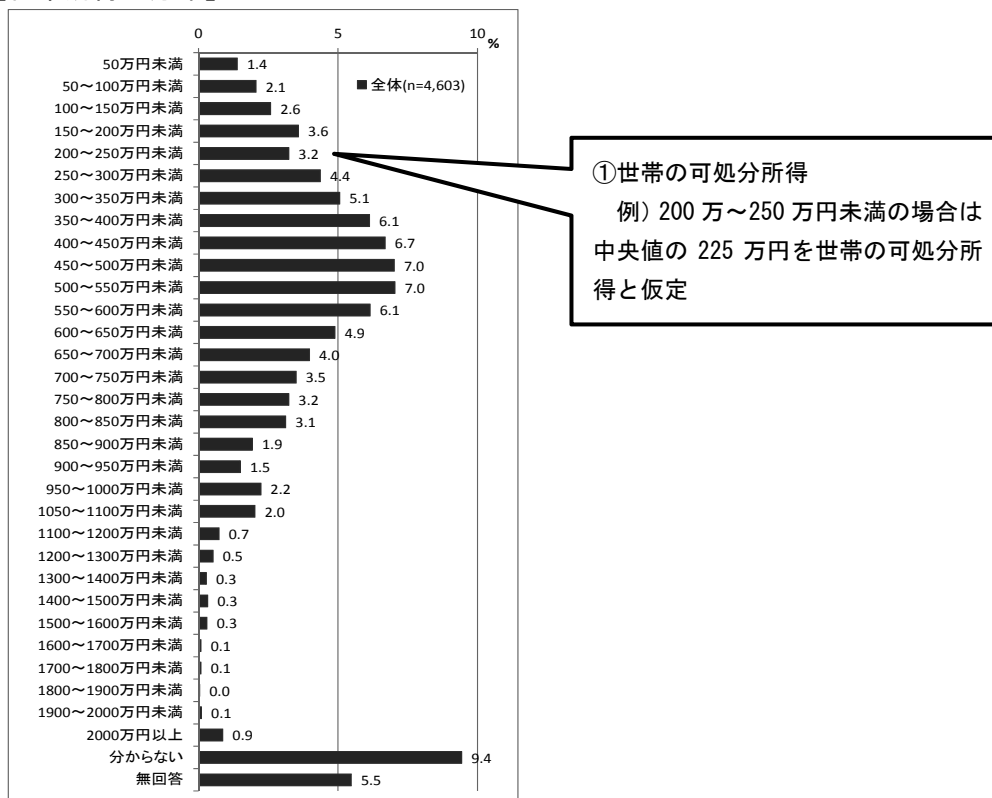
②で算出した等価可処分所得を順に並べ、真ん中の順位の人所得を算出

④貧困線

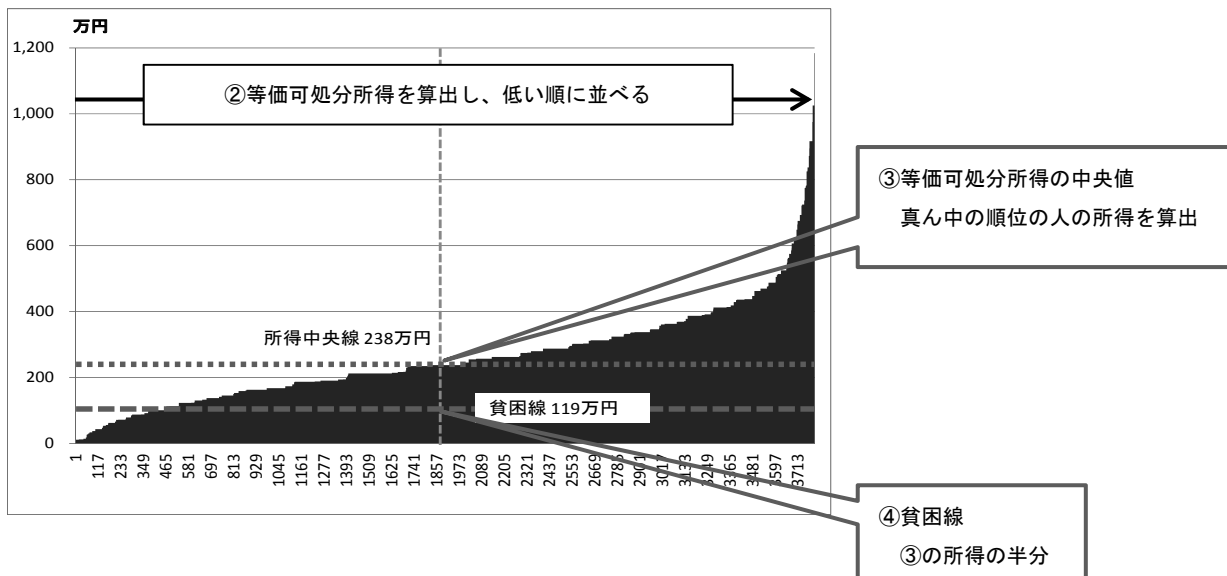
③の所得の半分の額のラインを算出

(2) 「子どもを持つ世帯」の所得と等価可処分所得

【世帯所得の分布】



【等価可処分所得の分布】



【等価可処分所得及び中央値・貧困線】

世帯の可処分所得の回答があった 3,804 世帯の等価可処分所得を算出。中央値及び貧困線は表のとおりとなった。

保護者総数	4,603	世帯
世帯所得平均値	560	万円
等価可処分所得算出可能世帯数(n)	3,804	世帯
n/2	1,902	
等価可処分所得中央値	238	万円
貧困線(中央値の1/2)	119	万円
貧困線未満	534	世帯
貧困線未満の割合	14.0	%

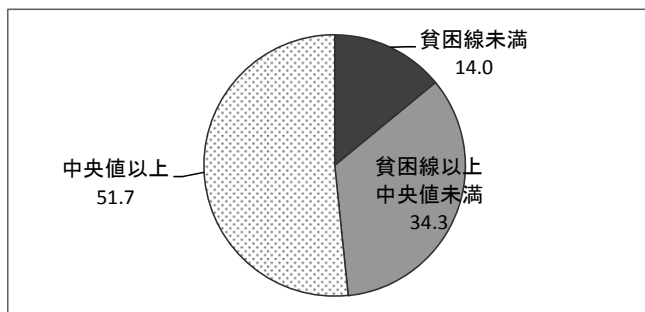
【所得分類】

所得分類については、等価可処分所得の中央値及び貧困線を基に、3つに分類した。



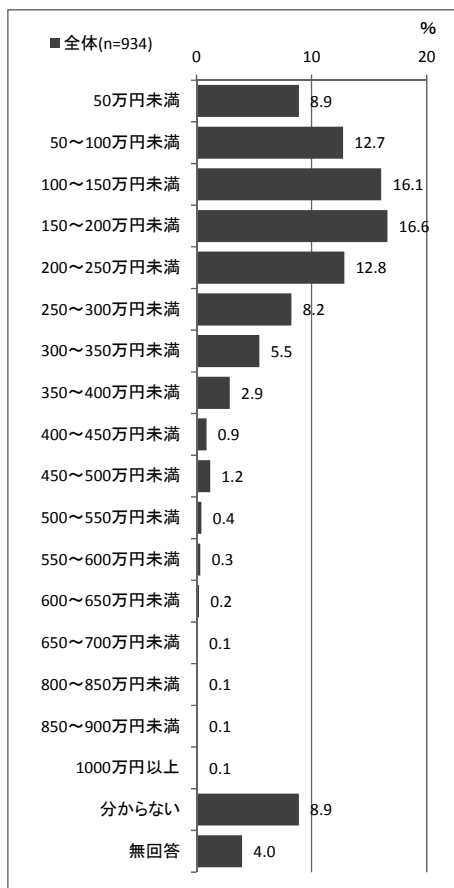
【中央値及び貧困線による世帯構成比】

等価可処分所得が算出可能な 3,804 世帯から算出した中央値及び貧困線による世帯構成比は、「中央値以上の世帯 51.7%」、「貧困線以上中央値未満 34.3%」、「貧困線未満 14.0%」となった。



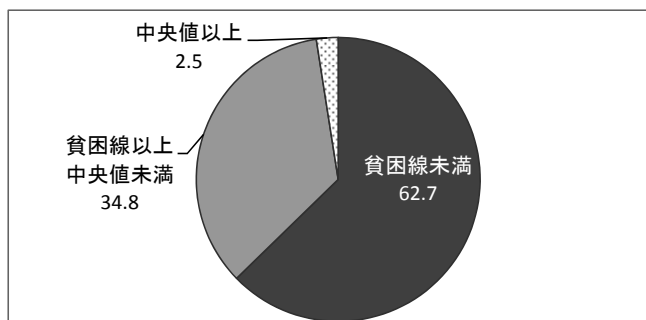
(3) 「要支援者の世帯」の所得と等価可処分所得

【世帯所得の分布】



【中央値及び貧困線による世帯構成比】

等価可処分所得が算出可能な 767 世帯について中央値及び貧困線による世帯構成比を算出すると、「中央値以上の世帯 2.5%」、「貧困線以上中央値未満 34.8%」「貧困線未満 62.7%」となった。



* 中央値及び貧困線は「子どもを持つ世帯」のアンケートから算出したものを基準としている。

4. 報告書の留意点

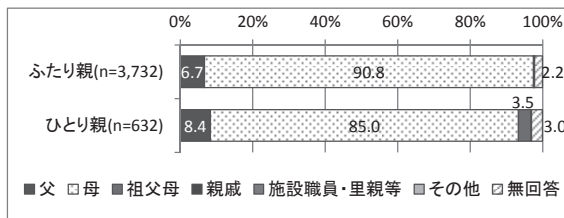
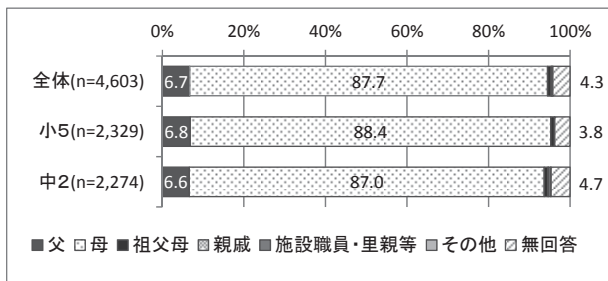
- ・ 集計結果の割合は、有効回答数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものであり、合計した値が100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の場合、選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100%を超える場合がある。
- ・ 所得分類別の分析を行っているが、所得により大きな差が見られない項目については、クロス集計を省略している場合がある。
- ・ 「子どもを持つ世帯」の分析において、保護者との関わりが影響すると思われる項目は「家族構成別（ひとり親・ふたり親）」でのクロス集計を用いている。
- ・ 「要支援者」の分析においては、所得分類より、「家族構成別（ひとり親・ふたり親）」でのクロス集計を主に用いている。

第 I 章 子どもを持つ世帯へのアンケート調査～保護者に対する調査結果～

1. 属性

(1) 回答者の続柄

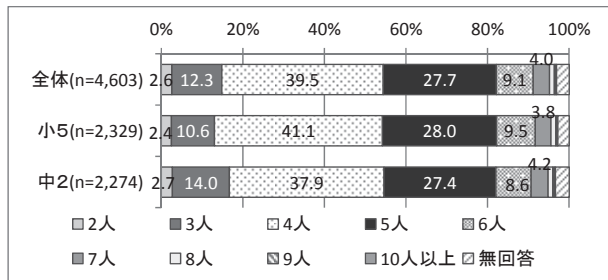
全体、家族構成別とも母親の回答が多い。ひとり親世帯では祖父母の回答が 3.5%であった。



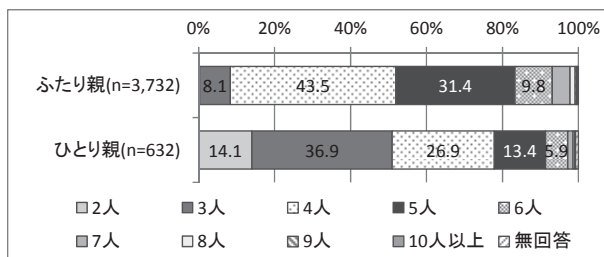
(2) 世帯構成

①世帯人数[単身赴任中や一時的に別居の方も含む]

・全体では世帯人数は 4 人世帯が 4 割近くを占め、次いで 5 人世帯が多い。ひとり親世帯は 3 人が 4 割近くを占め、次いで 4 人世帯が多い。



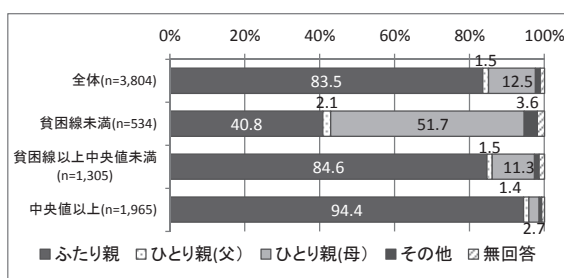
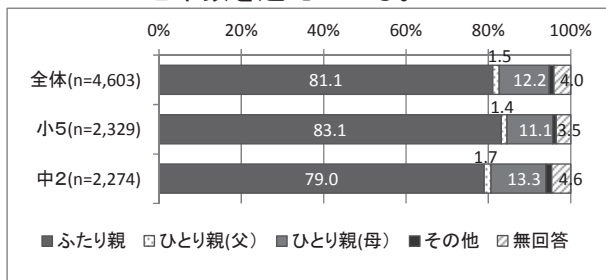
	全体	小5	中2
2人	2.6	2.4	2.7
3人	12.3	10.6	14.0
4人	39.5	41.1	37.9
5人	27.7	28.0	27.4
6人	9.1	9.5	8.6
7人	4.0	3.8	4.2
8人	1.1	1.2	1.1
9人	0.3	0.3	0.4
10人以上	0.2	0.2	0.3
無回答	3.1	2.8	3.4
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
2人	0.3	14.1
3人	8.1	36.9
4人	43.5	26.9
5人	31.4	13.4
6人	9.8	5.9
7人	4.7	1.4
8人	1.3	0.5
9人	0.4	0.2
10人以上	0.3	0.0
無回答	0.2	0.8
計	100.0	100.0

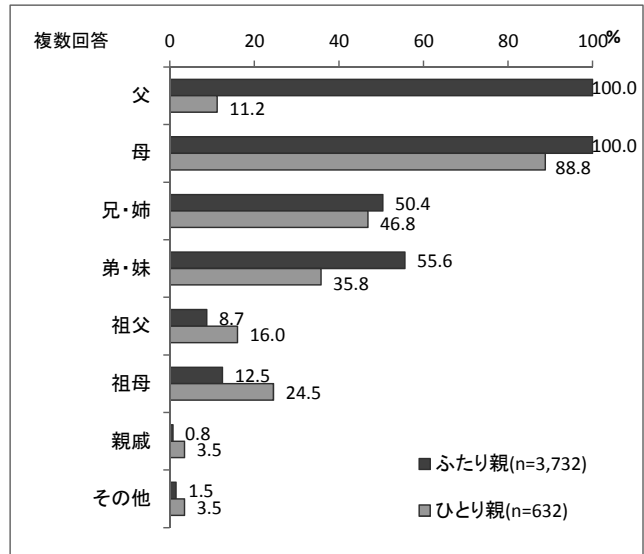
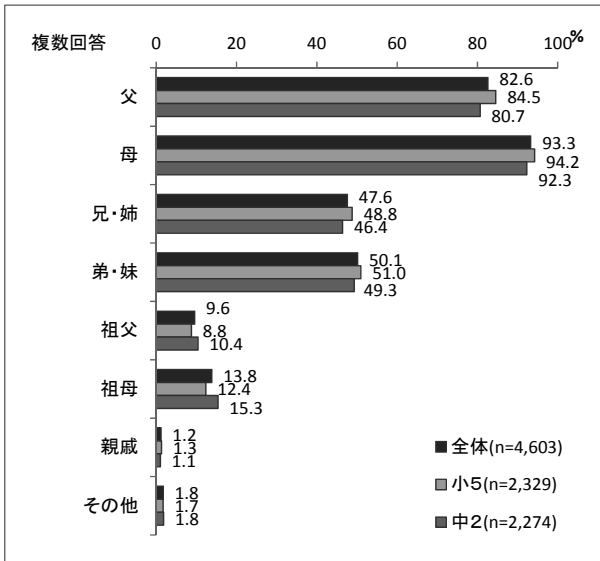
②家族構成(ひとり親・ふたり親の別)[単身赴任中や一時的に別居の方も含む]

・全体ではふたり親が 8 割強を占め、ひとり親世帯(母子家庭と父子家庭の合計)は 13.7% (祖父母と同居を含む)となった。ひとり親世帯の 9 割近くは母子家庭である。
 ・所得分類別にみると貧困線未満ではひとり親世帯の割合が高く、特にひとり親(母)が 51.7%と半数を超えている。



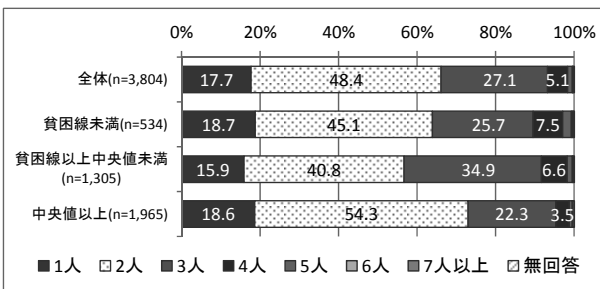
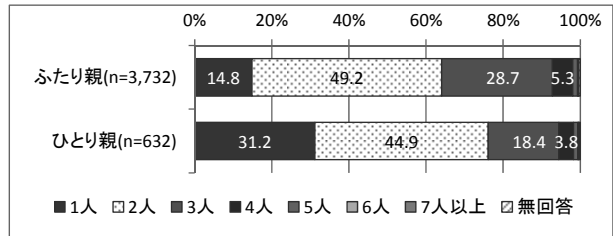
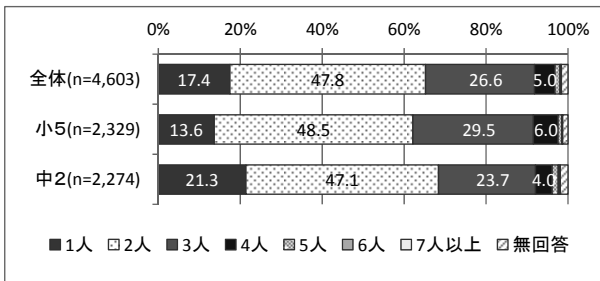
③同居家族[単身赴任中や一時的に別居の方も含む]

- ・全体では「祖父」「祖母」との同居は1割前後であるが、ひとり親世帯はふたり親世帯のほぼ倍近い割合である。



④同居する18歳未満の子どもの数

- ・全体では「2人」が最も多く、次いで「3人」「1人」である。
- ・ふたり親世帯、ひとり親世帯とも「2人」が4割台だが、ひとり親世帯では次いで「1人」が多く、ふたり親世帯では「3人」が多い。
- ・所得分類別にみると中央値以上の世帯では「2人」が5割を超え、貧困線以上中央値未満の世帯では「3人」の割合がやや高い。

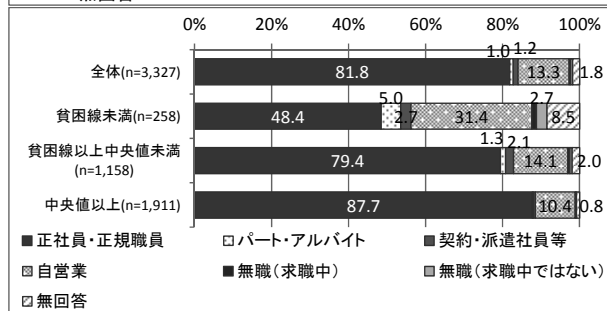
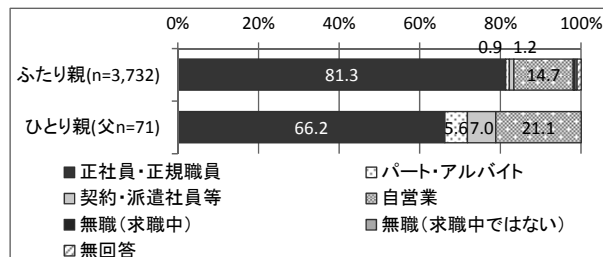
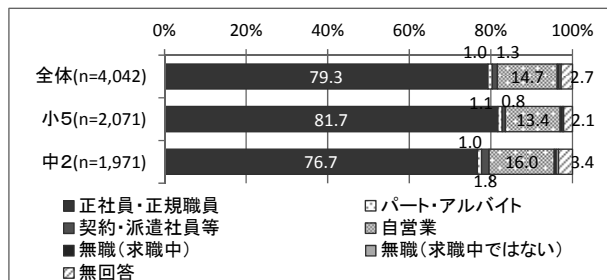


(3) 父母の状況

①就業状況（父親）

- ・全体では「正社員・正規職員」が8割近くを占め、次いで「自営業」が15%近くとなっている。
- ・ひとり親（父）世帯では「自営業」が2割を占め、「正社員・正規職員」は7割を下回る。
- ・所得分類別では、貧困線未満の世帯で「正社員・正規職員」は5割を下回り、「自営業」が3割を占める。

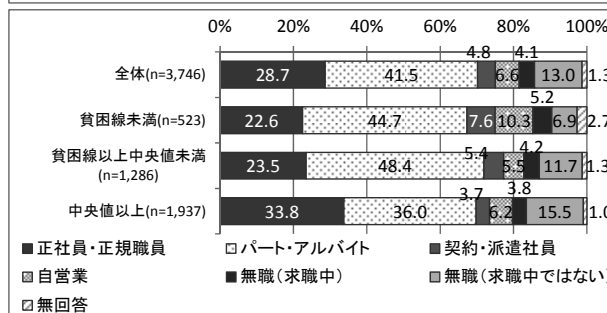
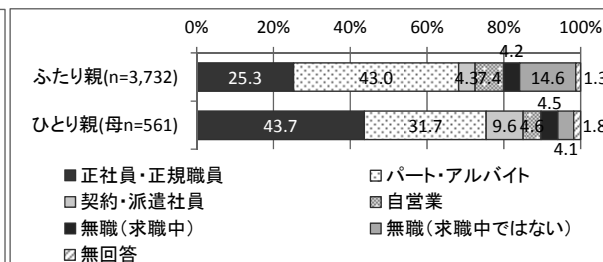
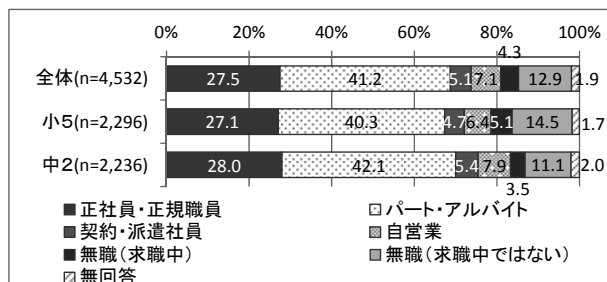
* 図の「全体」はひとり親（母）を除く



②就業状況（母親）

- ・全体では「パート・アルバイト」が4割を占めて最も多く、「正社員・正規職員」は3割弱である。「無職（求職中でない）」が1割を超える。
- ・ひとり親（母）世帯では「正社員・正規職員」の割合が4割を超え、「無職(求職中、求職中でないの計)」は1割未満である。
- ・所得分類別では、中央値未満の世帯は「正社員・正規職員」が2割強にとどまる。

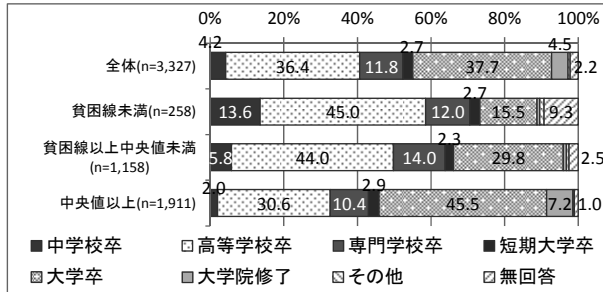
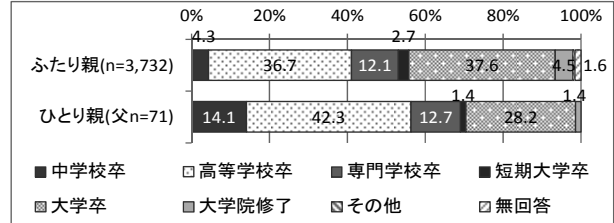
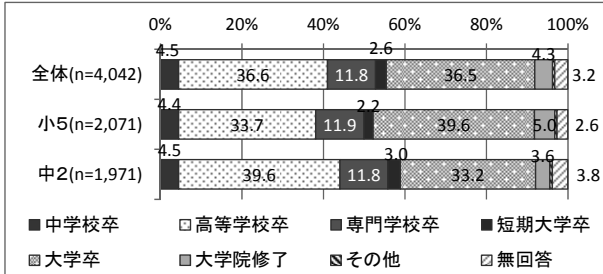
* 図の「全体」はひとり親（父）を除く



③最終学歴（父親）

- ・全体では高校卒と大学卒がほぼ同程度である。
- ・ひとり親（父）世帯では高校卒が4割を超えている。
- ・所得分類別では、中央値以上の世帯では大学卒が4割を超える。貧困線未満では高校卒が4割を超えて最も割合が高い。

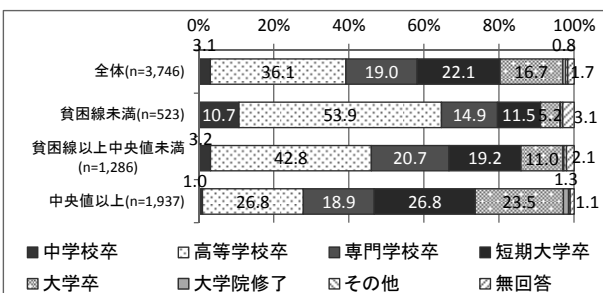
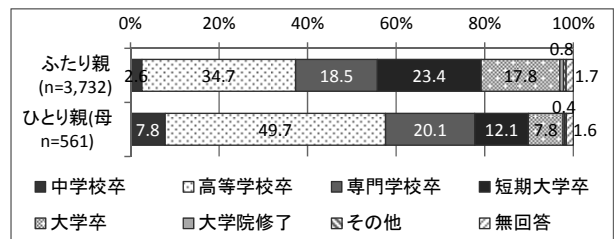
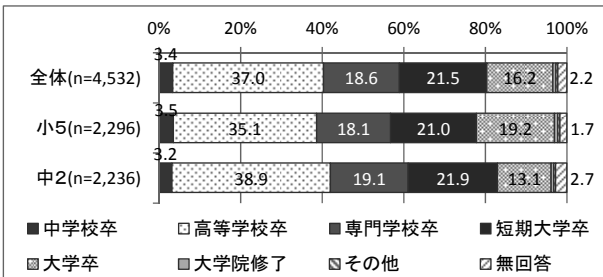
* 図の「全体」はひとり親（母）を除く



④最終学歴（母親）

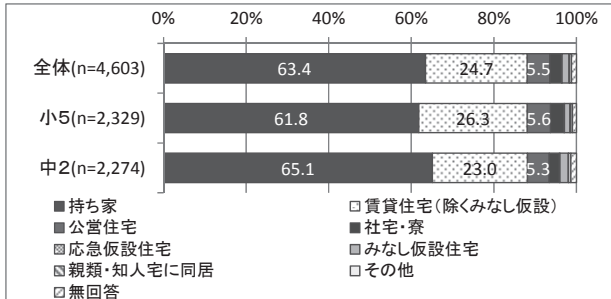
- ・全体では高校卒が4割近くを占めて最も多く、以下短期大学卒、専門学校卒、大学卒の順である。
- ・ひとり親（母）世帯では高校卒がほぼ半数である。
- ・所得分類別では、中央値以上の世帯では高校卒と短期大学卒はほぼ同程度で、大学卒も2割を超えているが、貧困線未満では高校卒が5割を超えている。

* 図の「全体」はひとり親（父）を除く

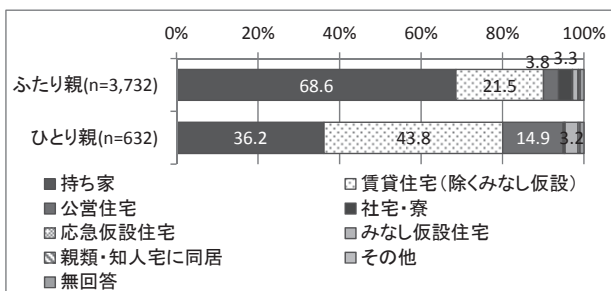


(4) 住居

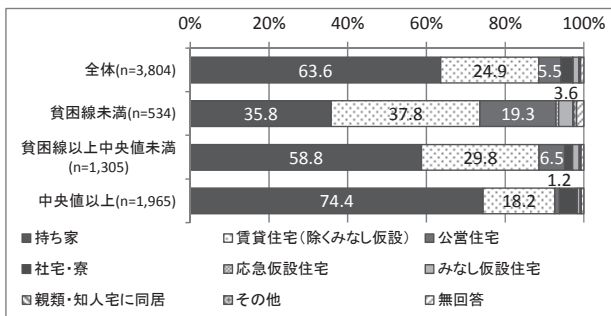
- ・全体では「持ち家」が6割を超えている。
- ・ひとり親世帯及び貧困線未満の世帯では「持ち家」は4割を下回り、「賃貸住宅（除くみなし仮設）」と「公営住宅」で6割近い。



	全体	小5	中2
持ち家	63.4	61.8	65.1
賃貸住宅(除くみなし仮設)	24.7	26.3	23.0
公営住宅	5.5	5.6	5.3
社宅・寮	2.8	3.2	2.5
応急仮設住宅	0.1	0.1	0.1
みなし仮設住宅	1.7	1.3	2.0
親類・知人宅に同居	0.1	0.2	0.0
その他	0.5	0.4	0.6
無回答	1.2	1.0	1.4
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
持ち家	68.6	36.2
賃貸住宅(除くみなし仮設)	21.5	43.8
公営住宅	3.8	14.9
社宅・寮	3.3	0.3
応急仮設住宅	0.1	0.2
みなし仮設住宅	1.4	3.2
親類・知人宅に同居	0.1	0.0
その他	0.4	0.5
無回答	0.9	0.9
計	100.0	100.0

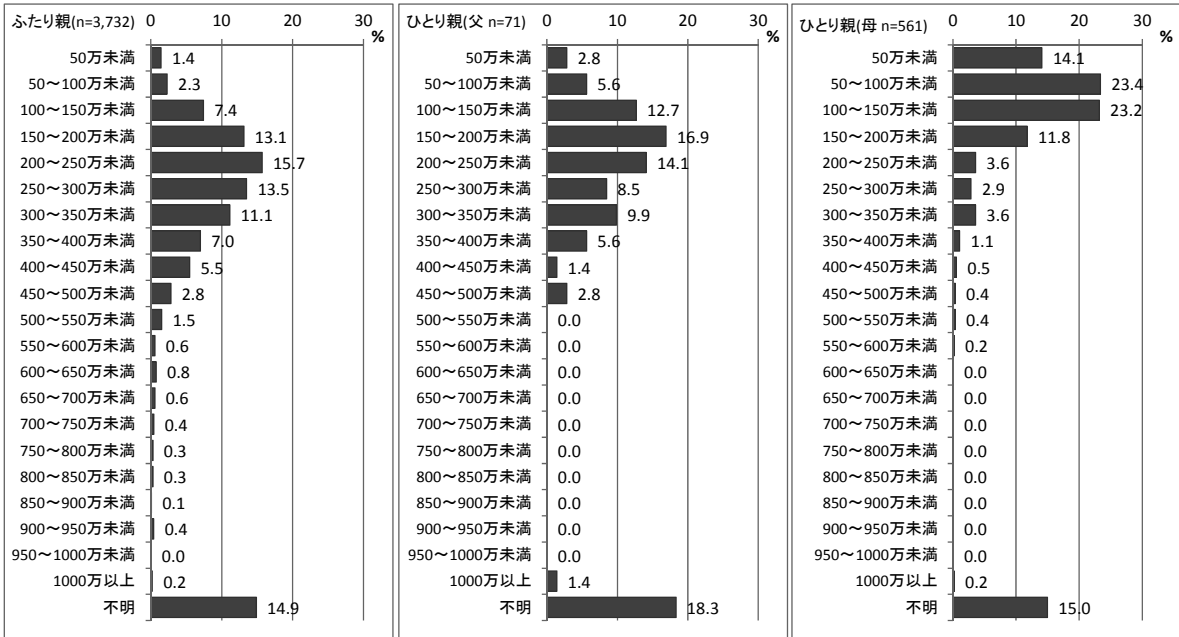


	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
持ち家	63.6	35.8	58.8	74.4
賃貸住宅(除くみなし仮設)	24.9	37.8	29.8	18.2
公営住宅	5.5	19.3	6.5	1.2
社宅・寮	3.0	0.0	2.0	4.5
応急仮設住宅	0.1	0.7	0.1	0.0
みなし仮設住宅	1.4	3.6	1.6	0.7
親類・知人宅に同居	0.1	0.2	0.2	0.0
その他	0.3	0.7	0.2	0.3
無回答	0.9	1.9	0.8	0.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0

(5) 等価可処分所得

* 等価可処分所得：世帯全員を合わせた所得の合計（収入から税や社会保険料を支払った後の額）を世帯人員で調整するため、世帯人員の平方根で除したもの

- ・ふたり親世帯では「200万以上～250万円未満」が最も多い。ふたり親とひとり親では差があり、特にひとり親（母）は150万円未満が6割を占める。



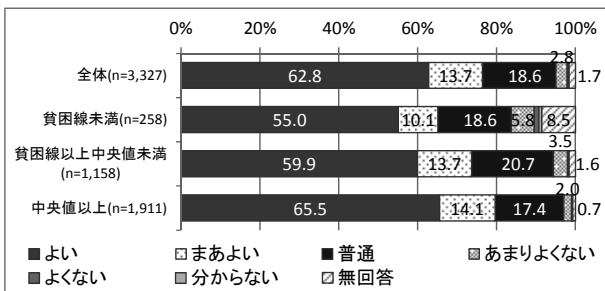
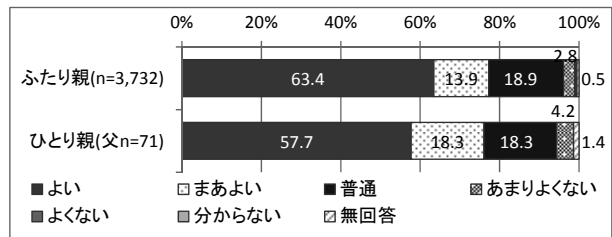
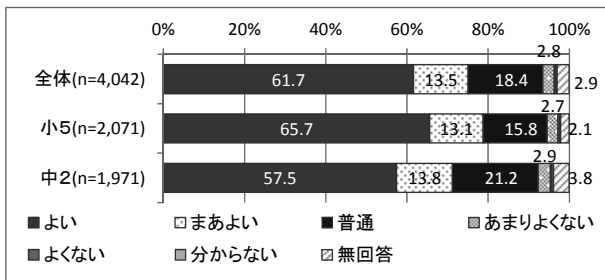
2. 子どもとの生活

(1) 健康状態

①健康状態（父親）

- ・全体では「よい」が6割を占め、「まあよい」と合わせると7割を超える。
- ・ふたり親とひとり親の差がみられる。
- ・所得分類別では、所得が低いほど「よい」「まあよい」が少なくなっている。

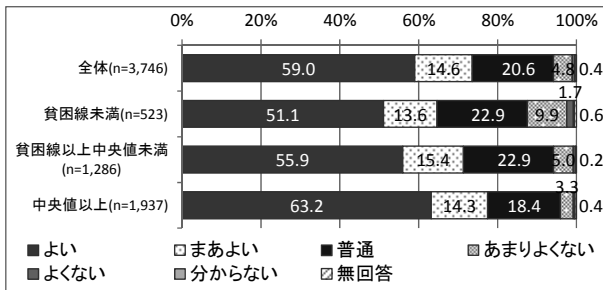
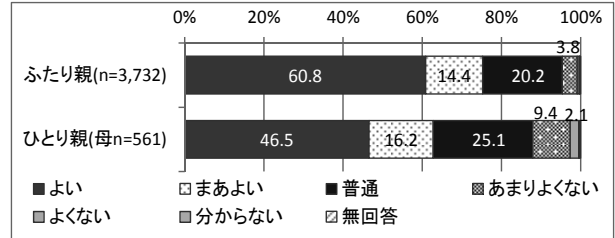
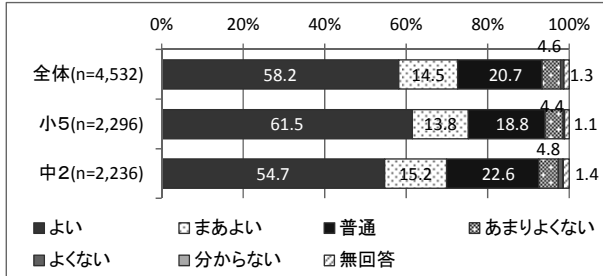
* 図の「全体」はひとり親（母）を除く



②健康状態（母親）

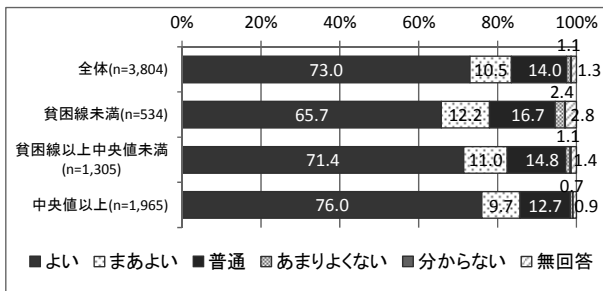
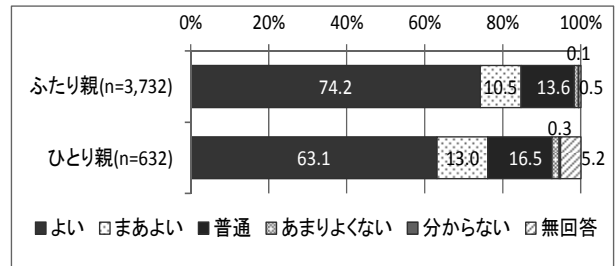
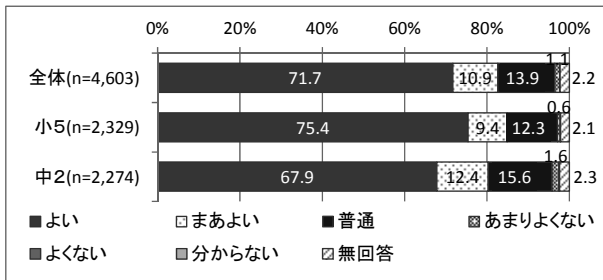
- ・全体では「よい」が6割弱を占め、「まあよい」と合わせると7割を超える。
- ・ひとり親（母）は「よい」が5割を下回り、「あまりよくない」「よくない」を合わせると1割を超える。
- ・所得分類別では、所得が低いほど「よい」が少なくなっている。

* 図の「全体」はひとり親（父）を除く



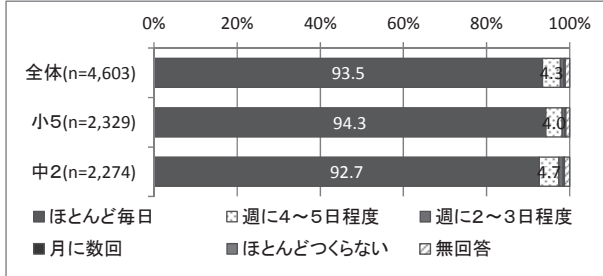
③健康状態（子ども）

- ・全体では「よい」が7割を超え、「まあよい」と合わせると8割を超える。学年による差が見られる。
- ・ひとり親世帯では「よい」が6割強にとどまっている。
- ・所得分類別では、所得が低くなると「よい」が少なくなっている。

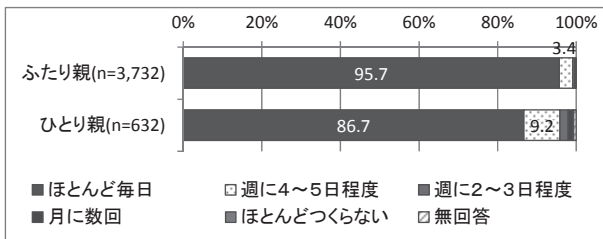


(2) 保護者が食事を作る頻度[保護者が週に食事をどのくらい作るか]

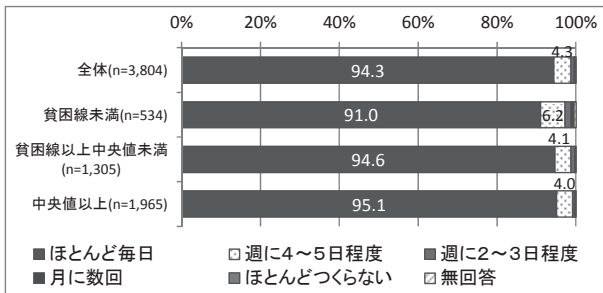
- ・全体では9割強は「ほとんど毎日」食事を作っている。
- ・ひとり親世帯では「ほぼ毎日」が8割台とやや低く、「週に4～5日程度」が1割弱を占め、差がみられる。
- ・所得分類別では貧困線未満の世帯で、「ほとんど毎日」がやや少ないが大きな差はない。



	全体	小5	中2
ほとんど毎日	93.5	94.3	92.7
週に4～5日程度	4.3	4.0	4.7
週に2～3日程度	0.8	0.6	1.1
月に数回	0.2	0.2	0.3
ほとんどつくらない	0.0	0.0	0.0
無回答	1.1	0.9	1.2
計	100.0	100.0	100.0



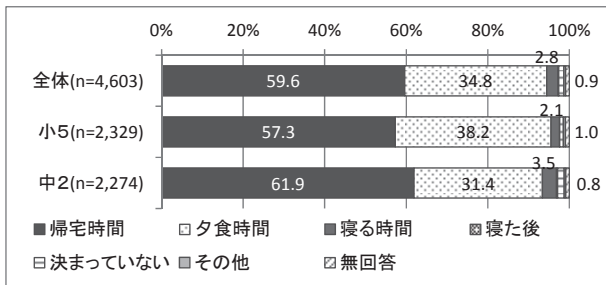
	ふたり親	ひとり親
ほとんど毎日	95.7	86.7
週に4～5日程度	3.4	9.2
週に2～3日程度	0.6	2.1
月に数回	0.1	1.1
ほとんどつくらない	0.0	0.3
無回答	0.2	0.6
計	100.0	100.0



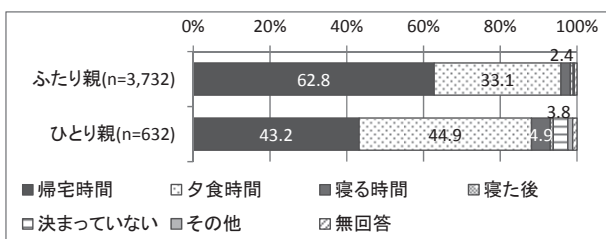
	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
ほとんど毎日	94.3	91.0	94.6	95.1
週に4～5日程度	4.3	6.2	4.1	4.0
週に2～3日程度	0.8	1.5	1.0	0.5
月に数回	0.2	0.7	0.3	0.1
ほとんどつくらない	0.0	0.0	0.0	0.1
無回答	0.2	0.6	0.0	0.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) 保護者が家にいる時間帯[保護者には祖父母や親戚を含む]

- ・全体では「子どもの帰宅時間にはいる」が6割程度である。「夕食時間にはいる」は3割を超え、両者をあわせると9割を超える。
- ・ひとり親世帯では「子どもの帰宅時間にはいる」が4割強にとどまり、親の帰宅時間が遅くなる傾向にある。



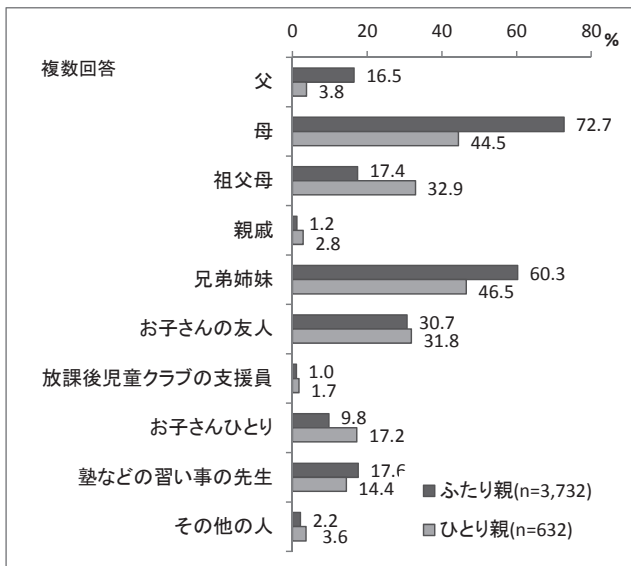
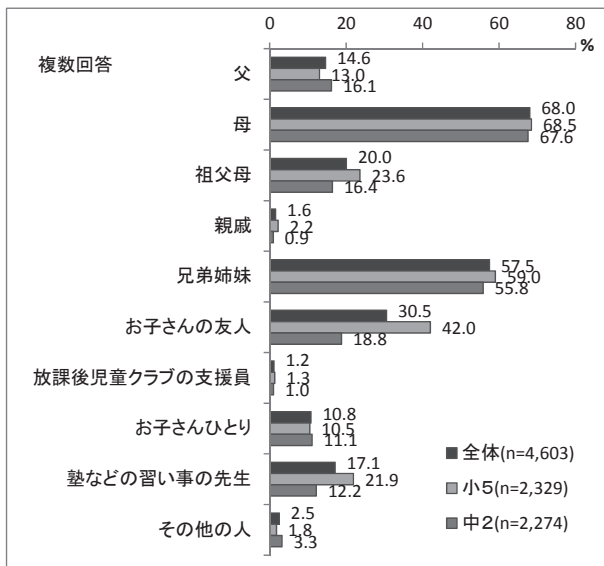
	全体	小5	中2
帰宅時間	59.6	57.3	61.9
夕食時間	34.8	38.2	31.4
寝る時間	2.8	2.1	3.5
寝た後	0.2	0.0	0.3
決まっていない	1.2	0.9	1.6
その他	0.5	0.5	0.4
無回答	0.9	1.0	0.8
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
帰宅時間	62.8	43.2
夕食時間	33.1	44.9
寝る時間	2.4	4.9
寝た後	0.1	0.8
決まっていない	0.7	3.8
その他	0.3	1.3
無回答	0.7	1.1
計	100.0	100.0

(4) 放課後一緒に過ごす人[学校が終わってから夕食までの間、主に誰と過ごしているか]

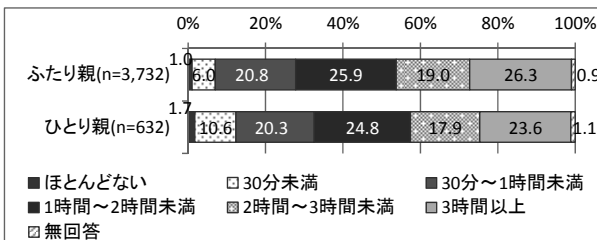
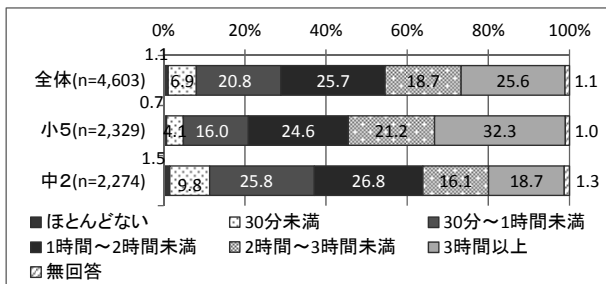
- ・全体では「母」が7割近くを占め、次いで「兄弟姉妹」が6割近い。
- ・ひとり親世帯では、「母」「兄弟姉妹」が4割台になっているのに対し、「祖父母」が3割を超えている。



(5) 子どもと一緒に遊びや料理、会話等をする時間

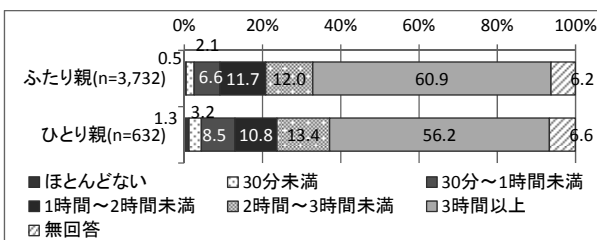
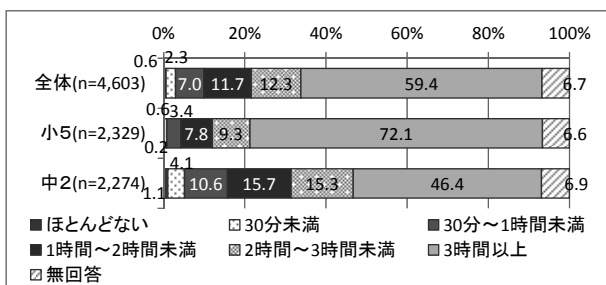
①平日

- ・全体では平日は3割近くが1時間未満であるが、「1時間～2時間未満」と「3時間以上」がほぼ同程度でそれぞれ1/4を占める。中2の世帯の方が時間は短くなり、2時間未満の割合が多くなる。
- ・ひとり親世帯では「30分未満」が1割強とやや多く、どちらかと言えば短くなる傾向にあるが、30分以上ではそれほど大きな差はない。



②休日

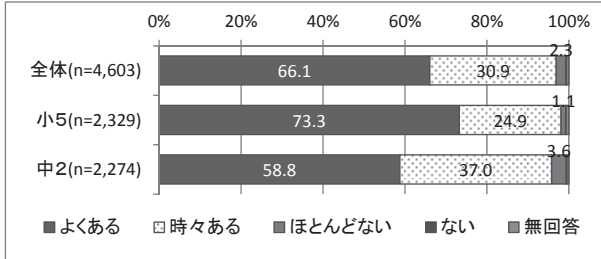
- ・全体では「3時間以上」が6割近くを占める。小5と中2では「3時間以上」の割合が大きく異なり、学年による差がみられる。中2の世帯では半数以下と時間が短くなる傾向がある。
- ・ひとり親世帯では1時間未満が1割を超え、どちらかと言えば短くなる傾向にあるがそれほど大きな差はない。



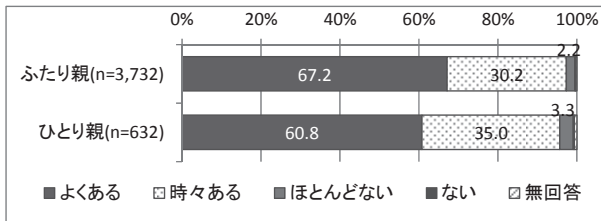
(6) 日常生活における子どもとの関わり

①子どもと一緒に学校の話などをする

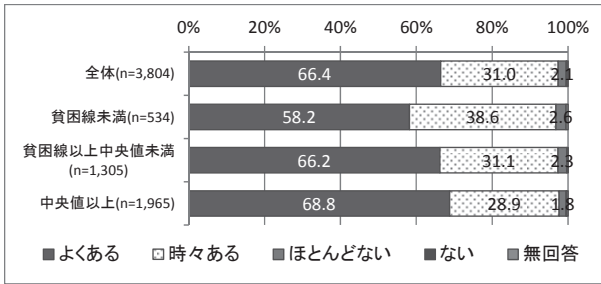
- ・全体では「よくある」が7割近くを占める。家族構成の差よりも学年による差が大きい。
- ・所得分類別では貧困線未満の世帯で「よくある」が6割を下回り、やや少なくなる傾向にある。



	全体	小5	中2
よくある	66.1	73.3	58.8
時々ある	30.9	24.9	37.0
ほとんどない	2.3	1.1	3.6
ない	0.2	0.1	0.2
無回答	0.5	0.6	0.4
計	100.0	100.0	100.0



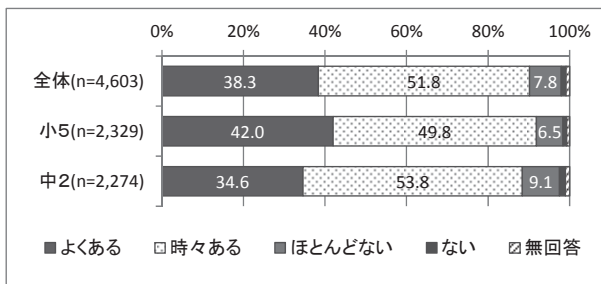
	ふたり親	ひとり親
よくある	67.2	60.8
時々ある	30.2	35.0
ほとんどない	2.2	3.3
ない	0.1	0.3
無回答	0.4	0.6
計	100.0	100.0



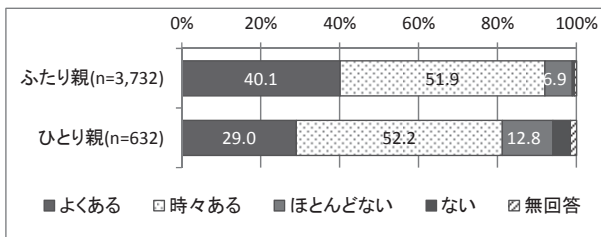
	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
よくある	66.4	58.2	66.2	68.8
時々ある	31.0	38.6	31.1	28.9
ほとんどない	2.1	2.6	2.3	1.8
ない	0.1	0.0	0.2	0.1
無回答	0.4	0.6	0.2	0.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0

②子どものことについて家族で話し合う

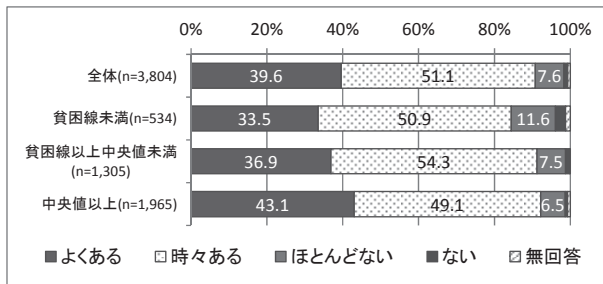
- ・全体では「時々ある」が5割を超え、「よくある」も4割弱を占める。
- ・ひとり親世帯は「よくある」が3割弱とやや少なく、「ほとんどない」「ない」の合計は2割弱である。
- ・所得分類別では「よくある」は所得が低くなるほど少なくなる傾向にある。



	全体	小5	中2
よくある	38.3	42.0	34.6
時々ある	51.8	49.8	53.8
ほとんどない	7.8	6.5	9.1
ない	1.2	0.9	1.5
無回答	0.9	0.7	1.1
計	100.0	100.0	100.0



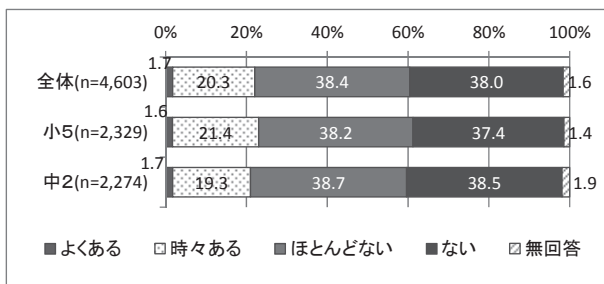
	ふたり親	ひとり親
よくある	40.1	29.0
時々ある	51.9	52.2
ほとんどない	6.9	12.8
ない	0.5	4.4
無回答	0.6	1.6
計	100.0	100.0



	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
よくある	39.6	33.5	36.9	43.1
時々ある	51.1	50.9	54.3	49.1
ほとんどない	7.6	11.6	7.5	6.5
ない	1.0	2.6	1.1	0.6
無回答	0.7	1.3	0.2	0.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0

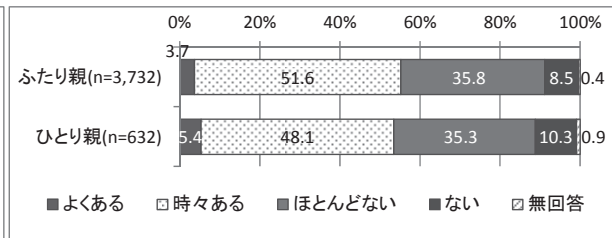
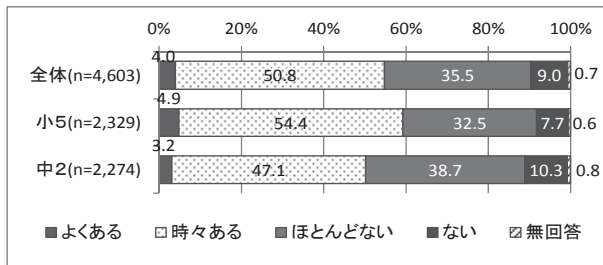
③子どもの前で保護者が大喧嘩をする

- ・全体では「時々ある」がほぼ2割を占める。「ほとんどない」「ない」がそれぞれ4割弱程度あり、合わせると8割近い。小5の世帯の方が「時々ある」がわずかに多い。



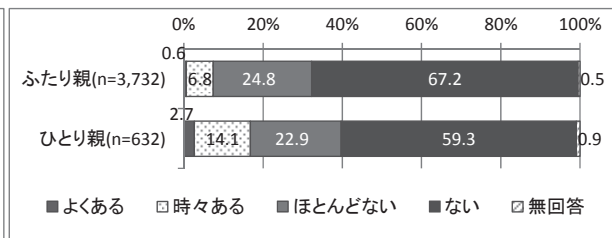
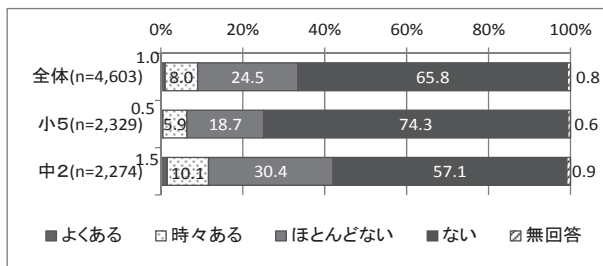
④不安やイライラ等の感情を子どもに向けてしまう

- ・全体では「時々ある」がほぼ5割を占め、中2の世帯の方がやや少ない。家族構成による差は小さい。



⑤子どもだけで夜間に留守番をする

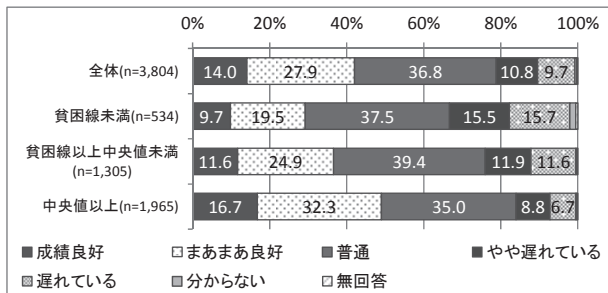
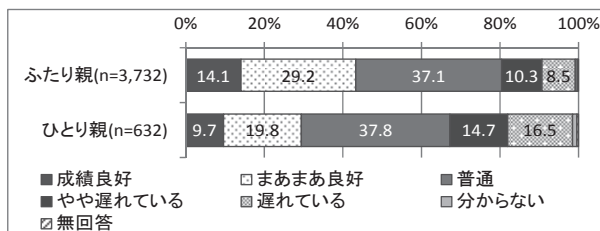
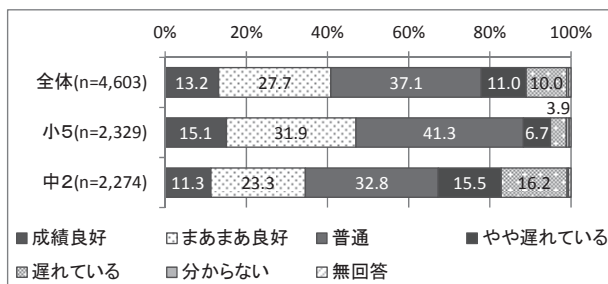
- ・全体では「ない」が6割を超え、「ほとんどない」も2割を超える。中2の世帯の方が「時々ある」が1割を超え、学年による差がみられる。
- ・ひとり親世帯では「時々ある」が1割を超え、差がみられる。



3. 子どもの教育

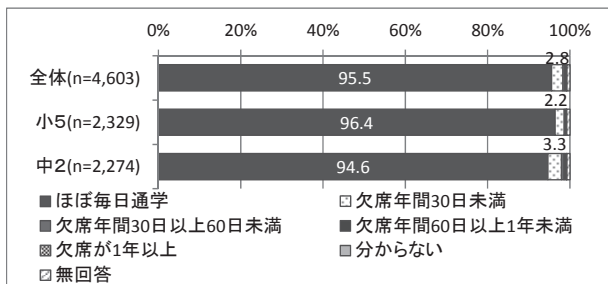
(1) 子どもの成績

- ・全体では「普通」が4割弱で最も多く、「まあまあ良好」が3割弱で2番目に多い。中2の世帯の方が「やや遅れている」「遅れている」が多い。
- ・家族構成別ではひとり親世帯の方が「成績良好」「まあまあ良好」の割合が少なく、「やや遅れている」「遅れている」が3割を超えている。
- ・所得分類別では良好の割合は所得が低いほど少なくなる傾向にあり、貧困線未満の世帯で「やや遅れている」「遅れている」を合わせると3割を超えている。

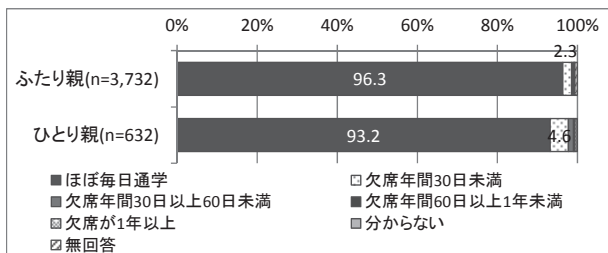


(2) 通学状況

- ・全体では「ほぼ毎日通学」が約95%である。学年による差は小さい。
- ・家族構成別では、ひとり親世帯でわずかに「ほぼ毎日通学」の割合が少ない。



	全体	小5	中2
ほぼ毎日通学	95.5	96.4	94.6
欠席年間30日未満	2.8	2.2	3.3
欠席年間30日以上60日未満	0.5	0.4	0.6
欠席年間60日以上1年未満	0.3	0.0	0.5
欠席が1年以上	0.1	0.1	0.1
分からない	0.1	0.1	0.1
無回答	0.7	0.8	0.7
計	100.0	100.0	100.0

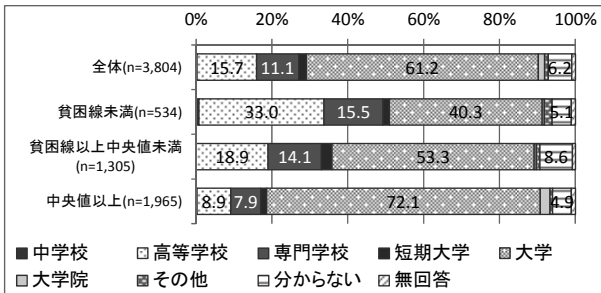
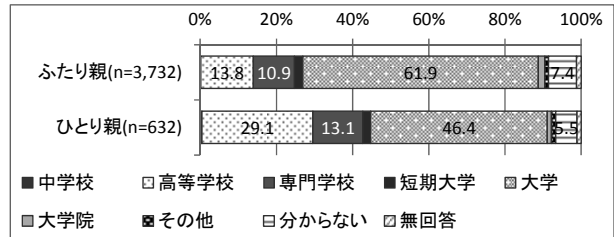
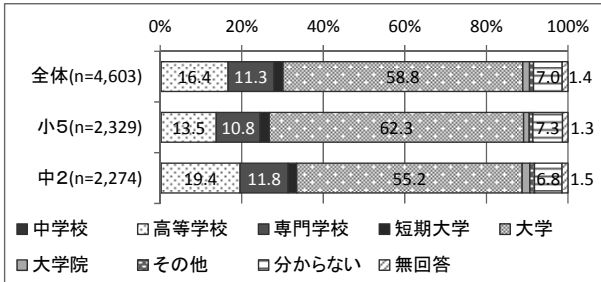


	ふたり親	ひとり親
ほぼ毎日通学	96.3	93.2
欠席年間30日未満	2.3	4.6
欠席年間30日以上60日未満	0.3	1.3
欠席年間60日以上1年未満	0.2	0.3
欠席が1年以上	0.1	0.5
分からない	0.1	0.0
無回答	0.6	0.2
計	100.0	100.0

(3) 子どもの進学

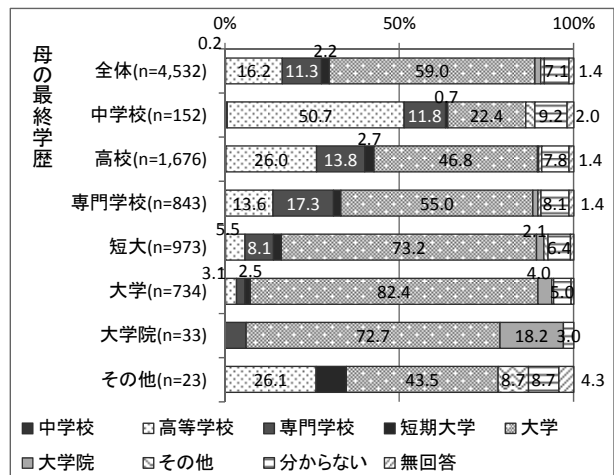
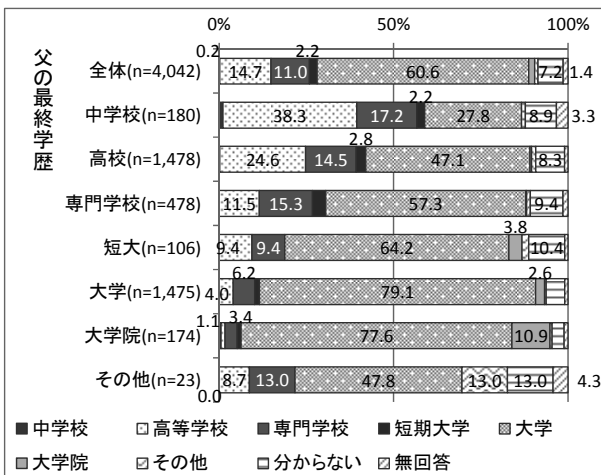
①どの学校まで進学させたいと希望するか

- ・全体では「大学」が6割近くを占めた。小5の世帯に比べ中2の世帯は「大学」が少なく、「高校」の割合が2割近くになっている。
- ・家族構成別にみると差が大きく、ひとり親世帯では「大学」は5割を下回り、「高校」が約3割である。
- ・所得分類でも差が大きい。所得が低いほど「大学」の割合は少なく、「高校」「専門学校」の割合が多くなる傾向がみられる。



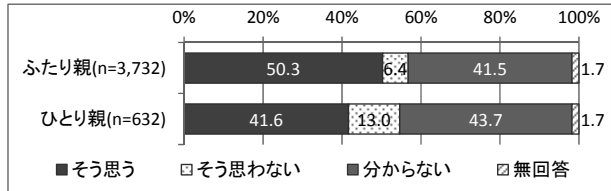
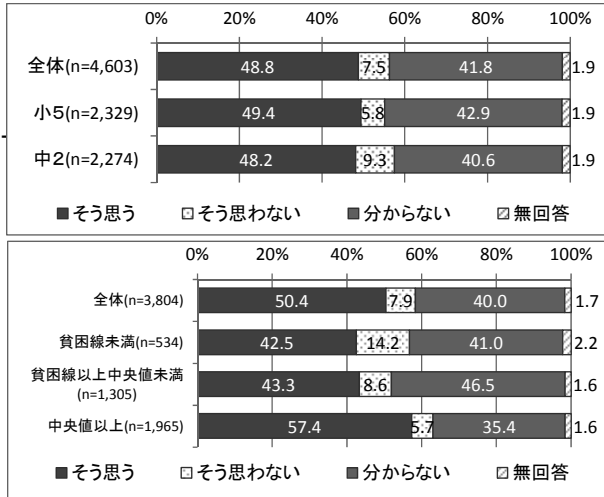
◆「父母の最終学歴（保護者回答）」と「進学させたい学校（保護者回答）」との相関関係

- ・父母の最終学歴別にみると、子どもを進学させたい学校との間に相関関係がみられる。
- * 図の「全体」はひとり親（母）を除く
- * 図の「全体」はひとり親（父）を除く



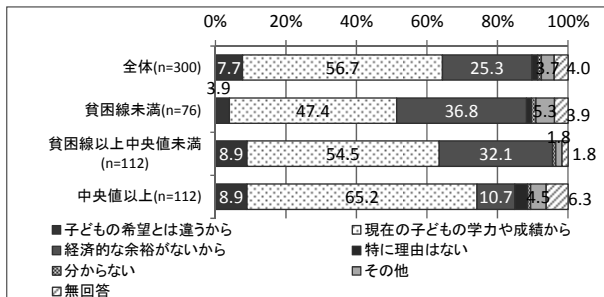
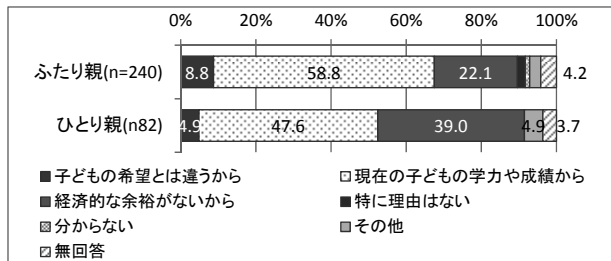
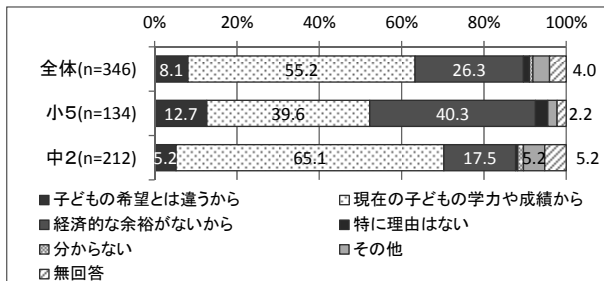
②希望どおり子どもが進学できそうだと思うか

- ・全体では「そう思う」が5割弱、「分からない」が4割強である。
- ・ひとり親世帯と貧困線未満の世帯では「そう思わない」が1割を超えている。
- ・所得分類別では「そう思う」は中央値以上では6割近いが、中央値未満では4割強と差が大きい。



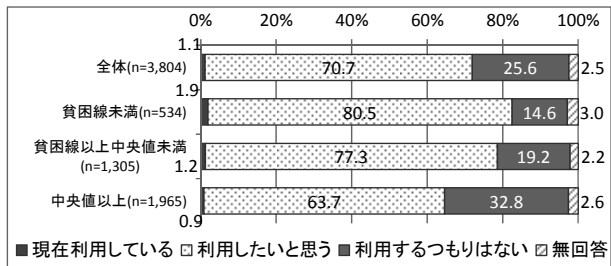
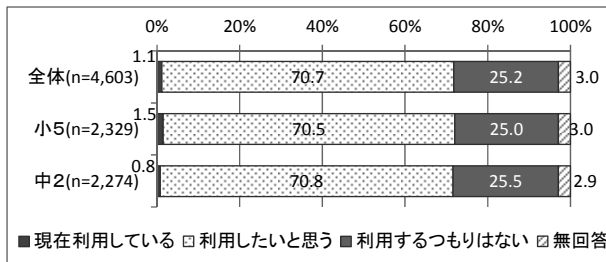
③希望どおり進学できそうにないと思う理由

- ・全体では「現在の子どもの学力や成績から」が5割を超え、中2の世帯では6割を超えている。小5の世帯では「経済的な余裕がないから」が4割に達した。
- ・「経済的な余裕がないから」はひとり親世帯で約4割を占め、所得分類別では所得が低いほど高くなった。



(4) 低料金で利用できるボランティア等が行う学習支援制度の利用意向

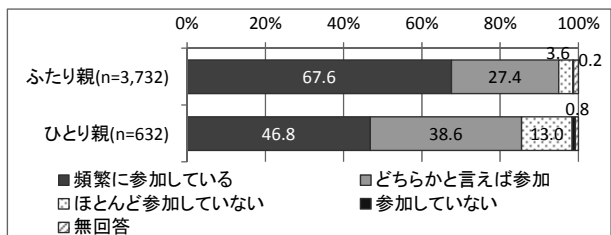
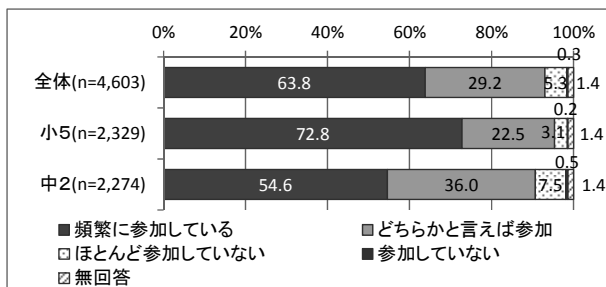
- ・全体では「利用したいと思う」が約7割を占め、所得が中央値未満の世帯では約8割と利用意向が高い。



4. 学校・地域との関わり

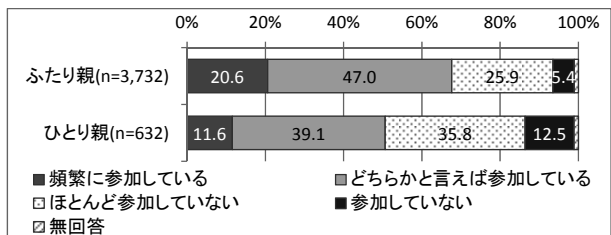
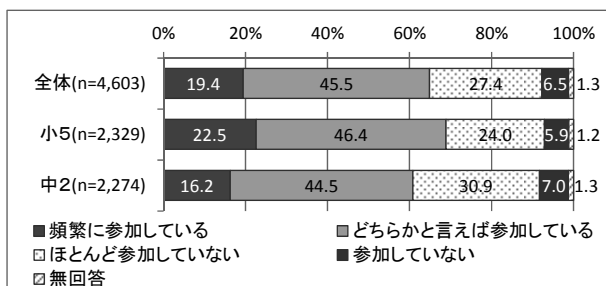
(1) 授業参観や運動会など、子どもの学校行事に参加する頻度

- ・全体では「頻繁に参加している」が6割を超えており、「どちらかと言えば参加」と合わせると9割をこえる。「ほとんど参加していない」は5%台にとどまる。小5の世帯の方が参加の頻度は高く、学年による差がみられる。
- ・ふたり親世帯の方が「頻繁に参加している」の割合が高く、差がみられる。



(2) 地域の行事に参加する頻度

- ・全体では「どちらかと言えば参加している」が4割を超えて最も多い。「頻繁に参加している」は2割弱である。小5の世帯の方が参加の頻度はやや高い。
- ・ふたり親世帯の方が参加している割合が高く、「頻繁に」「どちらかと言えば」を合わせると7割弱が参加している。ふたり親世帯とひとり親世帯で差がみられる。

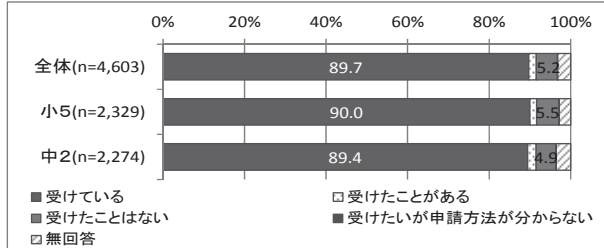


5. 経済的状況

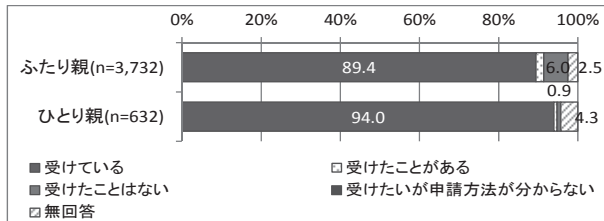
(1) 手当や援助等制度の利用状況

① 児童手当

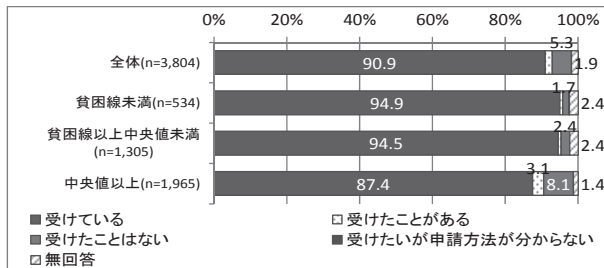
・全体では「受けている」がほぼ9割を占める。



	全体	小5	中2
受けている	89.7	90.0	89.4
受けたことがある	1.8	1.6	2.0
受けたことはない	5.2	5.5	4.9
受けたいが申請方法が分からない	0.0	0.0	0.0
無回答	3.2	2.8	3.6
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
受けている	89.4	94.0
受けたことがある	2.0	0.8
受けたことはない	6.0	0.9
受けたいが申請方法が分からない	0.1	0.0
無回答	2.5	4.3
計	100.0	100.0

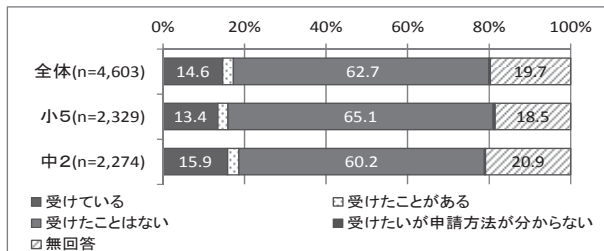


	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
受けている	90.9	94.9	94.5	87.4
受けたことがある	1.9	0.7	0.8	3.1
受けたことはない	5.3	1.7	2.4	8.1
受けたいが申請方法が分からない	0.0	0.2	0.0	0.0
無回答	1.9	2.4	2.4	1.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0

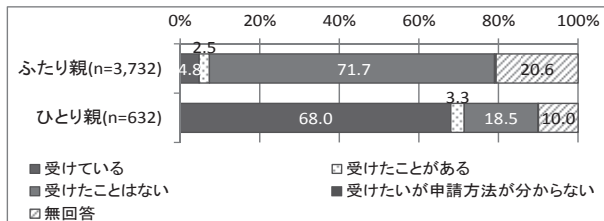
② 就学援助費 [経済的な理由で就学が困難な児童生徒に対し、学用品費などを援助する制度]

・全体では「受けている」は15%程度である。

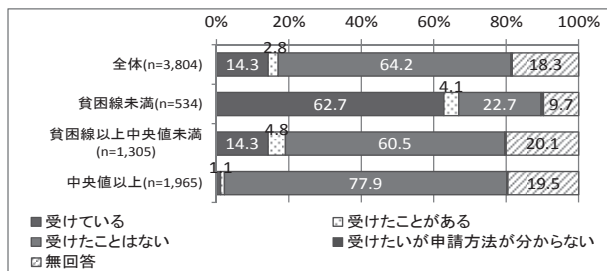
・「受けたいが申請方法が分からない」は1%以下とわずかながら回答があった。



	全体	小5	中2
受けている	14.6	13.4	15.9
受けたことがある	2.6	2.4	2.7
受けたことはない	62.7	65.1	60.2
受けたいが申請方法が分からない	0.4	0.5	0.3
無回答	19.7	18.5	20.9
計	100.0	100.0	100.0



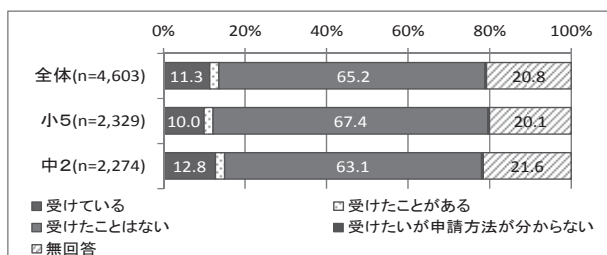
	ふたり親	ひとり親
受けている	4.8	68.0
受けたことがある	2.5	3.3
受けたことはない	71.7	18.5
受けたいが申請方法が分からない	0.4	0.2
無回答	20.6	10.0
計	100.0	100.0



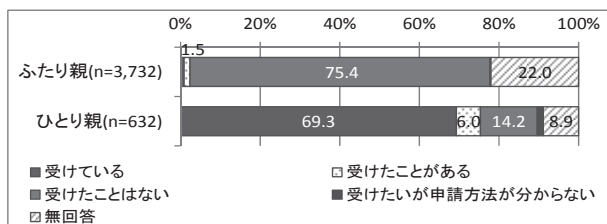
	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
受けている	14.3	62.7	14.3	1.1
受けたことがある	2.8	4.1	4.8	1.1
受けたことはない	64.2	22.7	60.5	77.9
受けたいが申請方法が分からない	0.4	0.7	0.4	0.4
無回答	18.3	9.7	20.1	19.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0

③児童扶養手当[ひとり親家庭等（母子家庭、父子家庭等）に支給される手当]

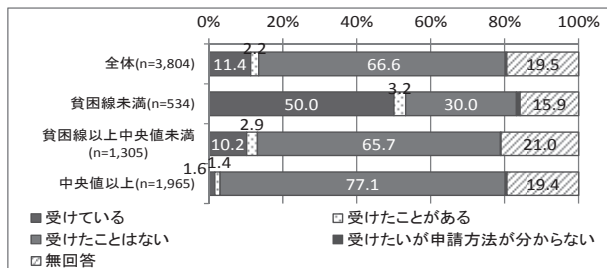
- ・全体では「受けている」が約1割である。
- ・「受けたいが申請方法が分からない」はひとり親で1.6%とわずかながら回答があった。



	全体	小5	中2
受けている	11.3	10.0	12.8
受けたことがある	2.2	2.2	2.2
受けたことはない	65.2	67.4	63.1
受けたいが申請方法が分からない	0.4	0.4	0.4
無回答	20.8	20.1	21.6
計	100.0	100.0	100.0



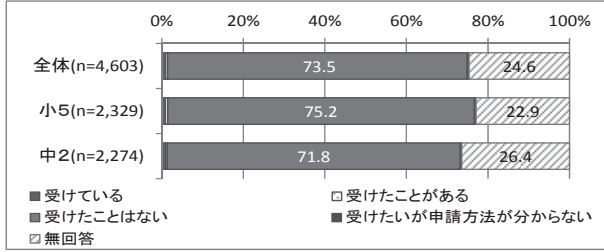
	ふたり親	ひとり親
受けている	0.9	69.3
受けたことがある	1.5	6.0
受けたことはない	75.4	14.2
受けたいが申請方法が分からない	0.2	1.6
無回答	22.0	8.9
計	100.0	100.0



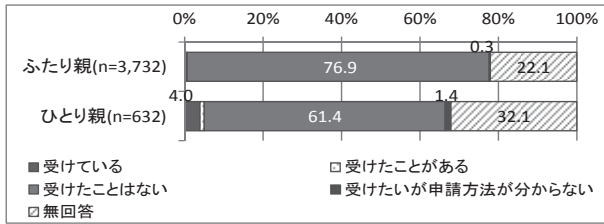
	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
受けている	11.4	50.0	10.2	1.6
受けたことがある	2.2	3.2	2.9	1.4
受けたことはない	66.6	30.0	65.7	77.1
受けたいが申請方法が分からない	0.4	0.9	0.2	0.5
無回答	19.5	15.9	21.0	19.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0

④生活保護費

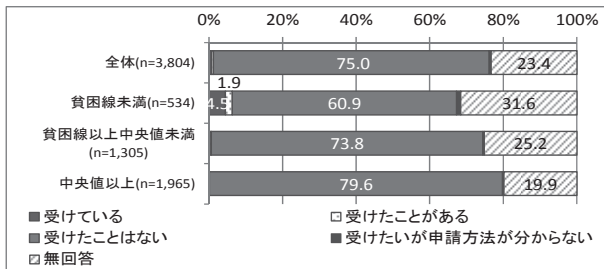
- ・全体では「受けたことはない」が7割強である。
- ・「受けたいが申請方法が分からない」はひとり親と貧困線未満の世帯で1%強とわずかながら回答があった。



	全体	小5	中2
受けている	0.9	0.9	1.0
受けたことがある	0.5	0.6	0.4
受けたことはない	73.5	75.2	71.8
受けたいが申請方法が分からない	0.4	0.5	0.4
無回答	24.6	22.9	26.4
計	100.0	100.0	100.0



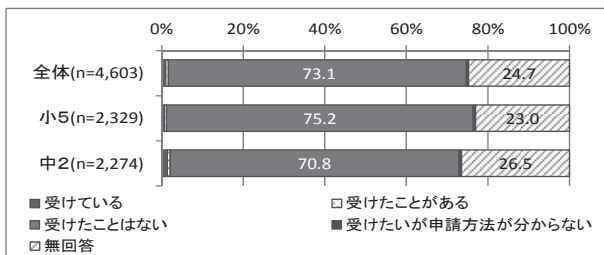
	ふたり親	ひとり親
受けている	0.4	4.0
受けたことがある	0.3	1.1
受けたことはない	76.9	61.4
受けたいが申請方法が分からない	0.3	1.4
無回答	22.1	32.1
計	100.0	100.0



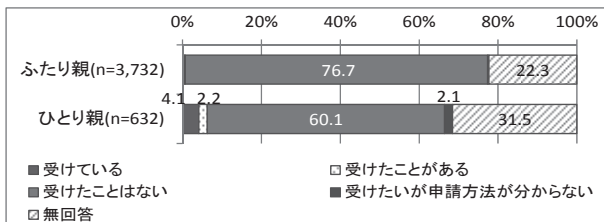
	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
受けている	0.7	4.5	0.2	0.0
受けたことがある	0.5	1.9	0.4	0.2
受けたことはない	75.0	60.9	73.8	79.6
受けたいが申請方法が分からない	0.5	1.1	0.4	0.4
無回答	23.4	31.6	25.2	19.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤行政からの貸付金[ひとり親家庭等を対象とした母子父子寡婦福祉資金貸付制度、奨学金など]

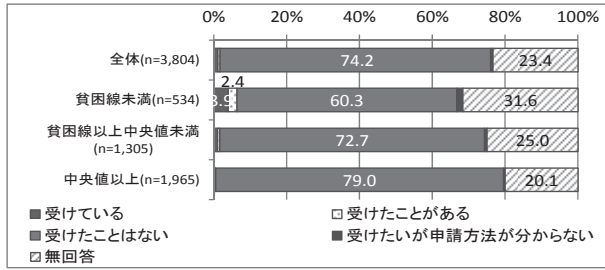
- ・全体では「受けたことはない」が7割強である。
- ・「受けている」「受けたことがある」はひとり親世帯と貧困線未満の世帯で6%強である。



	全体	小5	中2
受けている	1.0	0.6	1.4
受けたことがある	0.6	0.6	0.7
受けたことはない	73.1	75.2	70.8
受けたいが申請方法が分からない	0.6	0.6	0.6
無回答	24.7	23.0	26.5
計	100.0	100.0	100.0



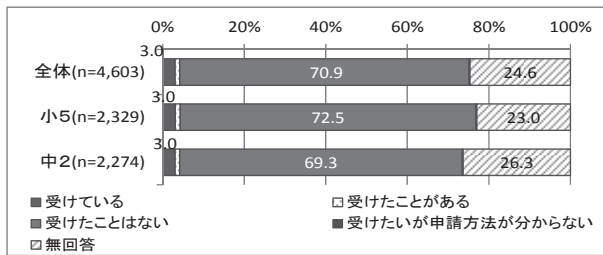
	ふたり親	ひとり親
受けている	0.4	4.1
受けたことがある	0.3	2.2
受けたことはない	76.7	60.1
受けたいが申請方法が分からない	0.3	2.1
無回答	22.3	31.5
計	100.0	100.0



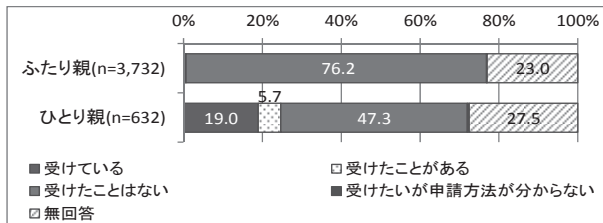
	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
受けている	1.1	3.9	1.1	0.4
受けたことがある	0.6	2.4	0.5	0.2
受けたことはない	74.2	60.3	72.7	79.0
受けたいが申請方法が分からない	0.7	1.7	0.7	0.4
無回答	23.4	31.6	25.0	20.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0

⑥元配偶者からの養育費

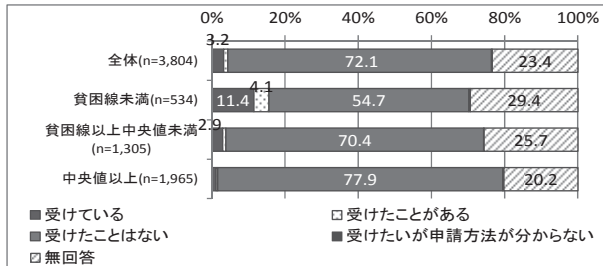
・全体では「受けている」は3%とわずかである。ひとり親世帯でも2割に満たなかった。貧困線未満の世帯では1割強である。



	全体	小5	中2
受けている	3.0	3.0	3.0
受けたことがある	1.2	1.2	1.1
受けたことはない	70.9	72.5	69.3
受けたいが申請方法が分からない	0.3	0.3	0.3
無回答	24.6	23.0	26.3
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
受けている	0.3	19.0
受けたことがある	0.4	5.7
受けたことはない	76.2	47.3
受けたいが申請方法が分からない	0.2	0.5
無回答	23.0	27.5
計	100.0	100.0

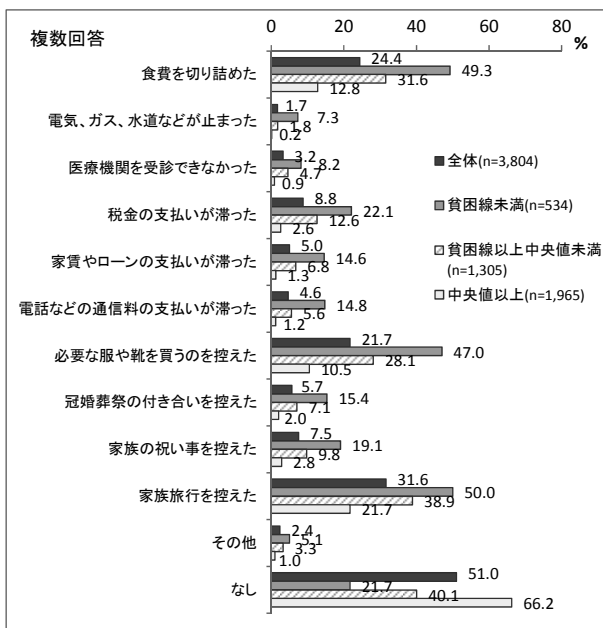
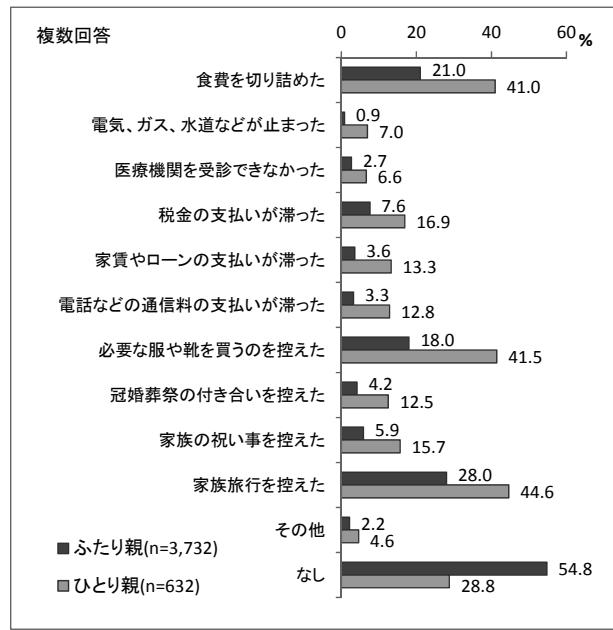
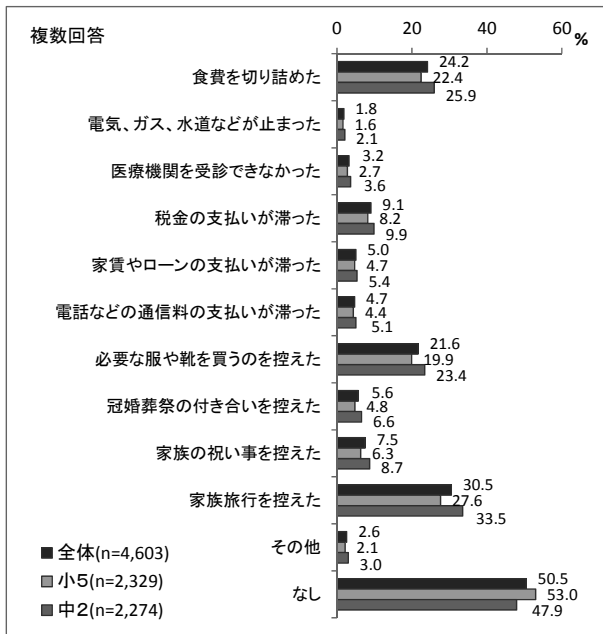


	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
受けている	3.2	11.4	2.9	1.1
受けたことがある	1.1	4.1	0.9	0.5
受けたことはない	72.1	54.7	70.4	77.9
受けたいが申請方法が分からない	0.3	0.4	0.1	0.4
無回答	23.4	29.4	25.7	20.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0

(2) 経済的要因による困難なこと

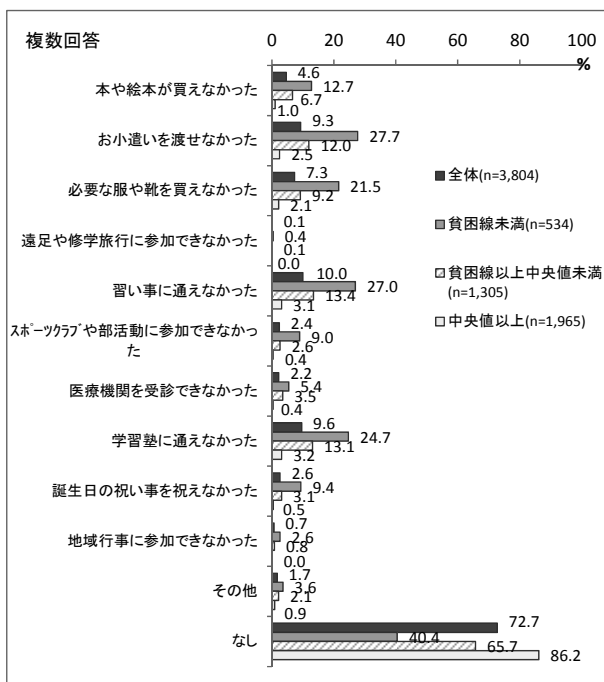
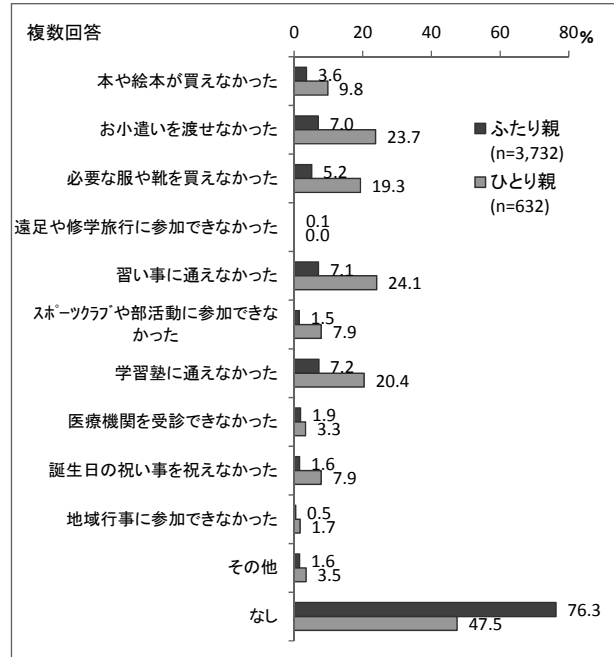
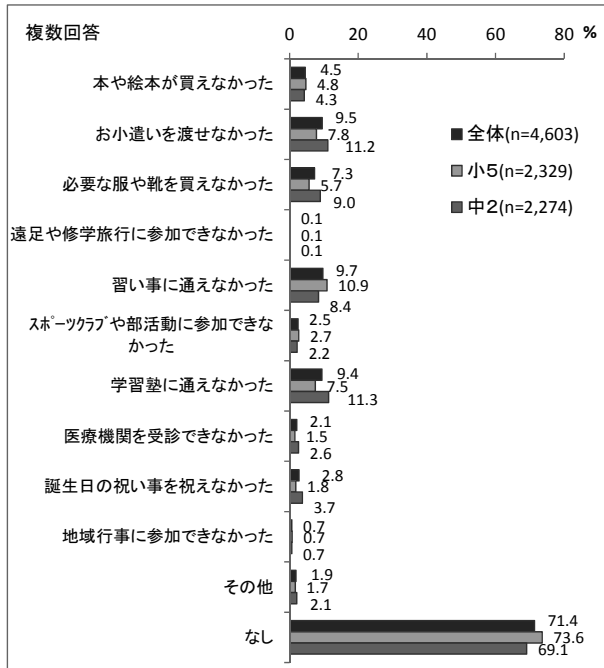
① 経済的理由で経験したことの有無（おおむね直近1年間）

- ・全体では「なし」が約5割で最も多かったが、「家族旅行を控えた」が3割、「食費を切り詰めた」「必要な服や靴を買うのを控えた」が2割を超えている。
- ・家族構成や所得による差が大きい。
- ・ひとり親では「家族旅行を控えた」「必要な服や靴を買うのを控えた」「食費を切り詰めた」が4割を超え、控えた経験が「なし」は3割弱にとどまった。また、税金や家賃、電気等や通信料の支払いが滞った経験への回答が1割前後に達した。
- ・所得分類別では所得が低くなるほど困難なことを経験した割合が高くなる傾向にある。「なし」は貧困線未満の世帯では2割強にとどまった。



②経済的理由で子どもが希望したにもかかわらず経験したことの有無(おおむね直近1年間)

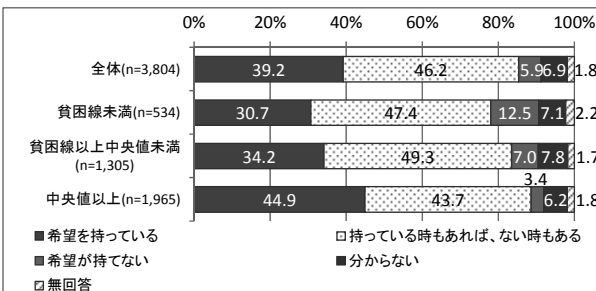
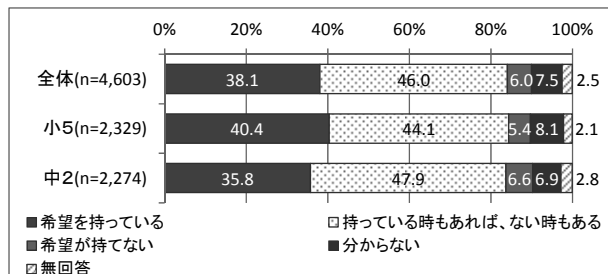
- ・全体では「なし」が7割を超えたが、「習い事に通えなかった」「お小遣いを渡せなかった」「学習塾に通えなかった」が1割弱みられた。
- ・家族構成や所得による差が大きい。
- ・ひとり親では「習い事に通えなかった」「お小遣いを渡せなかった」「学習塾に通えなかった」が2割を超え、控えた経験が「なし」は5割弱にとどまった。
- ・所得分類別では所得が低くなるほど経験した割合が高くなる傾向にある。貧困線未満の世帯では「お小遣いを渡せなかった」「習い事に通えなかった」は3割弱と高く、「なし」は約4割にとどまった。



6. 将来への希望や悩み事など

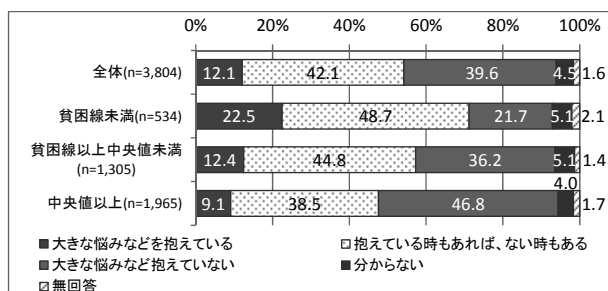
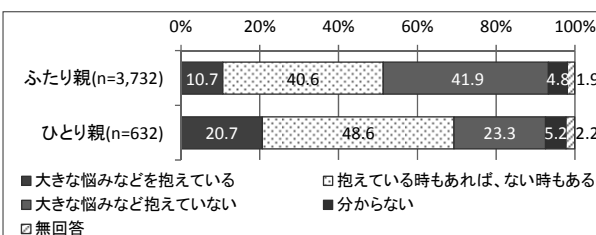
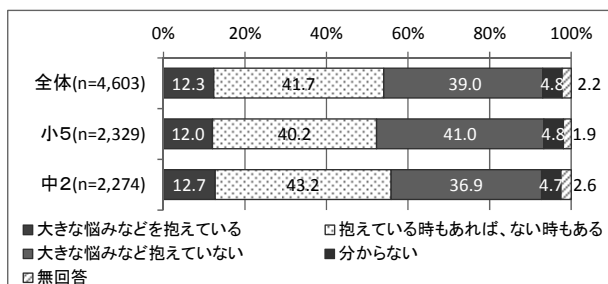
(1) 自分の将来に対して前向きな希望を持っているか

- ・全体では「希望を持っている」が4割弱、「持っている時もあれば、ない時もある」が5割弱である。「希望が持てない」が6%とわずかではあるが存在する。
- ・所得分類別では所得が低いほど「希望を持っている」割合が低く、「希望が持てない」が貧困線未満の世帯では1割を超えた。



(2) 自分だけでは解決が難しい大きな悩み事を抱えているか

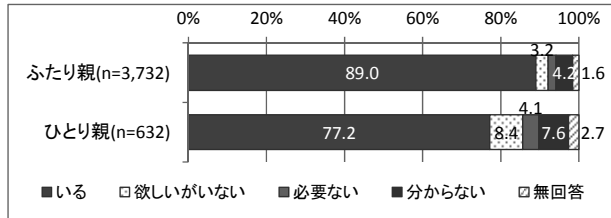
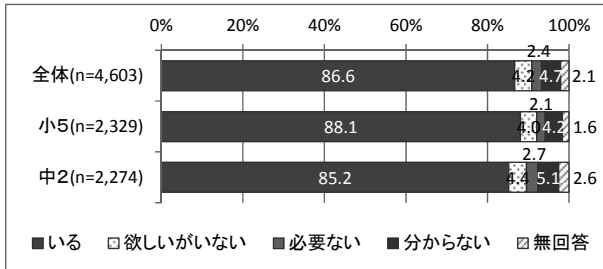
- ・全体では「大きな悩みなどを抱えている」は1割強を占め、「抱えている時もあれば、ない時もある」が4割強で、合わせると5割強を占める。
- ・ひとり親世帯と貧困線未満の世帯では「抱えている」が2割を超える。所得が低いほど「抱えている」割合が高い傾向にある。



(3) 相談できる人

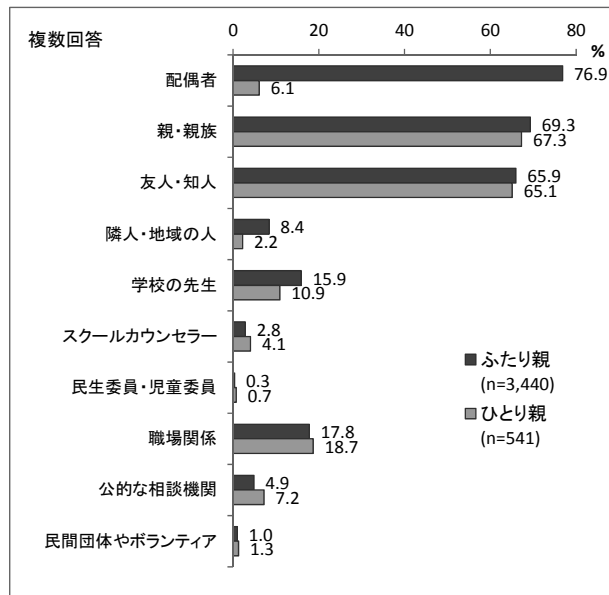
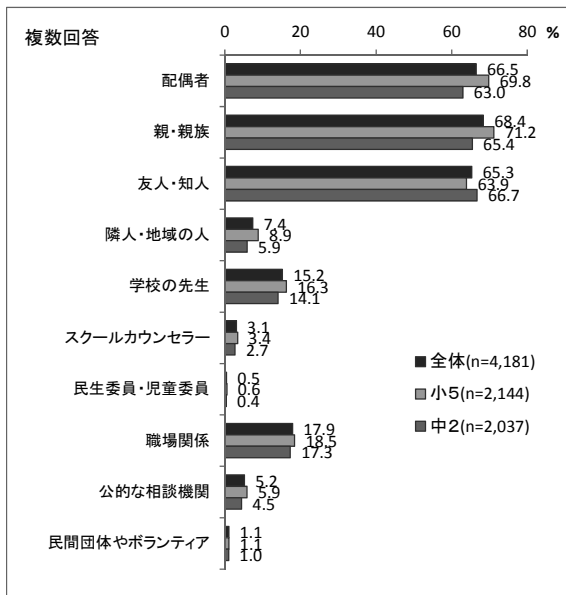
①相談できる人の有無

- ・全体では相談できる人が「いる」が8割を超えている。「欲しいがない」は5%弱にとどまる。
- ・ひとり親世帯では「いる」が8割弱とやや低く、「欲しいがない」が1割弱とやや多い。



②相談できる相手または相談したいと思う相手

- *相談できる人が「いる」「いないが欲しい」と回答した人に、相談できる人または相談したいと思う相手を尋ねた。
- ・全体では、「親・親族」「配偶者」「友人・知人」の順になっている。
- ・ひとり親世帯では、「公的な相談機関」の割合が僅かながら高く、「隣人・地域の人」の割合が低い。

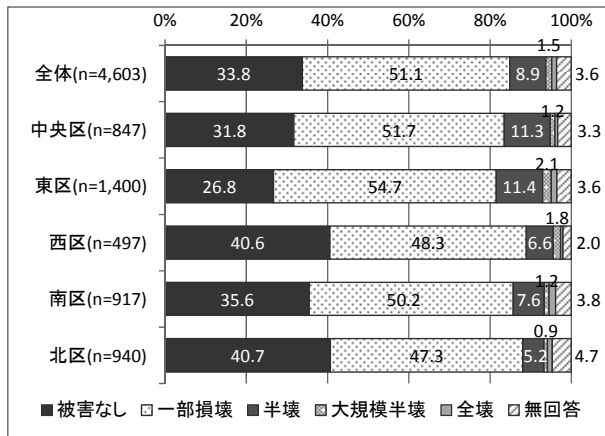
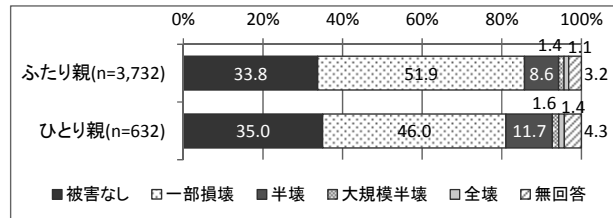
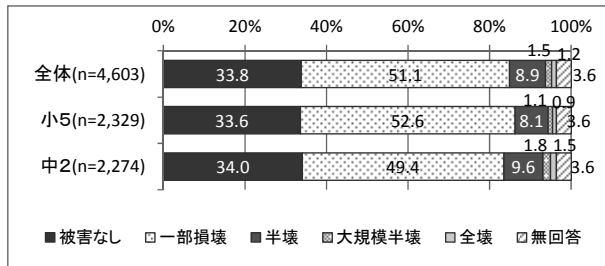


7. 熊本地震後の生活状況

(1) 住居の状況

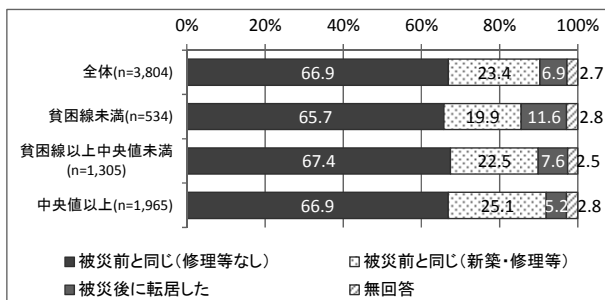
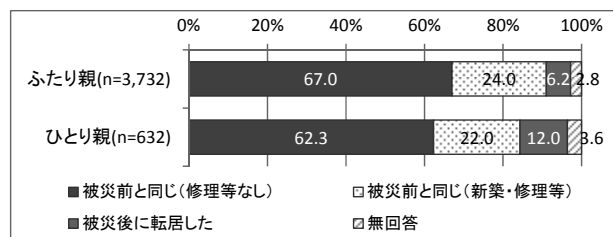
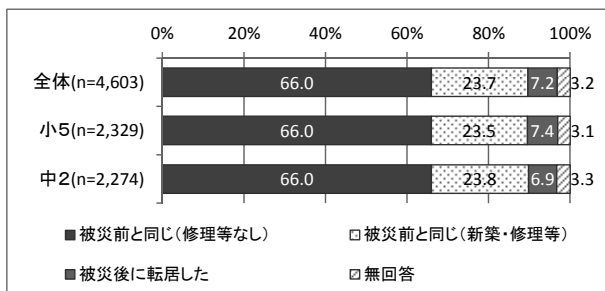
① 住居の被害状況

- ・ 全体では「半壊」が1割弱、「大規模半壊」と「全壊」がそれぞれ1%強であった。「一部損壊」が5割強である。
- ・ ひとり親世帯では「半壊」の割合が1割を超え、やや高い。
- ・ 居住区別では東区で「半壊」「大規模半壊」「全壊」の割合が他の区よりやや高い。



② 被災による居住状況の変化

- ・ 全体では、いずれも66%が震災前と変わりなく居住している。
- ・ ひとり親世帯や貧困線未満の世帯で「転居した」割合が高い。



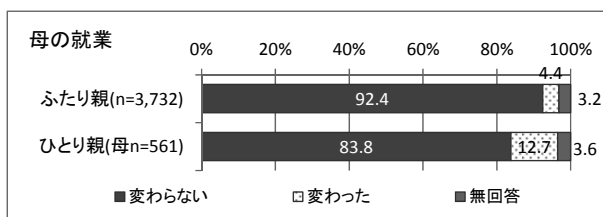
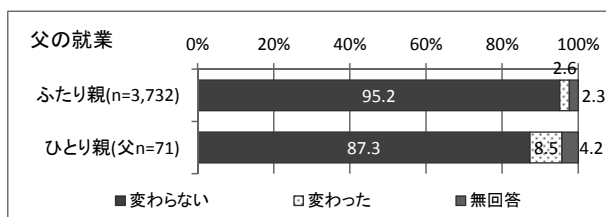
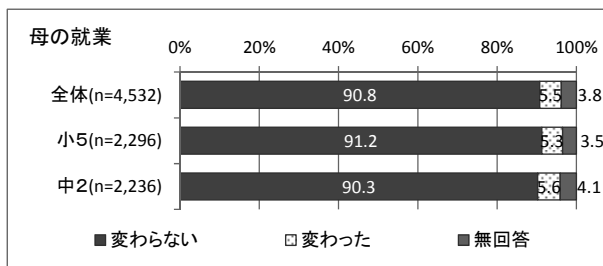
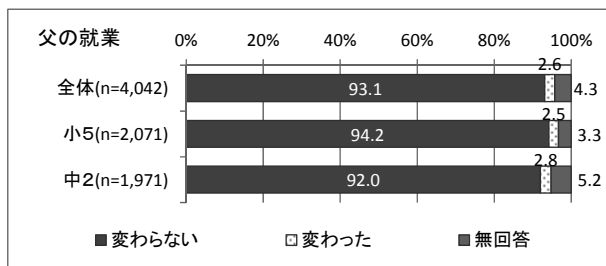
(2) 地震前と現在での就業形態の変化

①就業形態の変化の有無

- ・父親も母親も全体では「変わらない」が9割を超える。
- ・家族構成で見ると、ひとり親（父）世帯、ひとり親（母）世帯のどちらも「変わらない」はふたり親世帯より少なく、「変わった」がそれぞれ1割前後を占める。

* 図の「全体」はひとり親（母）を除く

* 図の「全体」はひとり親（父）を除く

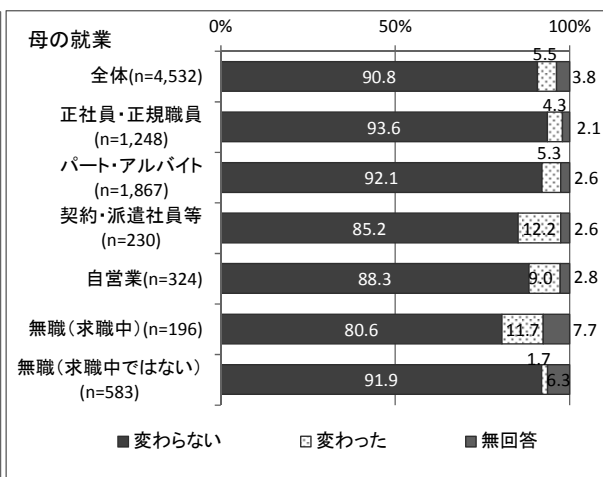
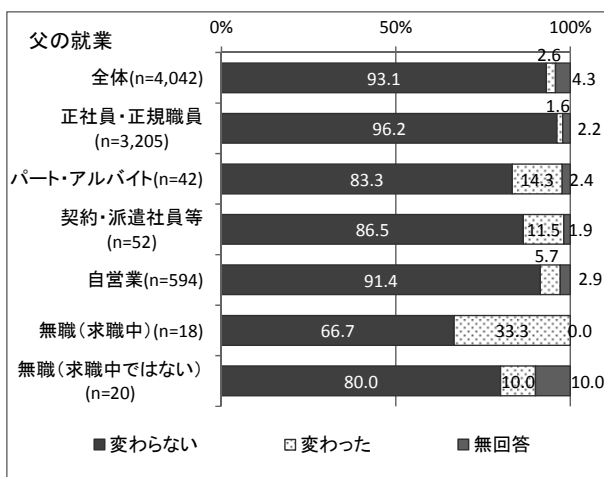


◆「父母の地震後の職業」と「就業形態の変化」との相関関係

- ・父親の地震後の就業状況別にみると、「パート・アルバイト」「契約・派遣社員等」で「変わった」が1割を超えている。また「無職（求職中）」で「変わった」が3割強と高くなっている。
- ・母親の地震後の就業状況別にみると、「契約・派遣社員等」「無職（求職中）」で「変わった」が1割を超えている。

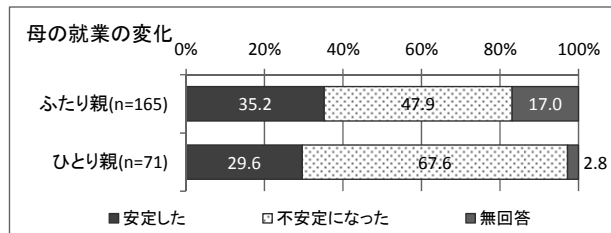
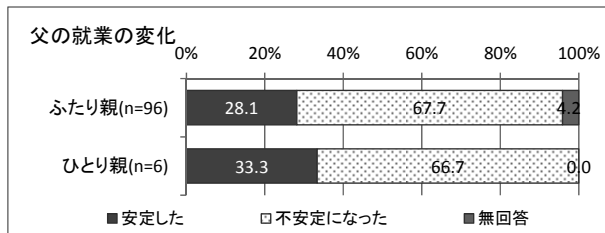
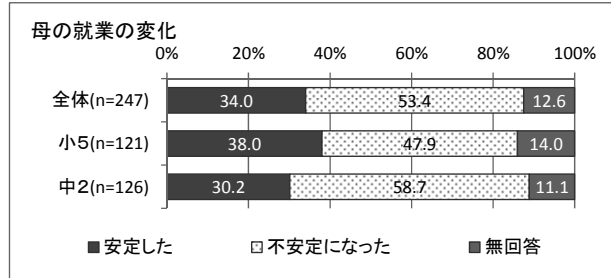
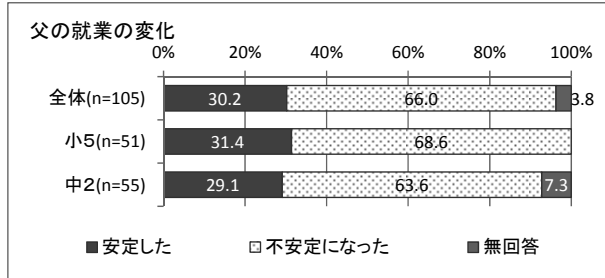
* 図の「全体」はひとり親（母）を除く

* 図の「全体」はひとり親（父）を除く



②就業形態の変化の内容

- ・ 父親も母親も変化の内容は、「不安定になった」が「安定した」を大きく上回る。父親の方が「不安定になった」という回答の割合が高い。
- ・ 母親の家族構成別にみると、ひとり親の方が「不安定になった」が7割弱と高い。



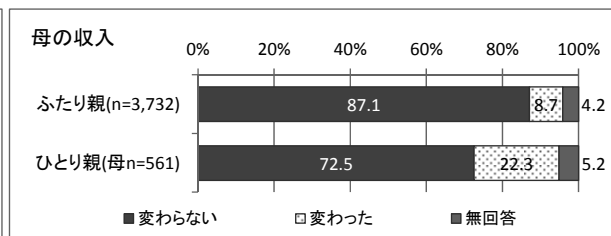
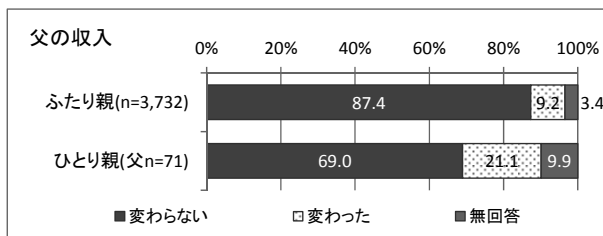
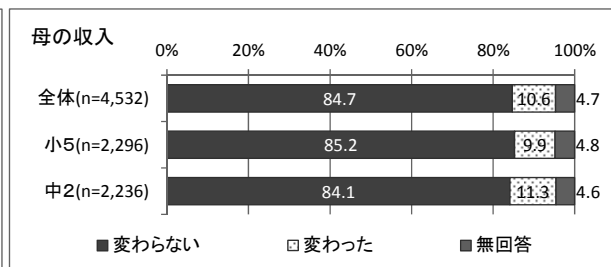
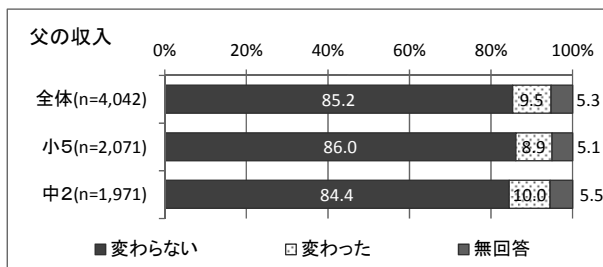
(3) 地震前と現在を比べた収入の変化

①収入の変化の有無

- ・ 父親も母親も全体では「変わらない」が8割を超えている。「変わった」は父親も母親も1割前後である。
- ・ 家族構成でみると、ふたり親とひとり親とでは差が大きい。ひとり親(父)世帯、ひとり親(母)世帯のどちらも「変わった」割合が2割を超えている。

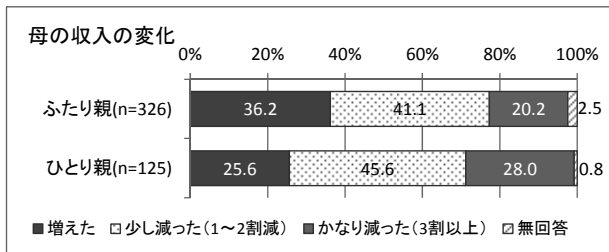
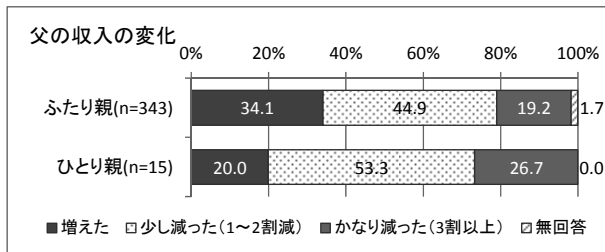
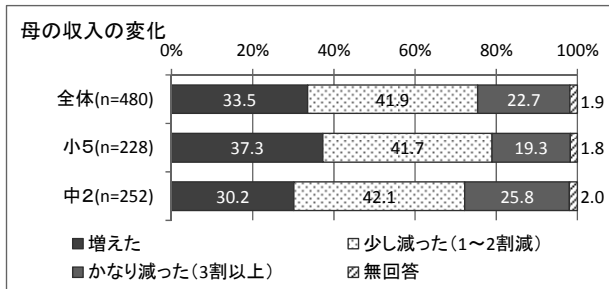
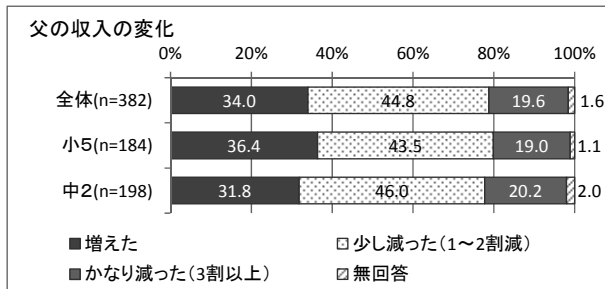
* 図の「全体」はひとり親(母)を除く

* 図の「全体」はひとり親(父)を除く



②収入の変化の内容

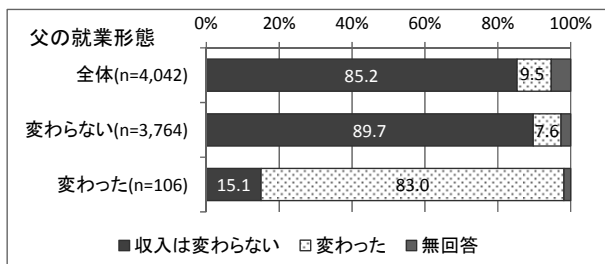
- ・収入の変化の内容は、父親も母親も全体では「増えた」が3割強に対して、「少し減った」は4割を超え、「かなり減った」は約2割である。
- ・家族構成で見ると、ひとり親（父）世帯では「少し減った」が半数を超え、「かなり減った」が3割弱である。ひとり親（母）世帯でも「少し減った」は5割弱で「かなり減った」が3割弱である。どちらもふたり親世帯に比べて減った割合が高い。



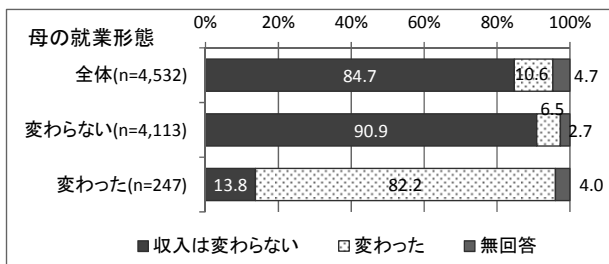
(4) 就業形態の変化と収入の変化

- ・就業形態の変化別に収入の変化をみると、父親、母親ともに就業形態が「変わった」という回答者は、収入が「変わった」が8割を超える。

* 図の「全体」はひとり親（母）を除く



* 図の「全体」はひとり親（父）を除く

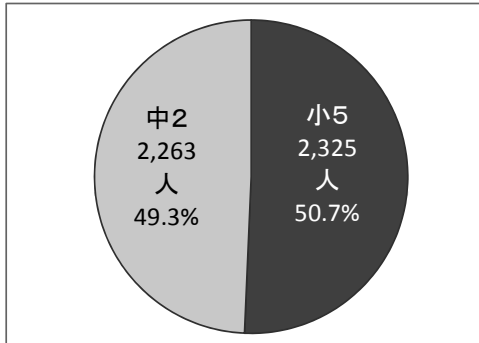


第Ⅱ章 子どもを持つ世帯へのアンケート調査～子どもに対する調査結果～

1. 属性

(1) 回答者の学年

- ・小5と中2の割合はほぼ半々である。

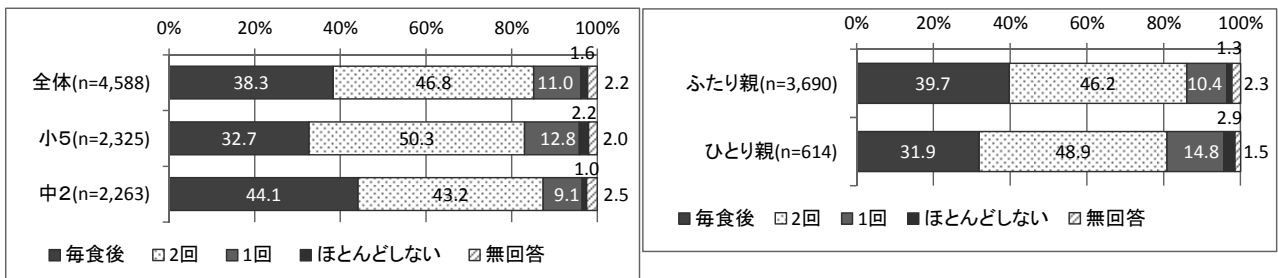


2. 生活状況

(1) 健康状態

① 毎日の歯磨き

- ・全体では「毎食後」が4割近くを占めるが、学年による差がみられる。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯*¹ではひとり親世帯の方がやや回数が少ない傾向がみられる。

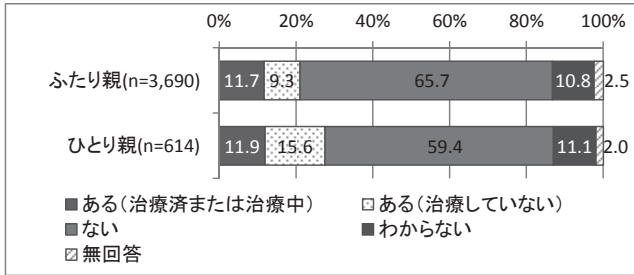
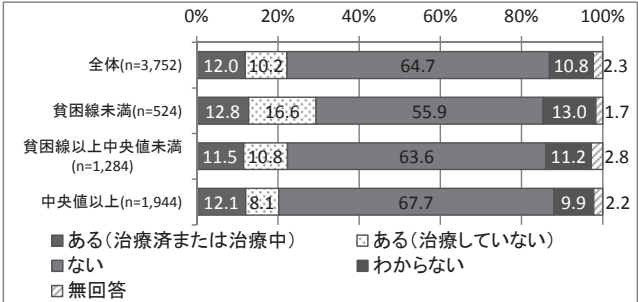
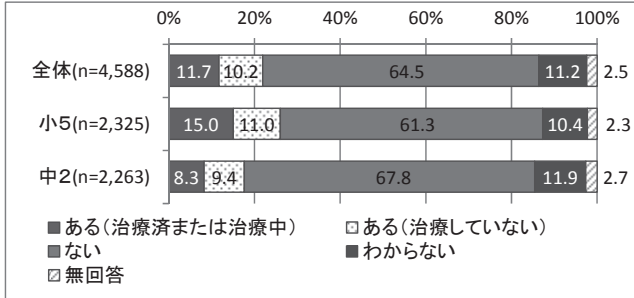


【家族構成について】

*1: ふたり親世帯、ひとり親世帯：子どもの回答総数（4,588）のうち、保護者の回答から家族構成が分かった、ふたり親世帯の子ども回答数（3,690）、ひとり親世帯の子ども回答数（614）が母数となる。以下同じ。

②虫歯の有無

- ・全体では「ない」が6割を超えている。学年による差がみられ、小5では「ある（治療済または治療中）」割合が高い。
- ・ひとり親世帯では「ある（治療していない）」が15.6%で、ふたり親世帯に比べやや高く、「ない」は6割を下回った。
- ・所得分類別*2にみると、貧困線未満で「ある（治療していない）」が他に比べて高い。



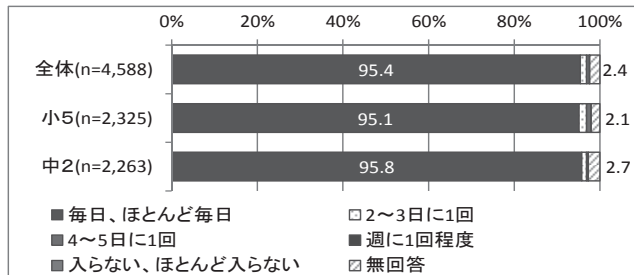
【所得分類別について】

*2: 所得分類別：子どもの回答総数（4,588）のうち、保護者の回答から等価可処分所得が分かる世帯の子どもの回答数（3,752）が母数となる。以下同じ。

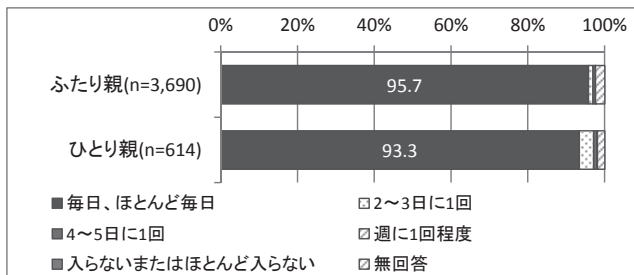
(2) 生活習慣

①お風呂（シャワーも含む）に入る回数

- ・全体では「毎日、ほとんど毎日」が95%を超え、学年による差はほとんどない。ひとり親世帯で「毎日、ほとんど毎日」がわずかであるが低い。



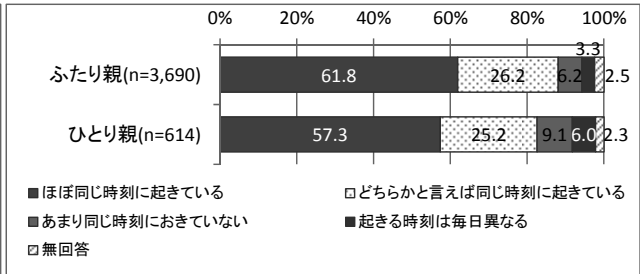
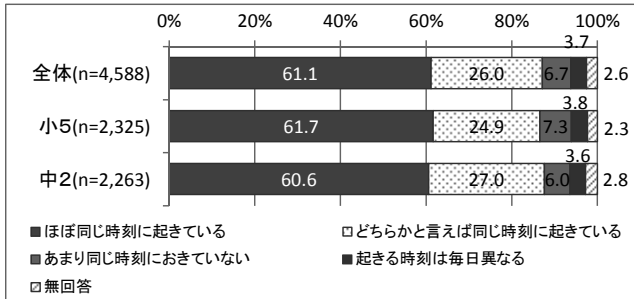
	全体	小5	中2
毎日、ほとんど毎日	95.4	95.1	95.8
2~3日に1回	1.4	1.7	1.1
4~5日に1回	0.7	1.0	0.3
週に1回程度	0.1	0.1	0.0
入らないまたはほとんど入らない	0.0	0.0	0.0
無回答	2.4	2.1	2.7
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
毎日、ほとんど毎日	95.7	93.3
2~3日に1回	1.2	3.7
4~5日に1回	0.7	0.8
週に1回程度	0.0	0.2
入らないまたはほとんど入らない	0.0	0.0
無回答	2.4	2.0
計	100.0	100.0

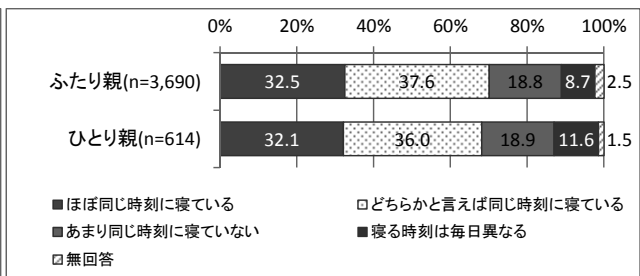
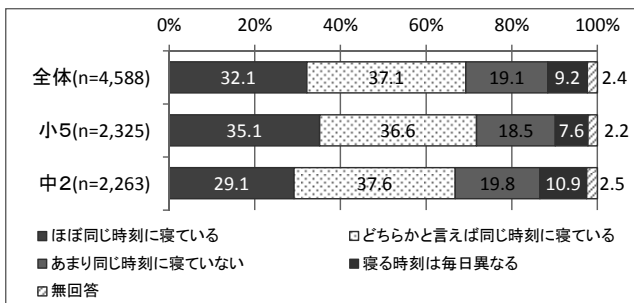
②平日、同じ時刻に起床しているか

- ・全体では「ほぼ同じ時刻に起きている」が6割を占め、学年による差は小さい。
- ・ひとり親世帯で「あまり同じ時刻に起きていない」「起きる時刻は毎日異なる」の割合がやや高く、「ほぼ同じ時刻に起きている」がやや低い。



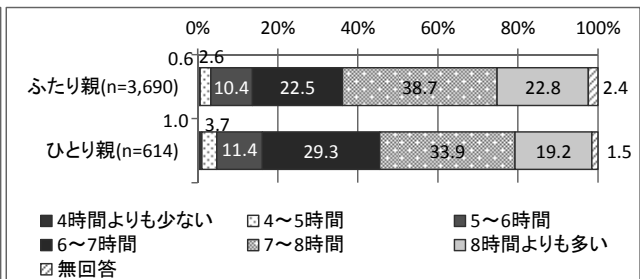
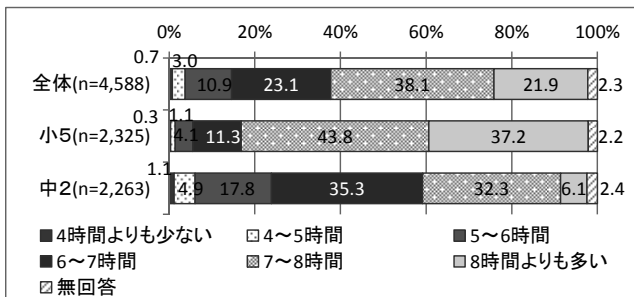
③平日、同じ時刻に寝ているか

- ・全体では「ほぼ同じ時刻に寝ている」が3割強であるが、中2は3割を下回り、学年による差がみられる。中2は「寝る時刻は毎日異なる」が約1割を超えている。
- ・ひとり親世帯では「寝る時刻は毎日異なる」が1割を超えるが、そのほかではふたり親世帯との差は小さい。



④平日の睡眠時間

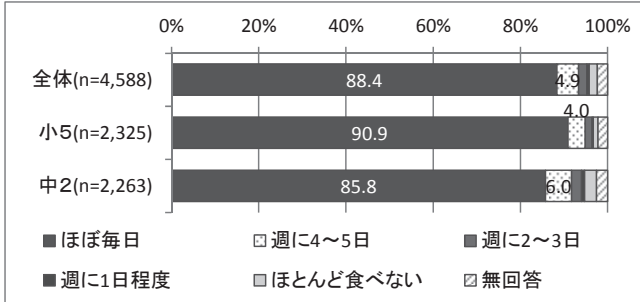
- ・全体では「7～8時間」が4割弱で最も多いが、学年による差が大きい。中2では「6～7時間」が最も多く、小5に比べ睡眠時間は短い傾向である。
- ・ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ「6～7時間」が多く、やや睡眠時間が短い傾向がみられる。



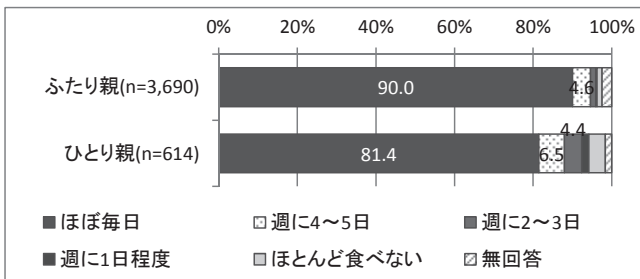
(3) 食生活

①-1 週にどれくらい朝食を食べるか

- ・全体では「ほぼ毎日」が9割弱を占めるが、中2はやや低い。中2の方がわずかではあるが食べる日数が少ない傾向である。
- ・ひとり親世帯では「ほぼ毎日」が8割強とふたり親世帯に比べ低く、ひとり親世帯の方が食べる日数が少ない傾向にある。



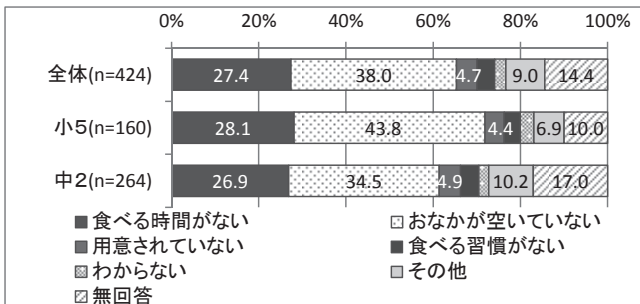
	全体	小5	中2
ほぼ毎日	88.4	90.9	85.8
週に4~5日	4.9	4.0	6.0
週に2~3日	1.9	1.6	2.3
週に1日程度	0.5	0.3	0.8
ほとんど食べない	1.9	1.0	2.7
無回答	2.4	2.2	2.6
計	100.0	100.0	100.0



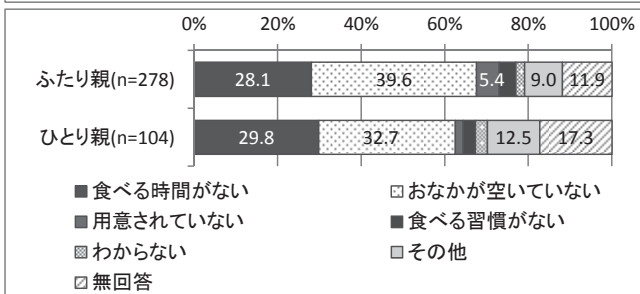
	ふたり親	ひとり親
ほぼ毎日	90.0	81.4
週に4~5日	4.6	6.5
週に2~3日	1.4	4.4
週に1日程度	0.3	1.8
ほとんど食べない	1.3	4.2
無回答	2.4	1.6
計	100.0	100.0

①-2 朝食を食べるのが「ほぼ毎日」ではない理由

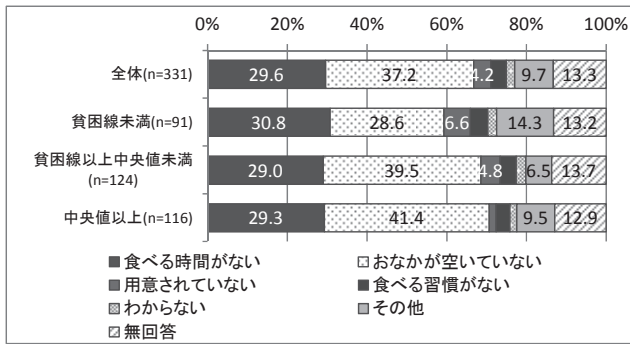
- ・全体では「おなかが空いていない」が最も多く、小5では4割を超えている。次いで「食べる時間がない」が3割弱で続き、「用意されていない」が5%弱である。どちらも学年による差は小さい。
- ・家族構成別にみると「おなかが空いていない」はふたり親世帯の方が多く、「用意されていない」もふたり親世帯の方が多い。「食べる時間がない」は家族構成による差は小さい。
- ・所得分類別にみると、貧困線未満の世帯で「おなかが空いていない」が3割弱と他の世帯に比べて少なく、「用意されていない」が7%弱と他の世帯よりやや多く、差がみられる。



	全体	小5	中2
食べる時間がない	27.4	28.1	26.9
おなかが空いていない	38.0	43.8	34.5
用意されていない	4.7	4.4	4.9
食べる習慣がない	4.0	3.8	4.2
わからない	2.6	3.1	2.3
その他	9.0	6.9	10.2
無回答	14.4	10.0	17.0
計	100.0	100.0	100.0



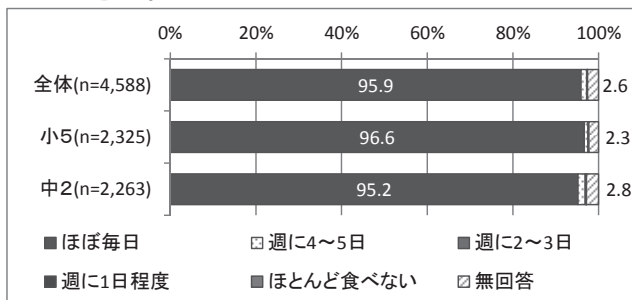
	ふたり親	ひとり親
食べる時間がない	28.1	29.8
おなかが空いていない	39.6	32.7
用意されていない	5.4	1.9
食べる習慣がない	4.0	2.9
わからない	2.2	2.9
その他	9.0	12.5
無回答	11.9	17.3
計	100.0	100.0



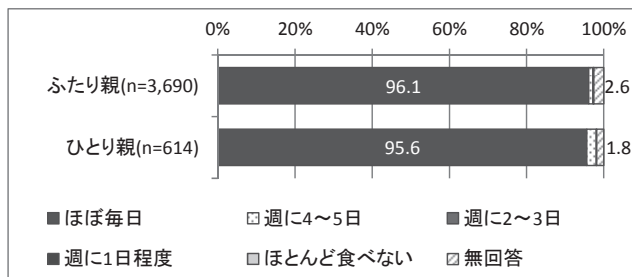
	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
食べる時間がない	29.6	30.8	29.0	29.3
おなかが空いていない	37.2	28.6	39.5	41.4
用意されていない	4.2	6.6	4.8	1.7
食べる習慣がない	3.9	4.4	4.0	3.4
わからない	2.1	2.2	2.4	1.7
その他	9.7	14.3	6.5	9.5
無回答	13.3	13.2	13.7	12.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0

②-1 週にどれくらい夕食を食べるか

・全体では「ほぼ毎日」が96%前後と大部分を占める。学年による差や家族構成による差は小さい。



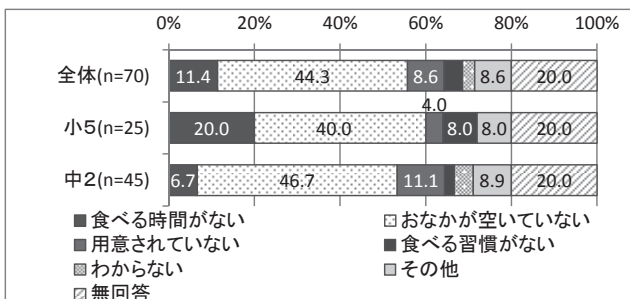
	全体	小5	中2
ほぼ毎日	95.9	96.6	95.2
週に4~5日	1.3	0.9	1.7
週に2~3日	0.2	0.1	0.2
週に1日程度	0.0	0.0	0.0
ほとんど食べない	0.0	0.0	0.0
無回答	2.6	2.3	2.8
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
ほぼ毎日	96.1	95.6
週に4~5日	1.1	2.4
週に2~3日	0.2	0.2
週に1日程度	0.0	0.0
ほとんど食べない	0.1	0.0
無回答	2.6	1.8
計	100.0	100.0

②-2 夕食を食べるのが「ほぼ毎日」ではない理由

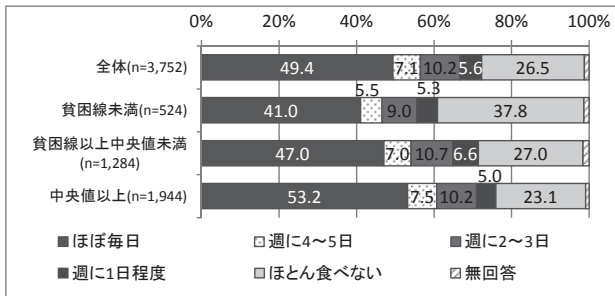
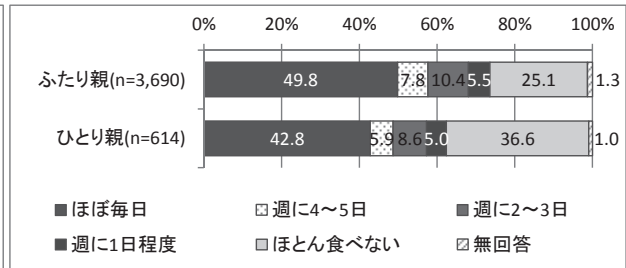
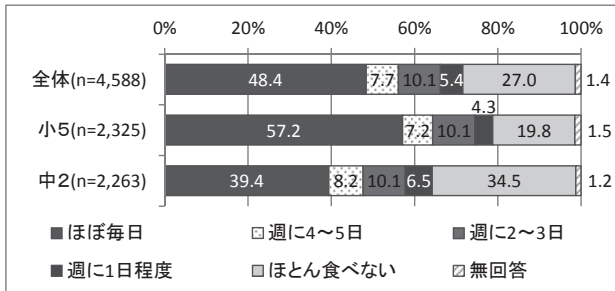
・全体では「おなかが空いていない」が最も多く、次いで「食べる時間がない」がほぼ1割である。「用意されていない」は1割弱である。小5では「食べる時間がない」が2割を占める。中2では「おなかが空いていない」が5割近くを占め、「用意されていない」が1割を超える。



	全体	小5	中2
食べる時間がない	11.4	20.0	6.7
おなかが空いていない	44.3	40.0	46.7
用意されていない	8.6	4.0	11.1
食べる習慣がない	4.3	8.0	2.2
わからない	2.9	0.0	4.4
その他	8.6	8.0	8.9
無回答	20.0	20.0	20.0
計	100.0	100.0	100.0

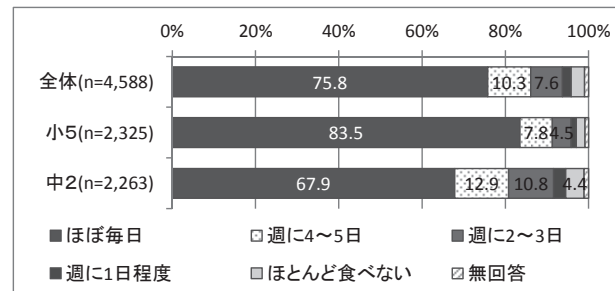
③ 週にどのくらい保護者と一緒に朝食を食べるか

- ・全体では「ほぼ毎日」が5割弱で最も多いが、「ほとんど食べない」も3割弱である。学年による差が大きく、中2では「ほとんど食べない」が3割を超え、「ほぼ毎日」と二極化している。
- ・ひとり親世帯の方が「ほとんど食べない」が3割を超えており、ふたり親世帯に比べ保護者と一緒に食べる回数は少ない傾向にある。
- ・所得分類別では、所得が低いほど「ほとんど食べない」が高くなる傾向にある。

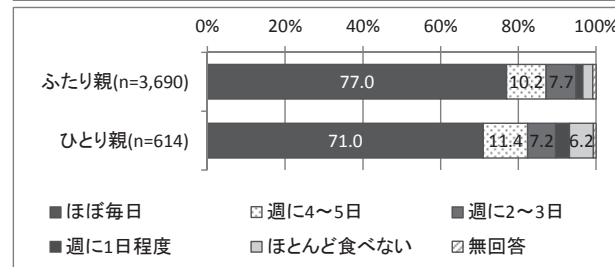


④ 週にどのくらい保護者と一緒に夕食を食べるか

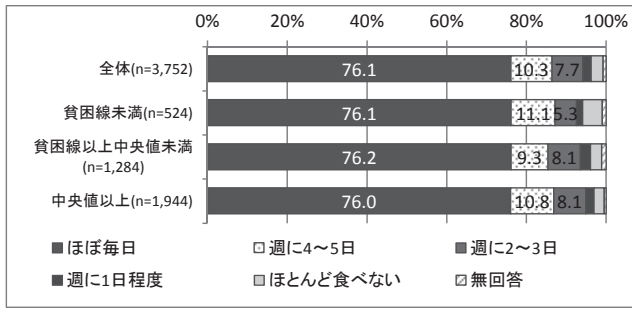
- ・全体では「ほぼ毎日」は8割弱であるが、学年による差が大きい。
- ・ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ、「ほぼ毎日」の割合が低く、「週に1日程度」「ほとんど食べない」が高い。保護者と一緒に食べる回数は少ない傾向にある。
- ・所得分類別ではあまり差はみられない。



	全体	小5	中2
ほぼ毎日	75.8	83.5	67.9
週に4~5日	10.3	7.8	12.9
週に2~3日	7.6	4.5	10.8
週に1日程度	2.1	1.2	3.0
ほとんど食べない	3.2	2.1	4.4
無回答	1.0	0.9	1.1
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
ほぼ毎日	77.0	71.0
週に4~5日	10.2	11.4
週に2~3日	7.7	7.2
週に1日程度	1.8	3.6
ほとんど食べない	2.5	6.2
無回答	0.8	0.7
計	100.0	100.0



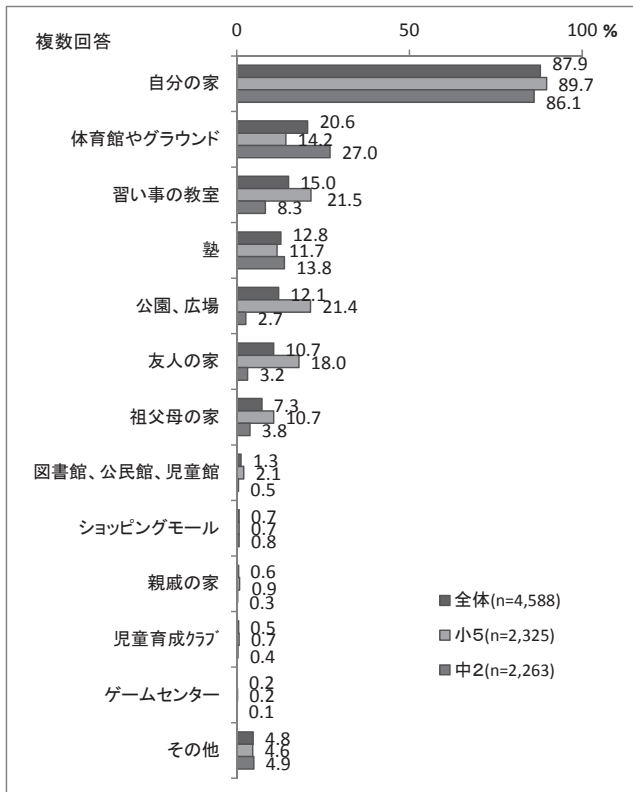
	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
ほぼ毎日	76.1	76.1	76.2	76.0
週に4~5日	10.3	11.1	9.3	10.8
週に2~3日	7.7	5.3	8.1	8.1
週に1日程度	2.1	1.5	2.5	2.1
ほとんど食べない	3.0	5.0	2.8	2.6
無回答	0.8	1.0	1.2	0.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 放課後の過ごし方

(1) 放課後の居場所など

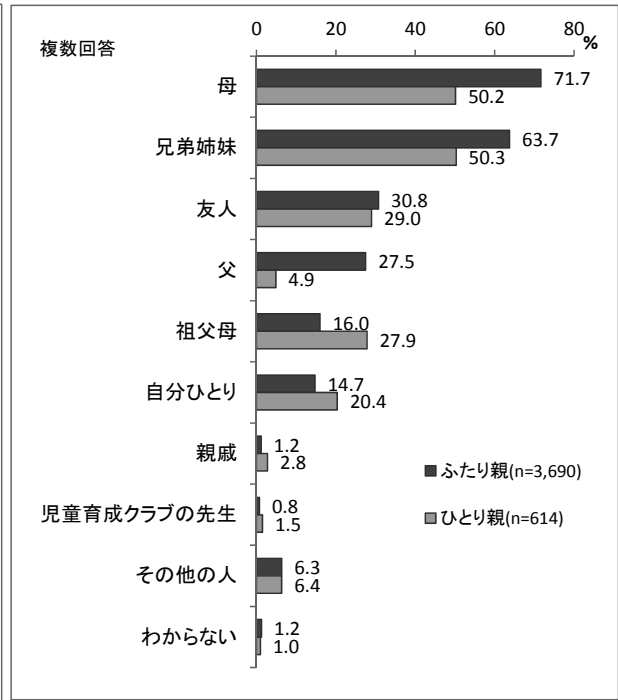
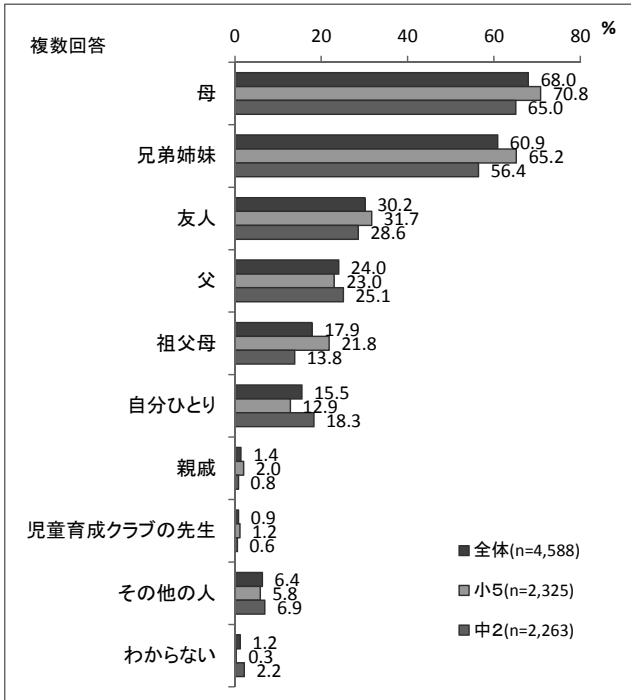
①学校が終わってから夕食までの間、主にどこで過ごすか

- ・全体では、「自分の家」が9割近くを占め小5、中2ともに圧倒的に多い。次いで「体育館やグラウンド」が2割である。
- ・学年による差がみられ、小5では「習い事の教室」「公園、広場」「友人の家」と続き、中2では「体育館やグラウンド」が3割近く、次が「塾」である。



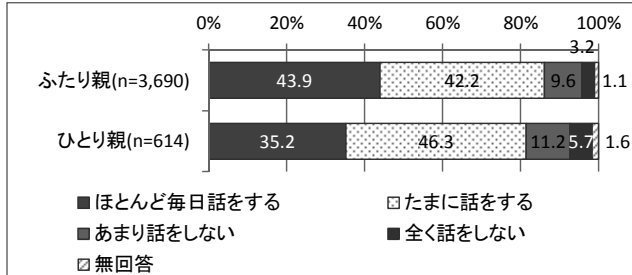
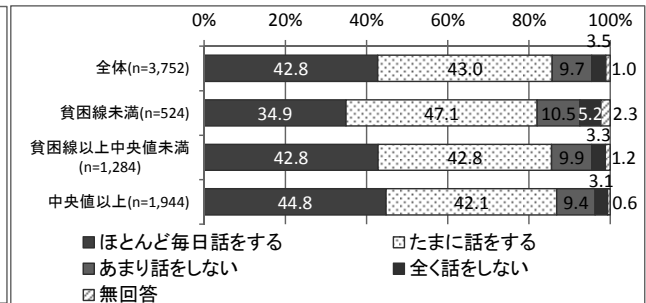
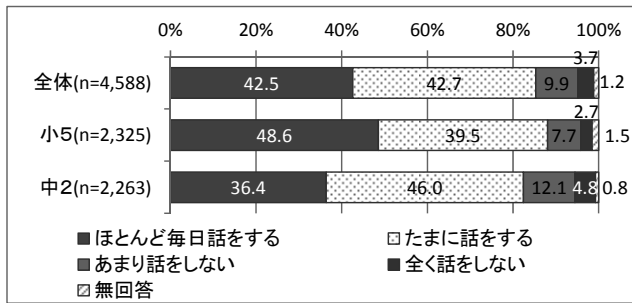
②学校が終わってから夕食までの間、主に誰と過ごすか

- ・全体では、「母」が7割近くを占め最も多く、「兄弟姉妹」もほぼ6割である。
- ・家族構成別による差がみられ、ひとり親世帯では「祖父母」や「自分ひとり」がふたり親世帯に比べ高い。

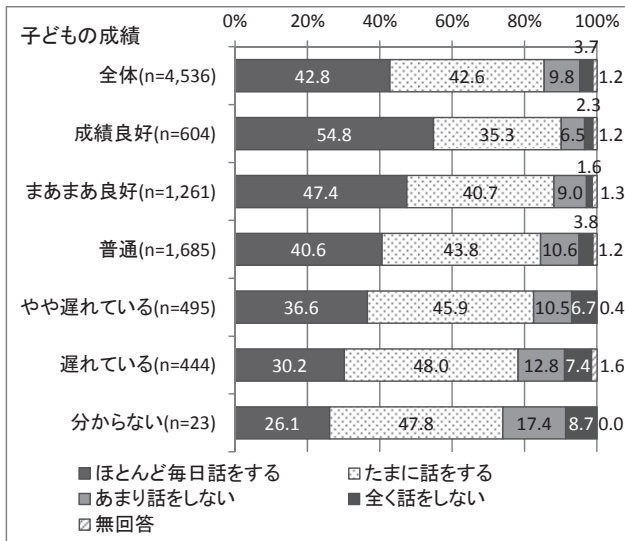


③保護者と学校の出来事話すか

- ・全体では「ほとんど毎日話をする」と「たまに話をする」が各々4割強を占める。学年による差がみられ、中2の方が話す頻度は低い傾向がある。
- ・家族構成別ではひとり親世帯で、所得分類別では所得が低いほど話す頻度がやや低くなる傾向がみられる。



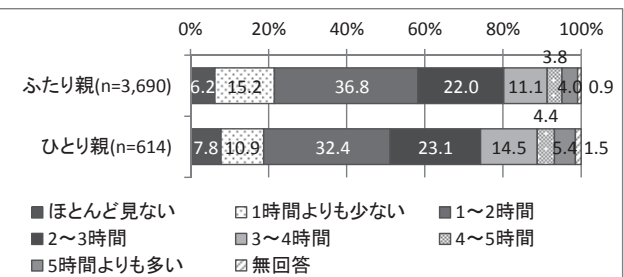
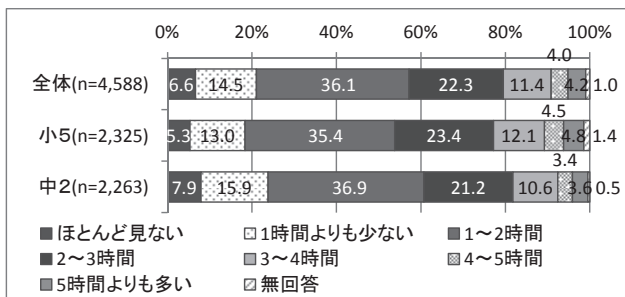
- ◆「子どもの成績（保護者回答）」と「保護者との会話の頻度（子ども回答）」との相関関係
 - ・子どもの成績別にみると、成績が良い子どものほうが、保護者と話をする頻度は高い傾向がみられる。



(2) テレビやゲームなどをする時間

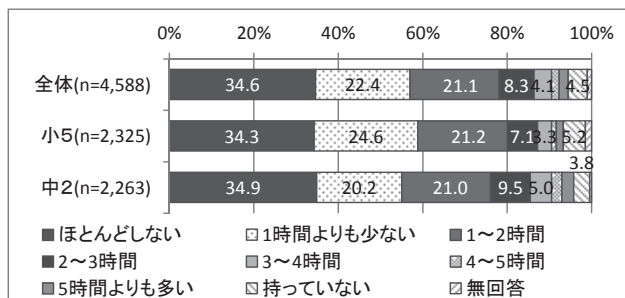
①平日に1日何時間くらいテレビを見るか

- ・全体では「1～2時間」が3割を超え、最も多い。中2では「ほとんど見ない」「1時間よりも少ない」の計は2割を超え、小5よりもやや多い。
- ・家族構成別では、ひとり親世帯はふたり親世帯より「3～4時間」以上がやや多く、テレビをみる時間が長い傾向がみられる。

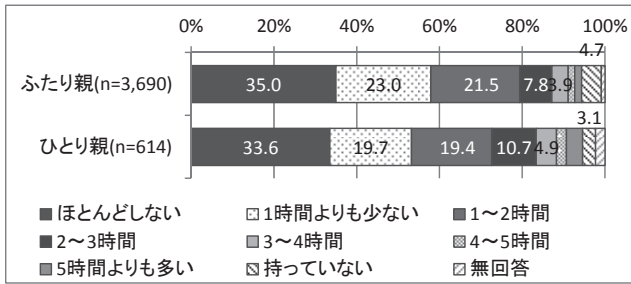


②平日に1日何時間くらいゲームをするか

- ・全体では「ほとんどしない」が3割を超え、「1時間よりも少ない」「1～2時間」がそれぞれ2割強である。中2で2時間以上の割合がやや多く、ゲームをする時間が長い傾向がみられる。
- ・家族構成別でも、ひとり親世帯で2時間以上がやや多く、ゲームをする時間が長い傾向がみられる。

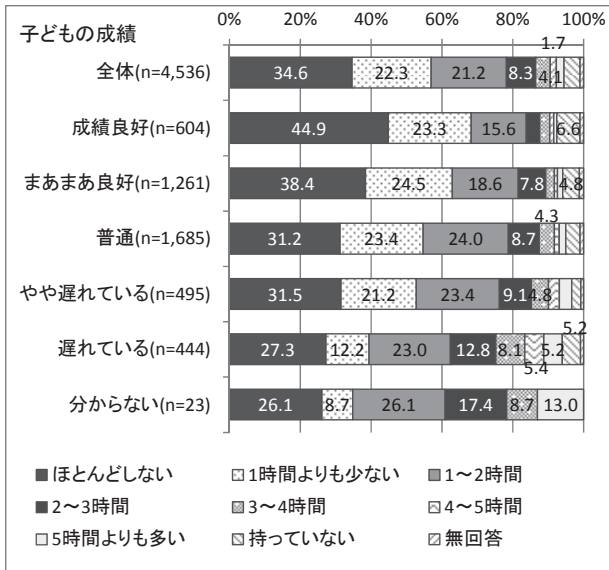


	全体	小5	中2
ほとんどしない	34.6	34.3	34.9
1時間よりも少ない	22.4	24.6	20.2
1～2時間	21.1	21.2	21.0
2～3時間	8.3	7.1	9.5
3～4時間	4.1	3.3	5.0
4～5時間	1.8	1.2	2.4
5時間よりも多い	2.2	1.6	2.8
持っていない	4.5	5.2	3.8
無回答	1.0	1.5	0.5
計	100.0	100.0	100.0



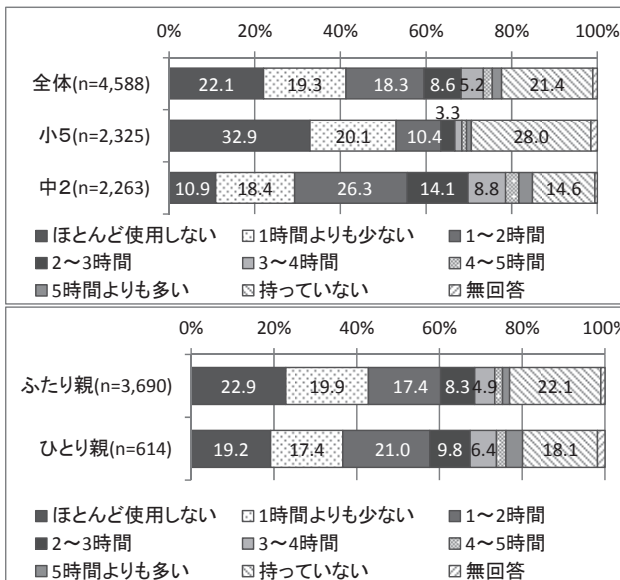
	ふたり親	ひとり親
ほとんどしない	35.0	33.6
1時間よりも少ない	23.0	19.7
1~2時間	21.5	19.4
2~3時間	7.8	10.7
3~4時間	3.9	4.9
4~5時間	1.6	2.4
5時間よりも多い	1.7	3.9
持っていない	4.7	3.1
無回答	0.9	2.3
計	100.0	100.0

◆「子どもの成績（保護者回答）」と「平日のゲームの時間（子ども回答）」との相関関係
 ・成績別では、成績が良いほどゲームをする時間は短くなる傾向がみられ、差が大きい。



③平日に1日何時間くらい携帯電話（スマートフォンなど）を使用するか

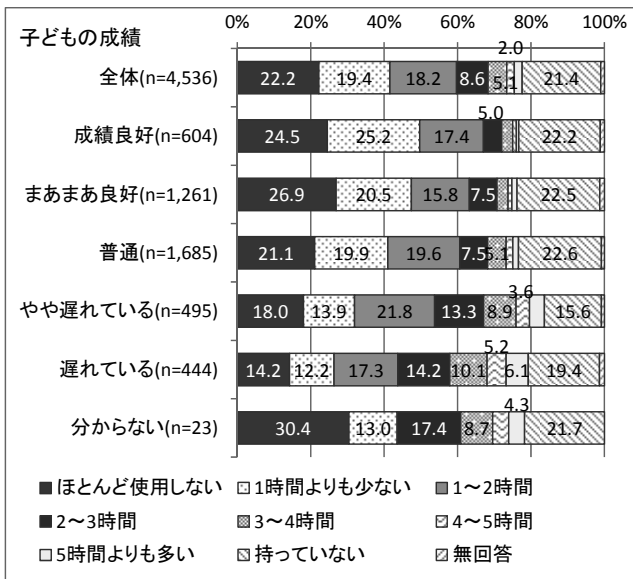
- ・全体では「ほとんど使用しない」「持っていない」が2割を超え、「1時間よりも少ない」「1~2時間」が2割弱である。学年による差が大きく、小5では「ほとんど使用しない」「持っていない」の計が6割を超える。中2では「1~2時間」が2割を超える。
- ・家族構成別では、ふたり親世帯が「ほとんど使用しない」「持っていない」がやや多い。



	全体	小5	中2
ほとんど使用しない	22.1	32.9	10.9
1時間よりも少ない	19.3	20.1	18.4
1~2時間	18.3	10.4	26.3
2~3時間	8.6	3.3	14.1
3~4時間	5.2	1.7	8.8
4~5時間	2.1	1.1	3.1
5時間よりも多い	2.1	1.1	3.1
持っていない	21.4	28.0	14.6
無回答	1.0	1.5	0.6
計	100.0	100.0	100.0

	ふたり親	ひとり親
ほとんど使用しない	22.9	19.2
1時間よりも少ない	19.9	17.4
1~2時間	17.4	21.0
2~3時間	8.3	9.8
3~4時間	4.9	6.4
4~5時間	1.9	2.3
5時間よりも多い	1.7	4.1
持っていない	22.1	18.1
無回答	1.0	1.8
計	100.0	100.0

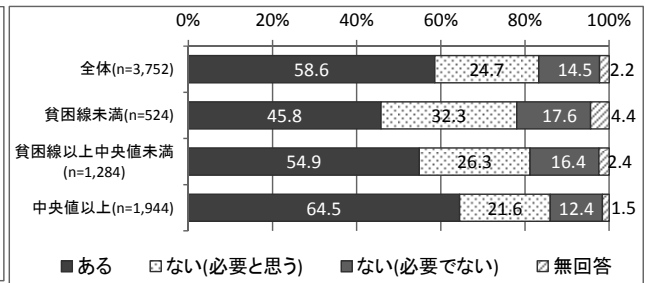
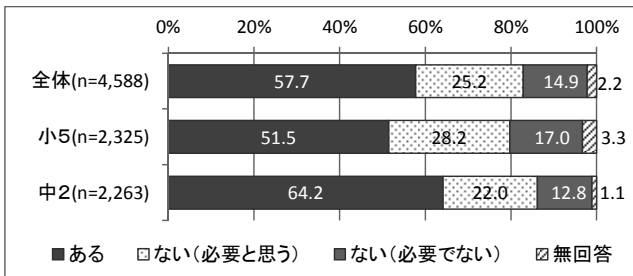
- ◆「子どもの成績（保護者回答）」と「平日の携帯の使用時間（子ども回答）」との相関関係
 - ・成績別では、成績が良いほど携帯電話（スマートフォンなど）を使用する時間は短くなる傾向がみられ、差が大きい。



(3) 自分が使うことができるもの

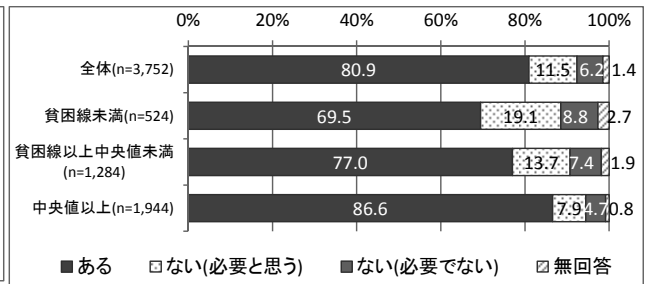
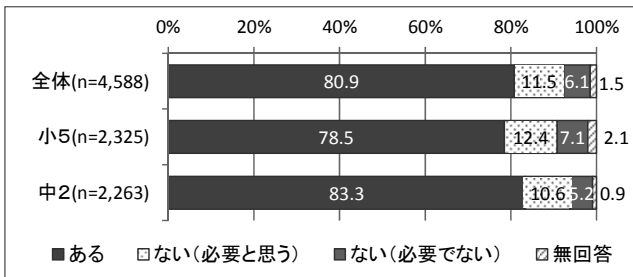
①学習のための本（参考書）

- ・全体では「ある」が6割弱を占め、学年別では中2の方が多い。
- ・所得分類別では所得が低い方が「ある」は少なく、「ない（必要と思う）」が多くなる傾向にある。



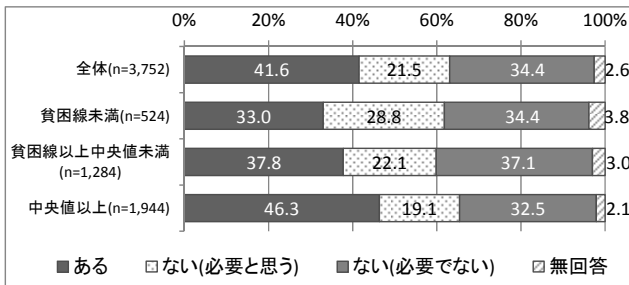
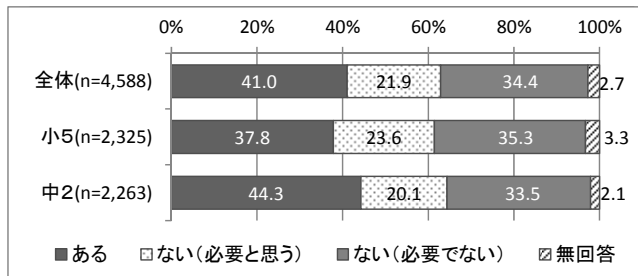
②子ども部屋などの勉強する場所

- ・全体では「ある」が8割弱を占め、学年別では中2の方がやや多い。
- ・所得分類別では所得が低い方が「ある」は少なく、「ない（必要と思う）」が多くなる傾向にある。



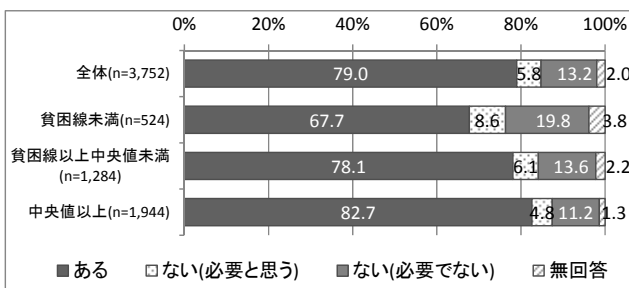
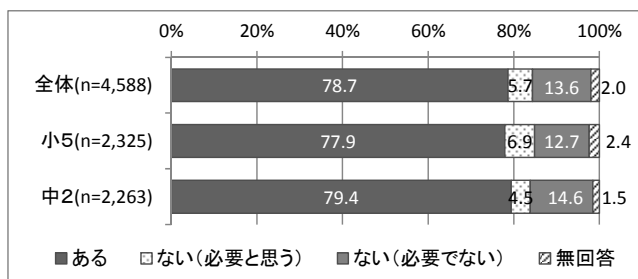
③パソコン

- ・全体では「ある」が約4割を占め、学年別では中2の方が多く、学年による差がみられる。
- ・所得分類別では所得が低い方が「ある」は少なく、「ない(必要と思う)」が多くなる傾向にある。



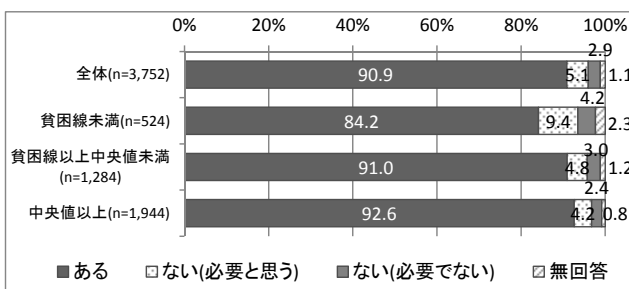
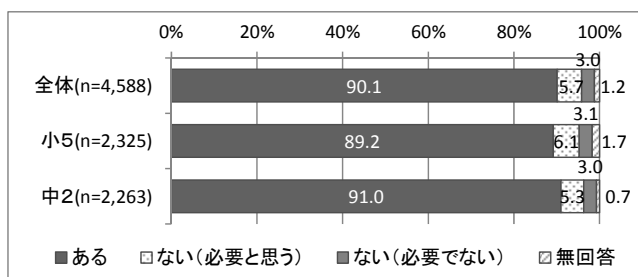
④クラブ、部活動などの道具

- ・全体では「ある」が8割近くを占め、学年による差は小さい。
- ・所得分類別では、所得が低い方が「ある」は少なく、「ない(必要と思う)」が多くなる傾向にある。



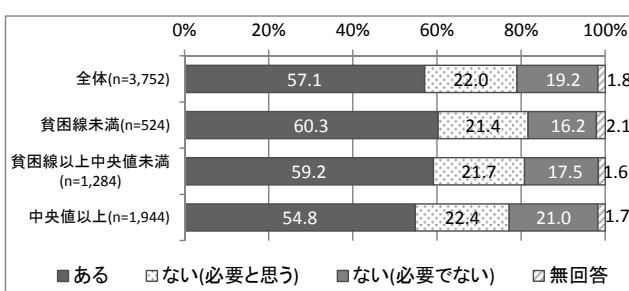
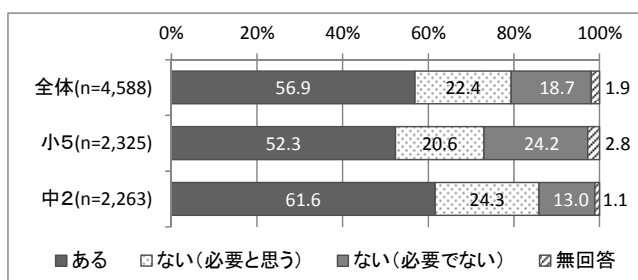
⑤自転車

- ・全体では「ある」がほぼ9割を占め、所有率が高い。学年による差は小さい。
- ・所得分類別では、貧困線未満の世帯で「ある」が9割に届かず、やや少ない。



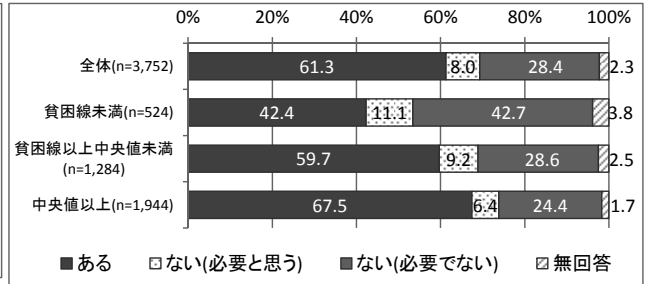
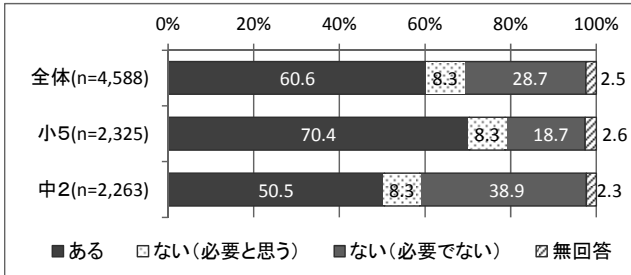
⑥携帯電話

- ・全体では「ある」が6割弱を占め、中2の方が「ある」の割合は高く、学年による差がみられる。
- ・所得分類別では所得が低い方が「ある」がやや多くなる傾向にある。



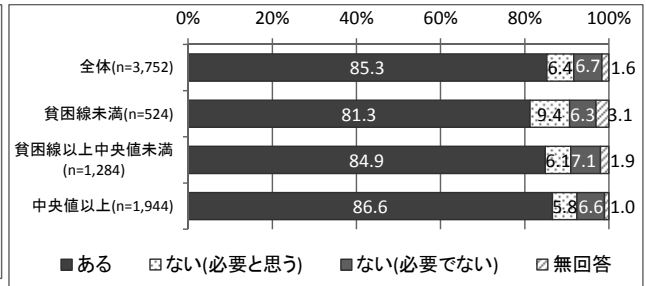
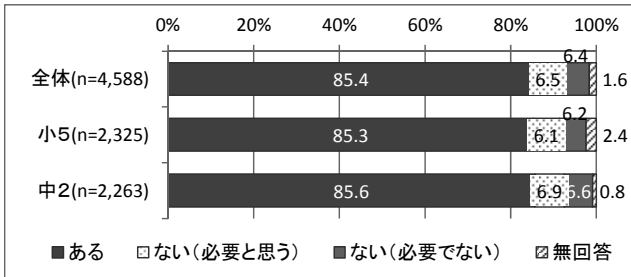
⑦習い事の道具

- ・全体では「ある」が6割を占める。学年による差が大きく、中2では「ない(必要でない)」が4割弱である。
- ・所得分類別では、貧困線未満の世帯で「ある」は4割強にとどまり、「ない(必要でない)」とほぼ同程度である。



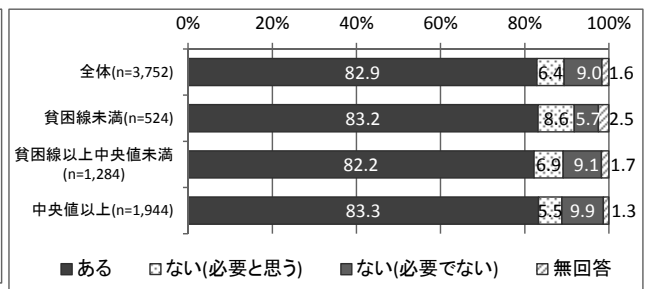
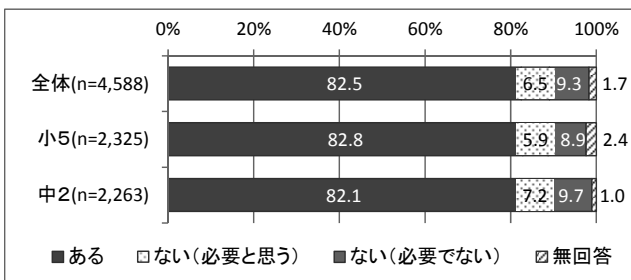
⑧自分で選んだ服

- ・全体では「ある」が8割を超え、学年による差はわずかである。
- ・所得分類別では「ある」は貧困線未満の世帯がやや少ない傾向にある。



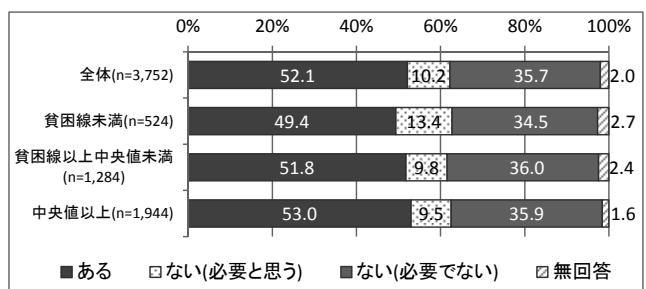
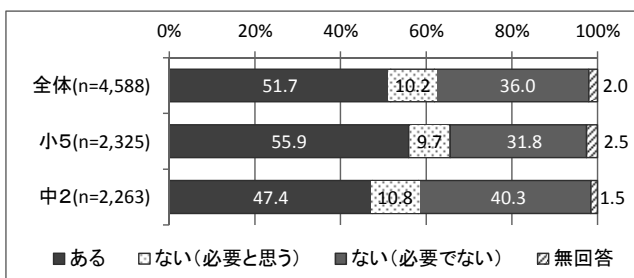
⑨テレビ

- ・全体では「ある」が8割を超え、学年による差はわずかである。
- ・所得分類別でも差はわずかである。



⑩ほとんどの友達が持っているゲーム

- ・全体では「ある」が5割強である。中2のほうが「ある」が少なく学年による差がみられる。
- ・所得分類別では、所得の低い方が「ある」がやや少ない傾向である。

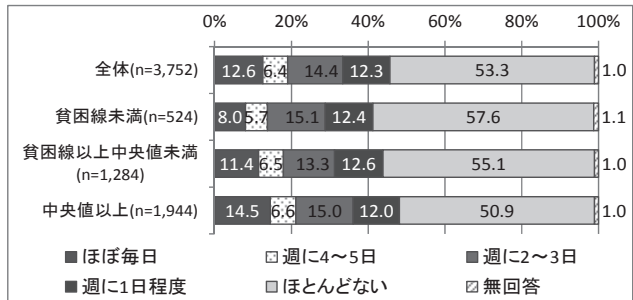
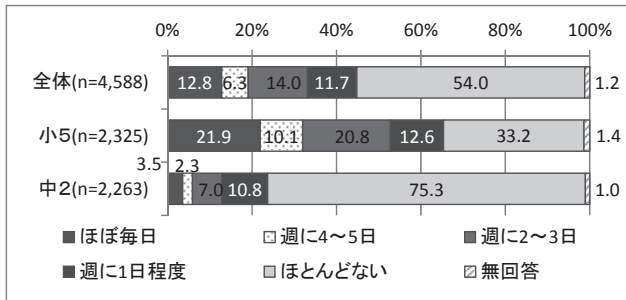


4. 勉強と学校生活

(1) 家庭での勉強・読書

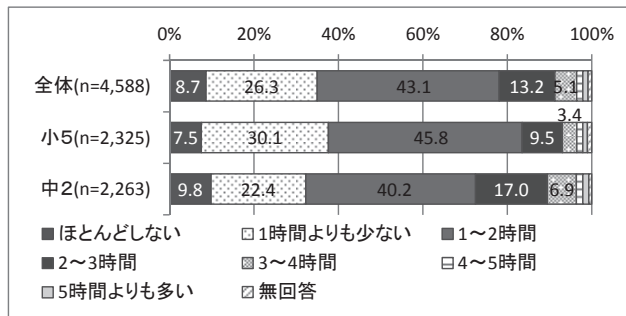
①保護者に勉強をみてもらう頻度

- ・全体では「ほとんどない」が最も多く、5割を超えている。学年による差が大きく、中2では7割強に達する。
- ・所得分類別では所得が低いほど勉強をみてもらう頻度が低くなる傾向がみられる。

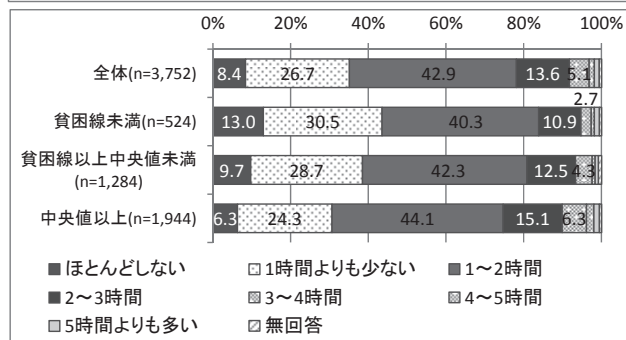


②平日の勉強時間（学校の授業以外で、塾での勉強時間を含む）

- ・全体では「1~2時間」が4割強で高い。中2では「2~3時間」が2割近くに増え、学年による差がみられる。
- ・所得分類別では所得が低いほど勉強時間が少ない傾向がみられる。



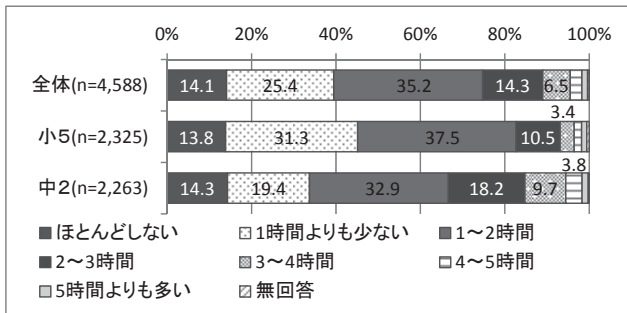
	全体	小5	中2
ほとんどしない	8.7	7.5	9.8
1時間よりも少ない	26.3	30.1	22.4
1~2時間	43.1	45.8	40.2
2~3時間	13.2	9.5	17.0
3~4時間	5.1	3.4	6.9
4~5時間	1.5	1.4	1.5
5時間よりも多い	1.2	1.1	1.4
無回答	0.9	1.0	0.7
計	100.0	100.0	100.0



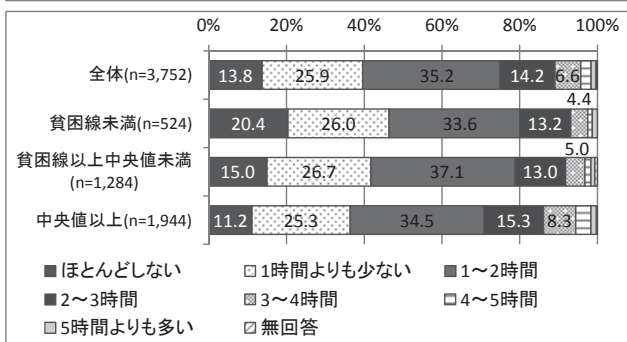
	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
ほとんどしない	8.4	13.0	9.7	6.3
1時間よりも少ない	26.7	30.5	28.7	24.3
1~2時間	42.9	40.3	42.3	44.1
2~3時間	13.6	10.9	12.5	15.1
3~4時間	5.1	2.7	4.3	6.3
4~5時間	1.3	0.8	0.8	1.9
5時間よりも多い	1.2	1.3	0.9	1.4
無回答	0.6	0.6	0.8	0.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0

③土日祝日の勉強時間（塾での勉強時間を含む）

- ・全体では「1～2時間」が最も多く、3割を超えている。中2の方が「2～3時間」「3～4時間」の割合が高く、学年による差がみられる。
- ・所得分類別では所得が低いほど「ほとんどしない」の割合が高くなる傾向にある。



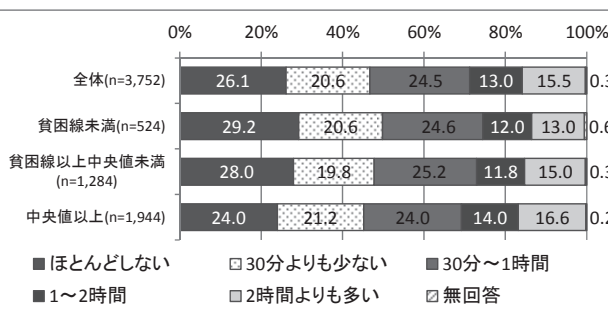
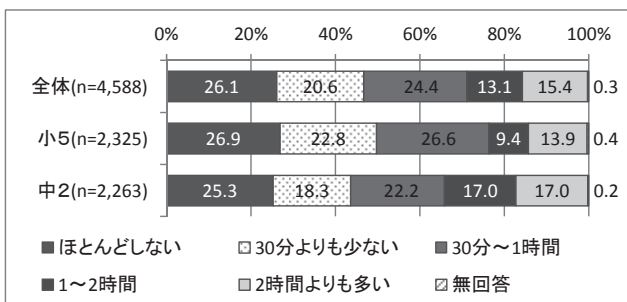
	全体	小5	中2
ほとんどしない	14.1	13.8	14.3
1時間よりも少ない	25.4	31.3	19.4
1～2時間	35.2	37.5	32.9
2～3時間	14.3	10.5	18.2
3～4時間	6.5	3.4	9.7
4～5時間	2.8	1.8	3.8
5時間よりも多い	1.3	1.2	1.4
無回答	0.4	0.6	0.3
計	100.0	100.0	100.0



	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
ほとんどしない	13.8	20.4	15.0	11.2
1時間よりも少ない	25.9	26.0	26.7	25.3
1～2時間	35.2	33.6	37.1	34.5
2～3時間	14.2	13.2	13.0	15.3
3～4時間	6.6	4.4	5.0	8.3
4～5時間	2.7	1.1	1.5	3.9
5時間よりも多い	1.3	1.3	1.0	1.4
無回答	0.4	0.0	0.7	0.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0

④週にどれくらい読書をするか（マンガや雑誌を除く）

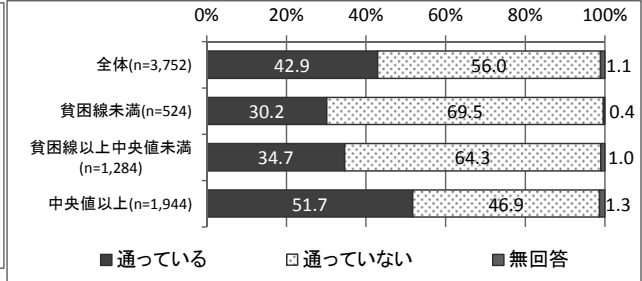
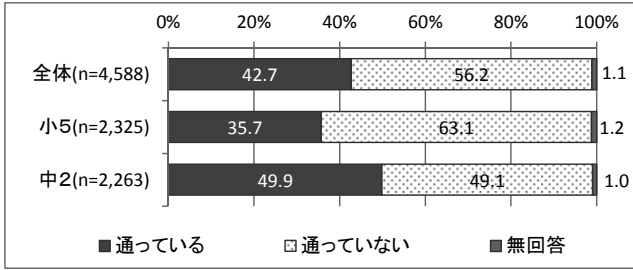
- ・全体では「ほとんどしない」が1/4強を占め、「30分よりも少ない」を合わせると5割近くを占める。学年別では中2の方が「1～2時間」「2時間よりも多い」の割合が高く、学年による差がみられる。
- ・所得分類別では所得が低いほど読書時間が少ない傾向がわずかにみられる。



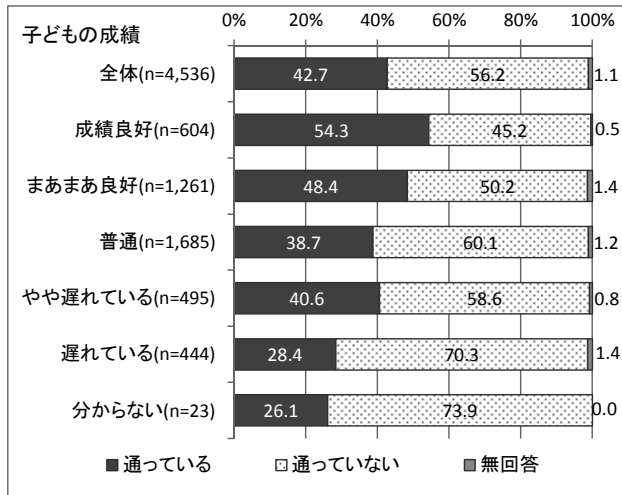
(2) 塾やスポーツクラブ、習い事

①-1 塾（家庭教師や通信制の家庭学習教材を含む）に通っているか

- ・全体では4割強が塾に通っている。学年による差がみられ、小5では3割を超え、中2ではほぼ半数である。
- ・所得分類別では、所得が低いほど通っている割合も低くなる傾向である。



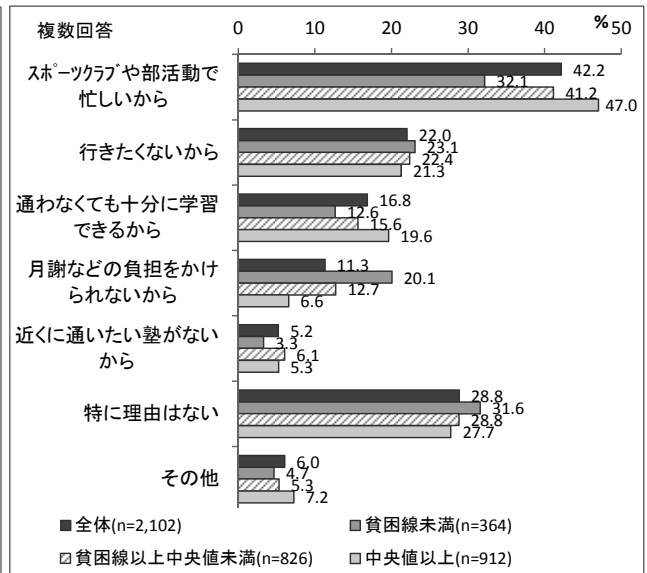
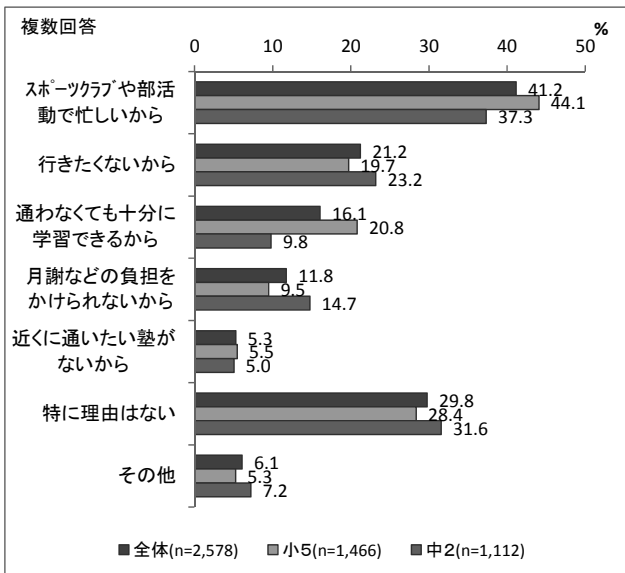
◆「子どもの成績（保護者回答）」と「塾等に通っているか（子ども回答）」との相関関係



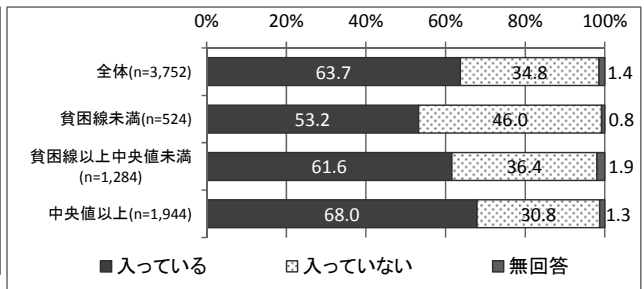
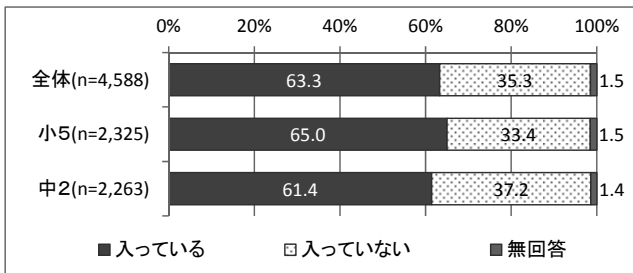
- ・「成績良好」では半数以上が塾に通っている。成績が良いほど「通っている」割合が高く、差が大きい。

①-2 塾に通っていない理由

- ・全体では「スポーツクラブや部活動で忙しいから」が4割強で最も多く、次いで「特に理由はない」がほぼ3割を占める。小5では「通わなくても十分に学習できるから」が2割に達し、中2との差が大きい。
- ・所得分類別では「スポーツクラブや部活動で忙しいから」は所得が低いほど回答が少なくなり、「月謝などの負担をかけられないから」は逆に多くなる傾向にある。

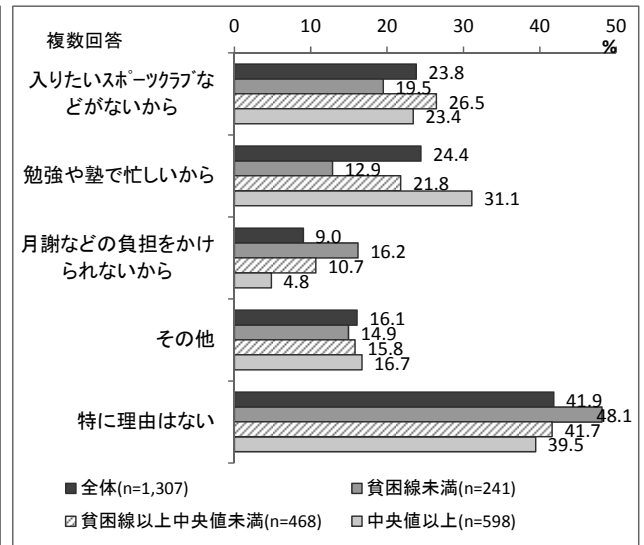
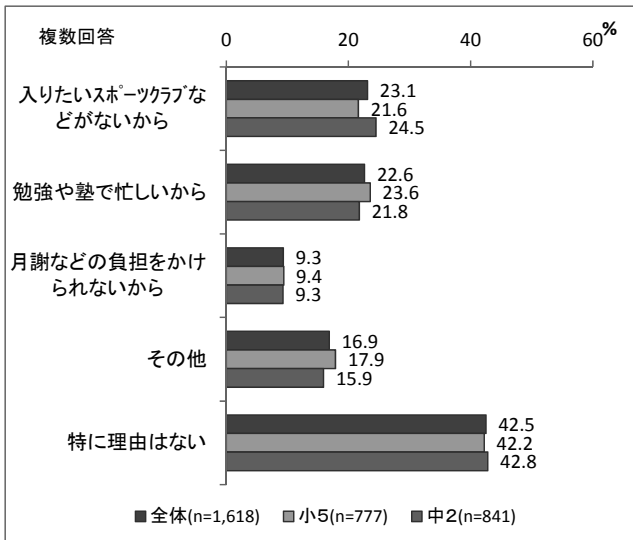


- ②-1 スポーツクラブ(学校の部活動外の球技や水泳、ダンスなど)や部活動に入っているか
- ・全体では6割強が入っており、学年による差は小さい。
 - ・所得分類別では、所得が低いほど入っている割合は少ない傾向にある。



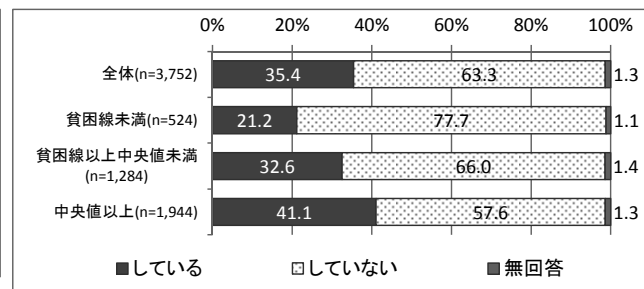
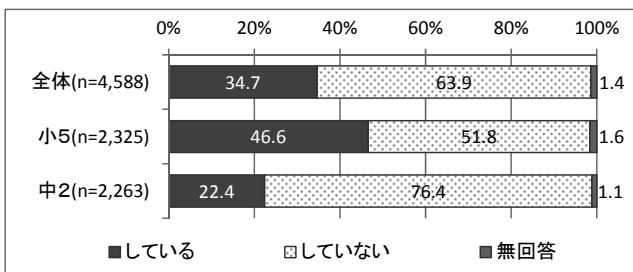
②-2 スポーツクラブや部活動に入っていない理由

- ・全体では「特に理由はない」が4割強を占め、最も多い。「入りたいスポーツクラブなどが無いから」と「勉強や塾で忙しいから」がそれぞれ2割強で、学年による差は小さい。
- ・所得分類別では、所得が低いほど「勉強や塾で忙しいから」が少なくなり、「月謝などの負担をかけられないから」は逆に多くなる傾向である。

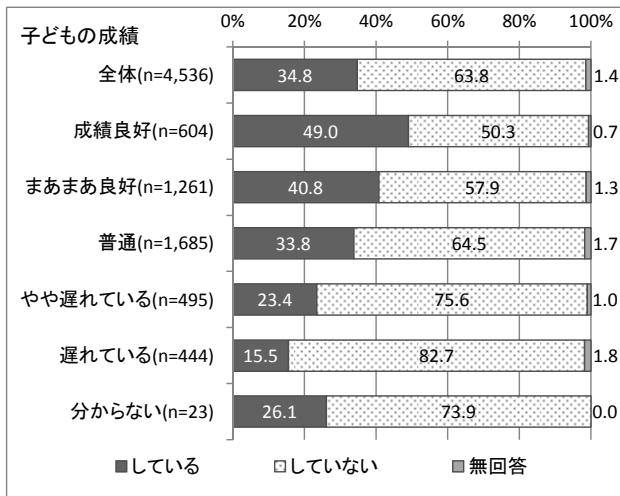


③-1 習い事(習字やそろばん、ピアノなど)をしているか

- ・全体では3割強が習い事をしているが、学年による差が大きく、小5では半数近くに達する。
- ・所得分類別では、所得が低いほど習い事をしている割合は低い傾向にある。

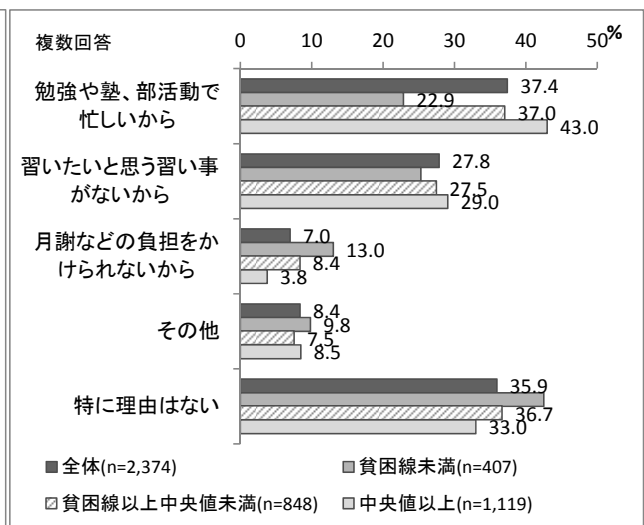
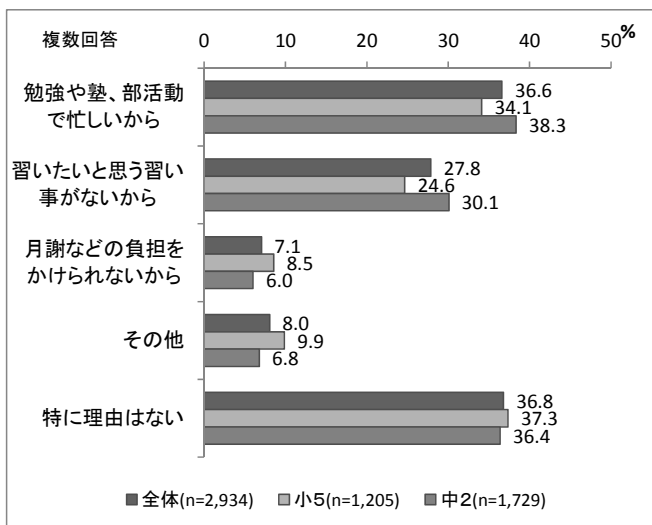


- ◆ 「子どもの成績（保護者回答）」と「習い事をしているか（子ども回答）」との相関関係
 - ・「成績良好」「まあまあ良好」では4割以上が「している」。成績が良いほど「している」割合が高く、差が大きい。



③-2 習い事をしていない理由

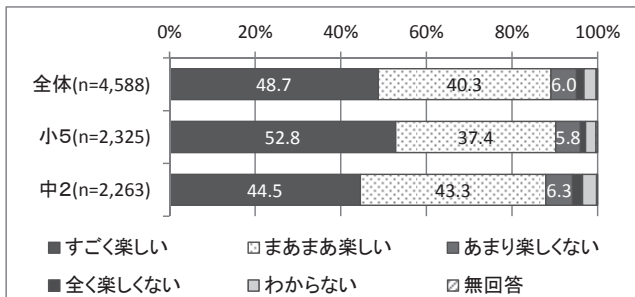
- ・全体では「特に理由はない」と「勉強や塾、部活動で忙しいから」が3割を超えている。中2では「習いたいと思う習い事がないから」が小5に比べて高くなっている。
- ・所得分類別では、所得が低いほど「勉強や塾、部活動で忙しいから」が少なく、「月謝などの負担をかけられないから」は逆に多くなる傾向である、



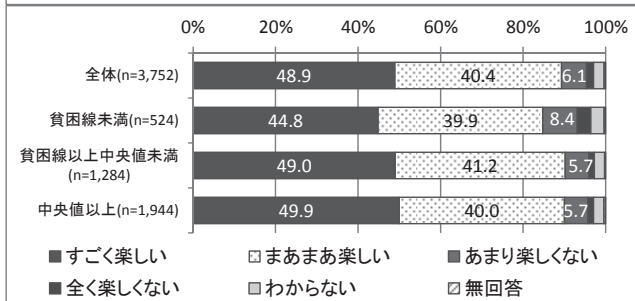
(3) 学校は楽しいか

①学校は楽しいか

- ・全体では「すごく楽しい」が5割近くを占め、「まあまあ楽しい」と合わせるとほぼ9割である。中2の方が「すごく楽しい」が少なく、「まあまあ楽しい」とほぼ同程度である。
- ・所得分類別では、「あまり楽しくない」「全く楽しくない」が貧困線未満の世帯でわずかではあるが多い。



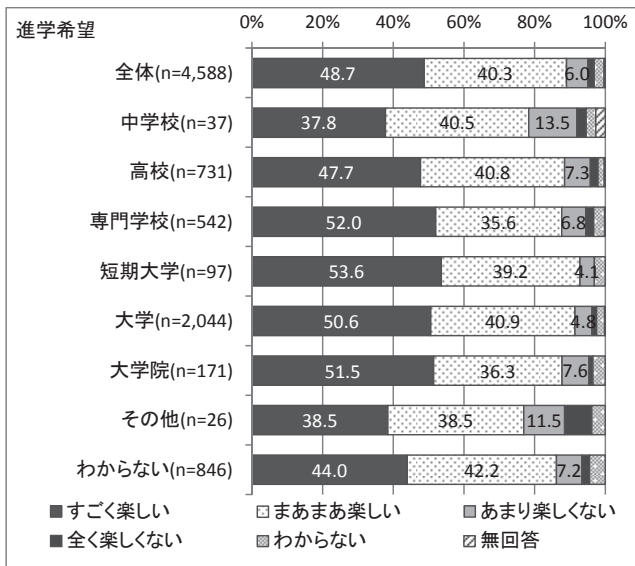
	全体	小5	中2
すごく楽しい	48.7	52.8	44.5
まあまあ楽しい	40.3	37.4	43.3
あまり楽しくない	6.0	5.8	6.3
全く楽しくない	1.7	1.2	2.3
わからない	2.9	2.4	3.3
無回答	0.3	0.4	0.2
計	100.0	100.0	100.0



	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
すごく楽しい	48.9	44.8	49.0	49.9
まあまあ楽しい	40.4	39.9	41.2	40.0
あまり楽しくない	6.1	8.4	5.7	5.7
全く楽しくない	1.7	3.2	1.4	1.4
わからない	2.6	3.2	2.5	2.6
無回答	0.3	0.4	0.2	0.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0

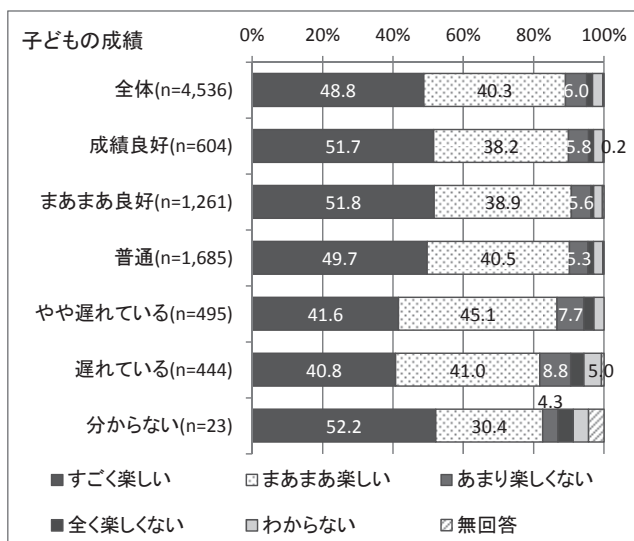
◆「進学希望（子ども回答）」と「学校は楽しいか（子ども回答）」との相関関係

- ・進学希望別では、「専門学校」「短期大学」「大学」「大学院」を希望する子どもは、「すごく楽しい」が5割を超えている。

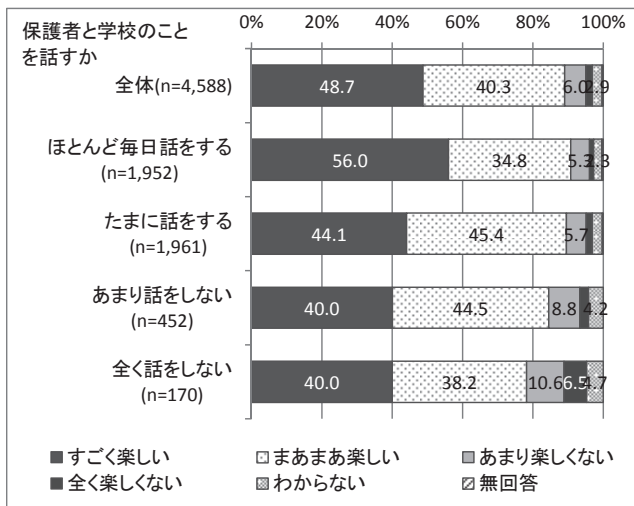


進学希望	全体	中学校	高校	専門学校	短期大学	大学	大学院	その他	わからない
すごく楽しい	48.7	37.8	47.7	52.0	53.6	50.6	51.5	38.5	44.0
まあまあ楽しい	40.3	40.5	40.8	35.6	39.2	40.9	36.3	38.5	42.2
あまり楽しくない	6.0	13.5	7.3	6.8	4.1	4.8	7.6	11.5	7.2
全く楽しくない	1.7	2.7	2.2	2.2	0.0	1.3	1.2	7.7	2.1
わからない	2.9	2.7	1.8	3.1	3.1	2.3	3.5	3.8	4.5
無回答	0.3	2.7	0.3	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

- ◆ 「子どもの成績（保護者回答）」と「学校は楽しいか（子ども回答）」との相関関係
 - ・成績別では、「やや遅れている」「遅れている」で「すごく楽しい」がほぼ4割にとどまり、他との差がみられる。



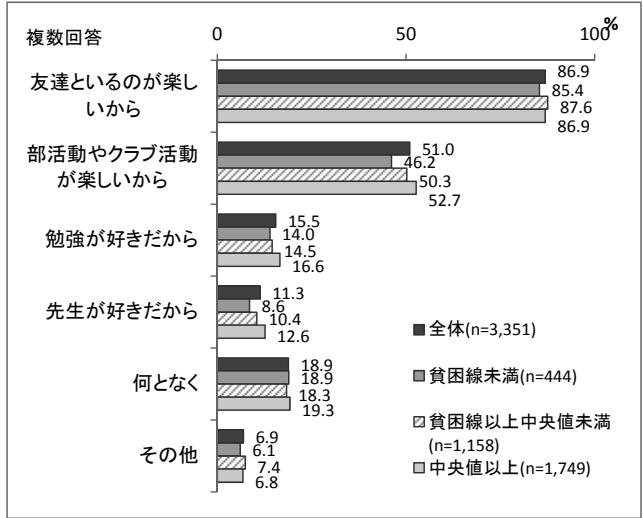
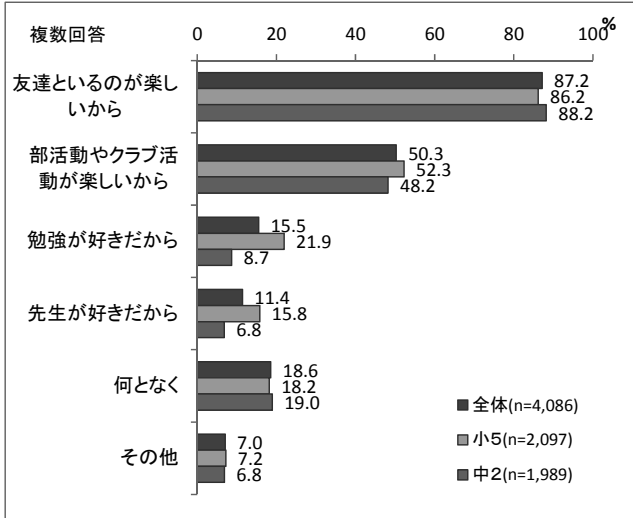
- ◆ 「保護者と学校の話をするか（子ども回答）」と「学校が楽しいか（子ども回答）」との相関関係
 - ・保護者と学校のことを話すかどうかでみると、「ほとんど毎日話をする」と回答した子どもは、「すごく楽しい」が5割強と多く、他の子どもたちと差がみられる。「全く話をしない」子どもは学校が「あまり楽しくない」が1割と他よりもやや多い。



学校のことを話すか	全体	ほとんど毎日話をする	たまに話をする	あまり話をしない	全く話をしない
すごく楽しい	48.7	56.0	44.1	40.0	40.0
まあまあ楽しい	40.3	34.8	45.4	44.5	38.2
あまり楽しくない	6.0	5.3	5.7	8.8	10.6
全く楽しくない	1.7	1.2	1.7	2.4	6.5
わからない	2.9	2.3	2.9	4.2	4.7
無回答	0.3	0.4	0.3	0.0	0.0
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

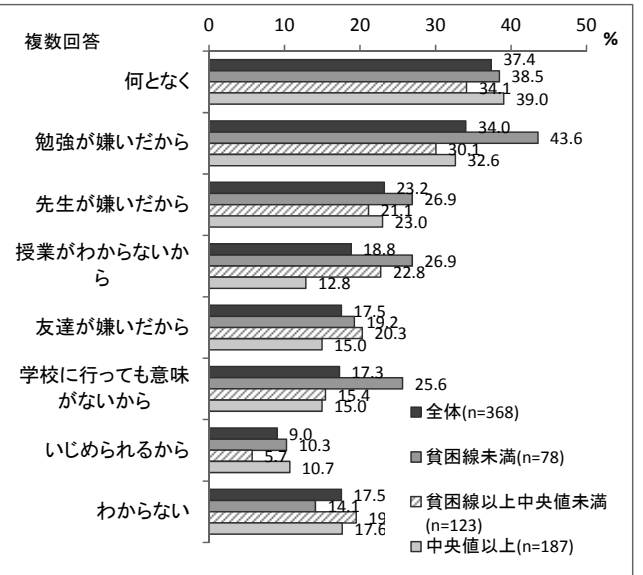
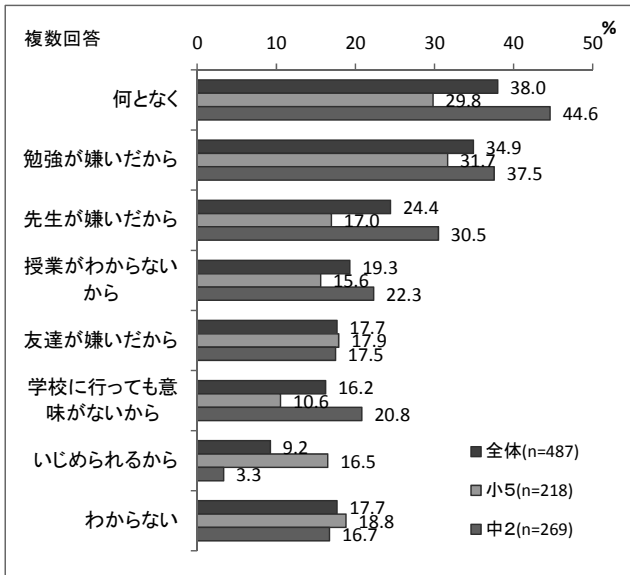
②楽しい理由

- ・全体では「友達といるのが楽しいから」が9割近くと最も多く、次いで「部活動やクラブ活動が楽しいから」がほぼ5割である。この2つは学年による差は小さいが、「勉強が好きだから」「先生が好きだから」は中2の方が少なく、学年による差がみられる。
- ・所得分類別では、所得が低くなると「部活動やクラブ活動が楽しいから」「先生が好きだから」がやや少なくなる傾向がみられる。



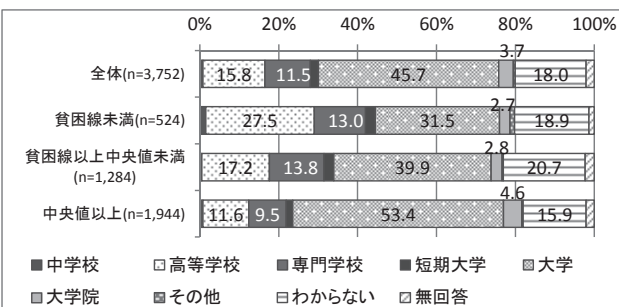
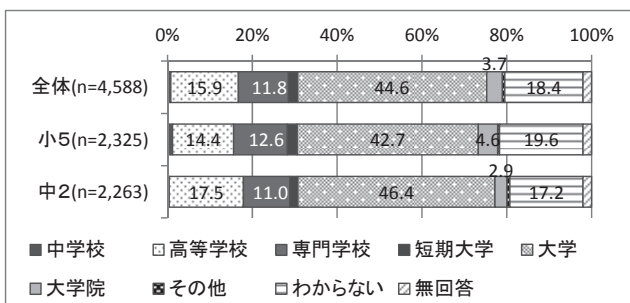
③楽しくない理由

- ・全体では「何となく」「勉強が嫌いだから」が3割を超えているが、学年によって差がある。中2は「何となく」「先生が嫌いだから」「授業がわからない」「学校に行っても意味がない」の割合が小5に比べて多い。「いじめられるから」は小5の割合が高い。
- ・所得分類別では、貧困線未満の世帯で「勉強が嫌いだから」が4割を超えており、「授業がわからないから」「学校に行っても意味がないから」は所得が低いほど多い傾向にある。



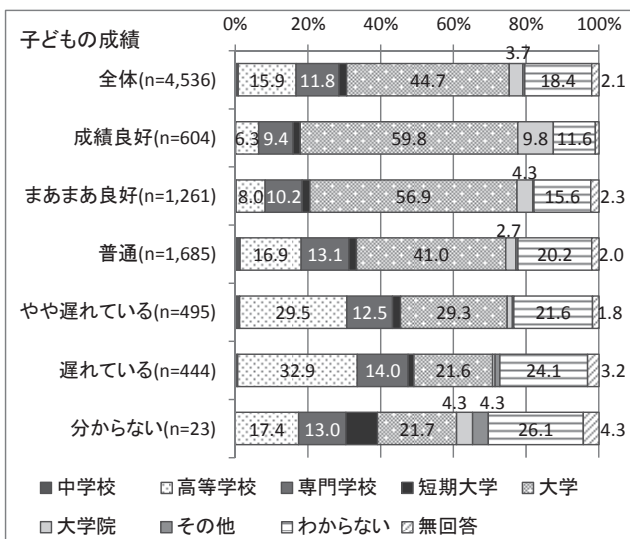
(4) 進学希望 (将来どの学校まで進学したいか)

- ・全体では「大学」が4割強を占める。学年による差は小さい。
- ・所得分類別では、所得が低いほど「大学」への進学希望は少ない傾向がみられる。



◆ 「子どもの成績 (保護者回答)」と「進学希望 (子ども回答)」との相関関係

- ・「成績良好」「まあまあ良好」では「大学」への進学希望が6割近くを占め、他との差が大きい。成績が良いほど「大学」への進学希望が高い傾向がみられる。



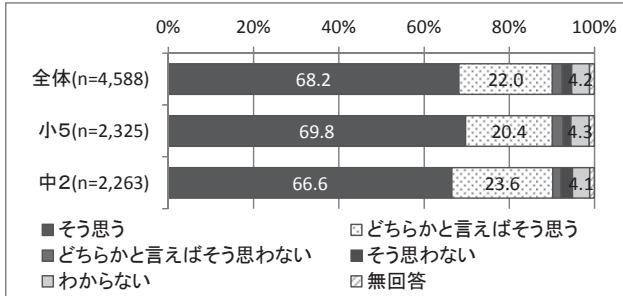
	全体	成績良好	まあまあ良好	普通	やや遅れている	遅れている	分からない
中学校	0.8	0.2	0.2	1.3	1.2	0.7	0.0
高等学校	15.9	6.3	8.0	16.9	29.5	32.9	17.4
専門学校	11.8	9.4	10.2	13.1	12.5	14.0	13.0
短期大学	2.1	2.0	2.1	2.1	2.2	1.6	8.7
大学	44.7	59.8	56.9	41.0	29.3	21.6	21.7
大学院	3.7	9.8	4.3	2.7	1.4	0.7	4.3
その他	0.5	0.0	0.3	0.7	0.4	1.4	4.3
分からない	18.4	11.6	15.6	20.2	21.6	24.1	26.1
無回答	2.1	1.0	2.3	2.0	1.8	3.2	4.3
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

5. 将来への希望や悩み事など

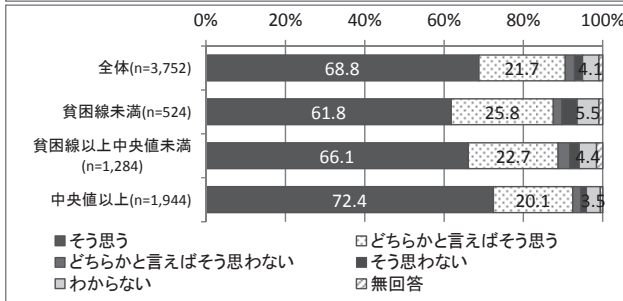
(1) 将来の夢・希望など

① 将来のためにも、今、勉強やスポーツ・特技を頑張りたいと思うか

- ・全体では「そう思う」が7割近くを占め、「どちらかと言えばそう思う」と合わせるとほぼ9割を占める。学年による差は小さい。
- ・所得分類別では、所得が低い方が「そう思う」割合が少ない傾向がみられる。



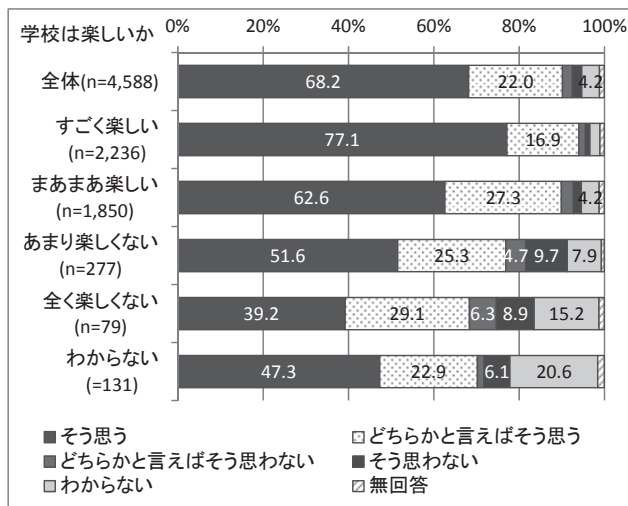
	全体	小5	中2
そう思う	68.2	69.8	66.6
どちらかと言えばそう思う	22.0	20.4	23.6
どちらかと言えばそう思わない	2.3	2.6	2.0
そう思わない	2.2	1.8	2.6
わからない	4.2	4.3	4.1
無回答	1.1	1.2	1.1
計	100.0	100.0	100.0



	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
そう思う	68.8	61.8	66.1	72.4
どちらかと言えばそう思う	21.7	25.8	22.7	20.1
どちらかと言えばそう思わない	2.3	2.1	2.9	2.0
そう思わない	2.1	3.8	2.4	1.4
わからない	4.1	5.5	4.4	3.5
無回答	1.0	1.0	1.6	0.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0

◆ 「学校は楽しいか (子ども回答)」 と 「将来のため今頑張りたいか (子ども回答)」 との相関関係

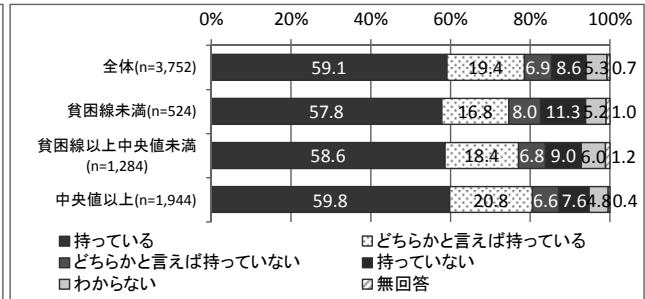
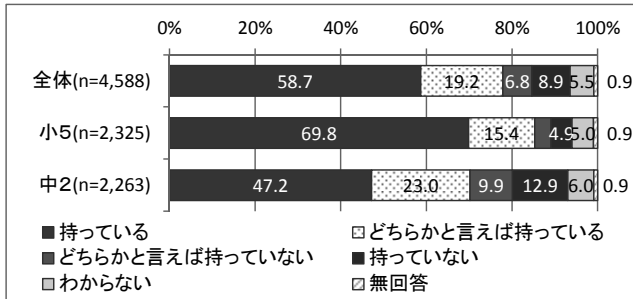
- ・学校は楽しいかどうか別にみると、「すごく楽しい」は「そう思う」が8割近くを占め、楽しいと感じているほど「そう思う」割合が高い傾向がみられる。



学校は楽しいか	全体	すごく楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	全く楽しくない	わからない
そう思う	68.2	77.1	62.6	51.6	39.2	47.3
どちらかと言えばそう思う	22.0	16.9	27.3	25.3	29.1	22.9
どちらかと言えばそう思わない	2.3	1.5	2.8	4.7	6.3	1.5
そう思わない	2.2	1.1	1.9	9.7	8.9	6.1
わからない	4.2	2.3	4.2	7.9	15.2	20.6
無回答	1.1	1.0	1.2	0.7	1.3	1.5
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

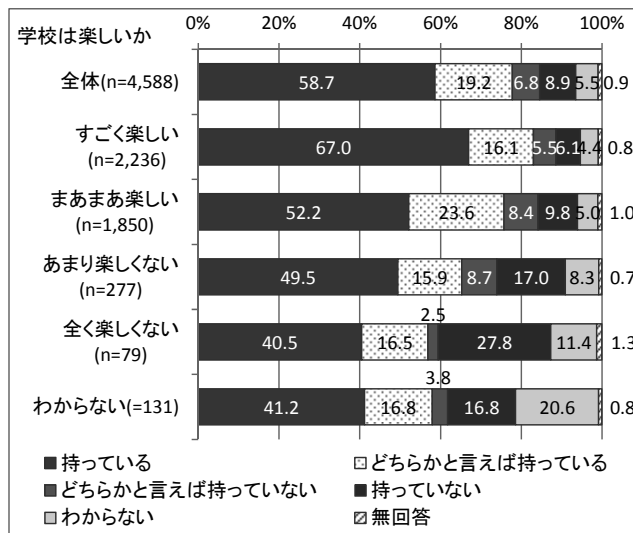
②将来の夢・希望や目標を持っているか

- ・全体では「持っている」が6割弱であるが、学年による差がみられる。中2では「持っている」は5割弱にとどまり、「持っていない」が1割を超えている。
- ・所得分類別では、「持っている」はあまり差はないが、貧困線未満の世帯の子どもは「どちらかと言えば持っていない」「持っていない」を合わせると2割弱となり、差がみられる。



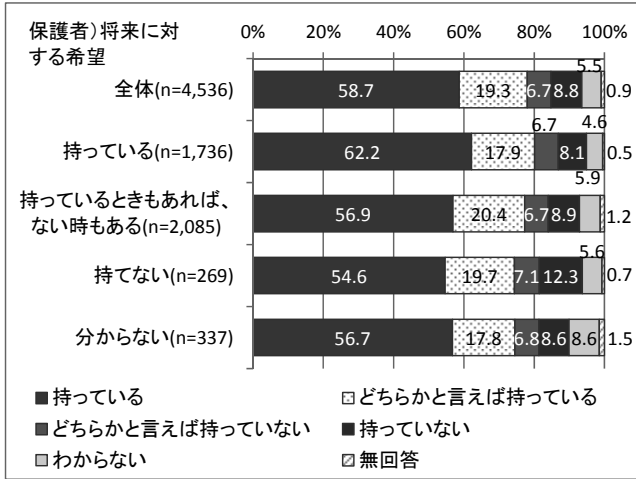
◆「学校は楽しいか（子ども回答）」と「夢や希望を持っているか（子ども回答）」との相関関係

- ・学校は楽しいかどうか別にみると、「すごく楽しい」と感じている子どもは希望や目標を「持っている」が7割近くを占め、楽しいと感じているほど「持っている」割合が高い傾向がみられる。



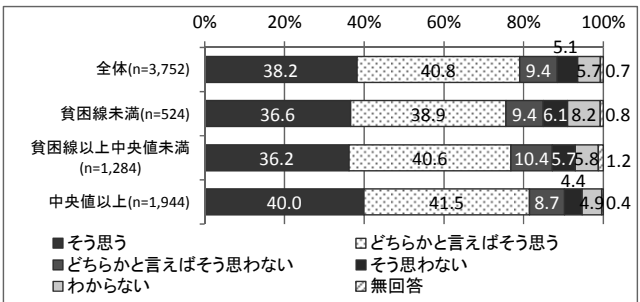
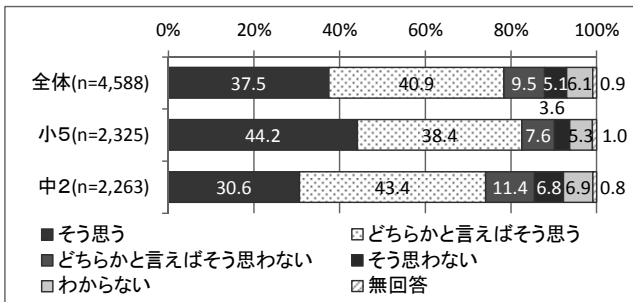
◆「夢や希望を持っているか（保護者回答）」と「夢や希望を持っているか（子ども回答）」との相関関係

- ・保護者の自分の将来に対する希望別にみると、「持っている」世帯の子どもの方が、子ども自身も「将来の夢や希望を持っている」割合がやや多い。あまり大きな差はみられない。



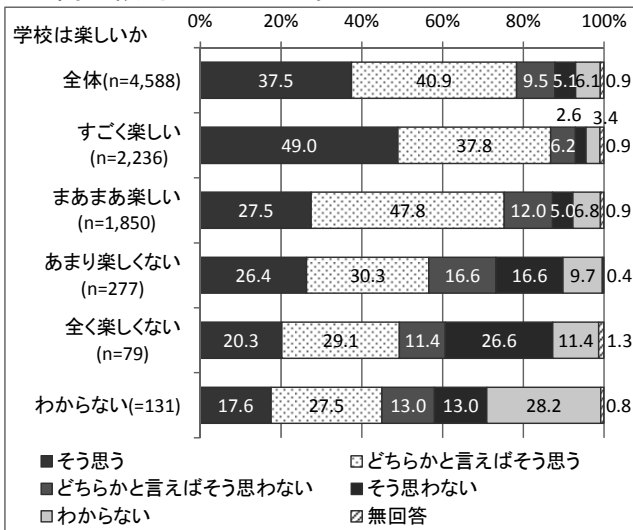
③難しいことでも失敗を恐れず何かに挑戦したいか

- ・全体では「そう思う」が4割弱であるが、学年による差がみられ、中2ではほぼ3割にとどまる。
- ・所得分類別では、中央値以上の世帯の子どもは「そう思う」がやや多い。



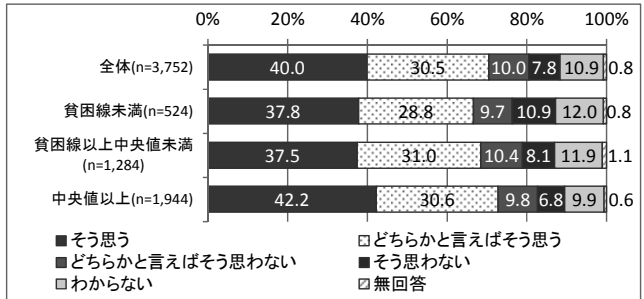
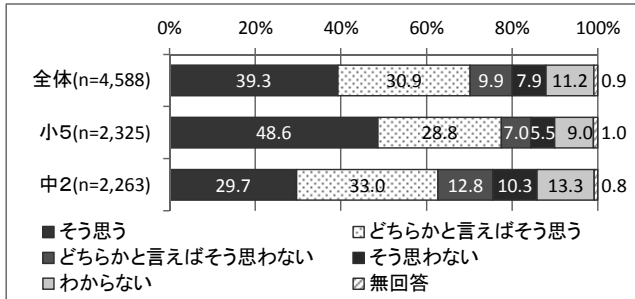
◆「学校は楽しいか（子ども回答）」と「失敗を恐れず挑戦したいか（子ども回答）」との相関関係

- ・学校は楽しいかどうか別にみると、「すごく楽しい」と感じている子どもは、「そう思う（失敗を恐れず挑戦したい）」がほぼ5割を占め、楽しいと感じているほど「そう思う」割合が高い傾向がみられる。



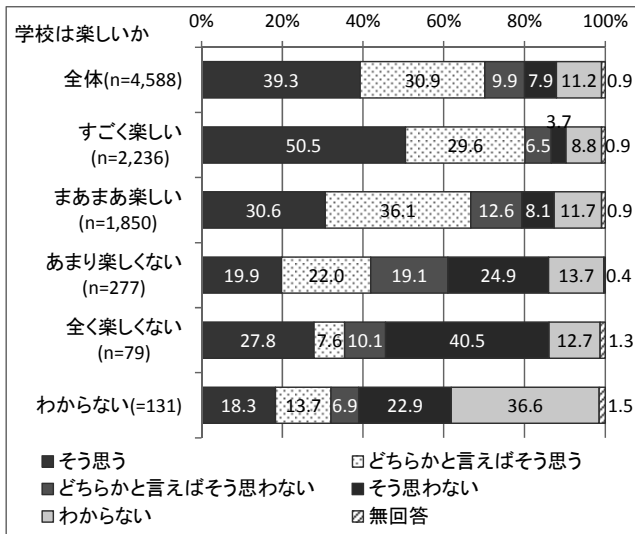
④自分には良いところがあると思うか

- ・全体では「そう思う」が4割弱であるが、学年による差がみられる。小5は「そう思う」が5割弱であるが中2では3割にとどまる。
- ・所得分類別では、中央線以上の世帯の子どもは「そう思う」がやや多い。



◆「学校は楽しいか（子ども回答）」と「自分には良いところがあると思うか（子ども回答）」との相関関係

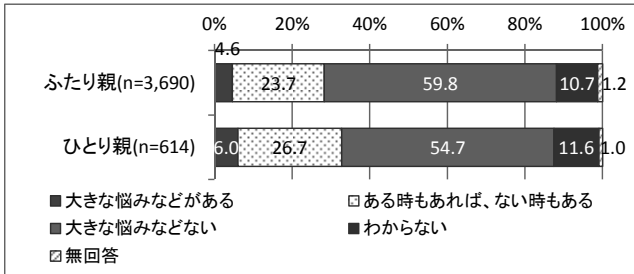
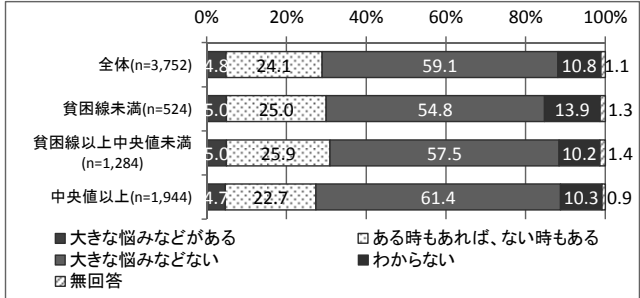
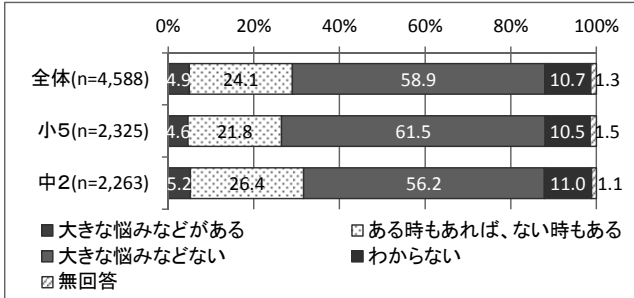
- ・学校は楽しいかどうか別にみると、「すごく楽しい」と感じている子どもは「そう思う」がほぼ5割を占める。「あまり楽しくない」と感じている子どもは「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」の合計が4割を超えている。「全く楽しくない」と感じている子どもは「そう思わない」が4割を超えている。



(2) 悩みや相談について

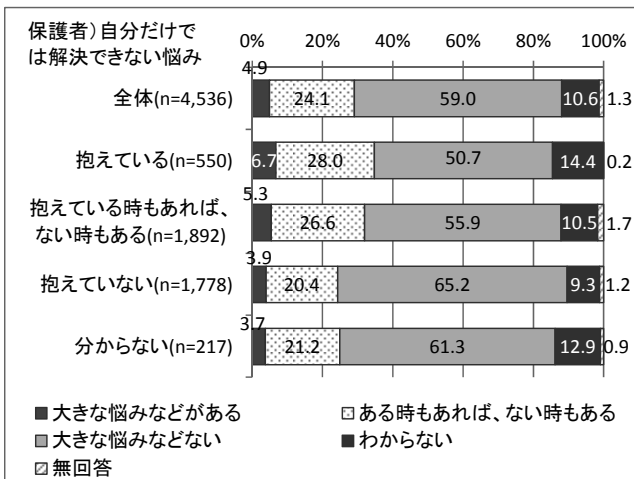
①自分だけでは解決することが難しい大きな悩みはあるか

- ・全体では「大きな悩みなどがある」が約5%とわずかながらも回答があった。「大きな悩みなどはない」は全体では6割弱であるが、中2はやや少ない。
- ・家族構成別では、「大きな悩みなどない」はひとり親世帯の方がやや少ない。
- ・所得分類別では、中央値以上の世帯の子どもは「大きな悩みなどない」がやや多い。



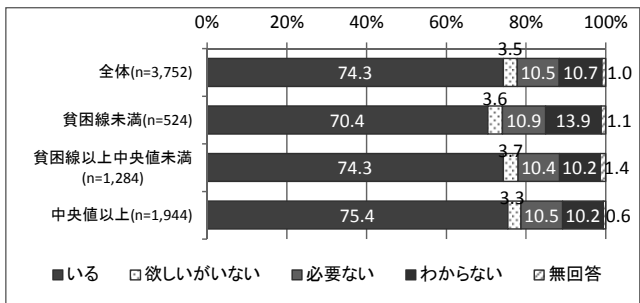
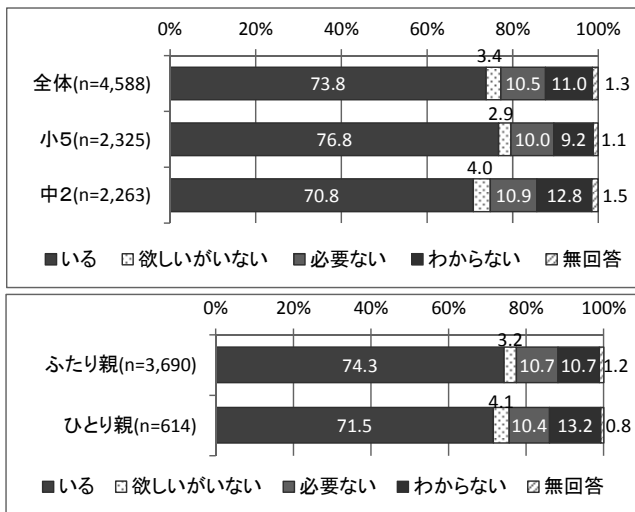
◆「自分だけでは解決できない悩みの有無（保護者回答）」と「自分だけでは解決できない悩みの有無（子ども回答）」との相関関係

- ・保護者自身の悩みの有無別にみると、保護者が「大きな悩みを抱えている」世帯の子どもの方が、子ども自身も悩みを「抱えている」割合がやや高い傾向がみられる。



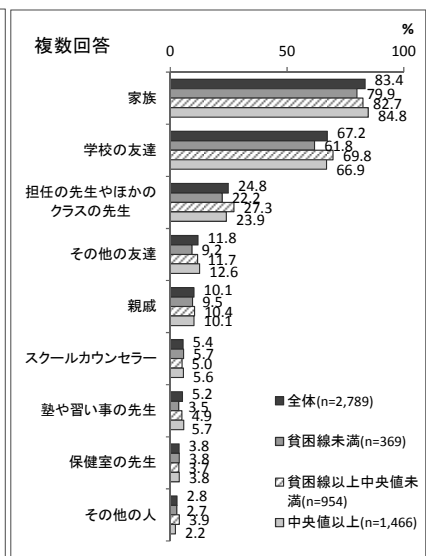
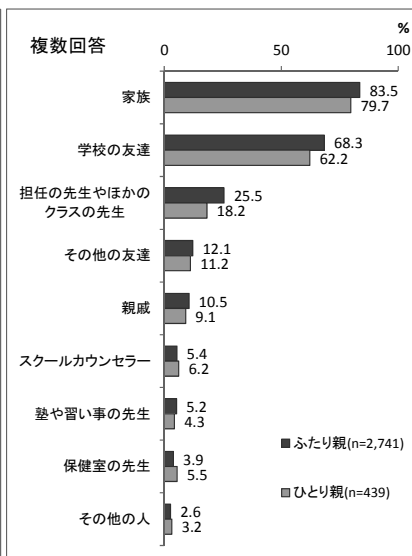
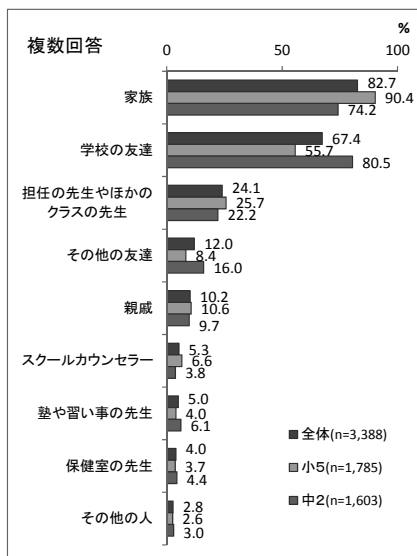
②悩みなどを相談できる人はいるか

- ・全体では「いる」が7割を超えている。学年別には差がみられ、中2の方が「いる」が少
ない。
- ・家族構成別では、ひとり親世帯の子どもは「いる」がやや少ない。
- ・所得分類別では、貧困線未満の世帯で「いる」がやや少ない。

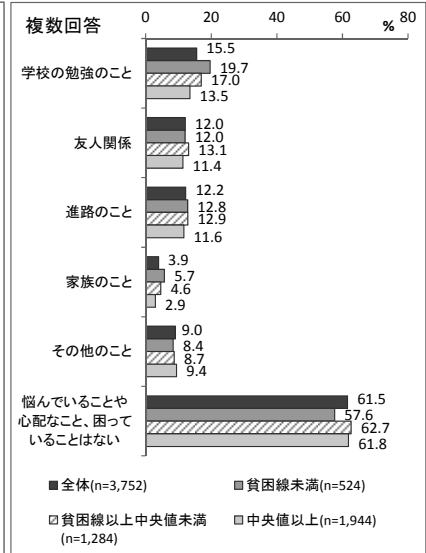
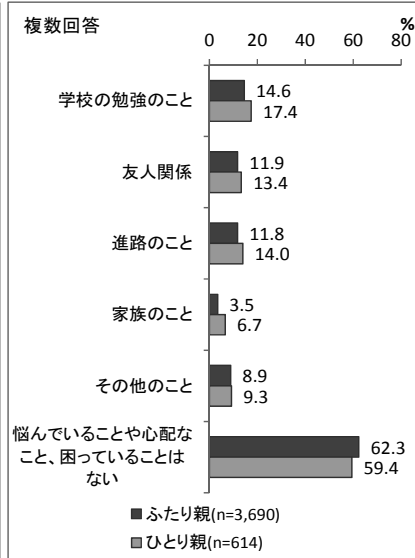
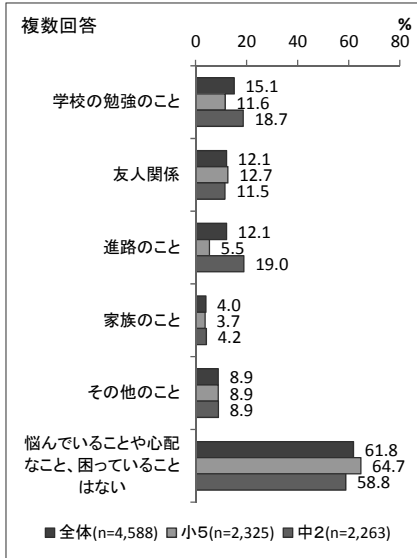


③相談に乗ってくれる人は誰か

- ・全体では「家族」が8割を超え、次いで「学校の友達」が6割を超えている。学年による
差がみられ、小5では「家族」「学校の友達」の順であるが、中2では「学校の友達」が「家
族」をやや上回る。
- ・家族構成別では、ふたり親、ひとり親とも「家族」が8割前後を占め、「学校の友達」が6
割超で続いている。
- ・所得分類別でも、所得にかかわらず「家族」が8割前後を占め、「学校の友達」が6割超で
続いている。



- ④今悩んでいることや心配なこと、困っていること、誰かに相談したいと思っていること
- ・全体では「悩んでいることや心配なこと、困っていることはない」が6割を超えている。
「進路のこと」は小5と中2では差が大きい。
 - ・家族構成別では、ふたり親、ひとり親との差はあまりみられない。
 - ・所得分類別では、所得が低くなるほど「学校の勉強のこと」が多くなっている。



第三章 要支援者アンケート調査～保護者に対する調査結果～

要支援者へのアンケート調査のうち、保護者の回答（n=934）を集計し、分析した。

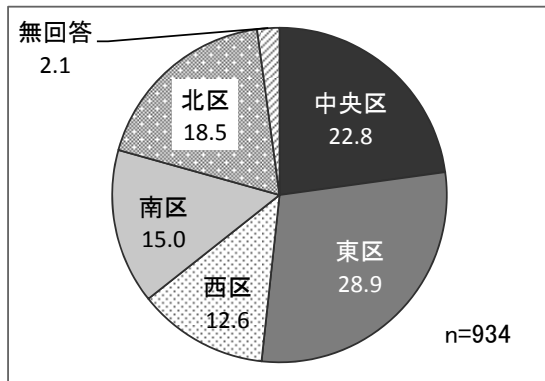
【要支援者調査対象世帯】

- ・ 中学1年生・中学3年生の就学援助制度利用世帯
- ・ 12～18歳の子どもがいる児童扶養手当受給世帯
- ・ 12～18歳の子どもがいる生活保護受給世帯

1. 属性

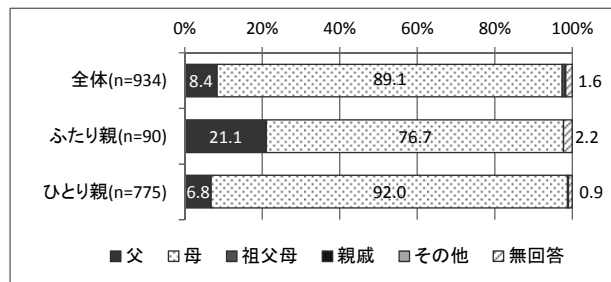
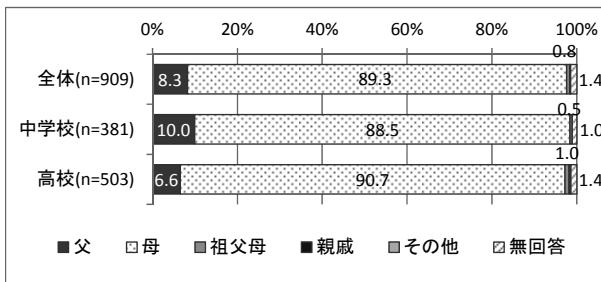
(1) 居住区

・「東区」が3割弱で最も多く、「中央区」「北区」「南区」「西区」の順である。



(2) 回答者の続柄

- ・ 回答者と子どもとの続柄は、全体では「母」が9割近くを占め、最も多い。次いで「父」が1割弱程度である。「祖父母」「親戚」「その他」の計が約1%である。
- ・ 中学生の世帯では「父」が1割である。ふたり親世帯では「父」が2割を超える。



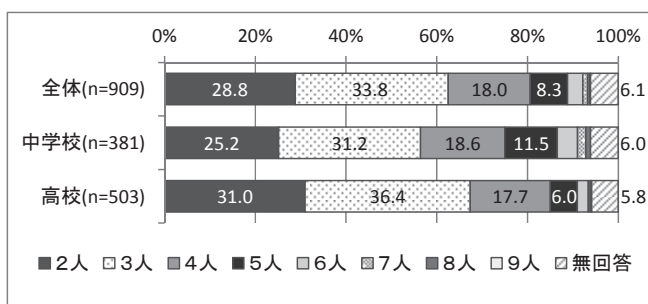
【学校別分類について】

* 保護者の回答総数（934）のうち、子どもの回答票が得られた保護者票（909）が全体の母数となる。働いている子どもや無回答を含む。以下同じ。

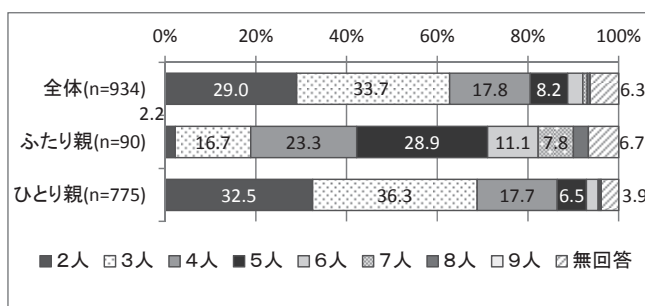
(3) 世帯構成

①世帯人数[単身赴任中や一時的に別居の方も含む]

- ・全体では世帯人数は3人世帯が3割強となっており、次いで2人世帯が多い。
- ・ふたり親世帯では、5人世帯が最も多く7人以上の世帯も1割を超える。ひとり親世帯では3人世帯が最も多く、次いで2人世帯が多い。



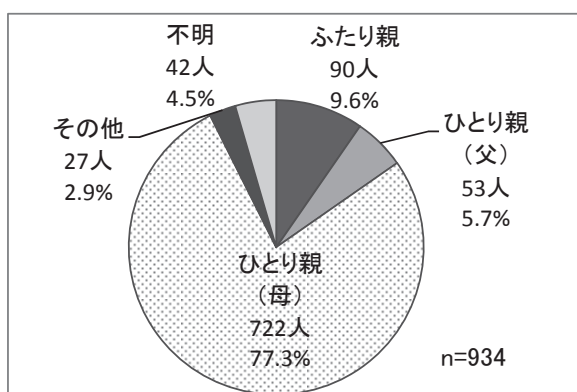
	全体	中学校	高校
2人	28.8	25.2	31.0
3人	33.8	31.2	36.4
4人	18.0	18.6	17.7
5人	8.3	11.5	6.0
6人	3.4	4.5	2.4
7人	1.0	1.8	0.4
8人	0.6	1.0	0.2
9人	0.1	0.0	0.2
10人以上	0.0	0.0	0.0
無回答	6.1	6.0	5.8
総計	100.0	100.0	100.0



	全体	ふたり親	ひとり親
2人	29.0	2.2	32.5
3人	33.7	16.7	36.3
4人	17.8	23.3	17.7
5人	8.2	28.9	6.5
6人	3.3	11.1	2.6
7人	1.0	7.8	0.3
8人	0.5	3.3	0.3
9人	0.1	0.0	0.1
10人以上	0.0	0.0	0.0
無回答	6.3	6.7	3.9
総計	100.0	100.0	100.0

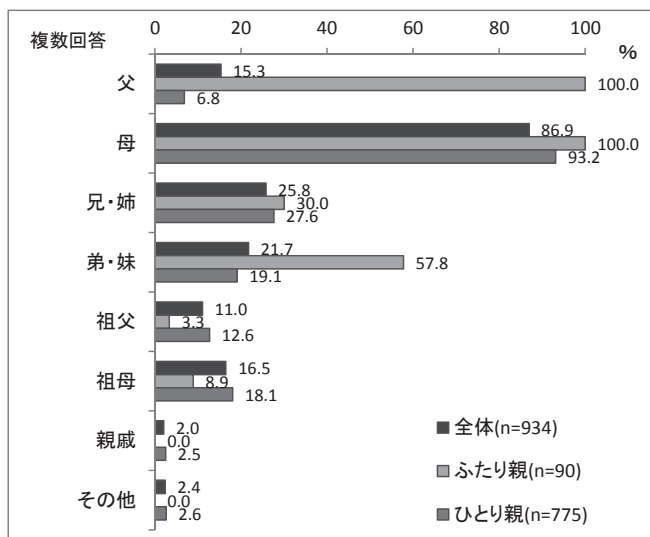
②家族構成(ひとり親・ふたり親の別)

- ・回答者のうち、「ふたり親」は1割弱にとどまる。「ひとり親(母)」が8割近くを占めて最も多く、「ひとり親(父)」と合わせると8割を超える。



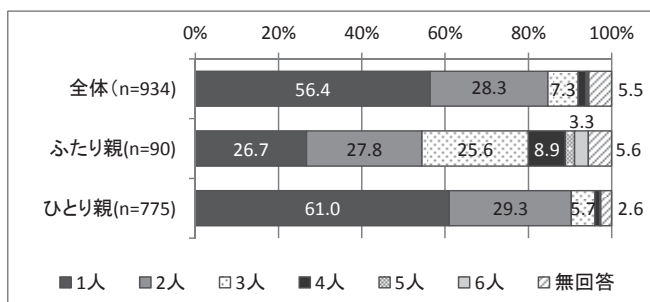
③同居家族

- ・同居している家族は、ふたり親世帯では「祖父」「祖母」は1割に届かないが、ひとり親世帯では1割を上回り、「祖母」との同居は2割に近い。



④同居する18歳未満の子どもの数

- ・全体では「1人」が半数を超えて最も多く、次いで「2人」が3割弱である。
- ・ふたり親世帯では「1人」「2人」「3人」がほぼ同程度である。ひとり親世帯では「1人」が6割を超え、「2人」がほぼ3割となり、両者で9割に達する。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では大きく異なる。

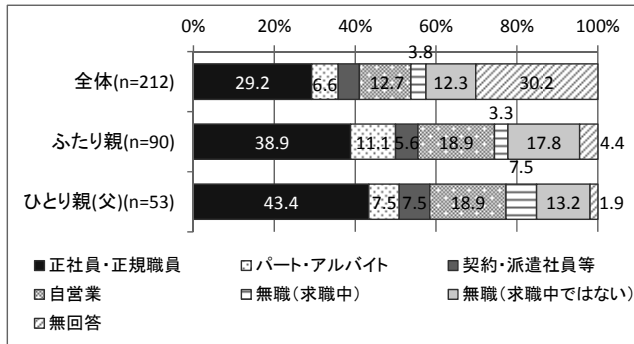


	全体	ふたり親	ひとり親
1人	56.4	26.7	61.0
2人	28.3	27.8	29.3
3人	7.3	25.6	5.7
4人	1.8	8.9	1.2
5人	0.3	2.2	0.1
6人	0.4	3.3	0.1
無回答	5.5	5.6	2.6
計	100.0	100.0	100.0

(4) 父母の状況

①就業状況（父親）

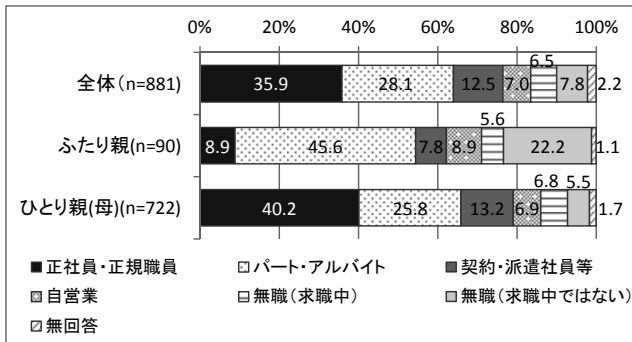
- ・父親の就業状況を見ると、全体では「正社員・正規職員」が3割弱である。「無回答」が3割を超えている。
- ・ふたり親世帯とひとり親（父）世帯ではやや差がみられる。ふたり親世帯では「正社員・正規職員」が4割弱にとどまり、次いで「自営業」が2割近い。ひとり親（父）世帯では「正社員・正規職員」が4割を超え、「自営業」は2割近い。



* 図の「全体」はひとり親（母）を除く

②就業状況（母親）

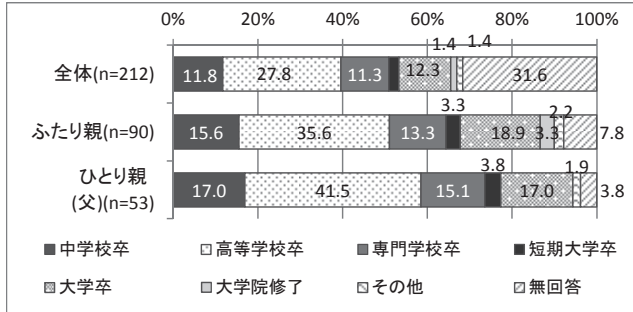
- ・母親の就業状況を見ると、全体では「正社員・正規職員」が3割を超え、最も多い。
- ・ふたり親世帯とひとり親（母）世帯では大きく異なる。ふたり親世帯では「正社員・正規職員」は1割に満たず、「パート・アルバイト」が4割強で最も多い。ひとり親（母）世帯では「正社員・正規職員」が4割を超え、「パート・アルバイト」は2割強にとどまる。



* 図の「全体」はひとり親（父）を除く

③最終学歴（父親）

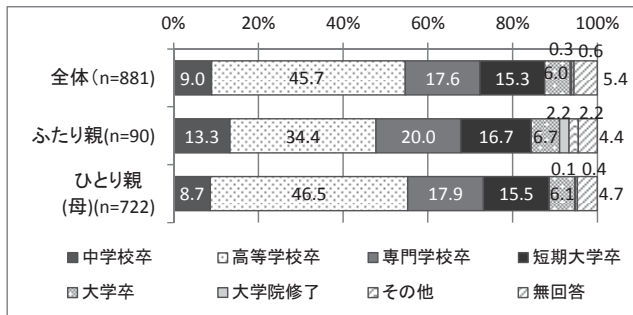
- ・父親の最終学歴をみると、全体では「高校卒」が3割弱が多い。「無回答」が3割を超える。ひとり親（父）世帯は「高校卒」がやや多い。



* 図の「全体」はひとり親（母）を除く

④最終学歴（母親）

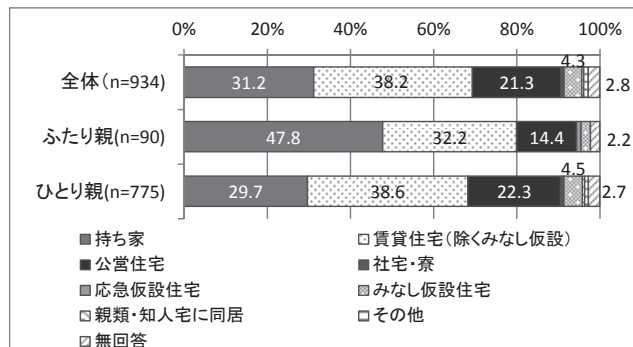
- ・母親の最終学歴をみると、全体では「高校卒」が4割を超えて最も多い。次いで「専門学校卒」「短期大学卒」が続いている。ひとり親（母）世帯では「中学卒」が少なく、「高校卒」が多い。



* 図の「全体」はひとり親（父）を除く

(5) 住居

- ・全体では「賃貸住宅（除くみなし仮設）」が4割弱で最も多く、次いで「持ち家」が3割強である。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では「持ち家」「公営住宅」が大きく異なる。ひとり親世帯では「持ち家」はほぼ3割にとどまり、「公営住宅」が2割を超える。

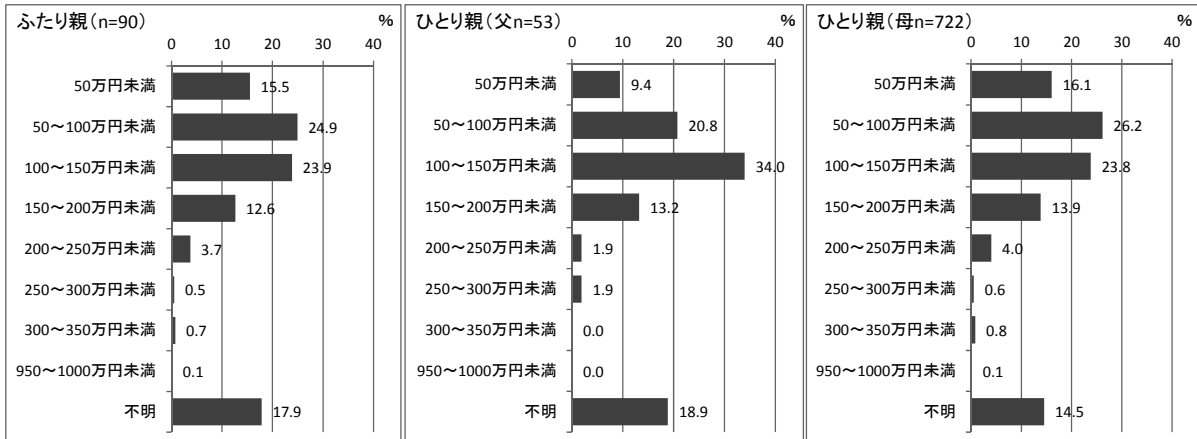


	全体	ふたり親	ひとり親
持ち家	31.2	47.8	29.7
賃貸住宅(除くみなし仮設)	38.2	32.2	38.6
公営住宅	21.3	14.4	22.3
社宅・寮	0.5	0.0	0.6
応急仮設住宅	0.2	1.1	0.1
みなし仮設住宅	4.3	2.2	4.5
親類・知人宅に同居	0.4	0.0	0.5
その他	1.1	0.0	0.9
無回答	2.8	2.2	2.7
計	100.0	100.0	100.0

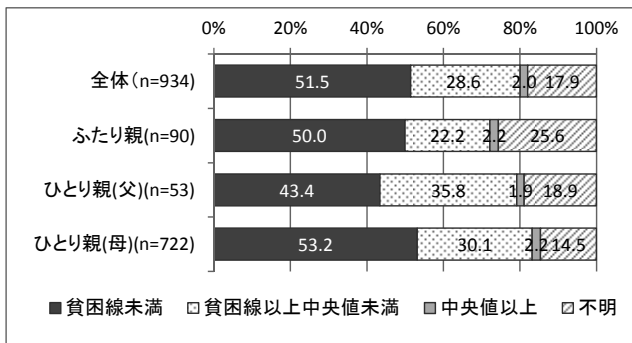
(6) 等価可処分所得

* 等価可処分所得：世帯全員を合わせた所得の合計（収入から税や社会保険料を支払った後の額）を世帯人員で調整するため、世帯人員の平方根で除したもの

- ・ひとり親（父）世帯では「100 万以上～150 万円未満」が最も多い。ふたり親世帯とひとり親（母）世帯では「50 万以上～100 万円未満」が最も多く、等価可処分所得が低い傾向がみられる。



- ・子どもを持つ世帯へのアンケート調査結果から得られた貧困線（119 万円）及び所得中央値（238 万円）を基準にみると、全体では「貧困線未満」が半数を超えている。家族構成別では、ふたり親世帯とひとり親（母）世帯で貧困線未満の割合が5割以上と半数を超えている。

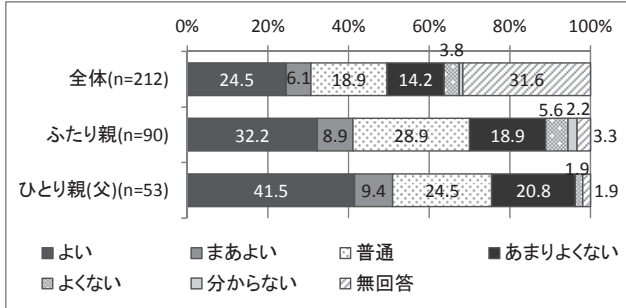


2. 子どもとの生活

(1) 健康状態

①健康状態（父親）

- ・全体では「よい」は2割強である。ひとり親（父）世帯の方が「よい」が多く、差がみられる。

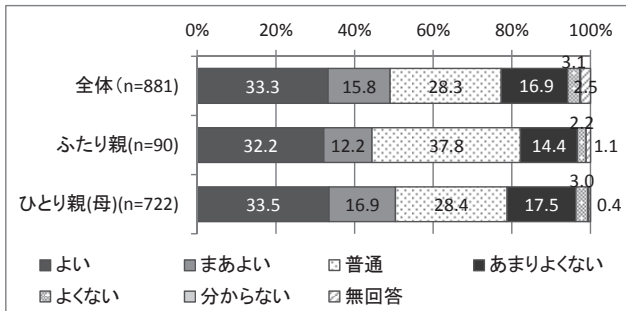


	全体	ふたり親	ひとり親(父)
よい	24.5	32.2	41.5
まあよい	6.1	8.9	9.4
普通	18.9	28.9	24.5
あまりよくない	14.2	18.9	20.8
よくない	3.8	5.6	1.9
分からない	0.9	2.2	0.0
無回答	31.6	3.3	1.9
総計	100.0	100.0	100.0

* 図の「全体」はひとり親（母）を除く

②健康状態（母親）

- ・全体では「よい」はほぼ1/3である。ふたり親世帯とひとり親（母）世帯では、「よい」の差は少ないが、ひとり親（母）世帯では「あまりよくない」がやや多い。

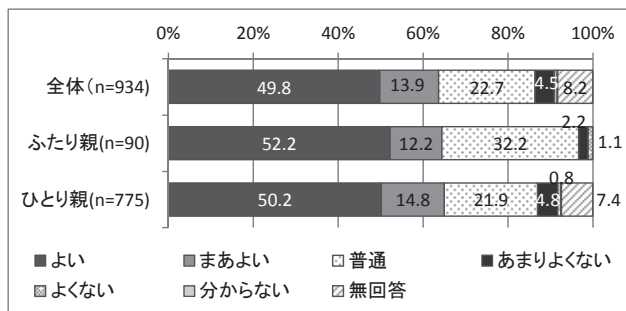


	全体	ふたり親	ひとり親(母)
よい	33.3	32.2	33.5
まあよい	15.8	12.2	16.9
普通	28.3	37.8	28.4
あまりよくない	16.9	14.4	17.5
よくない	3.1	2.2	3.0
分からない	0.2	0.0	0.3
無回答	2.5	1.1	0.4
総計	100.0	100.0	100.0

* 図の「全体」はひとり親（父）を除く

③健康状態（子ども）

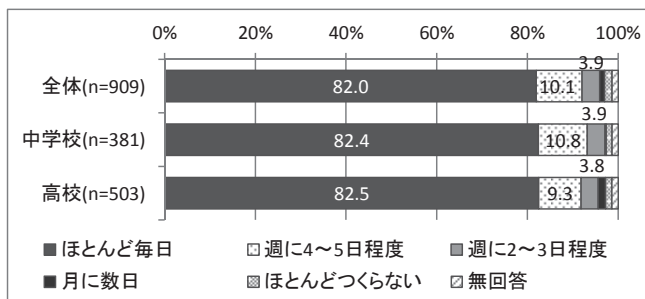
- ・全体では「よい」がほぼ半数である。「よい」「まあよい」の計は6割強である。
- ・ひとり親世帯では「あまりよくない」が約5%の回答があった。



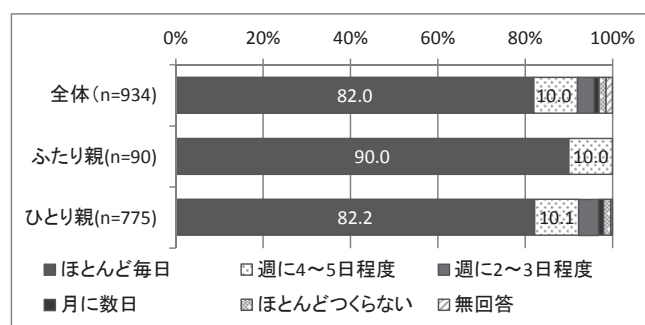
	全体	ふたり親	ひとり親
よい	49.8	52.2	50.2
まあよい	13.9	12.2	14.8
普通	22.7	32.2	21.9
あまりよくない	4.5	2.2	4.8
よくない	0.7	1.1	0.8
分からない	0.1	0.0	0.1
無回答	8.2	0.0	7.4
総計	100.0	100.0	100.0

(2) 保護者が食事を作る頻度[保護者が週に食事をどのくらい作るか]

- ・全体では8割強は「ほとんど毎日」食事を作っている。
- ・子どもの学年による差は小さい。
- ・ふたり親世帯では「ほとんど毎日」「週に4~5日程度」を合わせると、100%に達している。



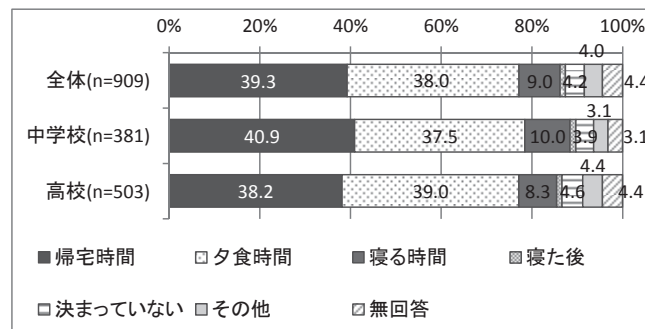
	全体	中学校	高校
ほとんど毎日	82.0	82.4	82.5
週に4~5日程度	10.1	10.8	9.3
週に2~3日程度	3.9	3.9	3.8
月に数日	1.1	0.3	1.6
ほとんどつづらない	1.7	1.3	1.4
無回答	1.3	1.3	1.4
総計	100.0	100.0	100.0



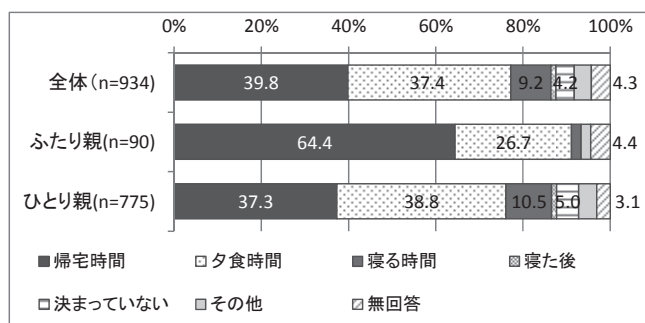
	全体	ふたり親	ひとり親
ほとんど毎日	82.0	90.0	82.2
週に4~5日程度	10.0	10.0	10.1
週に2~3日程度	3.9	0.0	4.5
月に数回	1.1	0.0	1.2
ほとんどつづらない	1.6	0.0	1.7
無回答	1.5	0.0	0.4
計	100.0	100.0	100.0

(3) 保護者が家にいる時間帯[保護者には祖父母や親戚を含む]

- ・全体では「子どもの帰宅時間にはいる」と「夕食時間にはいる」がどちらも4割弱であった。
- ・子どもの学年による差は小さい。
- ・ふたり親世帯では「子どもの帰宅時間にはいる」が6割を超え、ひとり親世帯とは大きく異なる。ひとり親世帯では「子どもが寝る時間にはいる」が、ほぼ1割であった。



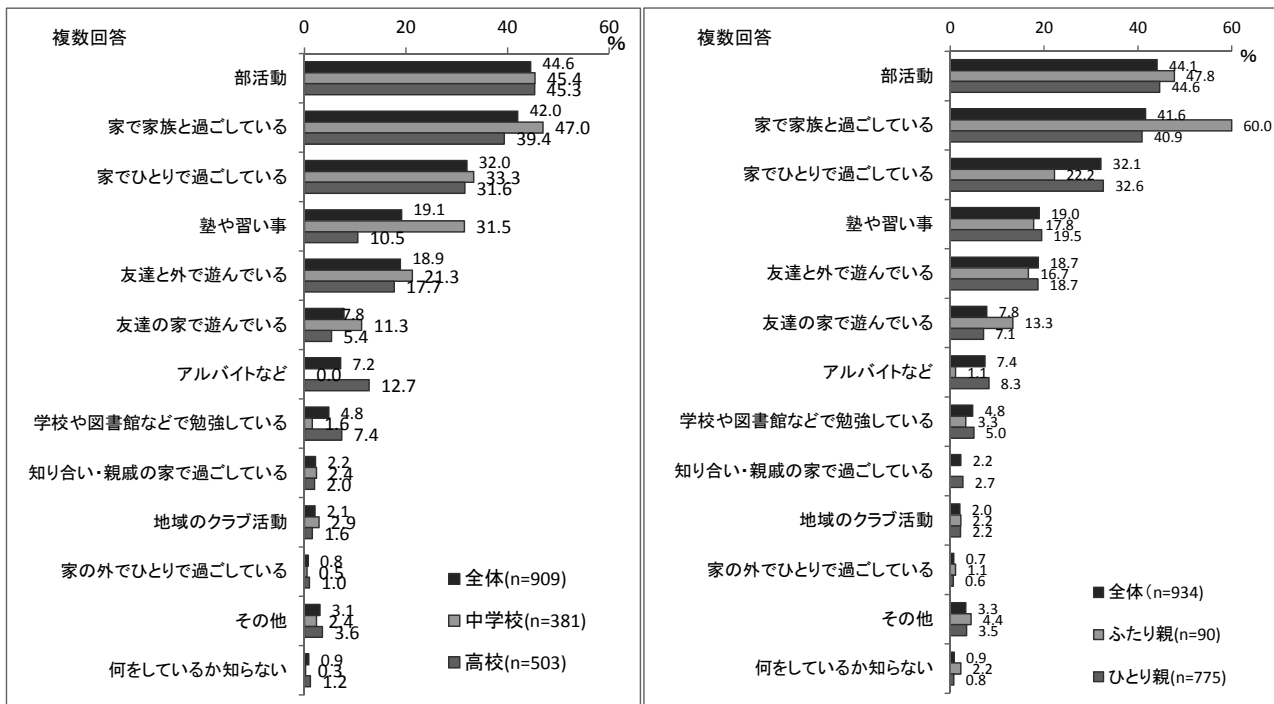
	全体	中学校	高校
帰宅時間	39.3	40.9	38.2
夕食時間	38.0	37.5	39.0
寝る時間	9.0	10.0	8.3
寝た後	4.2	3.9	4.6
決まっていない	4.2	3.9	4.6
その他	4.0	3.1	4.4
無回答	4.4	3.1	4.4
計	100.0	100.0	100.0



	全体	ふたり親	ひとり親
帰宅時間	39.3	64.4	37.3
夕食時間	38.0	26.7	38.8
寝る時間	9.0	2.2	10.5
寝た後	4.2	0.0	5.0
決まっていない	4.2	0.0	5.0
その他	4.0	2.2	4.1
無回答	4.4	4.4	3.1
計	100.0	100.0	100.0

(4) 放課後の過ごし方[学校が終わってから夕食までの間どのように過ごしているか]

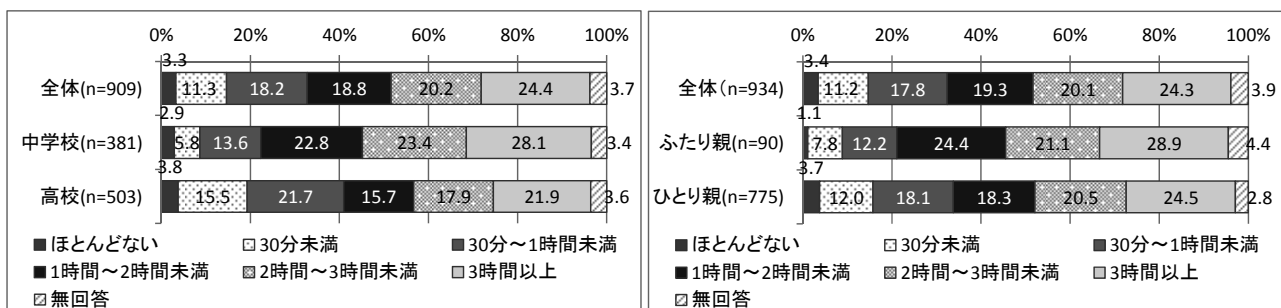
- ・全体では「部活動」が4割強で最も多く、次いで「家で家族と過ごしている」も4割を超えている。
- ・中学生の世帯では「家で家族と過ごしている」と「塾や習い事」が高校生の世帯に比べ多く、差がみられる。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では、「家で家族と過ごしている」「家でひとりで過ごしている」の差が大きい。また、ひとり親世帯で「アルバイトなど」の回答が1割弱あった。



(5) 子どもと一緒に遊びや料理、会話等をする時間

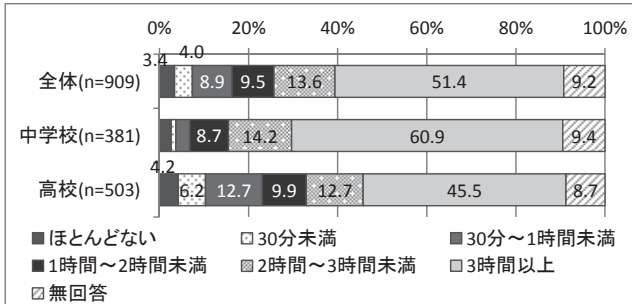
①平日

- ・全体では平日は3割超が1時間未満であるが、「2時間～3時間未満」と「3時間以上」がそれぞれ2割以上を占める。
- ・学年による差がみられ、高校生の世帯では1時間未満が4割を超え、中学生の世帯に比べ相対的に子どもと過ごす時間が短い。
- ・ひとり親世帯では1時間未満が3割を超え、子どもと過ごす時間が短い傾向にある。

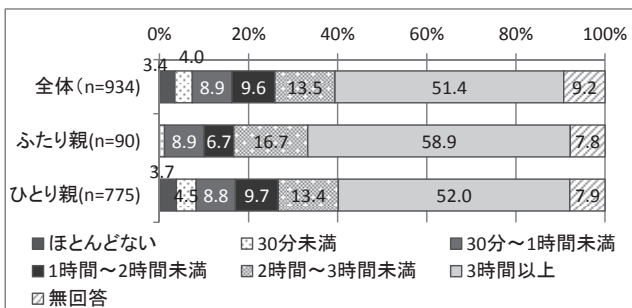


②休日

- ・全体では「3時間以上」が5割を超える。
- ・中学生の世帯と高校生の世帯では大きく異なり、高校生の世帯では相対的に子どもと過ごす時間は短い。
- ・ひとり親世帯では「ほとんどない」「30分未満」の計が1割弱に達し、ふたり親世帯と差がみられる。ひとり親世帯は子どもと過ごす時間が短い傾向にある。



	全体	中学校	高校
ほとんどない	3.4	2.6	4.2
30分未満	4.0	1.0	6.2
30分~1時間未満	8.9	3.1	12.7
1時間~2時間未満	9.5	8.7	9.9
2時間~3時間未満	13.6	14.2	12.7
3時間以上	51.4	60.9	45.5
無回答	9.2	9.4	8.7
総計	100.0	100.0	100.0

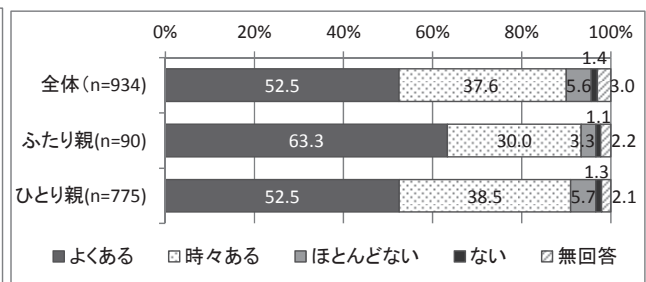
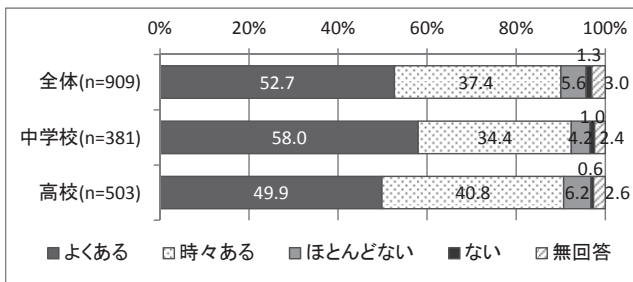


	全体	ふたり親	ひとり親
ほとんどない	3.4	0.0	3.7
30分未満	4.0	1.1	4.5
30分~1時間未満	8.9	8.9	8.8
1時間~2時間未満	9.6	6.7	9.7
2時間~3時間未満	13.5	16.7	13.4
3時間以上	51.4	58.9	52.0
無回答	9.2	7.8	7.9
総計	100.0	100.0	100.0

(6) 日常生活における子どもとの関わり

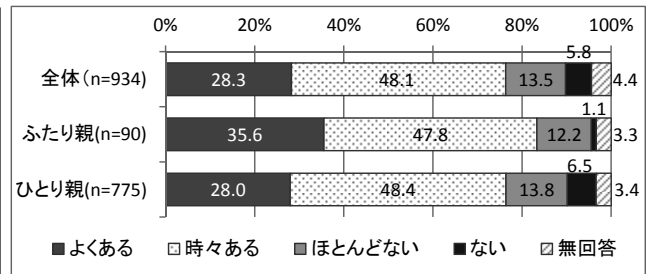
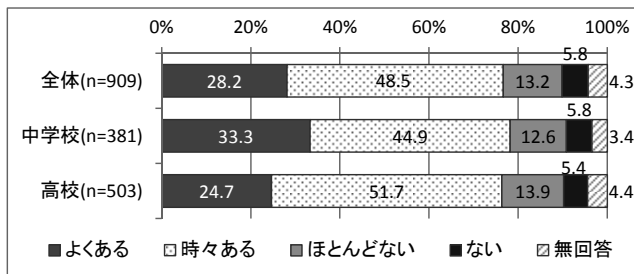
①子どもと一緒に学校の話などをする

- ・全体では「よくある」が5割強を占め、「時々ある」が4割弱である。
- ・高校生の世帯では中学生の世帯に比べ、話をする頻度がやや少なくなっている。
- ・ひとり親世帯では「よくある」が5割強であるが、ふたり親世帯に比べると少なく、差がみられる。



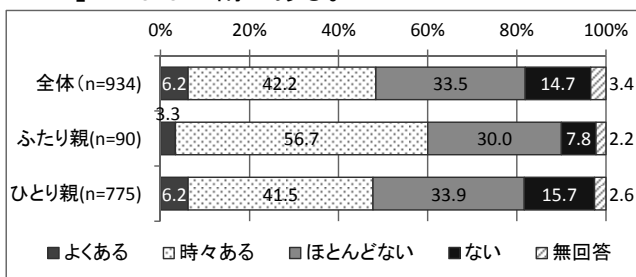
②子どものことについて家族で話し合う

- ・全体では「時々ある」が5割近くを占め、「よくある」は3割弱である。
- ・高校生世帯の方が「よくある」が少なく、差がみられる。
- ・ひとり親世帯は「よくある」が3割弱と少なく、「ほとんどない」「ない」の合計が2割弱を占める。



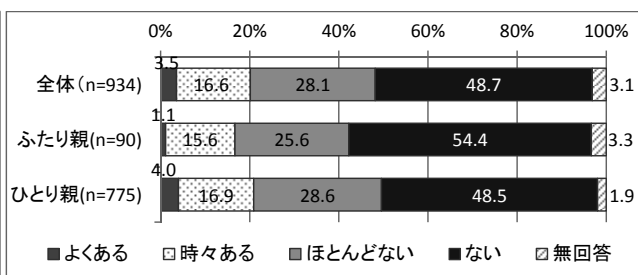
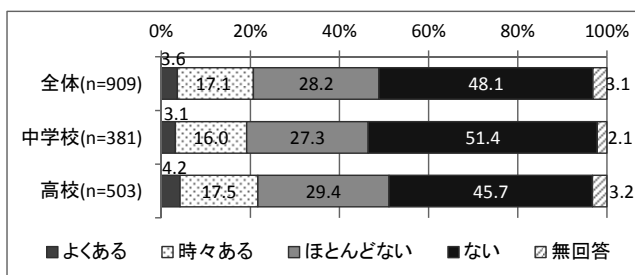
③不安やイライラ等の感情を子どもに向けてしまう

- ・全体では「時々ある」が4割強が多く、次いで「ほとんどない」が3割強である。
- ・ふたり親世帯では「時々ある」が5割強を占め、「よくある」と合わせるとほぼ6割である。
- ・ひとり親世帯では「時々ある」が4割強とふたり親世帯に比べ少なく、「ほとんどない」「ない」がほぼ5割である。



④子どもだけで夜間に留守番をする

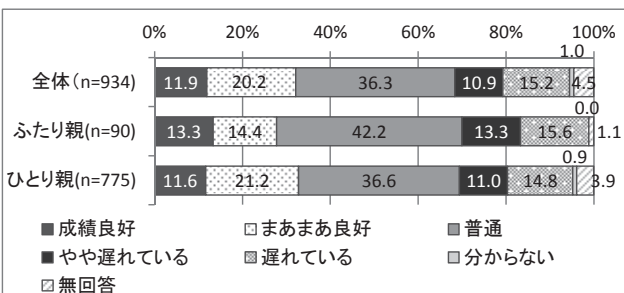
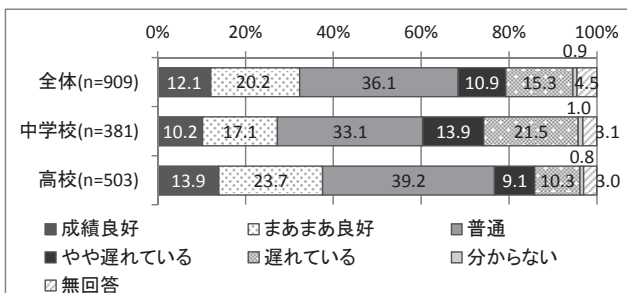
- ・全体では「ない」が5割弱を占め、「ほとんどない」も3割弱である。
- ・高校生の世帯の方が「ない」が中学生の世帯より少なく、差がみられる。
- ・ひとり親世帯では「ない」がふたり親世帯より少なく、差がみられる。



3. 子どもの教育

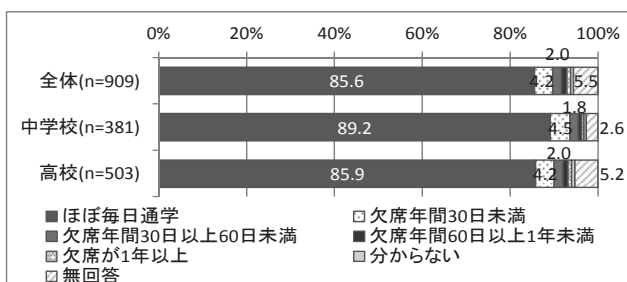
(1) 子どもの成績

- ・全体では「普通」が4割弱で最も多く、次いで「まあまあ良好」がほぼ2割である。
- ・中学生の世帯の方が「やや遅れている」「遅れている」が多い。
- ・ひとり親世帯の方が「まあまあ良好」の割合が多く、「普通」が少ない。

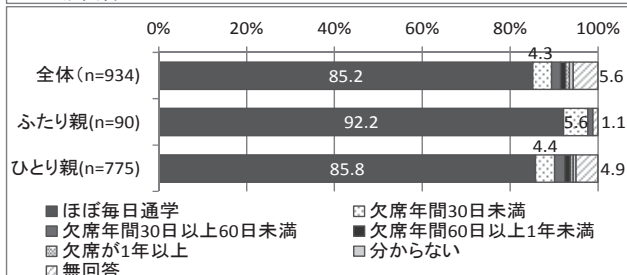


(2) 通学状況

- ・全体では「ほぼ毎日通学」が9割弱である。
- ・高校生の世帯の方が「ほぼ毎日」はやや少ない。
- ・ふたり親世帯では「ほぼ毎日」は9割を超えるが、ひとり親世帯では8割台である。



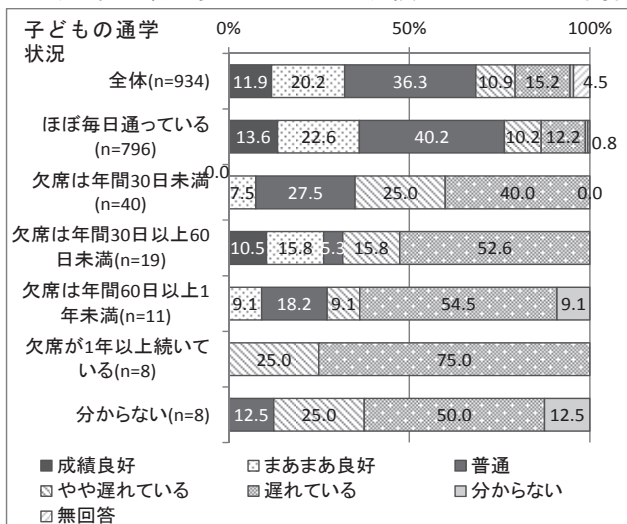
	全体	中学校	高校
ほぼ毎日通学	85.6	89.2	85.9
欠席年間30日未満	4.2	4.5	4.2
欠席年間30日以上60日未満	2.0	1.8	2.0
欠席年間60日以上1年未満	1.2	0.8	1.2
欠席が1年以上	0.9	0.5	0.8
分からない	0.7	0.5	0.8
無回答	5.5	2.6	5.2
計	100.0	100.0	100.0



	全体	ふたり親	ひとり親
ほぼ毎日通学	85.2	92.2	85.8
欠席年間30日未満	4.3	5.6	4.4
欠席年間30日以上60日未満	2.0	1.1	2.3
欠席年間60日以上1年未満	1.2	0.0	1.3
欠席が1年以上	0.9	0.0	0.6
分からない	0.9	0.0	0.6
無回答	5.6	1.1	4.9
計	100.0	100.0	100.0

◆子どもの通学状況（保護者回答）と子どもの成績（保護者回答）の相関関係

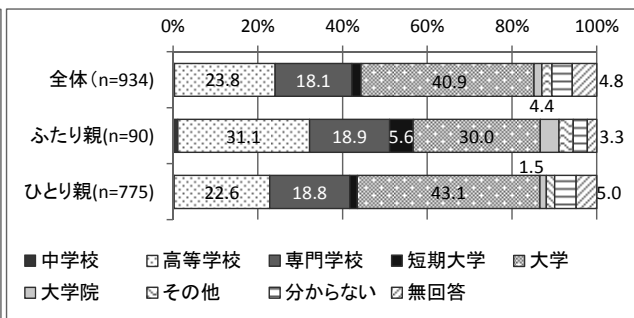
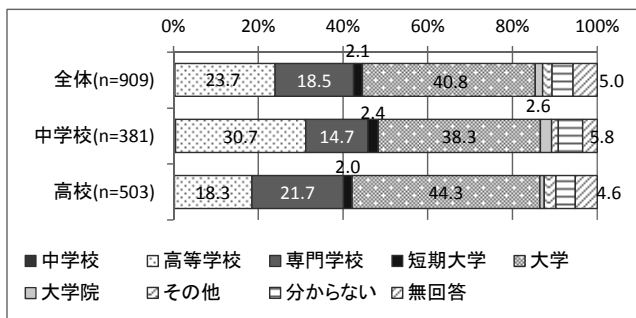
- ・欠席日数が多くなるほど成績が遅れている割合が多くなる傾向がみられる。



(3) 子どもの進学

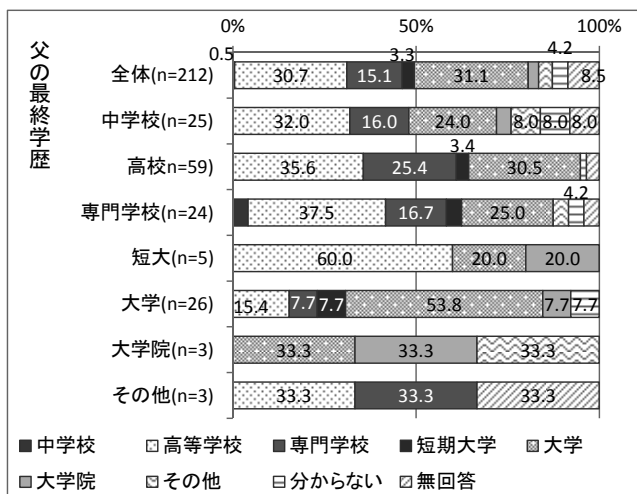
①どの学校まで進学させたいと希望するか

- ・全体では「大学」がほぼ4割で最も多い。高校生の世帯では「大学」は4割を超え、「専門学校」も2割を超えている。
- ・ふたり親世帯では「高校」と「大学」がほぼ3割で同程度である。ひとり親世帯では「大学」が4割を超え、差がみられる。

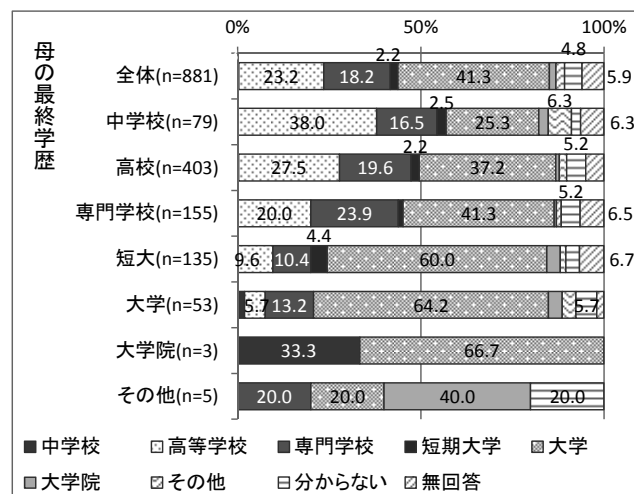


◆「父母の最終学歴（保護者回答）」と「進学させたい学校（保護者回答）」との相関関係

- ・父母それぞれにみると、父親は全体では「高校」と「大学」がほぼ3割強で同程度である。父親の最終学歴別にみると回答数が少なく、明確な傾向はみられない。母親は全体では「大学」希望が4割強を占め、母親の最終学歴と進学希望は相関関係がみられる。



* 図の「全体」はひとり親（母）を除く

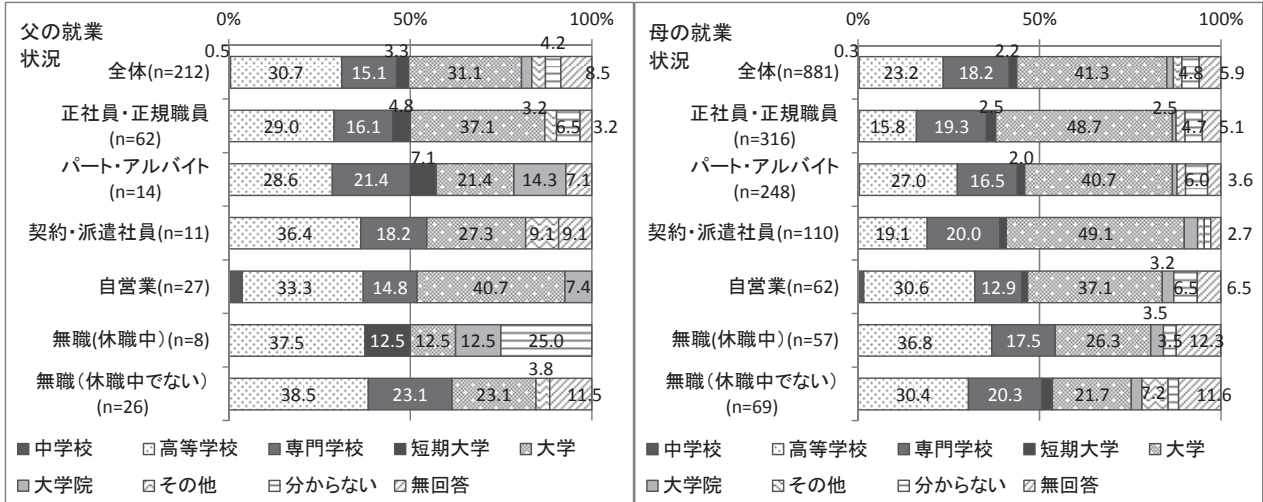


* 図の「全体」はひとり親（父）を除く

- ◆ 「父母の就業状況（保護者回答）」と「進学させたい学校（保護者回答）」との相関関係
 - ・ 父母の就業状況別にみると、父親は正社員・正規職員及び自営業で「大学」まで進学させたいと望む割合が高い。母親は正社員・正規職員及び契約・派遣社員で「大学」まで進学させたいと望む割合がほぼ5割と高い。

* 図の「全体」はひとり親（母）を除く

* 図の「全体」はひとり親（父）を除く



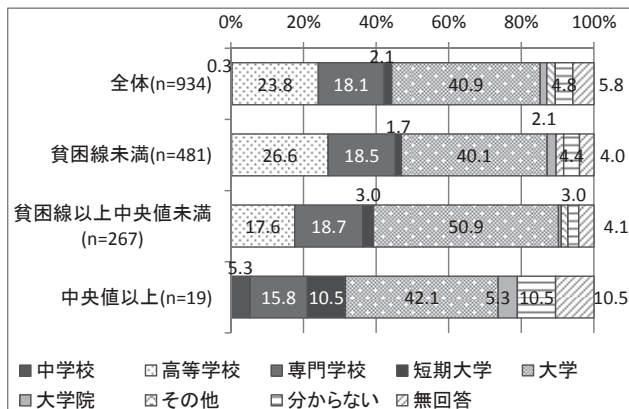
【父親の就業状況別】

	全体	正社員・正規職員	パート・アルバイト	契約・派遣社員	自営業	無職(休職中)	無職(休職中でない)
中学校	0.5	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0
高等学校	30.7	29.0	28.6	36.4	33.3	37.5	38.5
専門学校	15.1	16.1	21.4	18.2	14.8	0.0	23.1
短期大学	3.3	4.8	7.1	0.0	0.0	12.5	0.0
大学	31.1	37.1	21.4	27.3	40.7	12.5	23.1
大学院	2.8	0.0	14.3	0.0	7.4	12.5	0.0
その他	3.8	3.2	0.0	9.1	0.0	0.0	3.8
分からない	4.2	6.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
無回答	8.5	3.2	7.1	9.1	0.0	0.0	11.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

【母親の就業状況別】

	全体	正社員・正規職員	パート・アルバイト	契約・派遣社員	自営業	無職(休職中)	無職(休職中でない)
中学校	0.3	0.3	0.4	0.0	1.6	0.0	0.0
高等学校	23.2	15.8	27.0	19.1	30.6	36.8	30.4
専門学校	18.2	19.3	16.5	20.0	12.9	17.5	20.3
短期大学	2.2	2.5	2.0	1.8	1.6	0.0	2.9
大学	41.3	48.7	40.7	49.1	37.1	26.3	21.7
大学院	1.8	0.9	1.2	3.6	3.2	3.5	2.9
その他	2.4	2.5	2.4	1.8	0.0	0.0	7.2
分からない	4.8	4.7	6.0	1.8	6.5	3.5	2.9
無回答	5.9	5.1	3.6	2.7	6.5	12.3	11.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

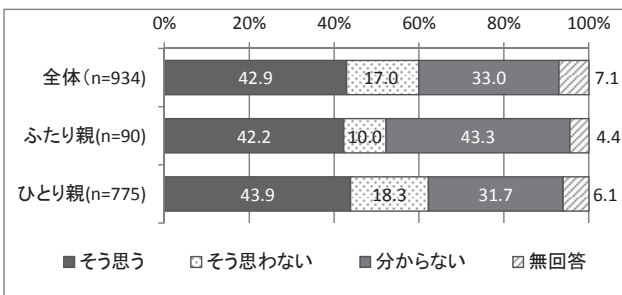
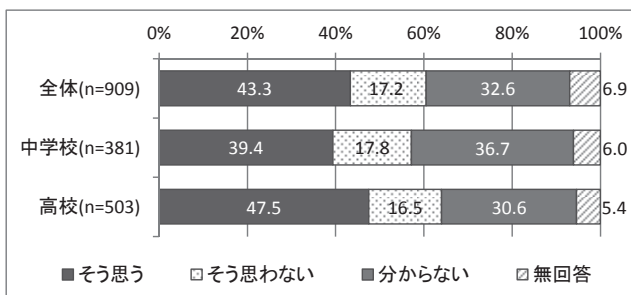
- ・ 所得分類別にみると、所得が低いほど「高校」の割合が多くなり、「短期大学」以上の割合は少なくなる傾向がみられる。



	全体	貧困線未満	貧困線以上中央値未満	中央値以上
中学校	0.3	0.2	0.0	5.3
高等学校	23.8	26.6	17.6	0.0
専門学校	18.1	18.5	18.7	15.8
短期大学	2.1	1.7	3.0	10.5
大学	40.9	40.1	50.9	42.1
大学院	1.8	2.5	0.7	5.3
その他	2.4	2.1	1.9	0.0
分からない	4.8	4.4	3.0	10.5
無回答	5.8	4.0	4.1	10.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0

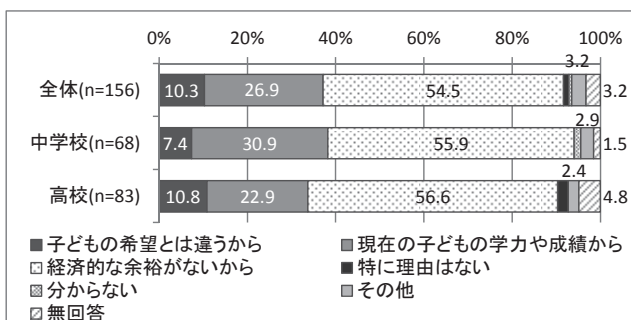
②希望どおり子どもが進学できそうだと思うか

- ・全体では「そう思う」が4割を超えて、最も多いが、「分からない」も3割を超えている。
- ・高校生の世帯の方が「そう思う」は5割弱と高い。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では「そう思う」はいずれも4割を超えており、その差はわずかである。「そう思わない」はひとり親の方が多く、差がみられる。

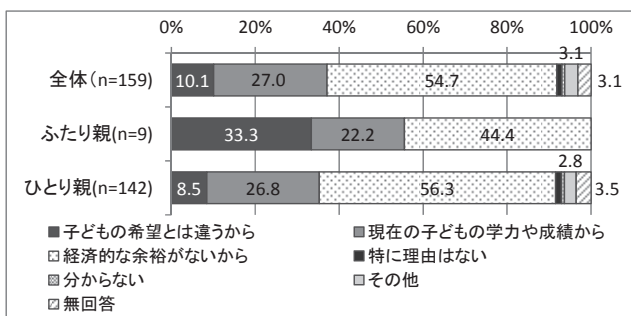


③希望どおり進学できそうにないと思う理由

- ・全体では「経済的な余裕がないから」が5割を超え、最も多い。
- ・学校別に見ても「経済的な余裕がないから」が5割を超えており、傾向には大きな差はみられない。中学生の世帯の方が「現在の子どもが学力や成績から」が高校生の世帯に比べてやや多い。



	全体	中学校	高校
子どもの希望とは違うから	10.3	7.4	10.8
現在の子どもが学力や成績から	26.9	30.9	22.9
経済的な余裕がないから	54.5	55.9	56.6
特に理由はない	1.3	0.0	2.4
分からない	0.6	1.5	0.0
その他	3.2	2.9	2.4
無回答	3.2	1.5	4.8
計	100.0	100.0	100.0

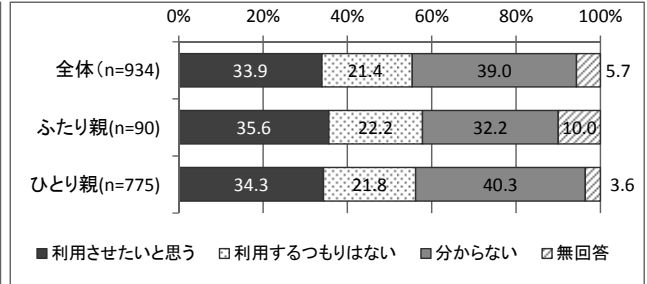
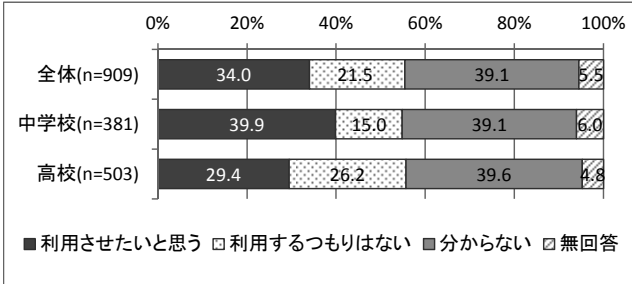


	全体	ふたり親	ひとり親
子どもの希望とは違うから	10.1	33.3	8.5
現在の子どもが学力や成績から	27.0	22.2	26.8
経済的な余裕がないから	54.7	44.4	56.3
特に理由はない	1.3	0.0	1.4
分からない	0.6	0.0	0.7
その他	3.1	0.0	2.8
無回答	3.1	0.0	3.5
計	100.0	100.0	100.0

(4) 無料で気を使わずに落ち着いて過ごせる場所があれば子どもに利用させたいか

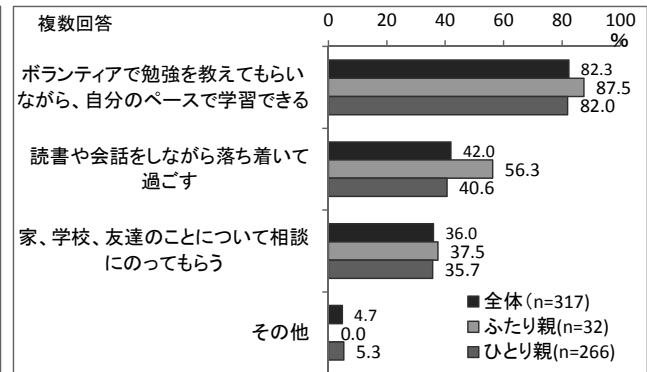
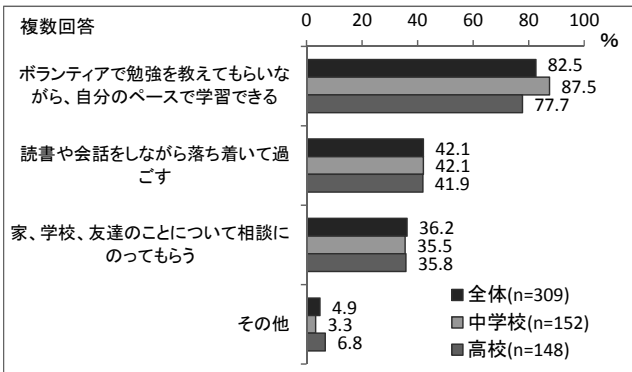
①利用意向

- ・全体では「利用させたいと思う」が3割を超え、「利用するつもりはない」は2割にとどまる。
- ・中学生の世帯の方が利用意向は高い。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では利用意向の差はわずかである。



②その場所でどのようなことができればよいか

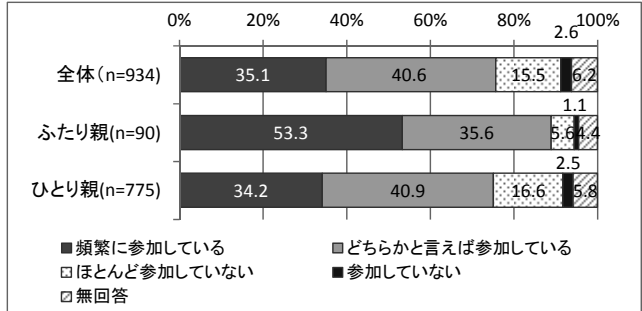
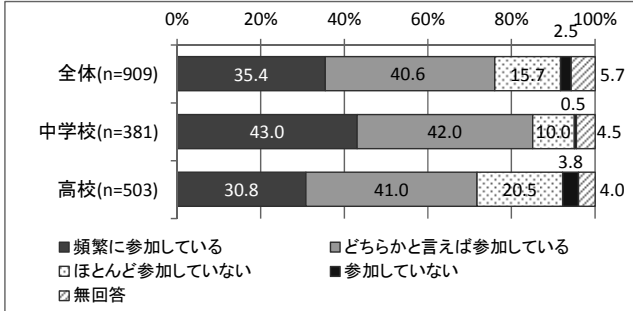
- ・全体では「ボランティアで勉強を教えもらいながら、自分のペースで学習できる」が8割を超え、中学生の世帯の方の割合が高い。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では、「読書や会話をしながら落ち着いて過ごす」に差がある。



4. 学校・地域との関わり

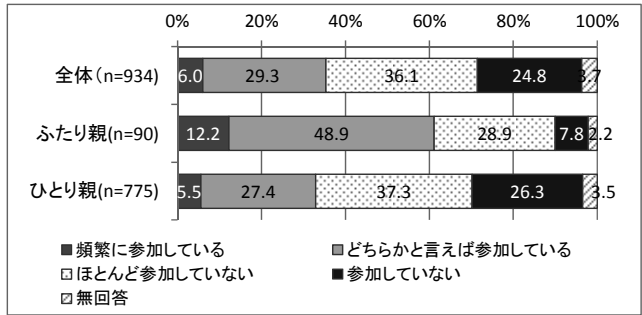
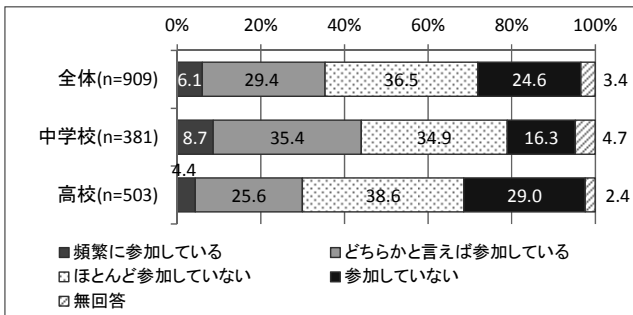
(1) 授業参観や運動会など、子どもの学校行事に参加する頻度

- ・全体では「どちらかと言えば参加している」がほぼ4割で最も多く、次いで「頻繁に参加している」が3割台で続いている。
- ・中学生の世帯の方が「頻繁に参加している」割合が高く、差がみられる。
- ・ふたり親世帯の方が「頻繁に参加している」の割合が高く、差がみられる。ひとり親世帯では「ほとんど参加していない」「参加していない」を合わせると2割弱を占める。



(2) 地域の行事に参加する頻度

- ・全体では「ほとんど参加していない」が3割台で最も多く、次いで「どちらかと言えば参加している」が3割弱で続いている。
- ・中学生の世帯の方が「どちらかと言えば参加している」割合が高く、差がみられる。
- ・ふたり親世帯の方が参加している割合が高く、「頻繁に」「どちらかと言えば」を合わせるとほぼ6割強が参加している。ひとり親世帯では「ほとんど参加していない」「参加していない」を合わせると6割を超える。ふたり親世帯とひとり親世帯の差が大きい。



5. 経済的状況

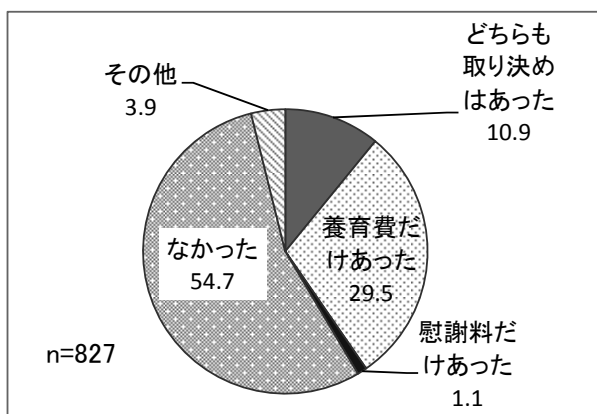
(1) 養育費について

*この項は離婚・非婚の経験のある方への質問となる。家族構成が不明であっても、この項目に回答があった分を母数とするため、母数は827となる。

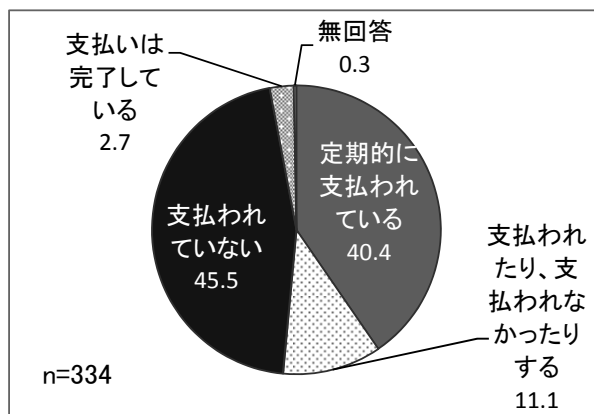
① 取り決めの有無と養育費の支払い状況

- ・養育費や慰謝料の取り決めが、「どちらもあった」は、ほぼ1割で、「養育費だけあった」がほぼ3割である。「慰謝料だけあった」がわずかに1.1%、「なかった」が5割強と半数を超える。
- ・このうち、「養育費の取り決めがあった」と回答した334人の現在の状況は、「支払われていない」が4割を超えて最も多い。「支払われたり、支払われなかったりする」も約1割である。「定期的に支払われている」はほぼ4割である。

【養育費と慰謝料の取り決めの有無】

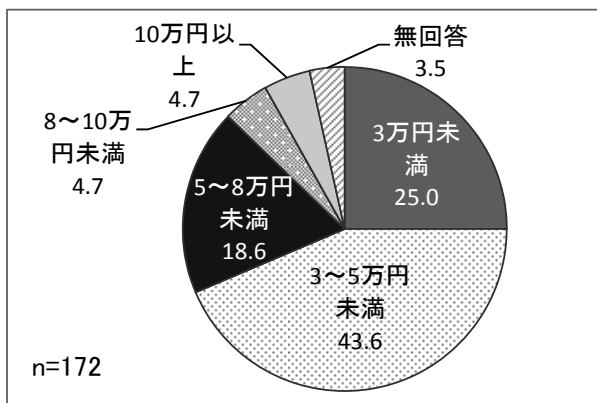


【養育費と慰謝料の支払い状況】



② 月平均総額（「定期的に支払われている」「支払われたり、支払われなかったりする」と回答した保護者への質問）

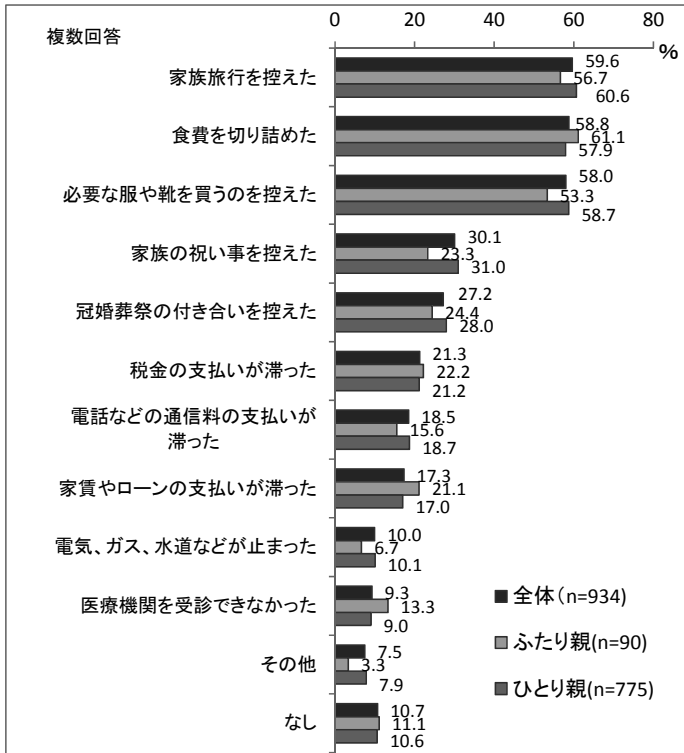
- ・子ども全員に支払われる月平均総額は、「3～5万円未満」が4割を超えて最も多く、次いで「3万円未満」が2割を超えている。8万円以上は1割弱である。



(2) 経済的要因による困難なこと

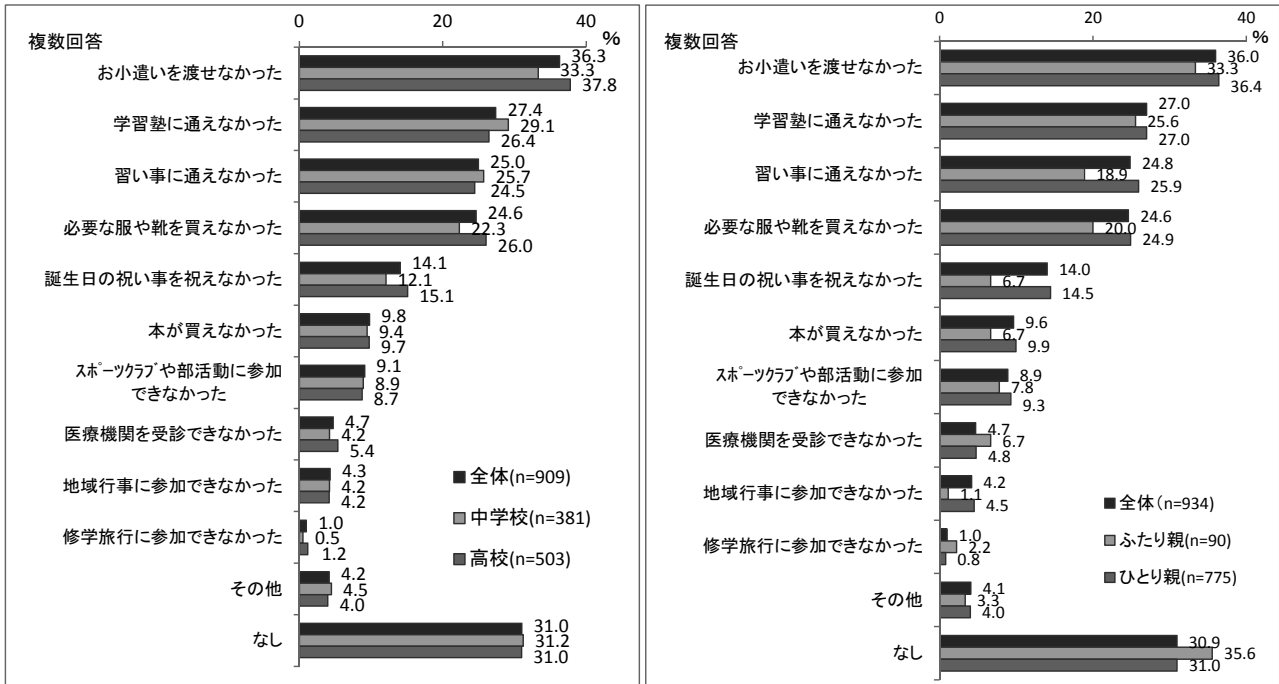
①経済的理由で経験したことの有無（おおむね直近1年間）

- ・全体では、「家族旅行を控えた」「食費を切り詰めた」「必要な服や靴を買うのを控えた」の回答が多く、6割近くに達する。「家族の祝い事を控えた」「冠婚葬祭の付き合いを控えた」など慶弔関係の回答が3割前後あった。
- ・ふたり親世帯、ひとり親世帯とも、「家族旅行を控えた」「食費を切り詰めた」「必要な服や靴を買うのを控えた」が5割から6割に達する。「税金の支払いが滞った」は2割を超え、「電気、ガス、水道などが止まった」もひとり親世帯では1割を超えた。
- ・「なし」は、ほぼ1割にとどまった。



②経済的理由で子どもが希望したにもかかわらず経験したことの有無(おおむね直近1年間)

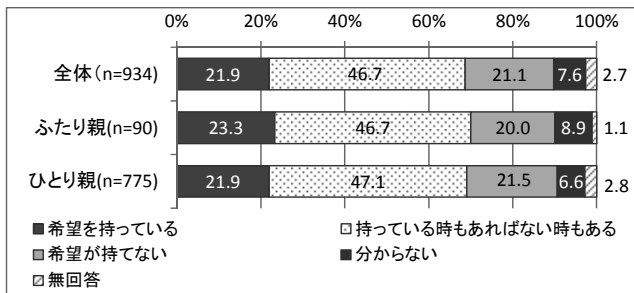
- ・全体では「お小遣いを渡せなかった」が最も多く、3割強である。「学習塾に通えなかった」「習い事に通えなかった」「必要な服や靴を買えなかった」が2割台で続いている。「なし」がほぼ3割である。
- ・学年によりやや差がみられるが、傾向は変わらない。
- ・ひとり親世帯では「誕生日の祝い事を祝えなかった」「必要な服や靴を買えなかった」「習い事に通えなかった」はふたり親世帯との差が大きい。



6. 将来への希望や悩み事など

(1) 自分の将来に対して前向きな希望を持っているか

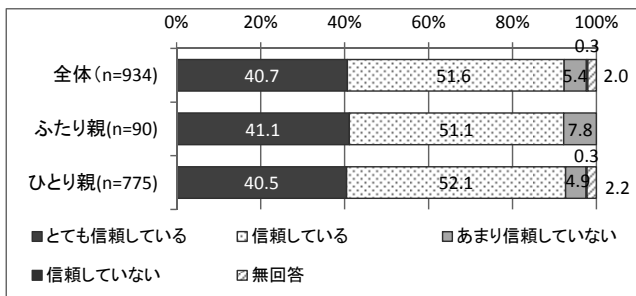
- ・全体では「希望を持っている」は2割を超え、「持っている時もあれば、ない時もある」が5割弱である。「希望が持てない」がどちらの世帯でもほぼ2割を占める。
- ・ふたり親とひとり親の差は小さい。



(2) 子どもへの信頼と期待

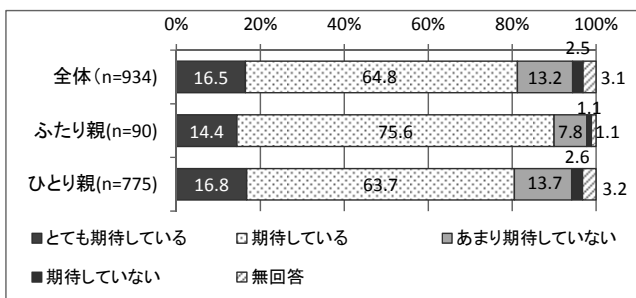
①子どもを信頼しているか

- ・全体では「信頼している」が5割強で最も多く、「とても信頼している」のほぼ4割と合わせると9割を超える。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯の差は小さい。ふたり親で「あまり信頼していない」が約8%の回答があった。



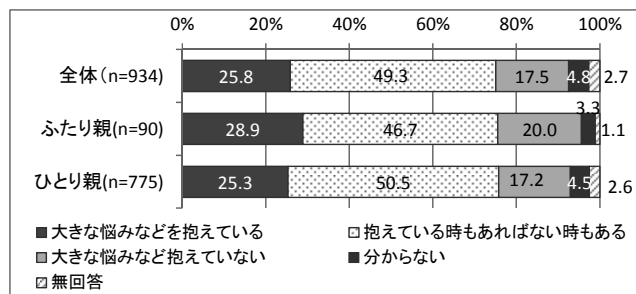
②子どもの将来に期待しているか

- ・全体では「期待している」が6割を超えて最も多く、「とても期待している」と合わせると8割強である。
- ・ひとり親世帯では「あまり期待していない」が1割を超えている。



(3) 自分だけでは解決が難しい大きな悩み事を抱えているか

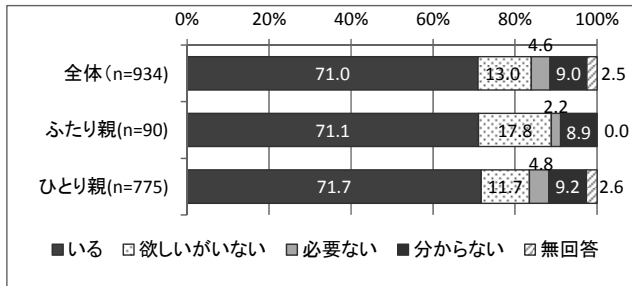
- ・全体では「抱えている時もあればない時もある」がほぼ5割で最も多い。次いで「大きな悩みなどを抱えている」が2割を超えており、「大きな悩みなど抱えていない」を上回っている。
- ・ふたり親世帯、ひとり親世帯とも「大きな悩みなどを抱えている」は3割に近く、「抱えている時もあれば、ない時もある」が5割前後で、合わせると8割弱となる。



(4) 相談できる人

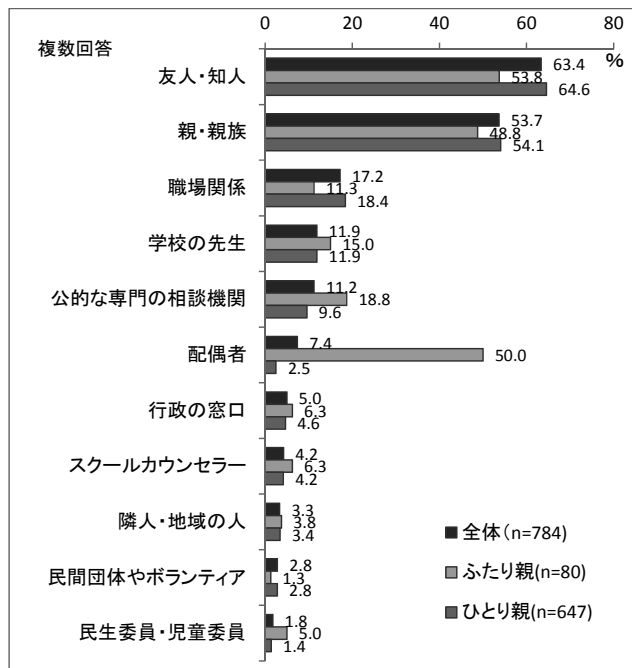
①相談できる人の有無

- ・全体では相談できる人が「いる」が7割を超えており、ふたり親世帯とひとり親世帯で差はみられない。「欲しいがない」はふたり親世帯で2割弱、ひとり親世帯で1割強であり、ひとり親世帯では「必要ない」がやや多い。



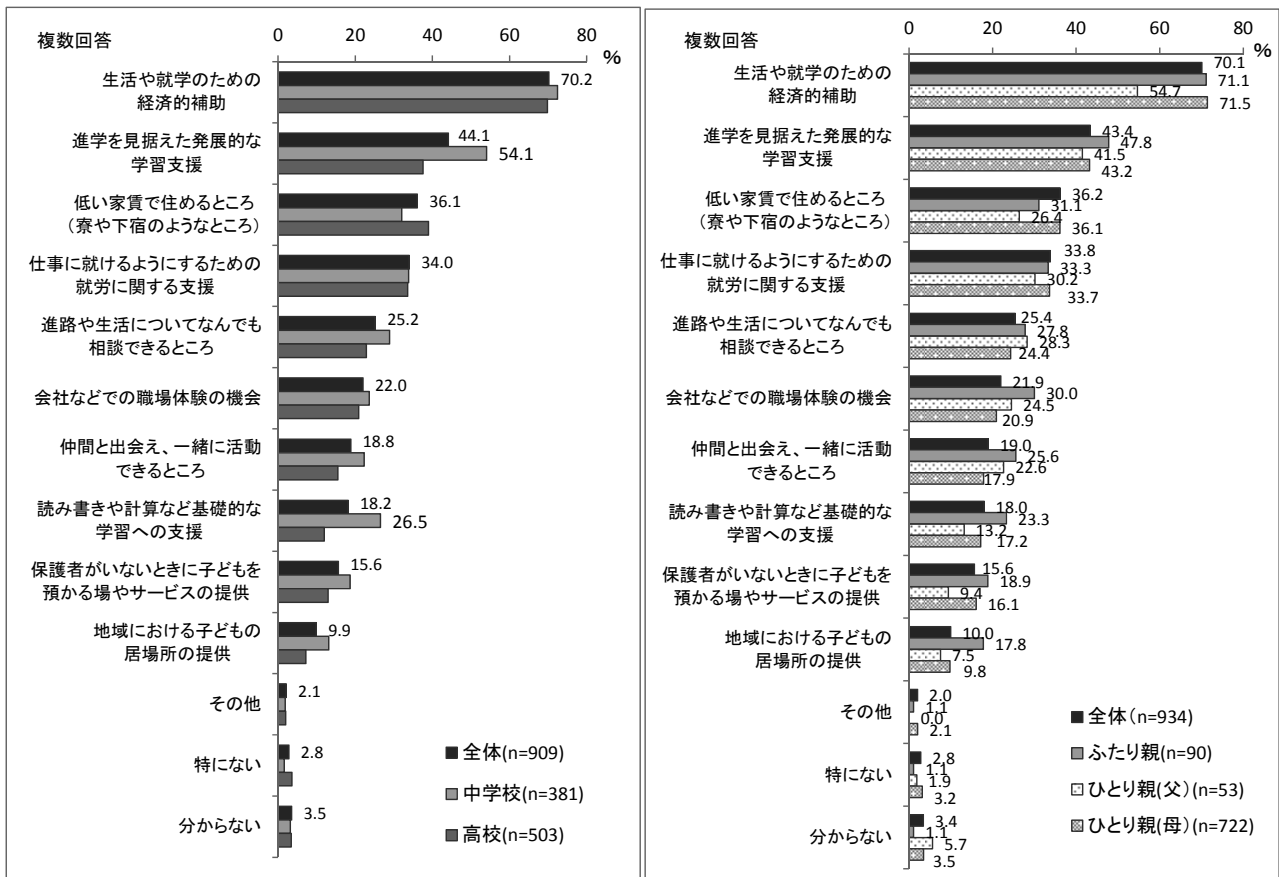
②相談できる相手または相談したいと思う相手

- *相談できる人が「いる」「いないが欲しい」と回答した人に、相談できる人または相談したいと思う相手を尋ねた。
- ・全体では、「友人・知人」が6割を超え、次いで「親・親族」が5割を超えている。
- ・ふたり親世帯では「友人・知人」「配偶者」「親・親族」の順に割合が高く、ほぼ5割前後である。ひとり親世帯では「友人・知人」と「親・親族」の回答が高く、5~6割を超えている。



(5) 現在または将来的にあればいいと思う子どもへの支援

- ・全体では「生活や就学のための経済的補助」が7割で最も多く、「進学を見据えた発展的な学習支援」が4割を超え、「低い家賃で住めるところ」「仕事に就けるようにするための就労に関する支援」が3割台で続いている。
- ・学校別では、中学生の世帯の方が「進学を見据えた発展的な学習支援」「読み書きや計算など基礎的な学習への支援」の回答割合が高い。
- ・ふたり親世帯では、「会社などでの職場体験の機会」「読み書きや計算など基礎的な学習への支援」「地域における子どもの居場所の提供」が他の世帯よりも回答割合が高い。
- ・ひとり親（父）世帯は全体的に他の世帯よりも回答割合が低い傾向だが、「進路や生活について何でも相談できるところ」は他の世帯よりやや多い。
- ・ひとり親（母）世帯では「低い家賃で住めるところ」が他の世帯よりも回答割合が高い。

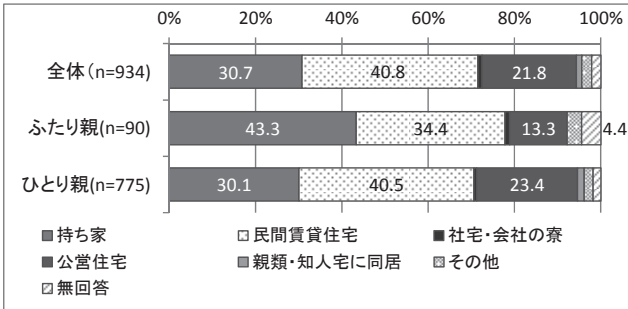


7. 熊本地震後の生活状況

(1) 住居の状況

①地震前の住居

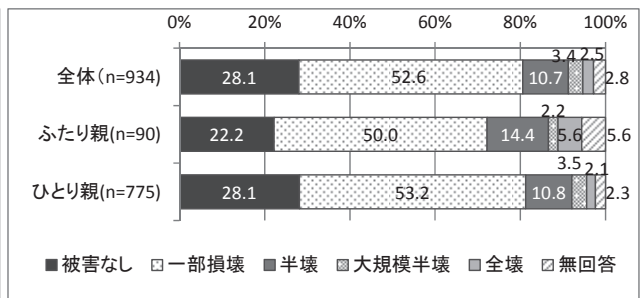
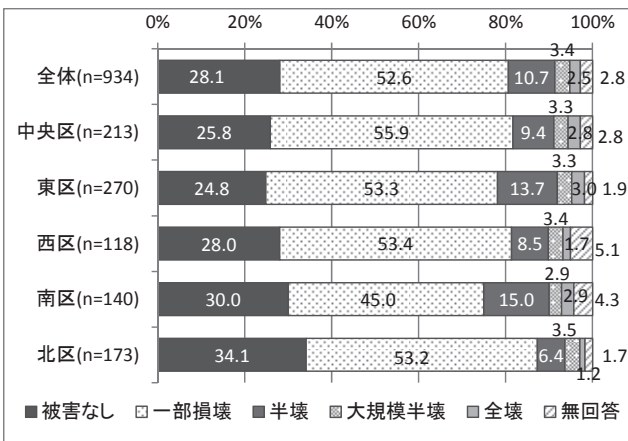
- ・全体では「民間賃貸住宅」がほぼ4割で最も多く、「持ち家」が3割で続いている。ふたり親世帯は「持ち家」が4割を超え、ひとり親世帯よりも持ち家率が高い。



	全体	ふたり親	ひとり親
持ち家	30.7	43.3	30.1
民間賃貸住宅	40.8	34.4	40.5
社宅・会社の寮	1.0	1.1	0.6
公営住宅	21.8	13.3	23.4
親類・知人宅に同居	1.3	0.0	1.5
その他	2.2	3.3	2.1
無回答	2.1	4.4	1.8
総計	100.0	100.0	100.0

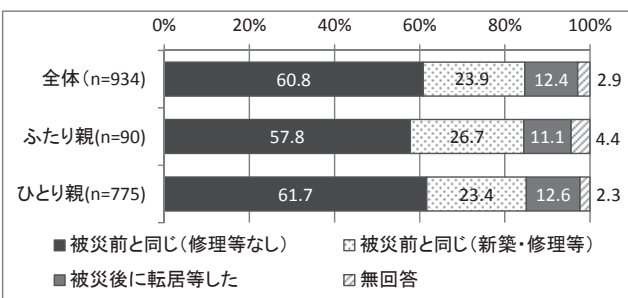
②住居の被害状況

- ・全体では「半壊」がほぼ1割、「大規模半壊」と「全壊」がそれぞれ2~3%強であった。「一部損壊」は5割を超える。
- ・居住区別にみると、東区と南区で「半壊」の割合がやや高い。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では、ふたり親世帯で「半壊」の割合が1割を超え、やや高い。



③被災による居住状況の変化

- ・全体では「被災前と同じ（修理等なし）」が6割で最も多い。「被災前と同じ（新築・修理等）」は2割を超えている。一方、「被災後に転居等した」も1割を超えている。

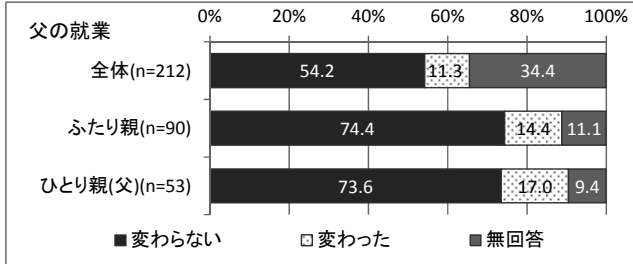


(2) 地震前と現在での就業形態の変化

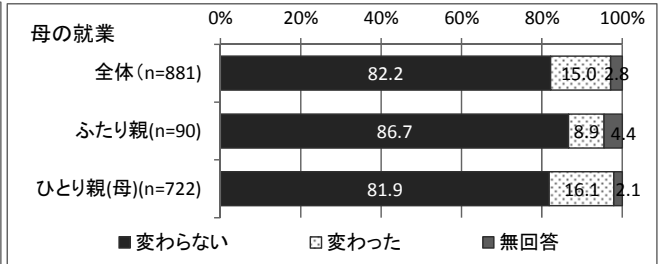
①就業形態の変化の有無

- ・父親の就業形態の変化をみると、ふたり親世帯、ひとり親（父）世帯のどちらも「変わらない」が7割を超え、差は少ない。「変わった」はひとり親（父）世帯がわずかに多い。
- ・母親の就業形態の変化をみると、ふたり親世帯、ひとり親（母）世帯のどちらも「変わらない」が8割を超えている。ひとり親（母）世帯が「変わった」が多い。

* 図の「全体」はひとり親（母）を除く



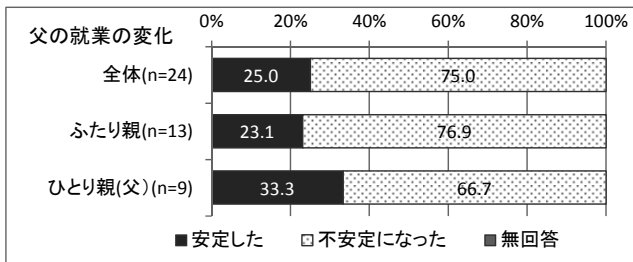
* 図の「全体」はひとり親（父）を除く



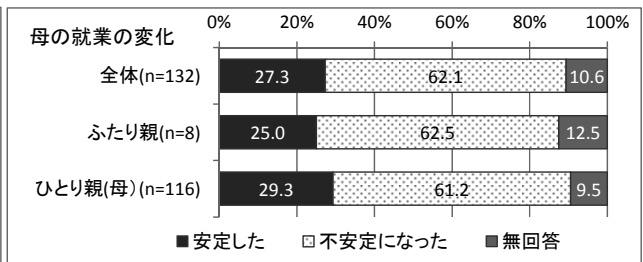
②就業形態の変化の内容

- ・父親の就業形態の変化の内容をみると、ふたり親世帯、ひとり親（父）世帯ともに「不安定になった」が多いが、ひとり親では7割を下回り、「安定した」も3割強あった。
- ・母親の就業形態の変化の内容をみると、ふたり親世帯、ひとり親（母）世帯ともに「不安定になった」が6割強を占める。

* 図の「全体」はひとり親（母）を除く



* 図の「全体」はひとり親（父）を除く

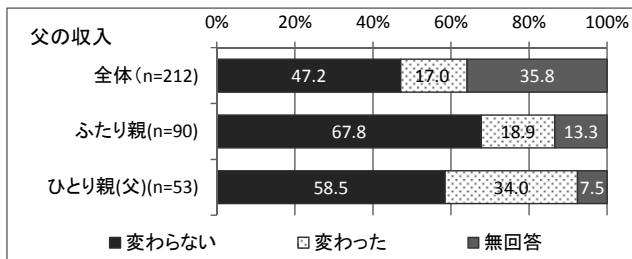


(3) 地震前と現在を比べた収入の変化

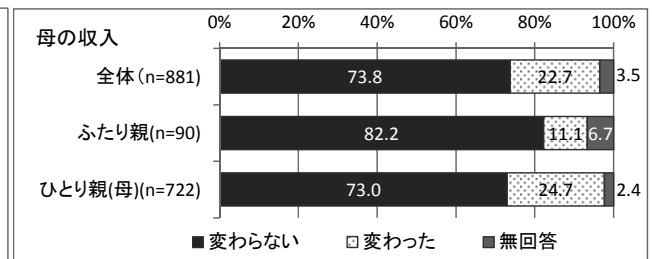
①収入の変化の有無

- ・父親の収入の変化をみると、「変わらない」が多いが、ひとり親（父）世帯では「変わった」が3割強となり、ふたり親世帯との差がみられる。
- ・母親の収入の変化をみると、「変わらない」が多いが、ひとり親（母）世帯は7割強とふたり親世帯の8割強に比べると少なく、ひとり親（母）では「変わった」はふたり親世帯の2倍強にのぼる。

* 図の「全体」はひとり親（母）を除く



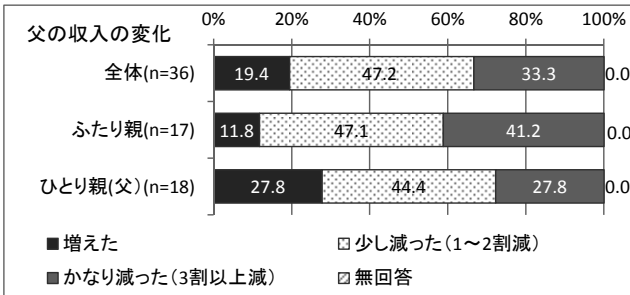
* 図の「全体」はひとり親（父）を除く



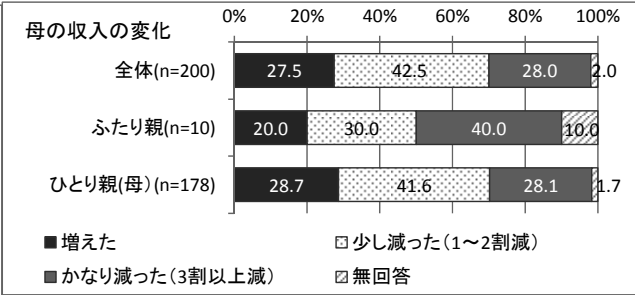
②収入の変化の内容

- ・父親の収入の変化の内容をみると、ふたり親世帯では「少し減った(1~2割減)」「かなり減った(3割以上減)」の計が9割弱に達する。ひとり親(父)世帯と差がみられる。
- ・母親の収入の変化の内容をみると、ふたり親世帯、ひとり親(母)世帯どちらも「少し減った(1~2割減)」「かなり減った(3割以上減)」の計がほぼ7割である。

* 図の「全体」はひとり親(母)を除く



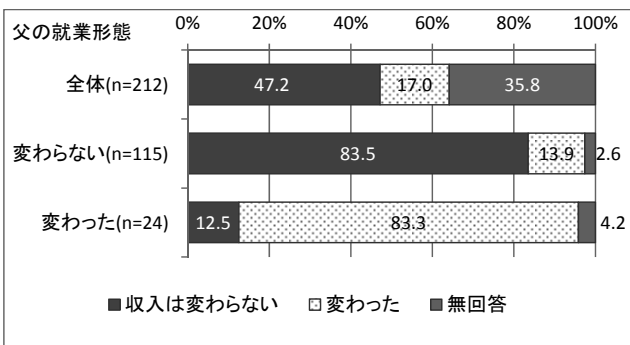
* 図の「全体」はひとり親(父)を除く



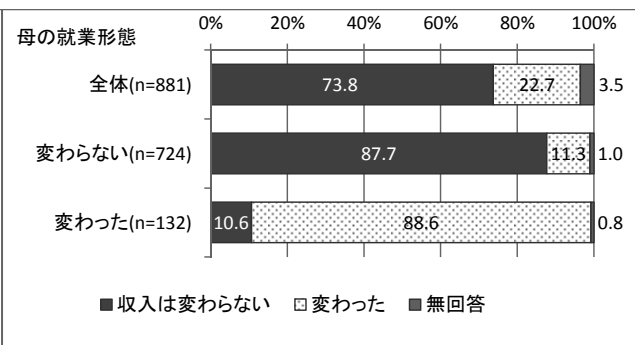
(4) 就業形態の変化と収入の変化

- ・就業形態の変化別に収入の変化をみると、父親、母親ともに、就業形態が「変わった」という回答者は、収入が「変わった」が8割を超える。
- ・就業形態が「変わらない」場合も、1割強は収入が「変わった」と回答している。

* 図の「全体」はひとり親(母)を除く



* 図の「全体」はひとり親(父)を除く



第IV章 要支援者アンケート調査～子どもに対する調査結果～

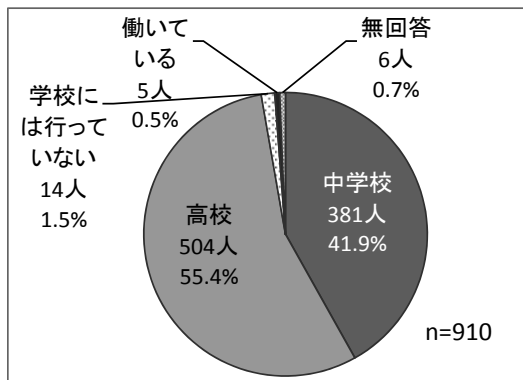
要支援者へのアンケート調査のうち、子どもの回答（n=910）を集計し、分析した。

【要支援者調査対象世帯】

- ・ 中学1年生・中学3年生の就学援助制度利用世帯
- ・ 12～18歳の子どものいる児童扶養手当受給世帯
- ・ 12～18歳の子どものいる生活保護受給世帯

1. 属性

(1) 通っている学校

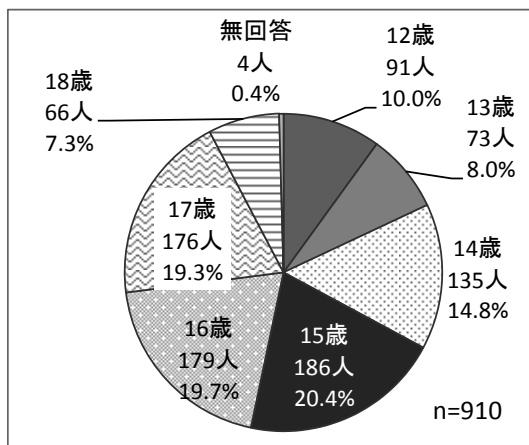


・「中学校」が約4割、「高校」が半数を超えている。「学校には行っていない」「働いている」はわずかではあるが回答があった。

【学校別について】

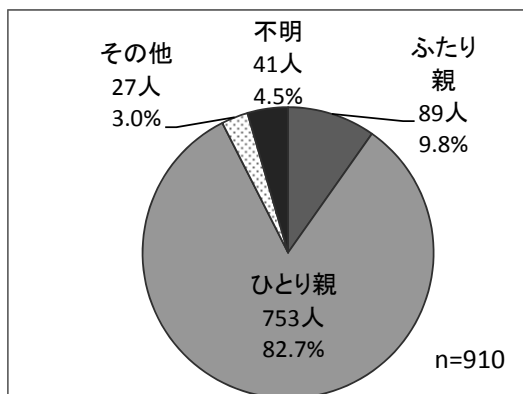
*子どもの回答総数（910）のうち、「中学校」の回答数（n=381）、「高校」の回答数（n=504）がそれぞれ中学校、高校の母数となる。以下同じ。

(2) 年齢



・12歳から18歳までが回答し、15歳が最も多く、16歳、17歳がそれぞれほぼ2割を占める。14歳が約15%、12歳と13歳がほぼ1割である。

(3) 家族構成



・保護者の回答とのクロス集計から家族構成をみると、「ふたり親」は約1割にとどまり、「ひとり親」が8割を超える。

【家族構成について】

*ふたり親世帯、ひとり親世帯：子どもの回答総数（910）について、保護者の回答から家族構成を集計した。

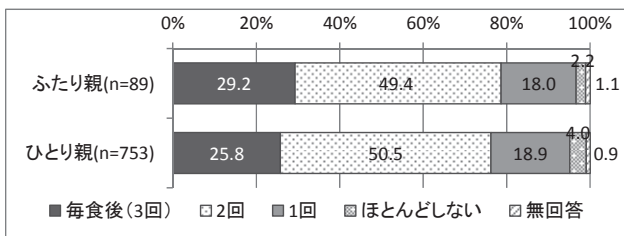
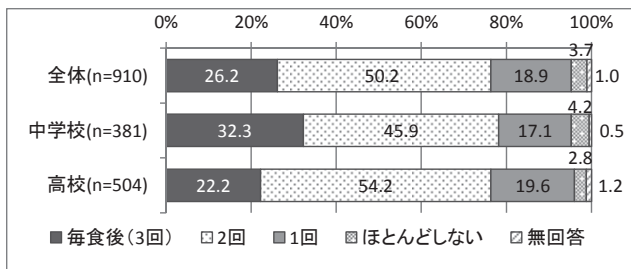
*ふたり親世帯の子ども回答数（89）、ひとり親世帯の子ども回答数（753）が母数となる。以下同じ。

2. 生活状況

(1) 生活習慣

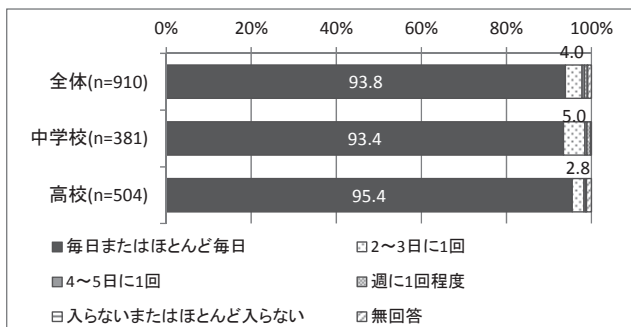
① 毎日の歯磨き

- ・全体では「毎食後」は3割に届かず、「2回」がほぼ半数を占める。学校別では高校生は「毎食後」は2割強で、中学生に比べて少ない。「ほとんどしない」もわずかだが回答があった。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では「毎食後」はひとり親世帯がやや少ない。

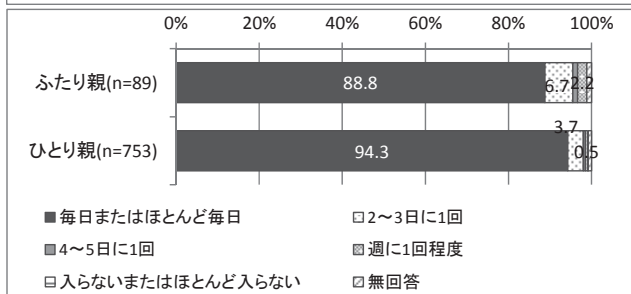


② お風呂（シャワーも含む）に入る回数

- ・全体では「毎日またはほとんど毎日」が9割を超え、学校による差はほとんどない。
- ・ふたり親世帯では「毎日またはほとんど毎日」がひとり親世帯に比べてやや低く、9割を下回る。



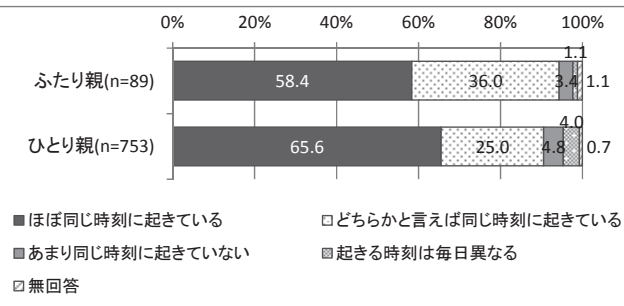
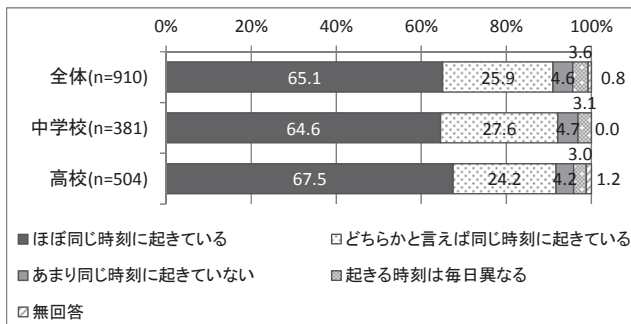
	全体	中学校	高校
毎日、ほとんど毎日	93.8	93.4	95.4
2~3日に1回	4.0	5.0	2.8
4~5日に1回	0.5	0.5	0.4
週に1回程度	0.7	0.8	0.2
入らないまたはほとんど入らない	0.1	0.0	0.0
無回答	0.9	0.3	1.2
計	100.0	100.0	100.0



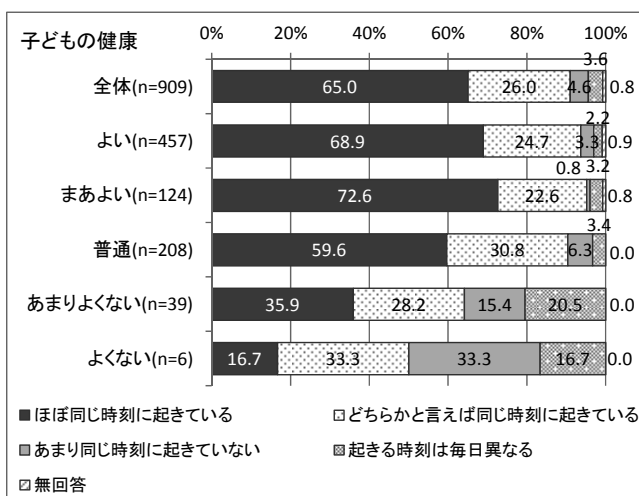
	ふたり親	ひとり親
毎日、ほとんど毎日	88.8	94.3
2~3日に1回	6.7	3.7
4~5日に1回	1.1	0.5
週に1回程度	2.2	0.5
入らないまたはほとんど入らない	0.0	0.1
無回答	1.1	0.8
計	100.0	100.0

③ 平日、同じ時刻に起床しているか

- ・全体では「ほぼ同じ時刻に起床している」が6割強を占め、学校による差は小さい。
- ・「ほぼ同じ時刻に起床している」「どちらかと言えば同じ時刻に起床している」を合わせた割合は、ふたり親世帯がひとり親世帯をやや上回る。



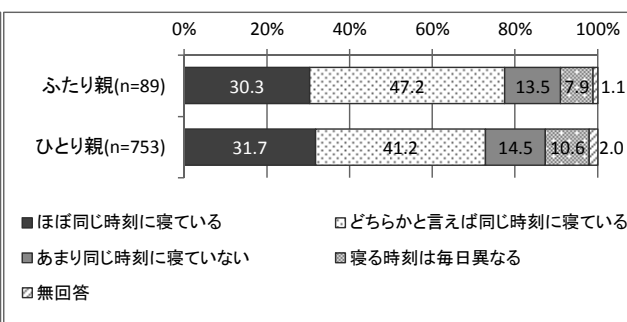
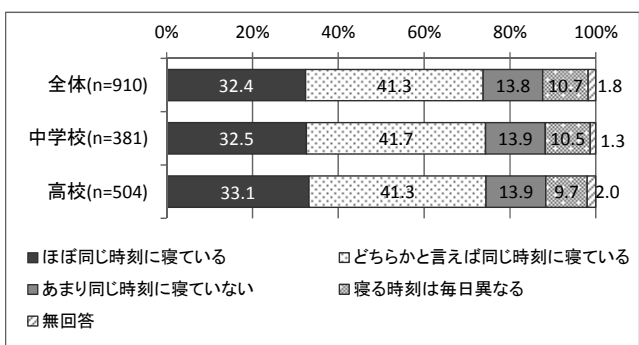
◆「子どもの健康状態（保護者回答）」と「子どもの起床時間（子ども回答）」との相関関係
 ・子どもの健康状態がよい方が、起床時間に規則的な傾向がみられる。



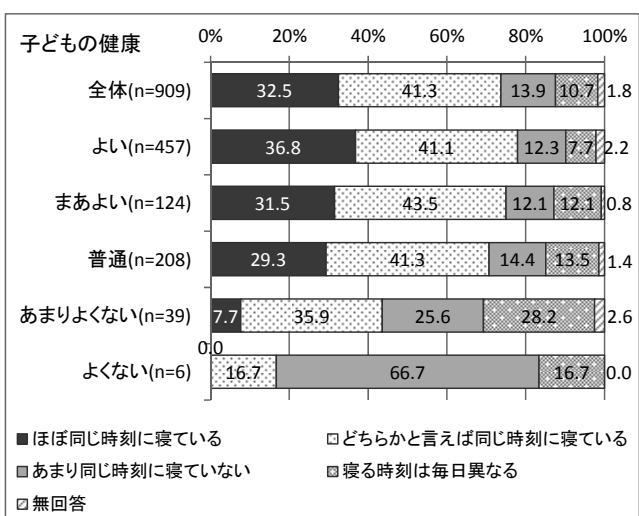
*保護者の回答があった子どもの回答票が対象となり、総数は909。

④平日、同じ時刻に寝ているか

- ・全体では「ほぼ同じ時刻に寝ている」が3割強である。学校による差はわずかである。
- ・ひとり親世帯の方が「ほぼ同じ時刻に寝ている」「どちらかと言えば同じ時刻に寝ている」を合わせた割合は少なく、「寝る時刻は毎日異なる」はやや多い。

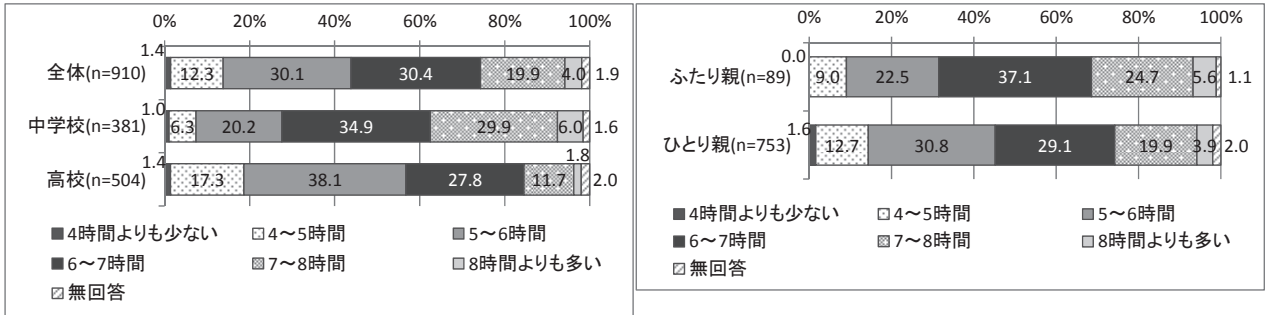


◆「子どもの健康状態（保護者回答）」と「子どもの就寝時間（子ども回答）」との相関関係
 ・子どもの健康状態がよい方が、就寝時間に規則的な傾向がみられる



⑤平日の睡眠時間

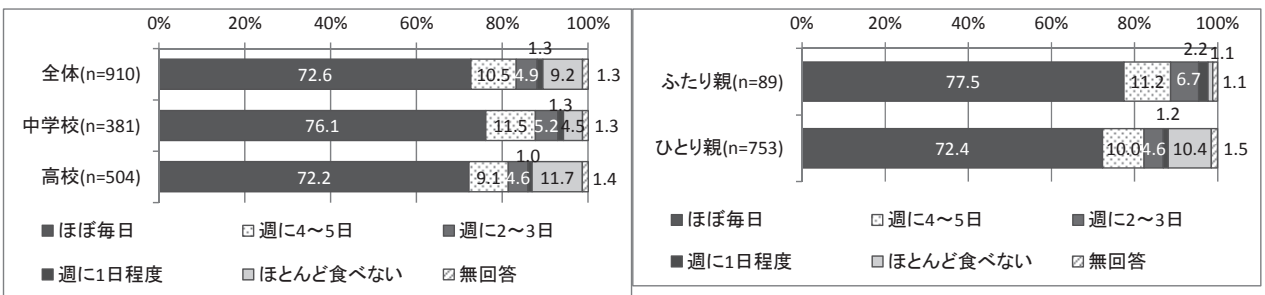
- ・全体では「5～6時間」「6～7時間」がそれぞれほぼ3割を占める。学校による差がみられ、中学生では「6～7時間」が最も多く、高校生では「5～6時間」が4割近くを占めて最も多い。高校生の方が睡眠時間は短い傾向がみられる。
- ・ひとり親世帯は「5～6時間」「6～7時間」がほぼ同程度である。ふたり親世帯に比べ、睡眠時間がやや短い傾向がみられる。



(2) 食生活

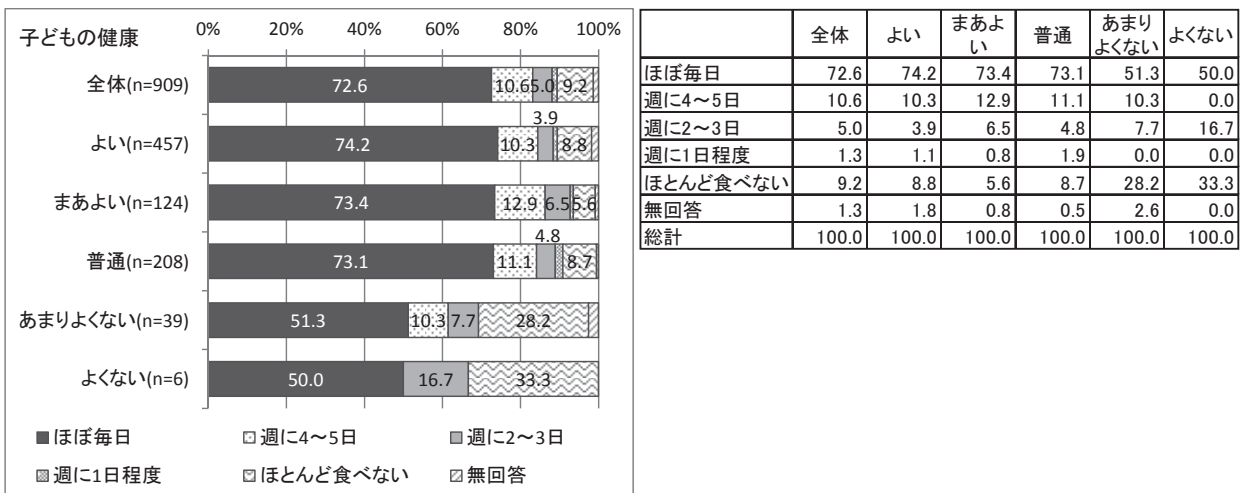
①-1 週にどれくらい朝食を食べるか

- ・全体では「ほぼ毎日」が7割強を占める。高校生は「ほとんど食べない」が1割を超えており、中学生と差がみられる。
- ・ひとり親世帯では「ほぼ毎日」がやや少なく、「ほとんど食べない」が1割を超えており、差がみられる。



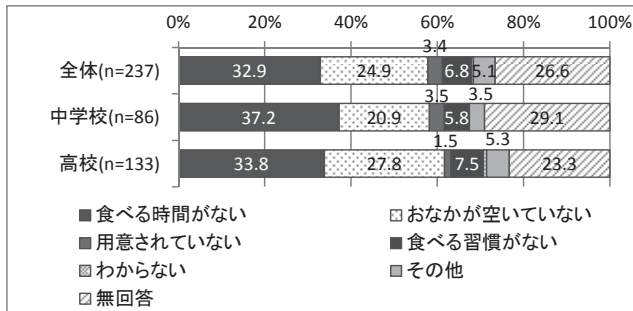
◆「子どもの健康状況（保護者回答）」と「朝食を食べる頻度（子ども回答）」との相関関係

- ・子どもの健康状態が「よい」「まあよい」「普通」と、「あまりよくない」「よくない」では朝食を食べる頻度の違いが大きい。健康状態がよくない方が朝食を食べる頻度が少ない傾向がみられる。

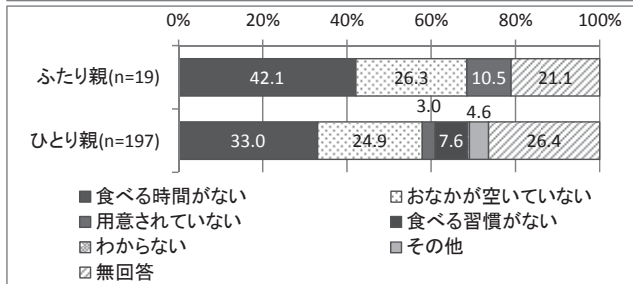


①-2 朝食を食べるのが「ほぼ毎日」ではない理由

- ・全体では「食べる時間がない」が3割を超えて最も多く、中学生では4割弱である。次いで「おなかが空いていない」が2割強で続き、高校生では3割弱である。
- ・ふたり親世帯では「食べる時間がない」が4割を超え、「用意されていない」はふたり世帯の方が多く、「食べる習慣がない」はひとり親世帯で1割弱の回答があった。



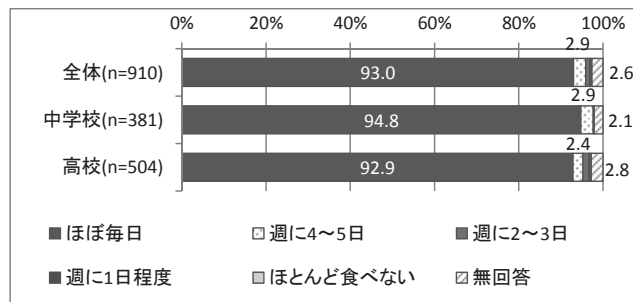
	全体	中学校	高校
食べる時間がない	32.9	37.2	33.8
おなかが空いていない	24.9	20.9	27.8
用意されていない	3.4	3.5	1.5
食べる習慣がない	6.8	5.8	7.5
わからない	5.1	5.3	5.3
無回答	26.6	29.1	23.3
計	100.0	100.0	100.0



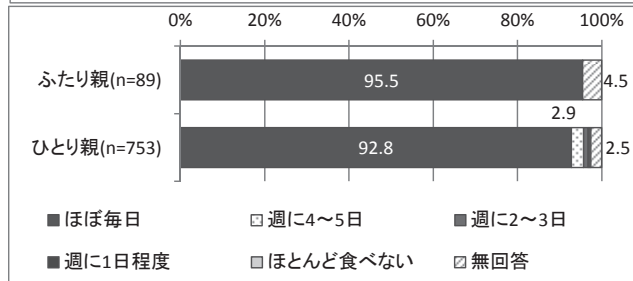
	ふたり親	ひとり親
食べる時間がない	42.1	33.0
おなかが空いていない	26.3	24.9
用意されていない	10.5	3.0
食べる習慣がない	0.0	7.6
わからない	0.0	0.5
その他	0.0	4.6
無回答	21.1	26.4
計	100.0	100.0

②-1 週にどれくらい夕食を食べるか

- ・全体では「ほぼ毎日」が9割を超え、大部分を占める。学校や家族構成による差は小さいが、どちらかと言えば学校別では高校生の方が、家族構成ではひとり親世帯の方が、食べる回数は少ない傾向がみられる。

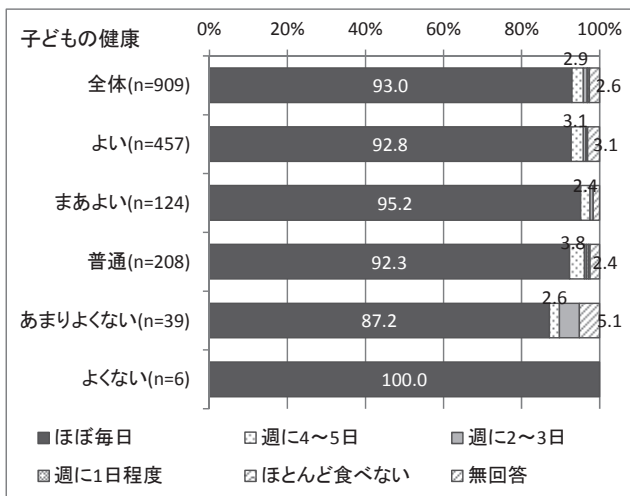


	全体	中学校	高校
ほぼ毎日	93.0	94.8	92.9
週に4~5日	2.9	2.9	2.4
週に2~3日	1.0	0.0	1.4
週に1日程度	0.2	0.0	0.2
ほとんど食べない	0.3	0.3	0.4
無回答	2.6	2.1	2.8
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
ほぼ毎日	95.5	92.8
週に4~5日	0.0	2.9
週に2~3日	0.0	1.1
週に1日程度	0.0	0.3
ほとんど食べない	0.0	0.4
無回答	4.5	2.5
計	100.0	100.0

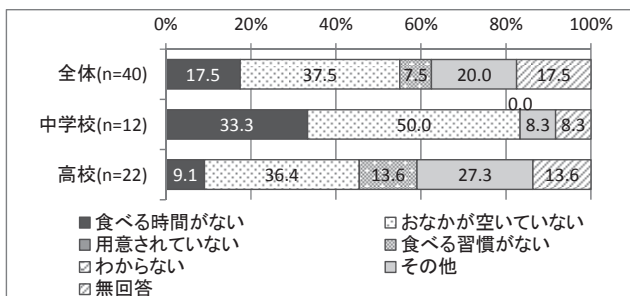
◆「子どもの健康状況（保護者回答）」と「夕食を食べる頻度（子ども回答）」との相関関係
 ・子どもの健康状態が「あまりよくない」では夕食を「毎日」食べる割合が少ない。



	全体	よい	まあよい	普通	あまりよくない	よくない
ほぼ毎日	93.0	92.8	95.2	92.3	87.2	100.0
週に4~5日	2.9	3.1	2.4	3.8	2.6	0.0
週に2~3日	1.0	0.7	0.8	0.5	5.1	0.0
週に1日程度	0.2	0.2	0.0	0.5	0.0	0.0
ほとんど食べない	0.3	0.2	0.0	0.5	0.0	0.0
無回答	2.6	3.1	1.6	2.4	5.1	0.0
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②-2 夕食を食べるのが「ほぼ毎日」ではない理由

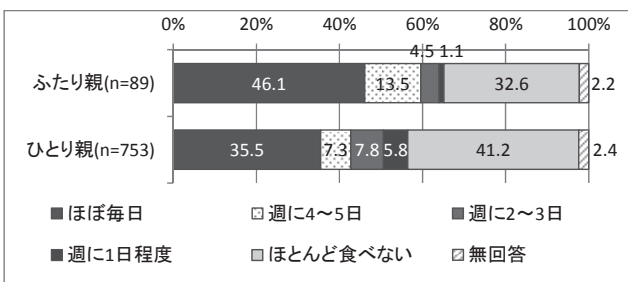
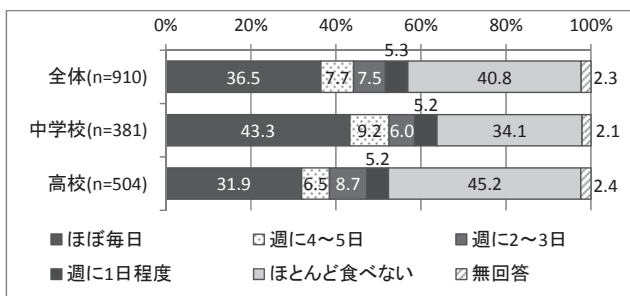
- ・全体では「おなかが空いていない」が4割弱で最も多く、「その他」「食べる時間がない」が続いている。中学生と高校生では大きく異なり、中学生では「おなかが空いていない」と「食べる時間がない」で全体の8割を占める。高校生では「おなかが空いていない」が最も多く、「食べる習慣がない」も比較的多い。



	全体	中学校	高校
食べる時間がない	17.5	33.3	9.1
おなかが空いていない	37.5	50.0	36.4
用意されていない	0.0	0.0	0.0
食べる習慣がない	7.5	0.0	13.6
わからない	0.0	0.0	0.0
その他	20.0	8.3	27.3
無回答	17.5	8.3	13.6
計	100.0	100.0	100.0

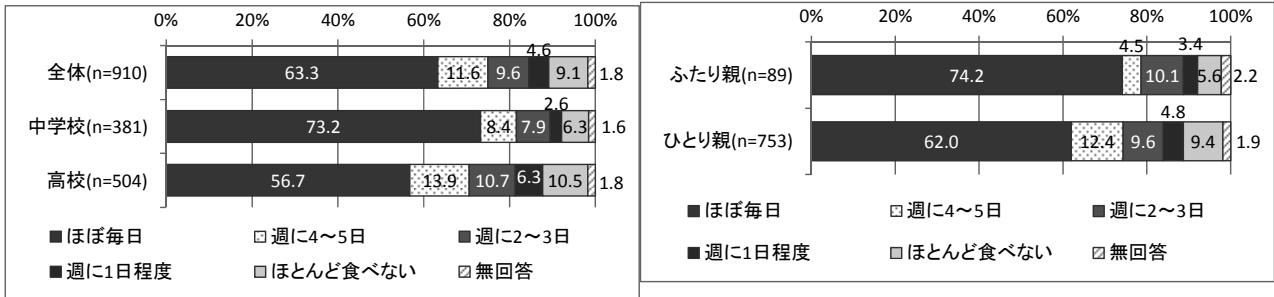
③ 週にどのくらい保護者と一緒に朝食を食べるか

- ・全体では「ほとんど食べない」が4割を超えて最も多く、「ほぼ毎日」を上回っている。学校別でみると中学生と高校生は「ほぼ毎日」と「ほとんど食べない」が逆転しており、差がみられる。
- ・ひとり親世帯は「ほとんど食べない」が4割を超え、「ほぼ毎日」を上回る。



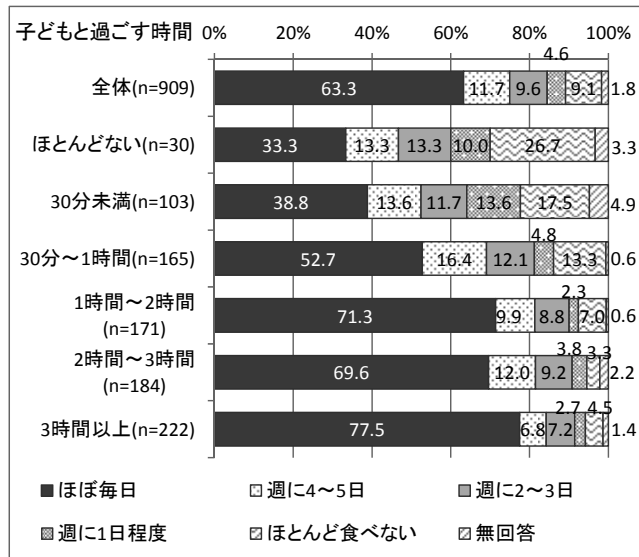
④ 週にどのくらい保護者と一緒に夕食を食べるか

- ・全体では「ほぼ毎日」が6割を超えており、中学生では7割を超えるが、高校生は6割を下回る。
- ・ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ「ほぼ毎日」が少なく、一緒に夕食を食べる頻度は相対的に少なくなっている。



◆ 「子どもと過ごす時間 (保護者回答)」と「夕食を食べる頻度 (子ども回答)」との相関関係

- ・子どもと過ごす時間別では、過ごす時間が短いほど一緒に食べる回数が少なくなる傾向がみられる。

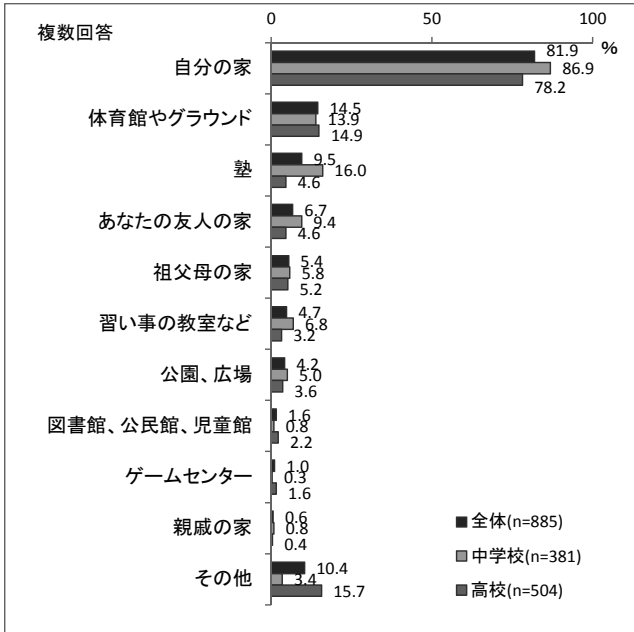


3. 放課後の過ごし方

(1) 放課後の居場所など

① 学校が終わってから夕食までの間、主にどこで過ごすか

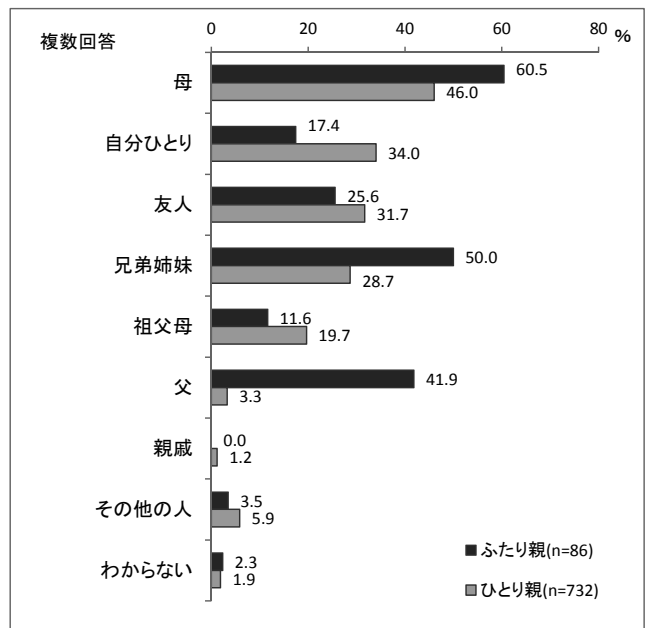
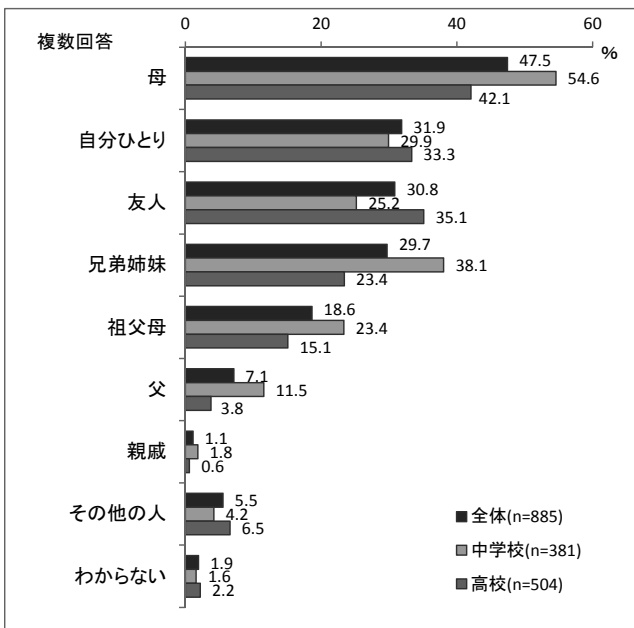
- ・全体では「自分の家」が8割を超え、学校による割合の差はあるものの、他の場所に比べて圧倒的に多い。「塾」は中学生が高校生を上回り、差が大きい。



* この項は、中学・高校に通う子どもに対する質問のため、全体の母数は885である。

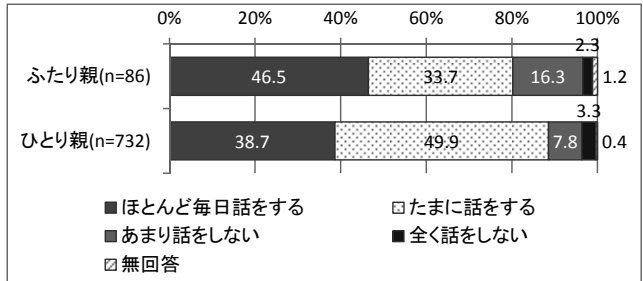
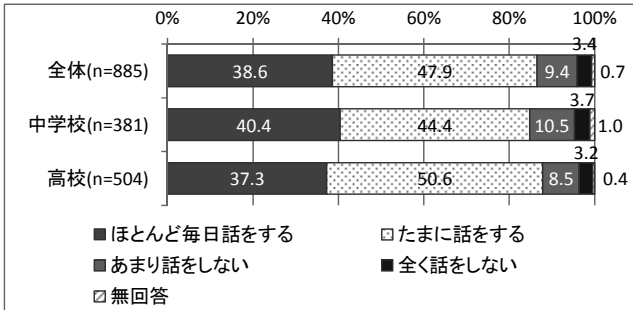
② 学校が終わってから夕食までの間、主に誰と過ごすか

- ・全体では、「母」が5割弱を占めて最も多く、「自分ひとり」「友人」「兄弟姉妹」が3割前後で続いている。学校別にみると、中学生は高校生に比べ、「母」「兄弟姉妹」「祖父母」「父」といった家族の割合が多い。
- ・ひとり親世帯とふたり親世帯の差が大きく、ひとり親世帯では「自分ひとり」「友人」「祖父母」の割合がふたり親世帯を上回っている。

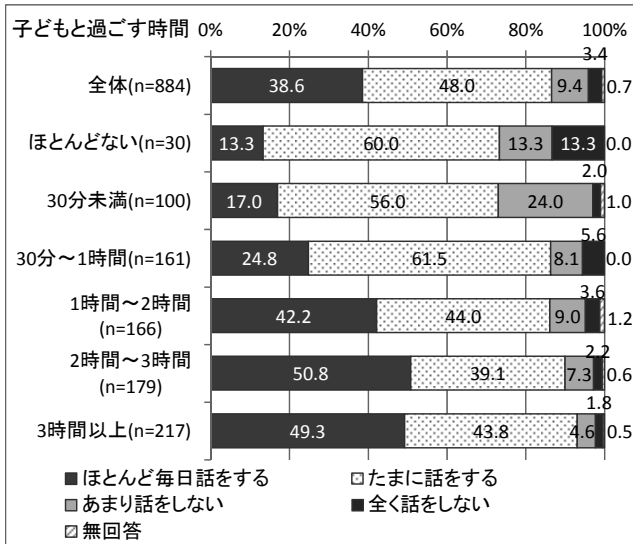


③保護者と学校の出来事話すか

- ・全体では「たまに話をする」が5割弱と多く、次いで「ほとんど毎日話をする」が続いている。学校による差は小さい。
- ・ひとり親世帯は「たまに話をする」がほぼ5割を占め、「ほとんど毎日話をする」が4割弱である。

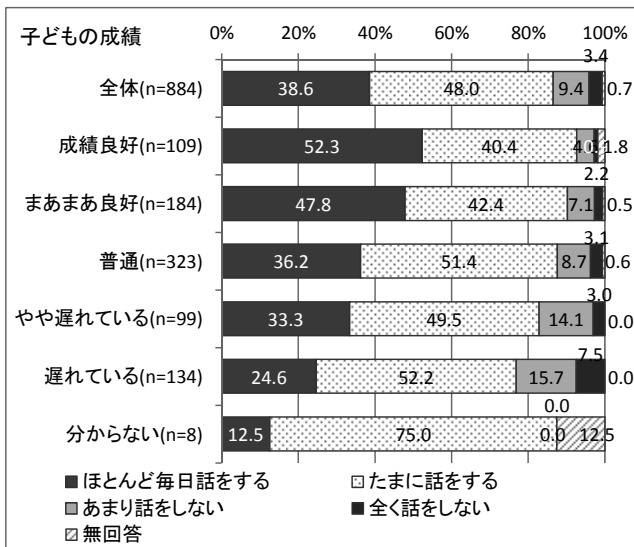


◆「子どもと過ごす時間（保護者回答）」と「保護者との会話の頻度（子ども回答）」との相関関係



- ・子どもと過ごす時間別では、過ごす時間が短いほど、学校の出来事等を話す頻度は少なくなる傾向がみられる。過ごす時間が「ほとんどない」では、「あまり話をしない」「全く話をしない」を合わせると2割を超える。

◆「子どもの成績（保護者回答）」と「保護者との会話の頻度（子ども回答）」との相関関係

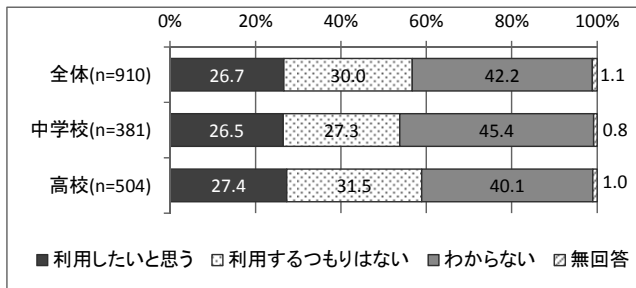


- ・子どもの成績別にみると、成績が良い子どものほうが、保護者と話す頻度は高い傾向がみられる。

(2) ボランティアなどと気を使わずに過ごせる場所の利用意向

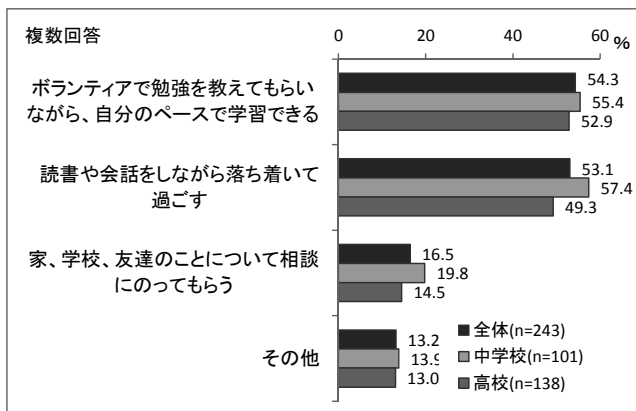
①気を使わずに過ごせる場所があれば利用したいか

- ・全体では「利用したいと思う」は3割弱を占める。一方、「利用するつもりはない」はほぼ3割とやや多い。「わからない」が4割強を占める。学年による差は小さい。



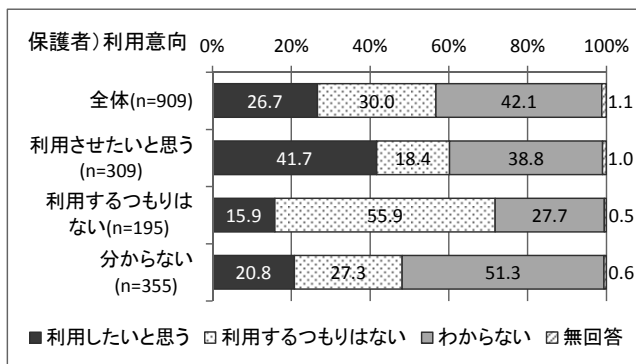
②その場所でどのようなことができればよいか

- ・全体では「ボランティアで勉強を教えてもらいながら、自分のペースで学習できる」「読書や会話をしながら落ち着いて過ごす」が5割強である。
- ・中学生の方が「読書や会話をしながら落ち着いて過ごす」の回答が多い。



◆「保護者の利用意向（保護者回答）」と「子どもの利用意向（子ども回答）」との相関関係

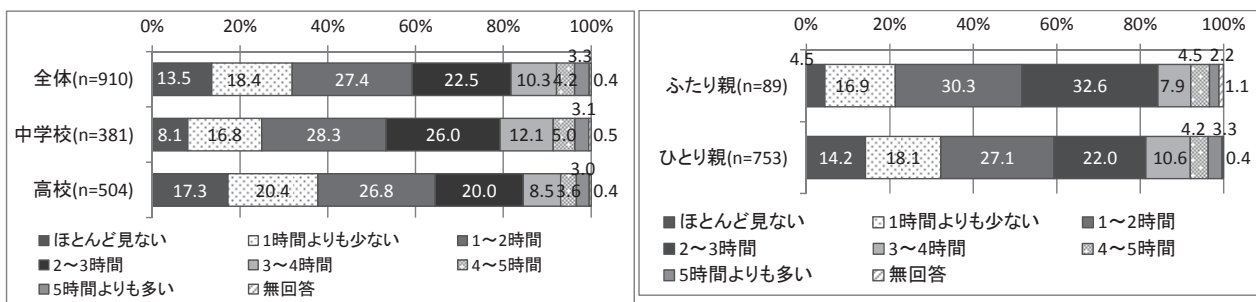
- ・保護者が「利用させたい」では、子どもの方も「利用したいと思う」割合は4割を超えて多い。保護者が「利用させるつもりはない」「分からない」でも、1割から2割の子どもは「利用したいと思う」と回答している。



(3) テレビやゲームなどをする時間

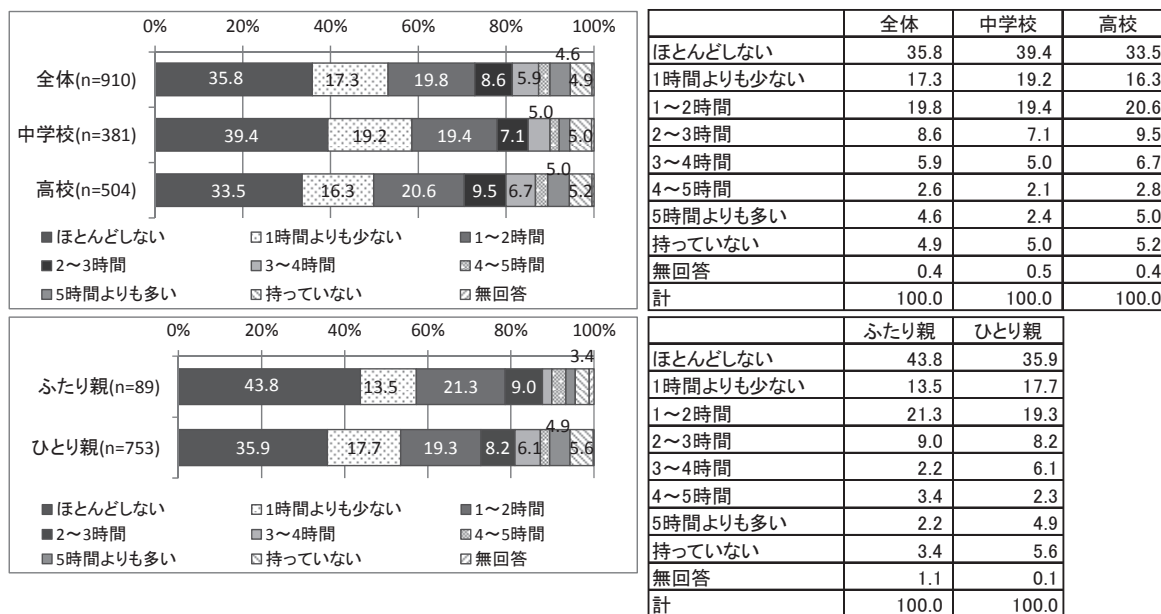
①平日に1日何時間くらいテレビを見るか

- ・全体では「1～2時間」が3割弱で最も多く、次いで「2～3時間」が2割を超えている。中学生は「ほとんど見ない」が1割に届かないが、高校生では2割弱である。中学生の方が相対的にみる時間が長い。
- ・ひとり親世帯は「ほとんど見ない」「1時間よりも少ない」がふたり親世帯よりも多い。一方で3時間以上見ている割合も多い。

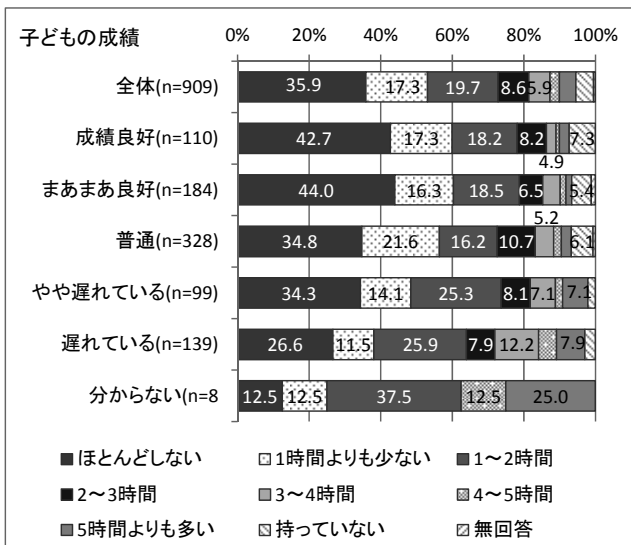


②平日に1日何時間くらいゲームをするか

- ・全体では「ほとんどしない」が3割を超え、最も多い。次いで「1～2時間」と「1時間よりも少ない」が2割弱で続いている。中学生よりも高校生の方がゲームをする時間がやや長い傾向がみられる。
- ・ひとり親世帯では「ほとんどしない」が4割を下回るが、一方で3時間以上ゲームをする割合も高い。

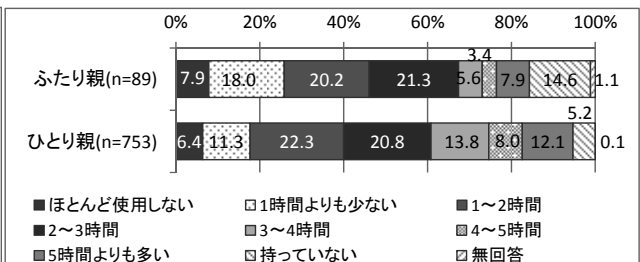
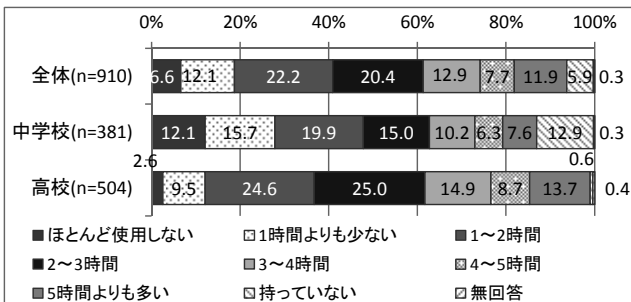


- ◆「子どもの成績（保護者回答）」と「平日のゲームの時間（子ども回答）」との相関関係
- ・成績別では、成績が「良好」「まあまあ良好」以外では、ゲームをする時間は長くなる傾向がみられ、差が大きい。

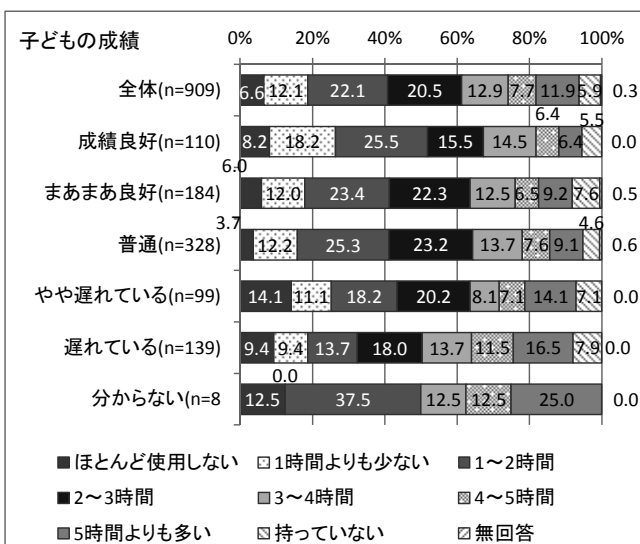


③平日に1日何時間くらい携帯電話（スマートフォンなど）を使用するか

- ・全体では「1~2時間」が2割強で最も多く、次いで「2~3時間」が2割を超えている。中学生は「持っていない」が1割を超える。高校生は「2~3時間」が最も多く、「1~2時間」がほぼ同程度で続いている。高校生の方が時間が長い傾向がみられる。
- ・ふたり親世帯が「持っていない」が1割強である。ひとり親世帯の方が時間が長い傾向がみられる。

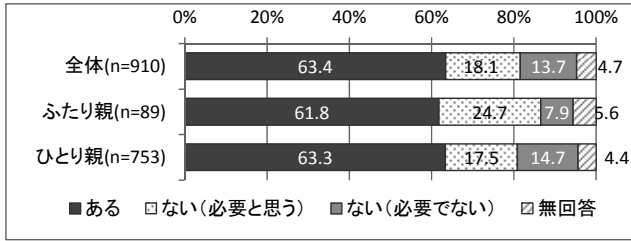


- ◆「子どもの成績（保護者回答）」と「平日の携帯電話の使用時間（子ども回答）」との相関関係
- ・成績別では、「遅れている」では3時間以上使用する割合が4割を超え、他より多い。



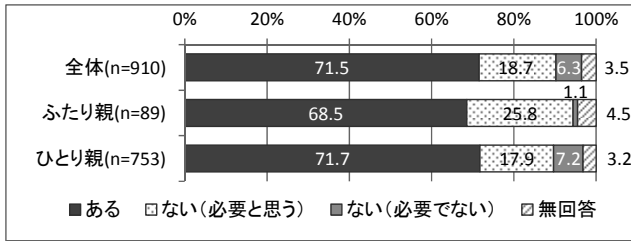
(4) 自分が使うことができるもの

①学習のための本（参考書）



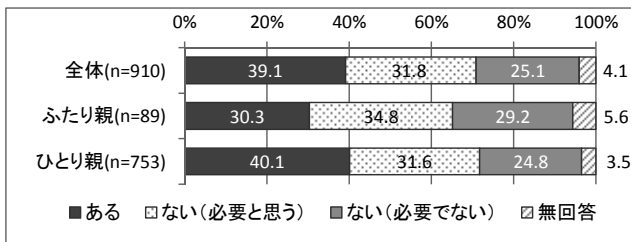
- ・全体では「ある」が6割を超える。
- ・ふたり親世帯では「ない(必要と思う)」が2割を超え、ひとり親世帯よりも多い。

②子ども部屋などの勉強する場所



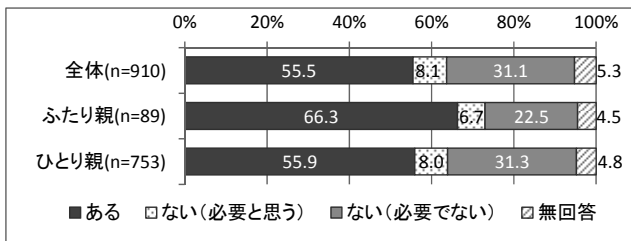
- ・全体では「ある」が7割を超える。
- ・ふたり親世帯では「ない(必要と思う)」が2割を超え、ひとり親世帯よりも多い。

③パソコン



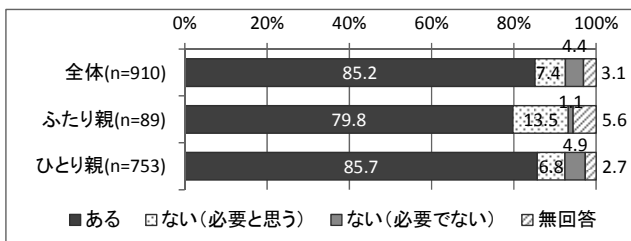
- ・全体では「ある」が4割弱で多く、次いで「ない(必要と思う)」が3割で続いている。
- ・ひとり親世帯の方が「ある」割合が高く、「ない(必要と思う)」はふたり親世帯の方が高い。

④クラブ、部活動などの用具



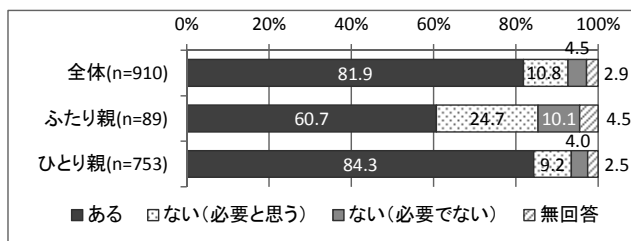
- ・全体では「ある」が5割を超えている。「ない(必要と思う)」は1割弱と少ない。
- ・ひとり親世帯の方が「ある」割合は低い。また「ない(必要でない)」はひとり親世帯の方が多い。

⑤自転車



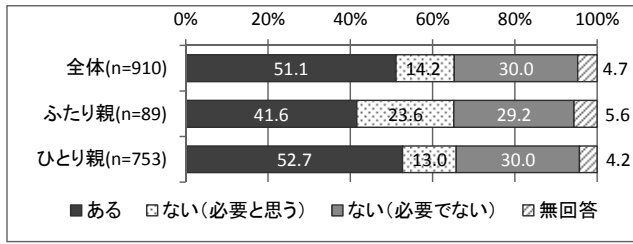
- ・全体では「ある」が8割を超えている。
- ・ふたり親世帯では「ない(必要と思う)」が1割を超え、ひとり親世帯よりも多い。

⑥携帯電話



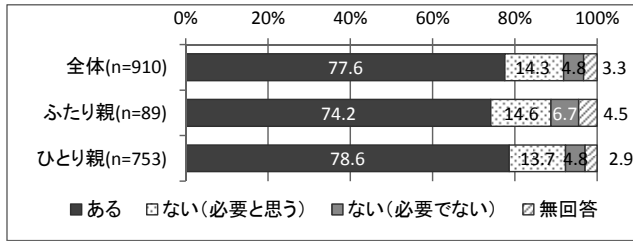
- ・全体では「ある」が8割を超える。
- ・「ある」は、ふたり親世帯がほぼ6割であるのに対し、ひとり親世帯では8割を超え、大きく異なる。

⑦趣味・習い事の道具



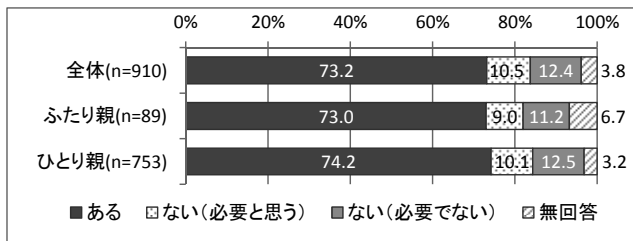
- ・全体では「ある」がほぼ半数である。
- ・ひとり親世帯の方が「ある」割合が高く、「ない(必要と思う)」はふたり親世帯では2割を超えており、ひとり親世帯よりも高い。

⑧自分で選んだ服



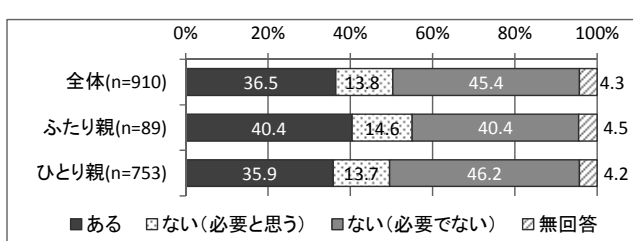
- ・全体では「ある」が8割弱と高い。
- ・ふたり親世帯の方が「ある」割合はやや低い。

⑨テレビ



- ・全体では「ある」が7割を超えている。
- ・ひとり親世帯とふたり親世帯の差は小さい。

⑩ほとんどの友達が持っているゲームなど

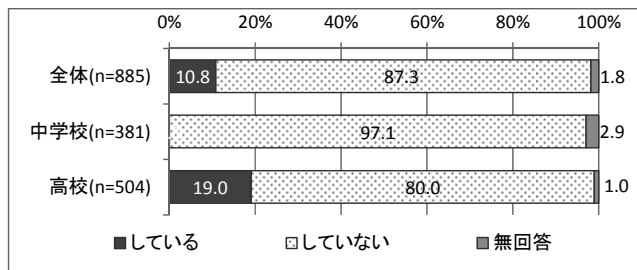


- ・全体では「ない(必要でない)」が4割を超えて最も多い。
- ・ひとり親世帯の方では「ない(必要でない)」の回答が多い。

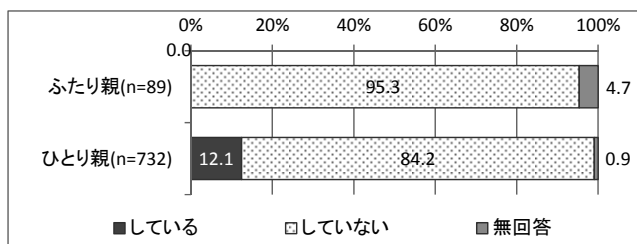
(5) アルバイト

①定期的にアルバイトをしているか

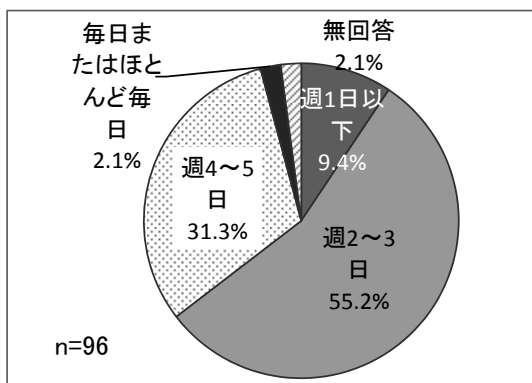
- ・「している」は、高校生では約2割である。
- ・ふたり親世帯では「している」はゼロ、ひとり親世帯では1割強である。



*この問いは、中学・高校に通う子どもに対する質問のため、全体の母数は885である。



②週に何日働いているか

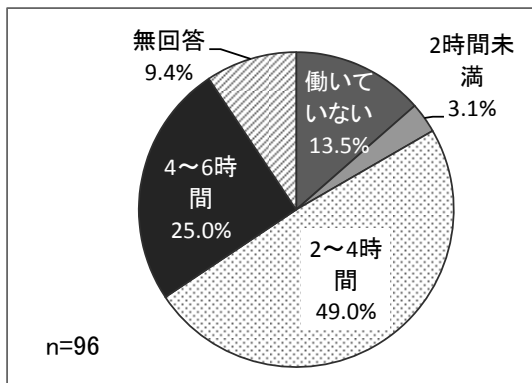


・「週に2~3日」が半数を超えて最も多い。「週4~5日」が3割強、「毎日またはほとんど毎日」もわずかではあるが回答があった。

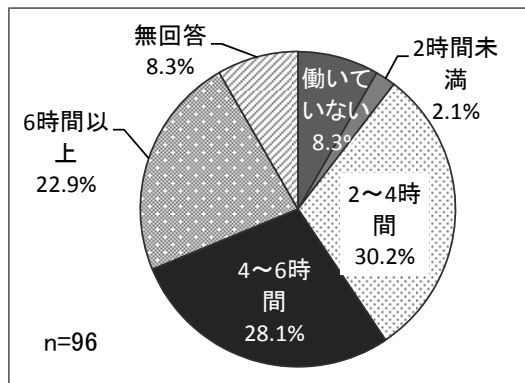
③1日何時間働いているか

- ・平日は「2~4時間」がほぼ半数で最も多いが、「4~6時間」も2割を超えている。
- ・休日は「2~4時間」「4~6時間」がほぼ3割を占め、「6時間以上」も2割を超えている。

【平日】

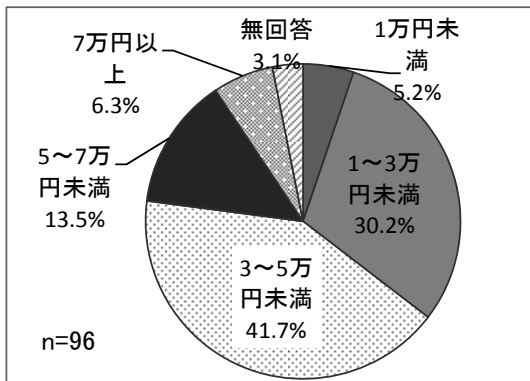


【休日】



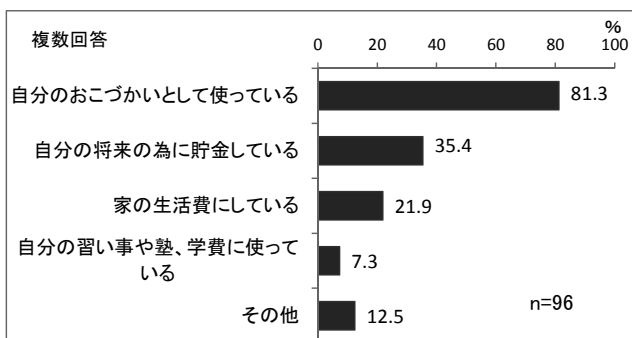
④ 1ヶ月のアルバイト代

- ・「3～5万円未満」が4割強で、次いで「1～3万円未満」がほぼ3割で続いている。「7万円以上」という回答も約6%あった。



⑤ アルバイト代の使い道

- ・「自分のおこづかいとして使っている」が8割を超えて最も多い。「自分の将来の為に貯金している」も3割を超え、「家の生活費に使っている」がほぼ2割である。



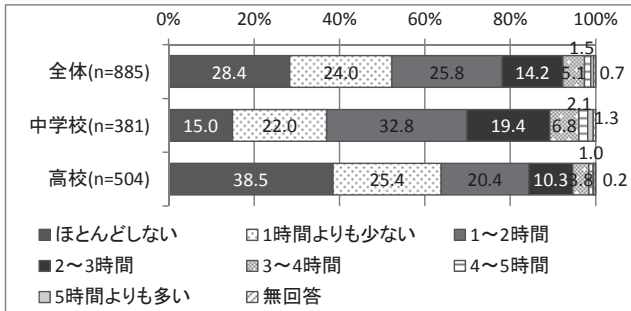
4. 勉強と学校生活

* この項は、中学・高校に通う子どもに対する質問のため、全体の母数は 885 である。

(1) 家庭での勉強・読書

① 平日の勉強時間（学校の授業以外で、塾での勉強時間を含む）

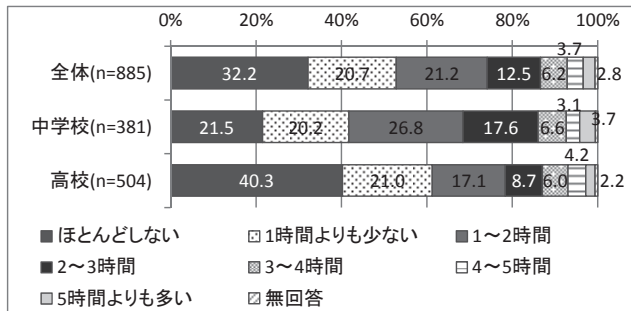
・全体では「ほとんどしない」が最も多く、「1時間よりも少ない」と合わせると5割強にのぼる。中学生と高校生では大きく異なり、高校生は「ほとんどしない」が4割近くを占める。中学生は「1～2時間」が3割を超えて最も多い。



	全体	中学校	高校
ほとんどしない	28.4	15.0	38.5
1時間よりも少ない	24.0	22.0	25.4
1～2時間	25.8	32.8	20.4
2～3時間	14.2	19.4	10.3
3～4時間	5.1	6.8	3.8
4～5時間	1.5	2.1	1.0
5時間よりも多い	0.7	1.3	0.2
無回答	0.5	0.5	0.4
計	100.0	100.0	100.0

② 土日祝日の勉強時間（塾での勉強時間を含む）

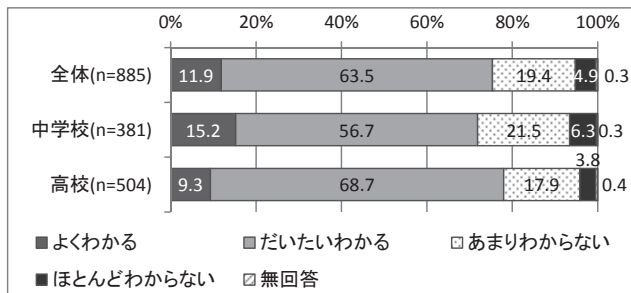
・全体では「ほとんどしない」が3割を超えて最も多い。「1～2時間」「1時間よりも少ない」がほぼ2割で続いている。中学生と高校生では大きく異なり、高校生は「ほとんどしない」がほぼ4割を占める。中学生は「1～2時間」が2割を超えて最も多い。



	全体	中学校	高校
ほとんどしない	32.2	21.5	40.3
1時間よりも少ない	20.7	20.2	21.0
1～2時間	21.2	26.8	17.1
2～3時間	12.5	17.6	8.7
3～4時間	6.2	6.6	6.0
4～5時間	3.7	3.1	4.2
5時間よりも多い	2.8	3.7	2.2
無回答	0.6	0.5	0.6
計	100.0	100.0	100.0

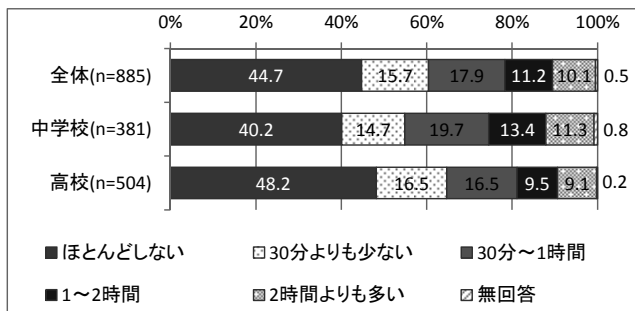
③ 学校の勉強がよくわかるか

・全体では「だいたいわかる」が6割を超えて最も多く、「よくわかる」は1割強である。中学生と高校生では差がみられる。中学生は「よくわかる」は1割を超えている一方、「あまりわからない」もほぼ2割の回答があり、「ほとんどわからない」と合わせると3割近くとなる。



④週にどれくらい読書をするか（マンガや雑誌を除く）

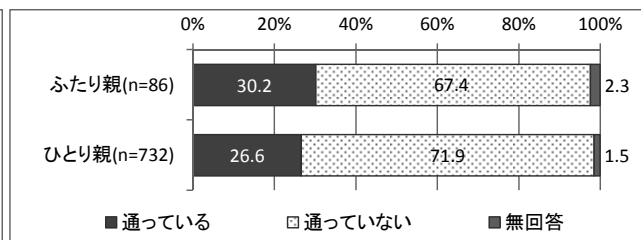
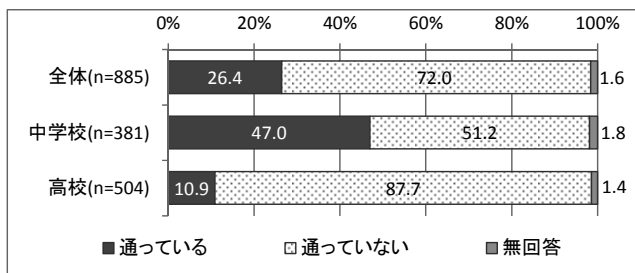
- ・全体では「ほとんどしない」が4割を超えて最も多く、「30分よりも少ない」と合わせる とほぼ6割である。高校生の方が「ほとんどしない」の割合が高く、差がみられる。



(2) 塾やスポーツクラブ、習い事

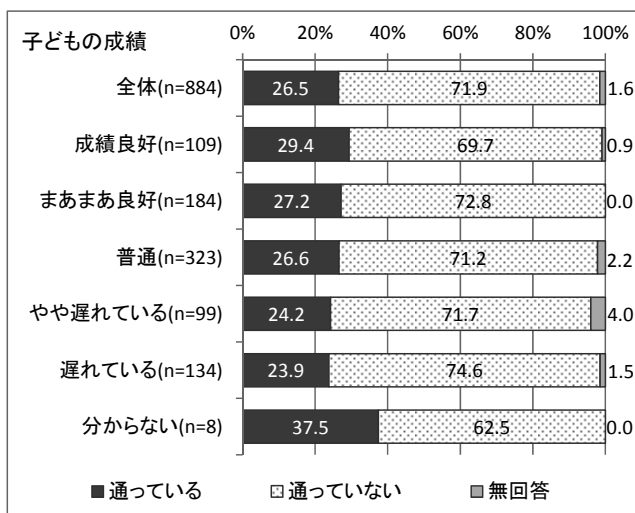
①-1 塾（家庭教師や通信制の家庭学習教材を含む）に通っているか

- ・全体では「通っている」は、ほぼ1/4を占める。学校による差が大きく、中学生は半数近くが「通っている」。高校生では「通っている」は1割にとどまる。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯ではふたり親世帯の方が「通っている」割合がわずかに高い。



◆「子どもの成績（保護者回答）」と「塾等に通っているか（子ども回答）」との相関関係

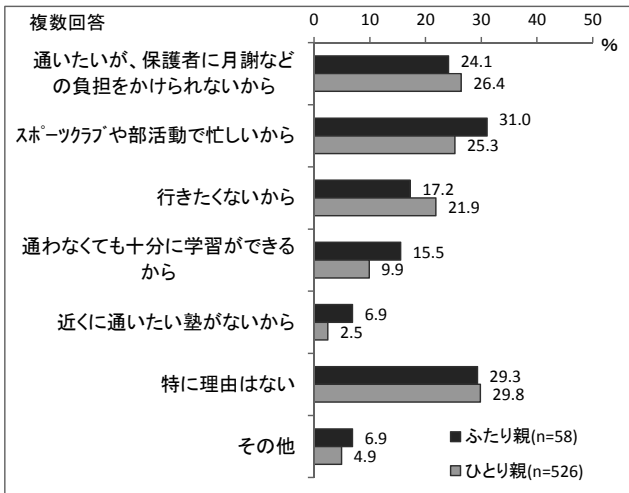
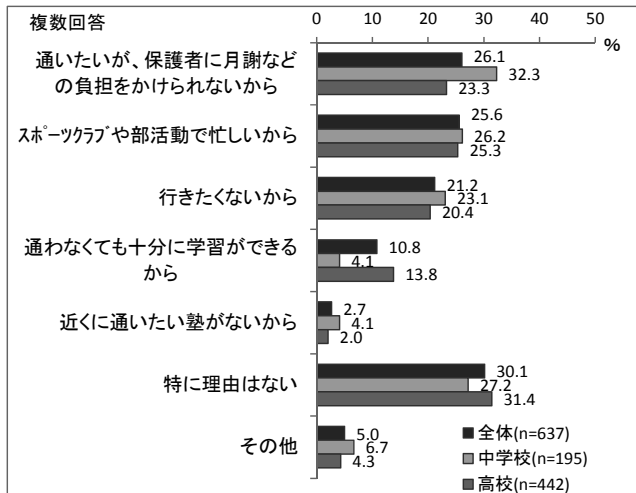
- ・成績別にみると、「良好」では3割近くが「通っている」が、「遅れている」では2割強にとどまる。成績が良いほど、通っている割合がわずかに高い傾向がみられる。



* 保護者の回答があった子ども回答票が対象となり、総数は909。このうち、学校に通っている子どもの総数は884。

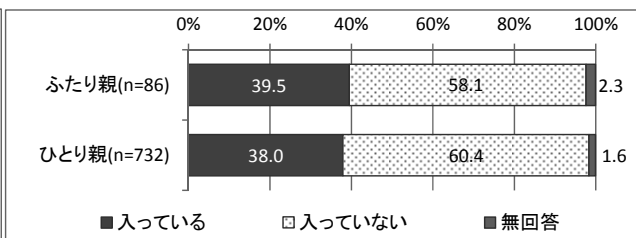
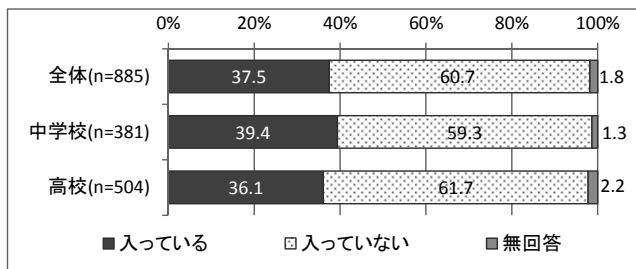
①-2 塾に通っていない理由

- ・全体では「特に理由はない」が最も多く、次いで「通いたいが、保護者に月謝などの負担をかけられないから」（以下、「負担をかけられないから」と「スポーツクラブや部活動で忙しいから」の回答が多い。中学生では「負担をかけられないから」が3割を超え、高校生とは差がみられる。
- ・ふたり親世帯では「スポーツクラブや部活動で忙しいから」が最も多く、ひとり親世帯と差がみられる。



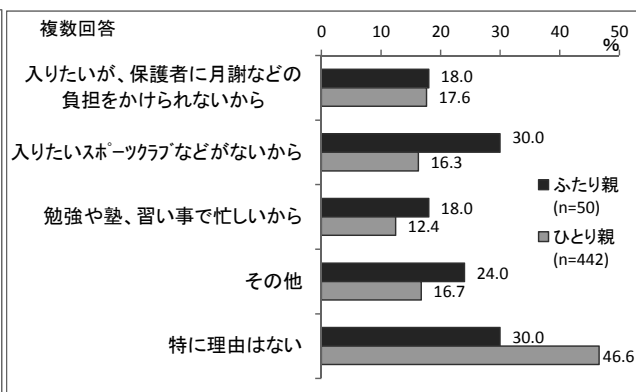
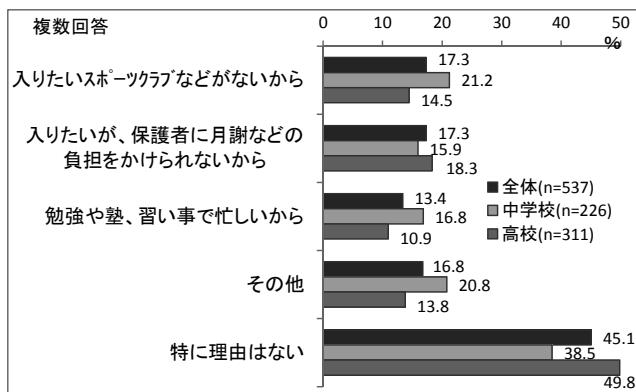
②-1 スポーツクラブ（学校の部活動外の球技や水泳、ダンスなど）や部活動に入っているか

- ・全体では「入っている」が4割弱である。中学生が高校生よりやや多いが差は小さい。
- ・ふたり親とひとり親の別でも差は小さい。



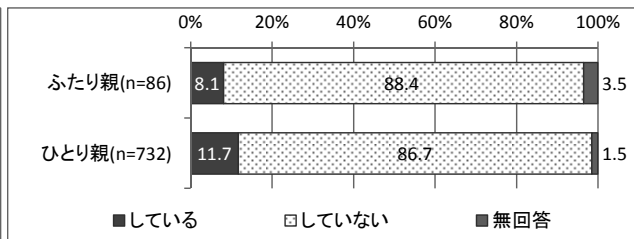
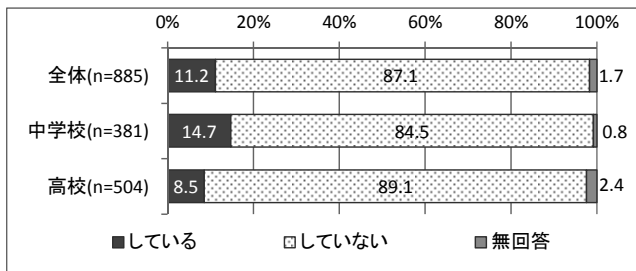
②-2 スポーツクラブや部活動に入っていない理由

- ・全体では「特に理由がない」が4割を超えて最も多い。中学生では2番目に多いのは「入りたいスポーツクラブなどが無いから」であるが、高校生では「負担をかけられないから」が2番目に多く、差がみられる。
- ・ふたり親世帯では「入りたいスポーツクラブなどが無いから」と「特に理由はない」が3割で多い。ひとり親世帯では「特に理由はない」が4割を超えており、差がみられる。



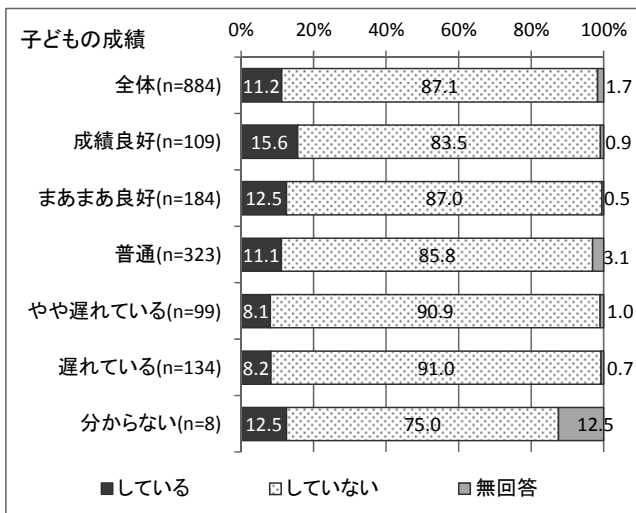
③-1 習い事（習字やそろばん、ピアノなど）をしているか

- ・全体では「している」は、ほぼ1割である。中学生の方が「している」割合は高い。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では、ひとり親世帯の方が「している」割合がやや高い。



◆「子どもの成績（保護者回答）」と「習い事をしているか（子ども回答）」との相関関係

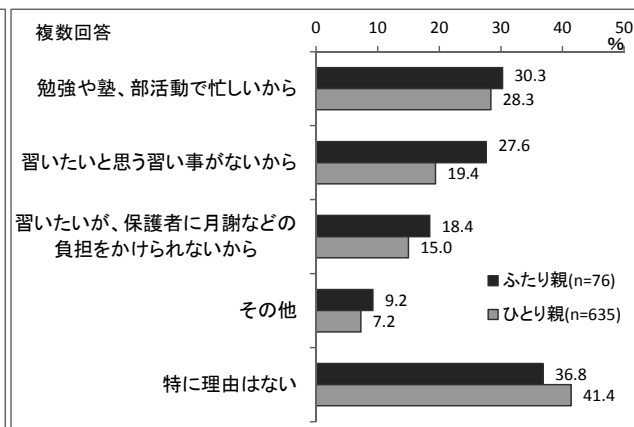
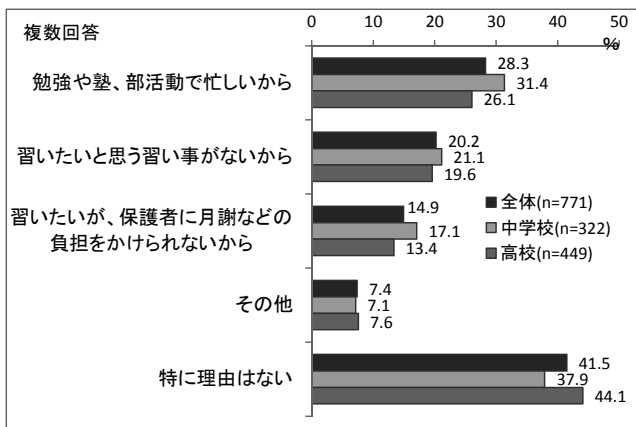
- ・成績別にみると、成績が良いほど「している」割合が高い。しかし、最も割合が高い「成績良好」でも「している」は1割台にとどまる。



* 保護者の回答があった子ども回答票が対象となり、総数は909。このうち、学校に通っている子どもの総数は884。

③-2 習い事をしていない理由

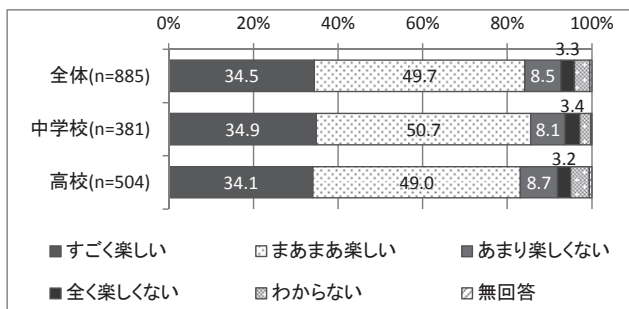
- ・全体では「特に理由がない」が4割を超えて最も多い。次いで「勉強や塾、部活動で忙しいから」が3割弱で続いている。中学生は「勉強や塾、部活動で忙しい」が3割を超えており、高校生に比べると多くなっている。
- ・ふたり親世帯では「習いたいと思う習い事がないから」が3割弱と、ひとり親世帯に比べて多くなっている。



(3) 学校は楽しいか

① 学校は楽しいか

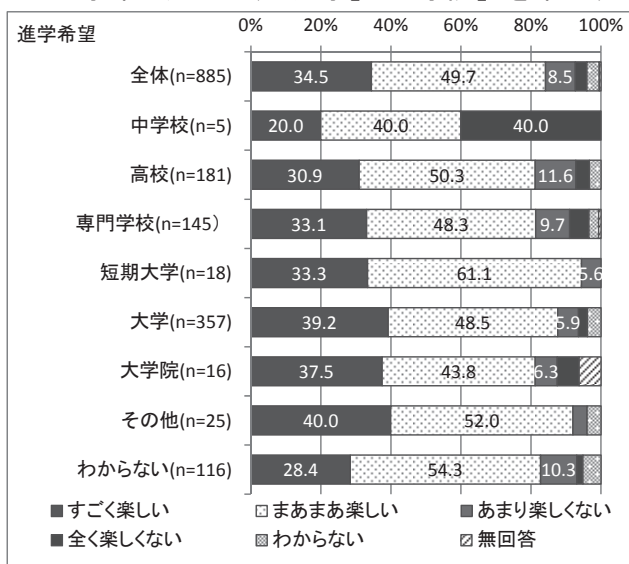
- ・全体では「まあまあ楽しい」がほぼ半数で最も多く、「すごく楽しい」と合わせると8割強となる。「あまり楽しくない」と「全く楽しくない」は合わせて1割強である。中学生と高校生の差は小さい。



	全体	中学校	高校
すごく楽しい	34.5	34.9	34.1
まあまあ楽しい	49.7	50.7	49.0
あまり楽しくない	8.5	8.1	8.7
全く楽しくない	3.3	3.4	3.2
わからない	3.6	2.6	4.4
無回答	0.5	0.3	0.6
計	100.0	100.0	100.0

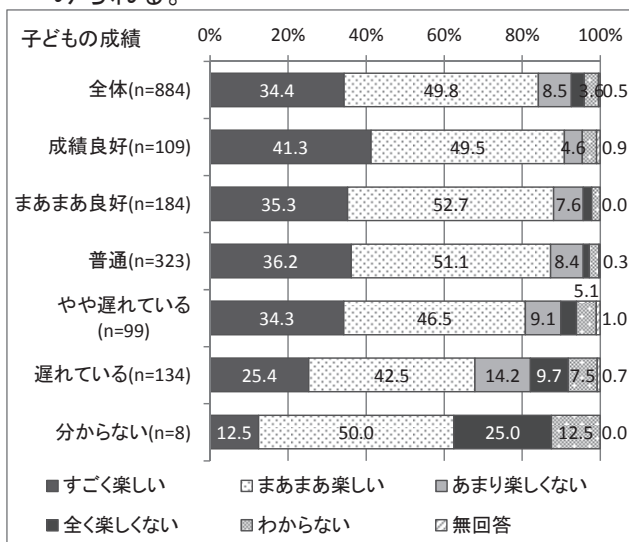
◆ 「進学希望（子ども回答）」と「学校は楽しいか（子ども回答）」との相関関係

- ・進学希望別では、「大学」「大学院」を希望する子どもは、「すごく楽しい」が4割近い。



◆ 「子どもの成績（保護者回答）」と「学校は楽しいか（子ども回答）」との相関関係

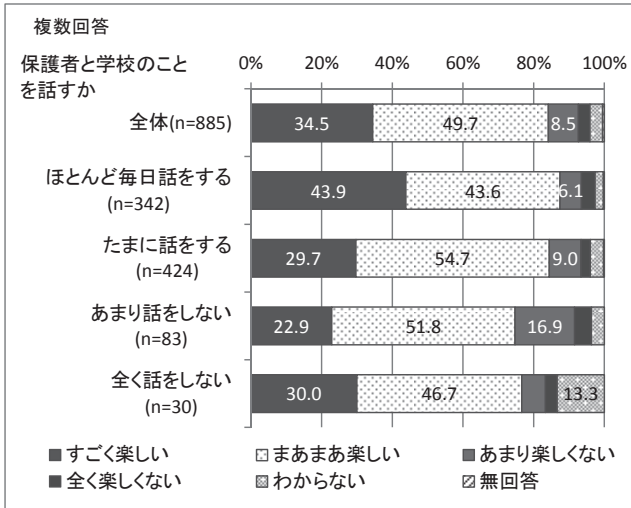
- ・成績別では、成績が遅れるほど「あまり楽しくない」「全く楽しくない」が多くなる傾向がみられる。



* 保護者の回答があった子ども回答票が対象となり、総数は909。このうち、学校に通っている子どもの総数は884。

◆「保護者と学校の話をするか（子ども回答）」と「学校が楽しいか（子ども回答）」との相関関係

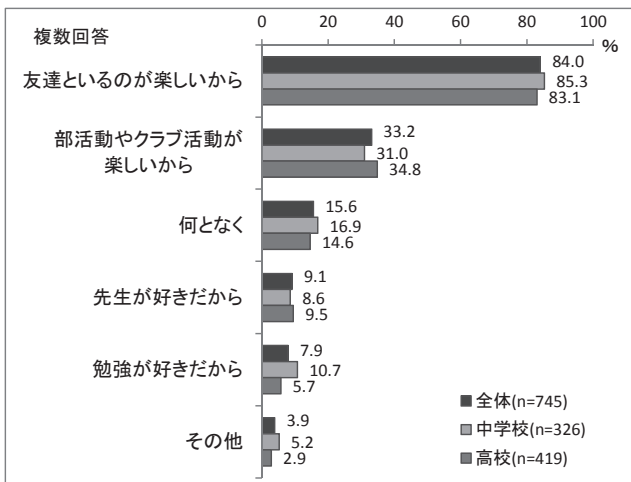
- ・保護者と学校のことを話すかどうかでみると、「ほとんど毎日話をする」子どもは、「すごく楽しい」が4割を超え、他の子どもたちと差がみられる。「あまり話をしない」子どもは、学校が「あまり楽しくない」が1割強と他よりもやや多い。



学校のことを話すか	全体	ほとんど毎日話をする	たまに話をする	あまり話をしない	全く話をしない
すごく楽しい	34.5	43.9	29.7	22.9	30.0
まあまあ楽しい	49.7	43.6	54.7	51.8	46.7
あまり楽しくない	8.5	6.1	9.0	16.9	6.7
全く楽しくない	3.3	3.8	2.6	4.8	3.3
わからない	3.6	2.3	3.8	3.6	13.3
無回答	0.5	0.3	0.2	0.0	0.0
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

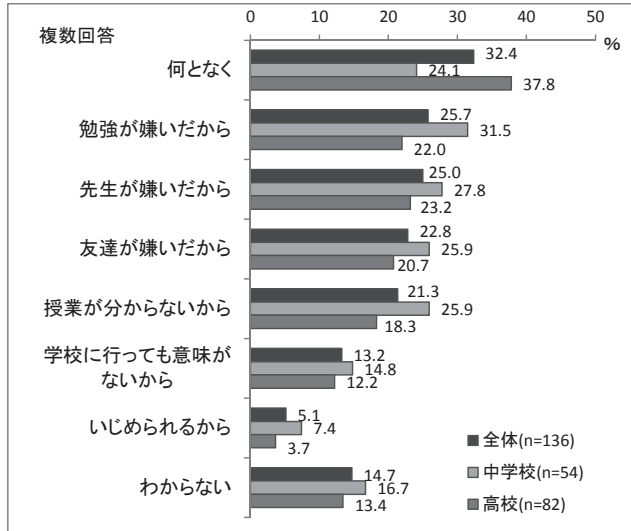
②楽しい理由

- ・全体では「友達といるのが楽しいから」が8割を超えて最も多い。次いで「部活動やクラブ活動が楽しいから」が3割強である。中学生と高校生の差は小さい。



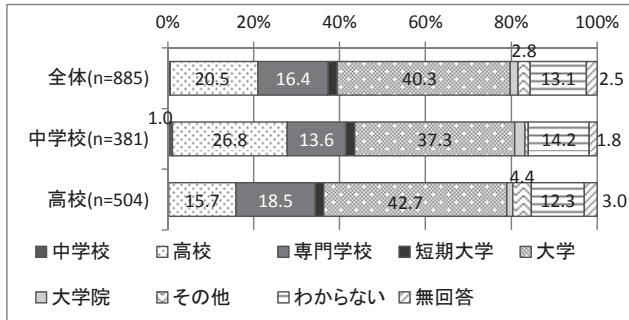
③ 楽しくない理由

- ・全体では「何となく」が3割を超えて最も多く、「勉強が嫌いだから」「先生が嫌いだから」「友達が嫌いだから」「授業が分からないから」が2割台で続いている。高校生は「何となく」の割合が高く、中学生は「勉強が嫌いだから」の割合が一番高い。

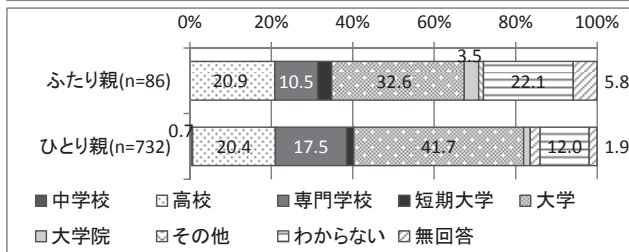


(4) 進学希望 (将来どの学校まで進学したいか)

- ・全体では「大学」がほぼ4割を占めた。中学生は「大学」は4割を下回っているが、高校生は4割を上回っており、差がみられる。高校生では「専門学校」が2割弱と中学生より多い。
- ・ひとり親世帯では「大学」が4割を超えているが、ふたり親世帯では3割強にとどまり、「わからない」の割合が高い。



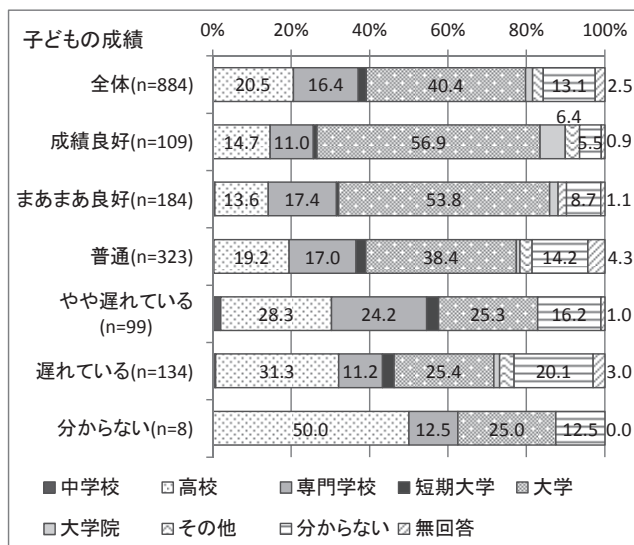
	全体	中学校	高校
中学校	0.6	1.0	0.2
高等学校	20.5	26.8	15.7
専門学校	16.4	13.6	18.5
短期大学	2.0	2.1	2.0
大学	40.3	37.3	42.7
大学院	1.8	2.4	1.4
その他	2.8	0.8	4.4
わからない	13.1	14.2	12.3
無回答	2.5	1.8	3.0
計	100.0	100.0	100.0



	ふたり親	ひとり親
中学校	0.0	0.7
高等学校	20.9	20.4
専門学校	10.5	17.5
短期大学	3.5	1.8
大学	32.6	41.7
大学院	3.5	1.6
その他	1.2	2.5
わからない	22.1	12.0
無回答	5.8	1.9
計	100.0	100.0

◆「子どもの成績（保護者回答）」と「進学希望（子ども回答）」との相関関係

- ・成績別にみると、「成績良好」「まあまあ良好」では「大学」への進学希望が5割を超える。成績が良いほど「大学」への進学希望が高い傾向がみられる。



	全体	成績良好	まあまあ良好	普通	やや遅れている	遅れている	分からない
中学校	0.6	0.0	0.5	0.3	2.0	0.7	0.0
高等学校	20.5	14.7	13.6	19.2	28.3	31.3	50.0
専門学校	16.4	11.0	17.4	17.0	24.2	11.2	12.5
短期大学	2.0	0.9	0.5	2.5	3.0	3.0	0.0
大学	40.4	56.9	53.8	38.4	25.3	25.4	25.0
大学院	1.8	6.4	2.2	0.9	0.0	1.5	0.0
その他	2.7	3.7	2.2	3.1	0.0	3.7	0.0
わからない	13.1	5.5	8.7	14.2	16.2	20.1	12.5
無回答	2.5	0.9	1.1	4.3	1.0	3.0	0.0
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

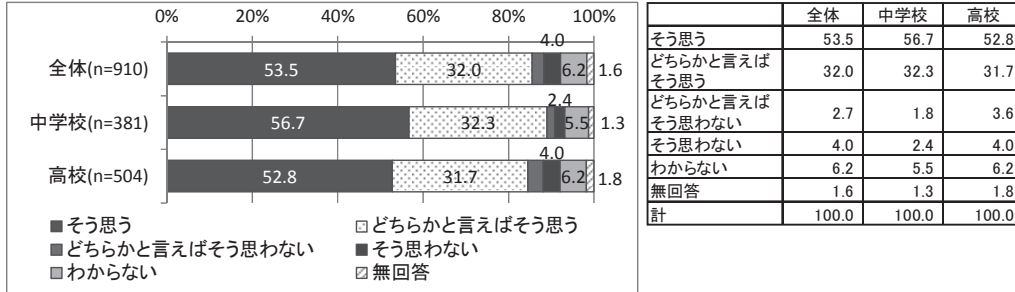
* 保護者の回答があった子ども回答票が対象となり、総数は909。このうち、学校に通っている子どもの総数は884。

5. 将来への希望や悩み事など

(1) 将来の夢・希望など

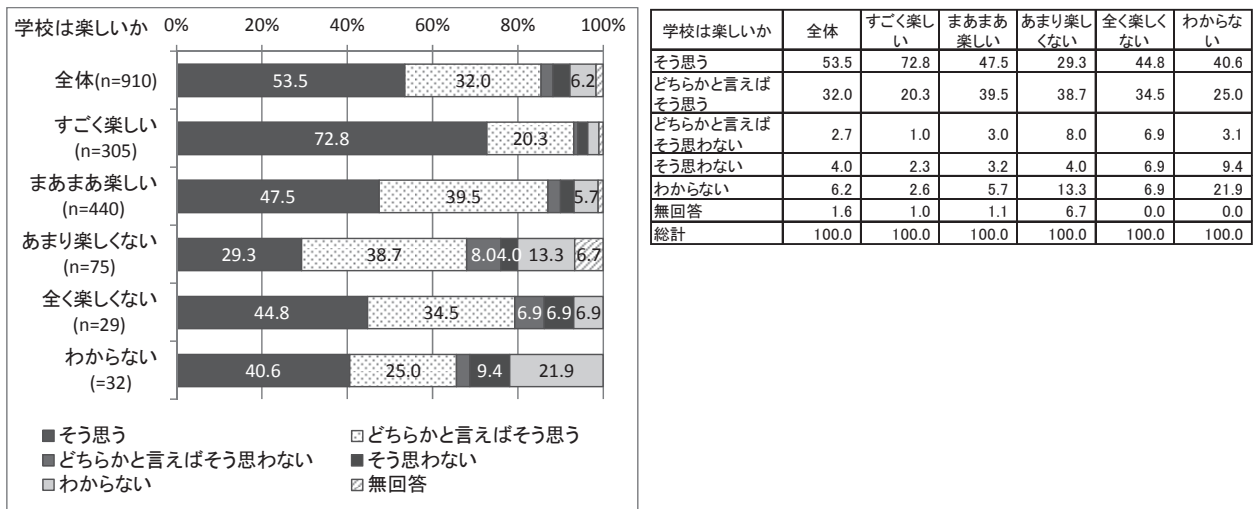
① 将来のためにも、今、勉強やスポーツ・特技を頑張りたいと思うか

- ・全体では、「そう思う」が半数を超え、「どちらかと言えばそう思う」と合わせると8割強となる。高校生の方が「そう思う」がやや少ない。



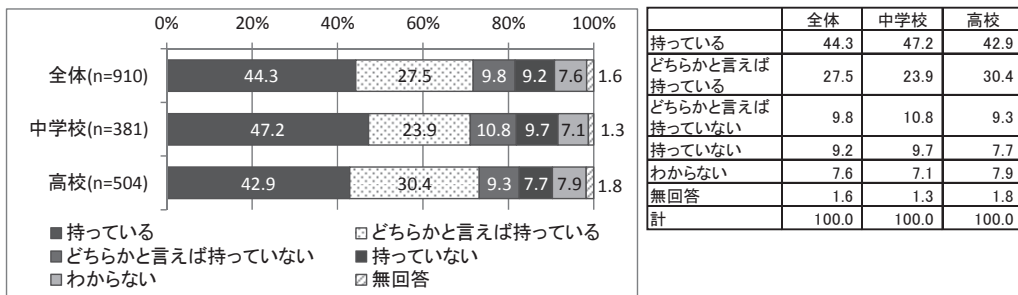
◆ 「学校は楽しいか (子ども回答)」と「将来のため今頑張りたいか (子ども回答)」との関係

- ・学校は楽しいかどうか別にみると、「すごく楽しい」という子どもは、「そう思う」割合が7割を超えている。楽しいと感じている子どもの方が「そう思う」傾向が高い。一方、「全く楽しくない」という子どもも半数近くが「そう思う」と回答している

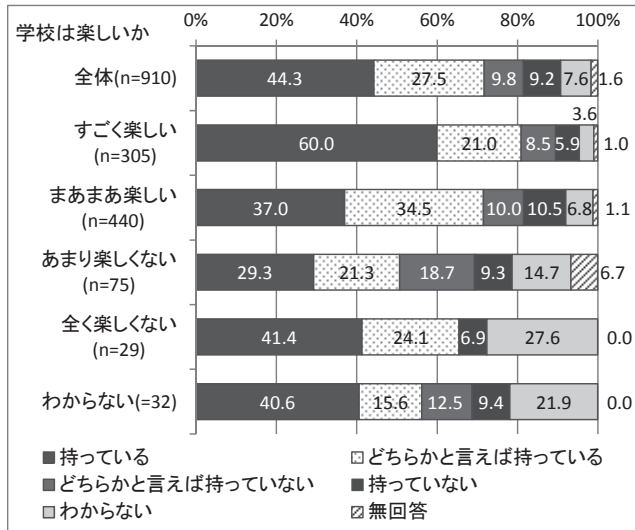


② 将来の夢・希望や目標を持っているか

- ・全体では「持っている」が4割を超え、「どちらかと言えば持っている」と合わせると7割を超える。高校生の方が「持っている」はやや少ない。

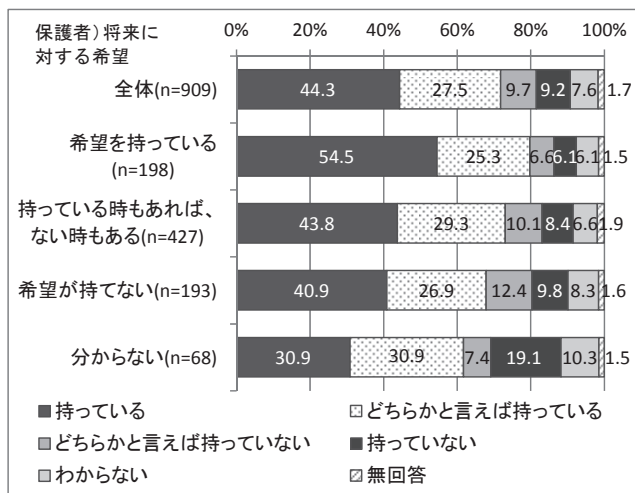


- ◆ 「学校は楽しいか（子ども回答）」と「夢や希望を持っているか（子ども回答）」との相関関係
 - ・ 学校は楽しいかどうか別にみると、「すごく楽しい」という子どもは、「（夢や希望を）持っている」割合が6割と高い。楽しいと感じている子どもの方が「持っている」傾向が高い。
 - 一方、「全く楽しくない」という子どもも半数近くが「持っている」と回答している。



学校は楽しいか	全体	すごく楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	全く楽しくない	わからない
持っている	44.3	60.0	37.0	29.3	41.4	40.6
どちらかと言えば持っている	27.5	21.0	34.5	21.3	24.1	15.6
持っている	9.8	8.5	10.0	18.7	0.0	12.5
持っていない	9.2	5.9	10.5	9.3	6.9	9.4
わからない	7.6	3.6	6.8	14.7	27.6	21.9
無回答	1.6	1.0	1.1	6.7	0.0	0.0
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

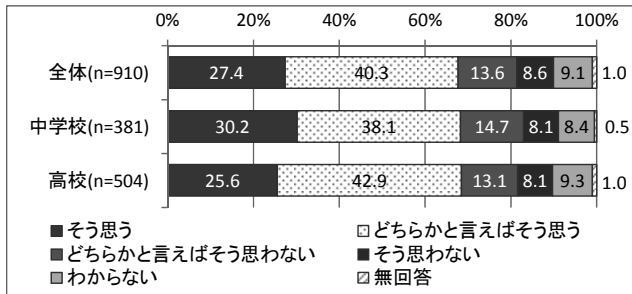
- ◆ 「夢や希望を持っているか（保護者回答）」と「夢や希望を持っているか（子ども回答）」との相関関係
 - ・ 保護者自身が「希望をもっている」ほど、子どもも将来の夢や希望を「持っている」割合が高い傾向がみられる。保護者が「分からない」と回答した世帯の子どもは「持っている」「どちらかと言えば持っている」を合わせても6割にとどまる。



	全体	希望を 持っている	持っている 時もあ れば、な い時もある	希望が持 てない	分からな い
持っている	44.3	54.5	43.8	40.9	30.9
どちらかと言えば 持っている	27.5	25.3	29.3	26.9	30.9
持っている	9.7	6.6	10.1	12.4	7.4
持っていない	9.2	6.1	8.4	9.8	19.1
わからない	7.6	6.1	6.6	8.3	10.3
無回答	1.7	1.5	1.9	1.6	1.5
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

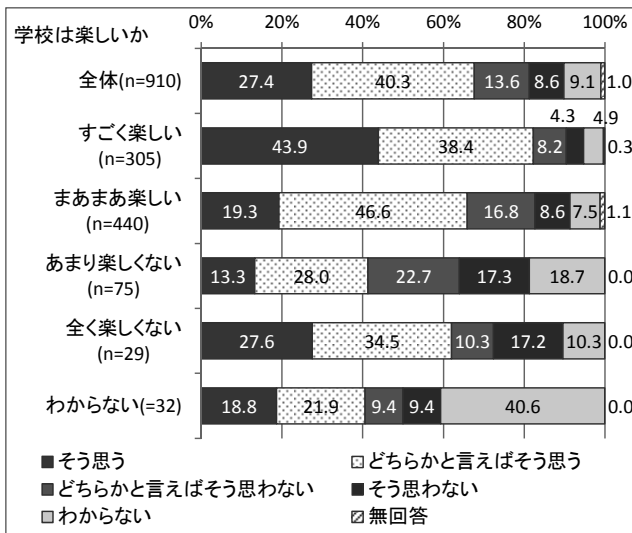
③難しいことでも失敗を恐れず何かに挑戦したいか

- ・全体では「そう思う」が3割弱にとどまり、「どちらかと言えばそう思う」がほぼ4割である。「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」を合わせると2割を超える。高校生の方が「そう思う」はやや少ないが、「どちらかと言えばそう思う」との合計は学校による差はほとんどない。



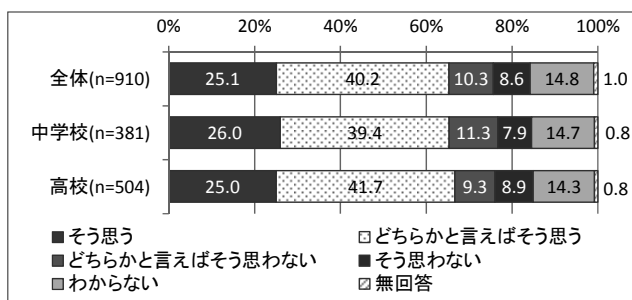
◆「学校は楽しいか（子ども回答）」と「失敗を恐れず挑戦したいか（子ども回答）」との相関関係

- ・学校は楽しいかどうか別にみると「すごく楽しい」子どもは「そう思う」が4割を超えている。

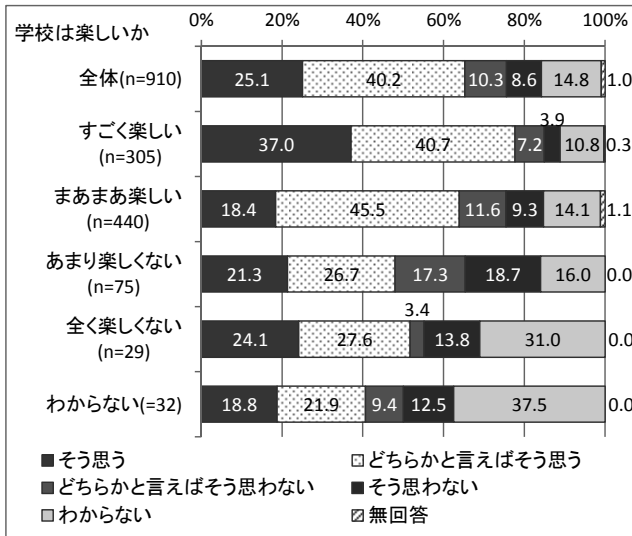


④自分には良いところがあると思うか

- ・全体では「そう思う」が2割強にとどまり、「どちらかと言えばそう思う」がほぼ4割である。学校による差はほとんどない。



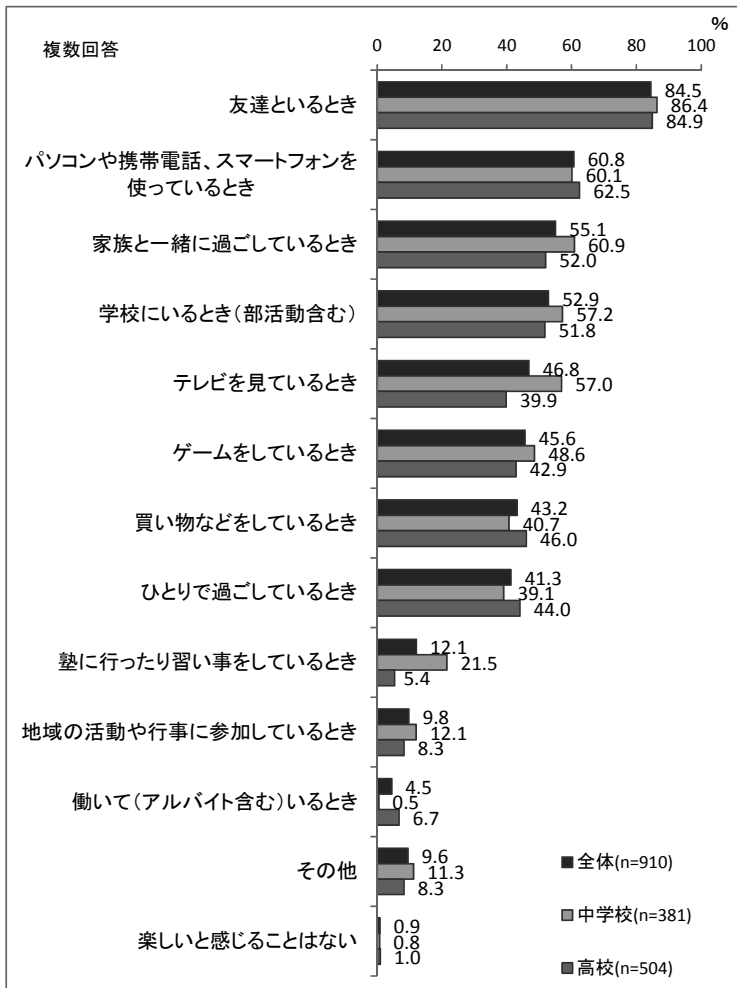
◆「学校は楽しいか（子ども回答）」と「自分には良いところがあると思うか（子ども回答）」との相関関係



・学校は楽しいかどうか別にみると、「すごく楽しい」子どもは「自分にはよいところがある（そう思う）」が4割弱を占める。「すごく楽しい」以外の子どもは「そう思う」が2割前後にとどまる。

⑤どんな時に楽しいと感じるか

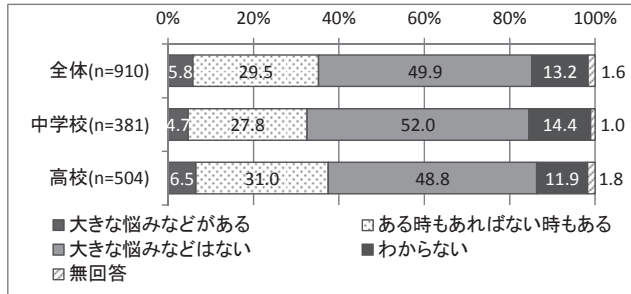
- ・全体では「友達といるとき」が8割を超えて最も多い。次いで「パソコンや携帯電話、スマートフォンを使っているとき」がほぼ6割で2番目に多く、以下「家族と一緒に過ごしているとき」「学校にいるとき（部活動含む）」と続いている。
- ・中学生と高校生では、「テレビを見ているとき」「塾に行ったり習い事をしているとき」で差が大きい。



(2) 悩みや相談について

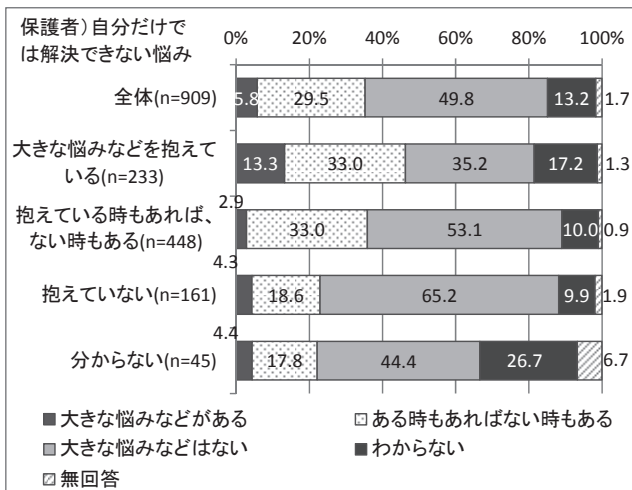
①自分だけでは解決することが難しい大きな悩みはあるか

- ・全体では「ある」は6%前後とわずかではあるが回答があった。「ある時もあればない時もある」はほぼ3割である。ほぼ半数は「大きな悩みなどはない」と回答している。中学生に比べ、高校生の方が、やや悩みを抱えている割合が高い。



◆「自分だけでは解決できない悩みの有無（保護者回答）」と「自分だけでは解決できない悩みの有無（子ども回答）」との相関関係

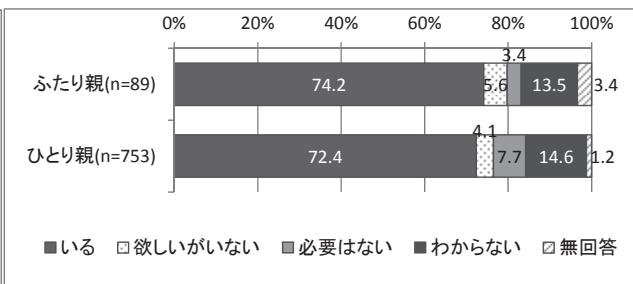
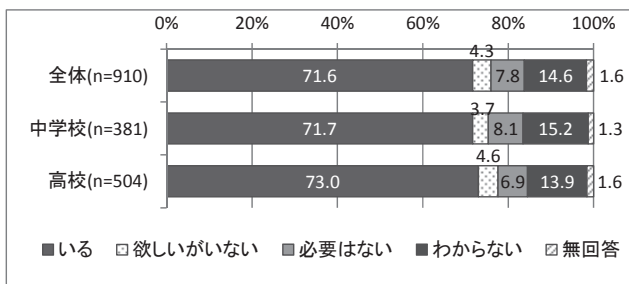
- ・保護者自身が「大きな悩みなどを抱えている」世帯では、子どもが「大きな悩みを抱えている」割合が1割を超えており、他の世帯と差がみられる。



	全体	大きな悩みなどを抱えている	抱えている時もあれば、ない時もある	抱えていない	分からない
大きな悩みなどがある	5.8	13.3	2.9	4.3	4.4
ある時もあればない時もある	29.5	33.0	33.0	18.6	17.8
大きな悩みなどはない	49.8	35.2	53.1	65.2	44.4
わからない	13.2	17.2	10.0	9.9	26.7
無回答	1.7	1.3	0.9	1.9	6.7
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

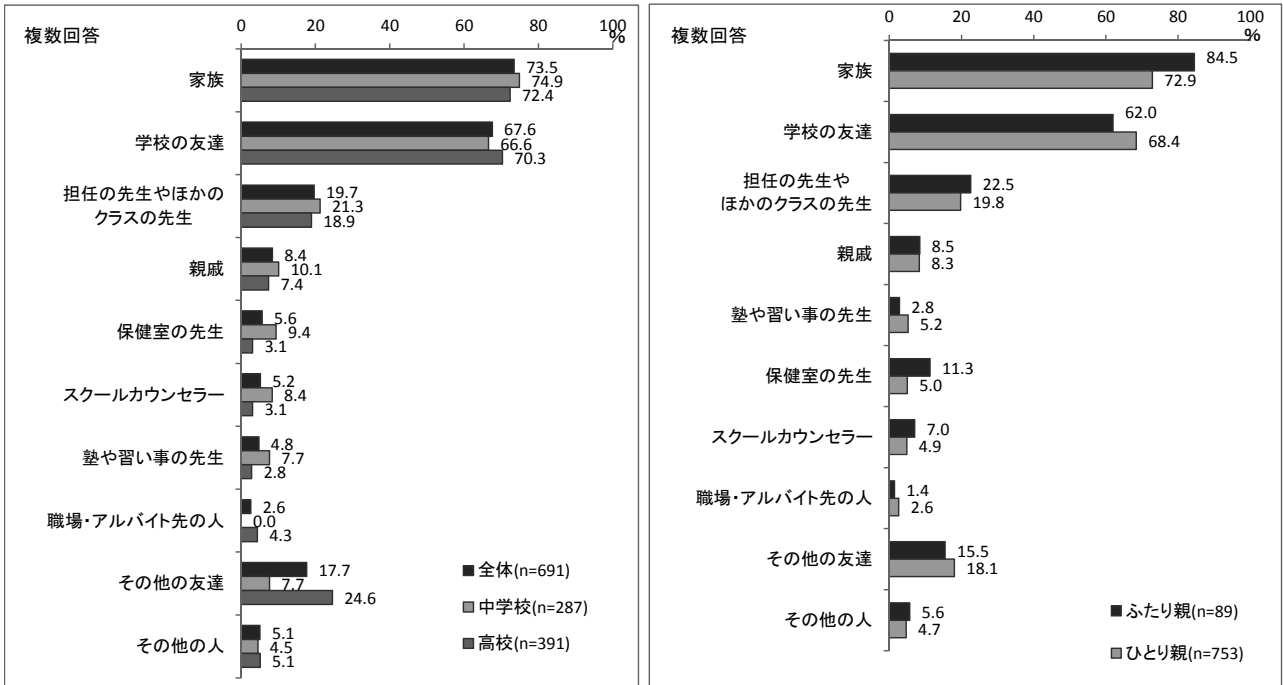
②悩みなどを相談できる人はいるか

- ・全体では「いる」が7割を超えている。学校による差は小さい。
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯では、ひとり親世帯の方が「必要はない」の割合がやや高い。



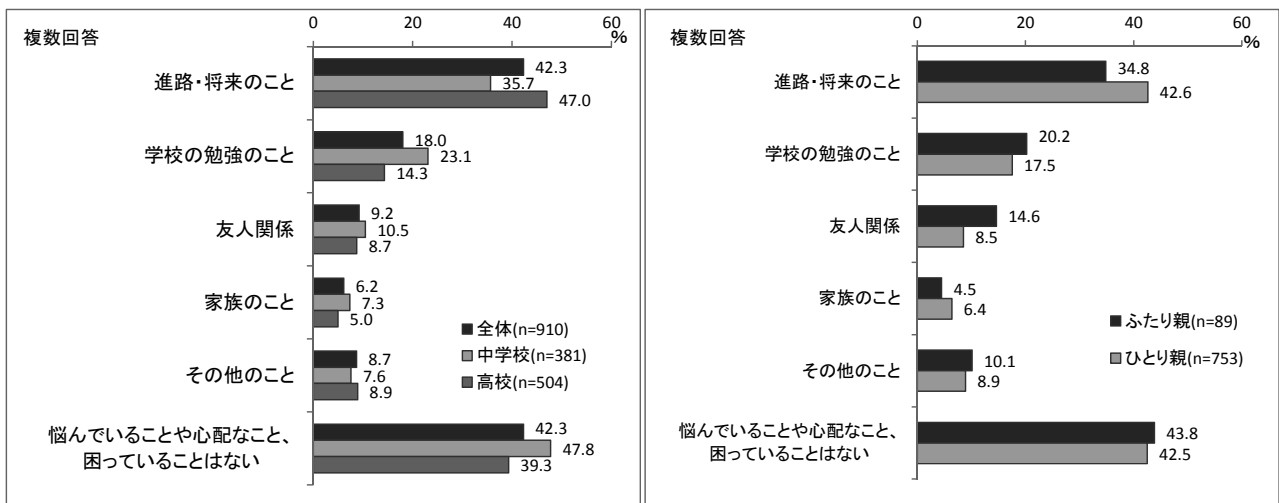
③相談に乗ってくれる人は誰か

- ・全体では「家族」「学校の友達」が7割前後を占め、他の回答を大きく引き離して多い。中学生は高校生に比べ「保健室の先生」「スクールカウンセラー」「塾や習い事の先生」が多く、高校生は「その他の友達」が中学生に比べてかなり多く、差がみられる。
- ・ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べ、「家族」が少なく「学校の友達」が多い。



④今悩んでいることや心配なこと、困っていること、誰かに相談したいと思っていること

- ・全体では「進路・将来のこと」と「悩んでいることや心配なこと、困っていることはない」(以下、「ない」)が4割強で並んでいる。学校による差がみられ、「進路・将来のこと」は高校生は5割弱の回答があり、中学生は4割弱となっている。
- ・ひとり親世帯では「進路・将来のこと」と「ない」が4割強で並んでいる。ふたり親世帯では「友人関係」がひとり親世帯より多い。



第V章 支援者ヒアリング調査結果

1. 学校関係者

(1) スクールソーシャルワーカー（SSW）

ヒアリング概要

熊本市教育委員会総合支援課教育相談室のスクールソーシャルワーカー（SSW）3名及び指導主事1名からヒアリングを行った。

SSWが関わる児童・生徒の課題は、虐待、いじめ、不登校、発達障がい等多岐に渡り、その課題の原因追求の過程において貧困問題に直面する場合がある。

また、親から子への貧困の連鎖は、経済的な貧困のみでなく心の貧困もあり、子どもが将来への希望を持ってない状況も生まれている。

個人情報保護の強化や地域の繋がり希薄化等の社会的な背景もあり、貧困の問題が表面化しているのは氷山の一角であるため、行政の各種制度、関係機関の連携体制等を含め、支援のあり方は喫緊の重要課題である。

特に課題を有する保護者の特徴・課題の事例

《属性・背景等》

- 支援者のいないひとり親家庭
- 精神疾患や障がい等により子どもや社会と関わるのが困難な保護者
- ワーキングプアの家庭
- 夫婦間が不和な家庭
- 低所得の家庭
- 日本語のコミュニケーションや文書読解が困難な外国籍の保護者

《生活習慣や日常生活》

- アルコール依存、ギャンブル、その他散財による借金等、収入の面からは表面化しない貧困状況を生み出している。
- 金銭管理に問題があり、月の後半で生活に支障を来す状況が生じている。
- 他者との関わりが苦手な場合は閉鎖的となり、社会から孤立している。
- 日本語が不得手な外国籍の保護者の場合、コミュニケーションがとれず社会から孤立している。また、保護者に精神疾患や障がいがあり他者とのコミュニケーションがとれない場合も同様の状況が発生する。
- 保護者自身が様々な理由で、文章読解に困難を抱えている場合、申請等の機会が奪われ、行政の支援を受けることができない。
- 気持ちの沈みから、食事、掃除、洗濯、風呂等の家事全般ができない。
- 生活保護を受給できる家計水準であっても、様々な要因から生活保護を受けられない、または、受けないことを選択し、貧困状況にいる。
- 成功体験もなく、支援への期待がなくなり、必要とする支援を考えることさえ難しくなっている。

《子どもとの関わり》

- 子どもに発達障がいが疑われ、特別な支援を必要とする状況であるにも関わらず、それに気づかなかつたり受け入れられずに、躰を口実に虐待となっている場合がある。
- 社会的孤立から、無気力となり子どもに愛情を注げない。
- 食事は既製の弁当等で済ませ、栄養のバランスが偏っている。また、家庭の味という概念が子どもにない。
- 日本の慣習等がわからない外国籍の保護者の場合、その国の文化の中だけで子どもを生活させている場合がある。
- 歯磨き等の一般的な生活習慣も家庭内で習慣付けできない。
- 家庭の貧困状況を直接的に子どもに伝え、進学等を制限する言動がある。
- ひとり親で就労等により多忙を極める家庭では、子どもの生活に目が行き届かない場合もある。
- 女子を持つ父子家庭の場合、思春期特有の事象に対処できないことがある。

特に課題を有する子どもの特徴・課題等の事例

《属性・背景等》

- いじめ、不登校等、その原因の多くに発達障がい疑われる場合がある。
- 昔は、喫煙、万引き等の問題行動で家庭問題が表面化していたが、今は、意思表示や行動に表われなくなっている。
- 地域の繋がりがなく社会的に孤立している。
- 成功体験がなく、自己肯定感が乏しい。

《生活習慣や日常生活》

- 歯磨きの習慣がなくムシ歯が多い。また、その治療もできていない。
- 将来設計がないため、勉強をする習慣も、やる気もない。
- 学校がない日（夏休み等）の食事は、既製の弁当やパン、店屋物で済ませ、栄養バランスが偏っている。

《保護者との関わり》

- 保護者の深夜就労等で子どもが孤立し、寂しさからストレスが生じている。
- 家庭環境を察して、部活や進学を諦め、保護者に本心を言えない。
- 保護者自身が精神疾患や外国籍の方で、上手くコミュニケーションが取れない場合、子どもが保護者の精神的支えになっていることがある。この場合、子どもは感情を抑えており、保護者が施設に入る等で支える必要がなくなった途端に行動の変化が生じる場合がある。

支援のあり方に関する課題等

《現状・課題等》

- SSWは学校からの要請により派遣されている。よって、学校が子どもの問題に気付けない場合や、要請の必要がないと判断した場合にはSSWの支援が家庭に届かない。
- SSW要請は学校の裁量によるため、学校によって要請に対する認識に差がある。これは学校現場が多忙により、全てに対応できていないことが要因の一つ。本市のSSWは社会福祉士等の有資格者かつ経験者であり、独自のネットワークを駆使して支援を行っていることから、非常に質の高い支援を実施している。SSWの人数は昨年度の6名から3名増加して、平成29年度は9名体制となっているものの、派遣依頼件数は年々増加傾向にある。
- 支援までの基本的な過程は、SSWが学校側から聴取を行い、子どもの置かれた家庭環境、学校の認識等できるかぎり状況を把握し、家庭訪問等により保護者、子どもに会って自然な日常会話の中から原因、解決方法を模索する。
しかし、SSWの支援に繋げる過程で、保護者と学校側の関係性が悪化している場合には、SSWによる家庭訪問を拒絶される場合がある。その場合、関係機関から間接的にSSWを紹介してもらい家庭訪問を試みることもある。
- 行政、学校、その他関係機関の連携体制が不十分な場合もあり、円滑な支援が実施できていない。
- 行政の各種制度が複雑であり、保護者が文章読解に困難を抱えている場合等は申請に至らない場合が多い。よって、潜在的な要支援者の把握が困難となっている。
- 支援に至った場合であっても、支援後の状況まで追跡調査を実施できていない。

《意見・提言等》

- 行政の各種制度は基本的に申請主義であり、意図的に支援を受けないという意思決定をする方もいるが、情報弱者や申請方法の理解が困難な方に支援が届かない場合もある。アウトリーチによる支援を行い、問題を表面化させることで貧困対策を根本的に解決する体制整備が必要。
- SSWによる支援は、乳児期、幼児期、義務教育期等の各ステージにおいて必要となり、各ステージの一時的な支援ではなく、各ステージ間の切れ目のない支援体制が必要。
- 親から子どもへの貧困の連鎖を防ぐために、金銭管理等も含め将来設計を行う上で必要な教育を小さい頃から行うべき。
- 個人情報保護の強化や地域の繋がりの希薄化により、問題の表面化が難しくなった現在の社会的背景において、行政、学校、その他関係機関の円滑な連携体制の整備が必要。

貧困問題に関する意見等

- 平成28年度の国民生活基礎調査において、貧困率が前回より改善したが、実感としては改善しているとは認識していない。世帯収入等の表面化する数字からは、改善しているのかもしれないが、金銭管理、ギャンブル、その他散財による借金等、様々な要因から生活が厳しい家庭環境に置かれた子どもも存在している。よって、実際に子どものために使われた金額を、経済的な子どもの貧困を計る指標としてほしい。
- 地域の繋がりが希薄化した現在の社会で、家庭以外に子どもが人と関わり合える居場所を整備しなければならない。不登校児においては、フリースクールの普及、孤立した子どもにおいては子ども食堂や学習支援の普及等、このような機関が特別なものではなく、一般的なものとして抵抗なく利用できるよう多様化する社会へ柔軟に対応する必要がある。

(2) 指導主事

ヒアリング概要

熊本市教育委員会の指導主事4名（小学校教諭経験者2名、中学校教諭経験者2名）からヒアリングを行った。

子どもの生活や行動に影響を与える要因としては、経済的な要因というよりも、保護者の生活習慣や精神疾患、虐待やアルコール依存といった複雑な家庭環境が大きな要因となっている。経済的に裕福な家庭であっても、保護者との関わりにより子どもに心の貧困が生じた場合に、万引き等の問題行動に現れることもある。

このような状況もあり、教諭と保護者の関わりは重要であるが、子どもの教育環境のためとはいえ、家庭環境への介入は困難であるため、支援体制の整備や関係機関との連携が必要である。

特に課題を有する保護者の特徴・課題の事例

《属性・背景等》

- 精神疾患や障がい等により子どもや社会と関わるのが困難な保護者
- ワーキングプアの家庭
- 低所得の家庭
- ギャンブル依存、アルコール依存の家庭
- 日本語のコミュニケーションや文書読解が困難な外国籍の保護者

《生活習慣や日常生活》

- 金銭管理に問題があり、子どもに必要なものを買うためにお金が使われない。
- 食事、掃除、洗濯、風呂等の基本的な生活習慣が身についていない。
- 生活保護等の支援を拒み、貧困状況にいる。
- DV等の家庭環境に問題のある保護者は、授業参観への不参加や家庭訪問の拒否等、学校側との関わりを持たない。
- アルコール、ギャンブル依存がある。

《子どもとの関わり》

- 子どもに発達障がい疑われ、特別な支援を必要とする状況であるにも関わらず、それに気づかなかつたり、受け入れられず、特別支援教育に繋がらない場合がある。
- 社会的孤立から、無気力となり子どもに愛情を注げない。
- 弁当持参日に、カップ麺等インスタント食品を持たせている。
- 子どもの基本的な生活習慣に関心がない保護者がいる一方、過剰に関与する保護者もいる。また、家庭外にいる時だけ表面的に関与している保護者もいる。

<p>特に課題を有する子どもの特徴・課題等内容</p>
<p>《属性・背景等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 虐待、ネグレクト、DV の家庭 ○ 保護者との関係希薄による子どもの孤立 ○ 保健室登校
<p>《生活習慣や日常生活》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保険証がなく、通院できていない。 ○ 家庭内に勉強する環境がなく、勉強をする習慣もやる気もない。 ○ 学校に居ることができない。突然姿を消す。 ○ 授業中に寝ている。 ○ 朝食を摂っていない。 ○ 基本的な生活習慣が身についていない。風呂に入っておらず保健室で体を拭くことや、学生服を洗濯することがあった。 ○ クラスの過半数が塾に通い、授業中に塾の勉強をしていることもあった。
<p>《保護者との関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の深夜就労等で孤立し、寂しさからストレスが生じている。 ○ 家庭環境を察して、部活や進学を諦めている。 ○ 保護者自身が精神疾患や外国籍の方で上手くコミュニケーションがとれない場合、子どもが保護者の精神的支えになっていることがある。 ○ 問題行動を起こす子どもは、経済的な要因に拘らず、保護者との関係が希薄である。
<p>支援のあり方に関する課題等</p>
<p>《現状・課題等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 支援制度はある程度充実し、支援する側の関係機関の連携体制はできている。しかし、保護者が支援制度への申請を拒んだり、支援する側との関係を拒んだりして、支援が行き届かないことがある。 ○ 就学援助の対象の子どもに書類を渡す際には、内容が分からないよう配慮している。 ○ 就学援助受給世帯は、保護者の了承の上で給食費や修学旅行費を就学援助費から直接預かることがある。 ○ 問題のある子どもは生徒指導関係等の部会で指導方針を協議し、学校全体の共通理解としている。
<p>《意見・提言等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教諭と保護者の関わりは重要であるが、子どもの教育のために家庭環境まで介入していくことは困難である。特に経験が少ない若い教諭には負担が大きく、関係機関の連携及び支援体制の整備が必要である。 ○ 本市では生活保護世帯の中学2、3年生を対象に学習支援をしているが、もっと早いうちから機会に恵まれる方がよい。

貧困問題に関する意見等

- 同じクラスの中でも、生活保護受給世帯とワーキングプア世帯が混在しており、生活保護を受給する家庭がある一方で、働けども生活は困窮している家庭もある。生活保護受給世帯の子どもに働かなくてよいという意識が生まれはしないかと懸念する。
- 本市の傾向として、多くの子どもが公立高校を志望するが、経済的に裕福な家庭では塾に通い公立高校に入学する一方、経済的に困窮している家庭は塾に通えず、学力的に入学可能な私立高校に入学することで、学費がかかりさらに経済的負担が生まれてしまう。
また、経済的な理由で、高校を中途退学する場合もある。

(3) 養護教諭

ヒアリング概要

熊本市立の小中学校の養護教諭からヒアリングを行った。

怪我や体調不良の身体的な不調のみでなく、複雑な家庭環境や子ども同士の間関係等から生じる精神的な不調まで、心身の健康の保持増進に向けた支援を行っている。

養護教諭は子どもと直接関わる機会も多く、子どもの抱える問題を把握し、直接対応やスクールソーシャルワーカー（SSW）やスクールカウンセラー（SC）等への繋ぎも行うが、人的な体制不足等から、全てを支援に繋げることが困難な状況にある。

また、学校の役割が多岐に渡り対応に窮していることや、個人情報保護の強化により関係機関との情報共有が困難な状況にあることから、他の支援機関の整備及び連携体制の確立が必要である。

特に課題を有する保護者の特徴・課題の事例

《属性・背景等》

- 子どもへの関心が薄いひとり親家庭
- 保護者が不規則な就労状況の家庭
- 精神疾患等により子どもとかわることが困難な保護者
- 夫婦間が不和な家庭
- DVの家庭

《生活習慣や日常生活》

- 食事、風呂、掃除、洗濯といった基本的な生活習慣ができず、不健康・不衛生な生活を送っている。
- 深夜の仕事で、起床時間が遅い。
- ワーク・ライフ・バランスがとれていない。
- 市外から転入して来た場合等、近隣の人との交流がなく孤立している。
- 保護者自身がスマートフォンによるトラブルを抱えている。

《子どもとの関わり》

- 就労に精一杯で、保護者に経済的、精神的な余裕がなく、子どもへの関わりが希薄化している。
- 子どもが登校する時間は、寝ていて朝食を準備していない。
- 父親が仕事を最優先し、育児に関わりがない。
- ひとり親家庭で、交際相手との関係性を重視し、子どもに無関心で、問題行動に発展するケースがあった。

特に課題を有する子どもの特徴・課題等
<p>《属性・背景等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 偏食による肥満 ○ 相談相手がおらず孤立している。 ○ 不登校、保健室登校 ○ 自分が抱えている不安や問題の発信ができない。 ○ 発達障がい疑われ、特別な支援を必要としている。
<p>《生活習慣や日常生活》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歯磨きの習慣もなく虫歯が多い。 ○ 不安定な家庭で肥満のケースもある。食べてはいるが、揚げ物が多く、野菜が足りずに栄養不足となっている。 ○ スマートフォンの普及により、表面化しづらい子ども同士のトラブルを抱えている。
<p>《保護者との関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の多忙や関心が薄いことで、幼い兄弟姉妹のみで助けあって、上の子のご飯を作るなどの家事を行っている。 ○ 複雑な家庭環境の中で、保護者からの愛情を受け取ることがなく、問題行動をおこす場合がある。また、警察に補導されても保護者が引き取りに来ないことがあった。
支援のあり方に関する課題等
<p>《現状・課題等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中合同部会や養護部会で養護教諭同士の連携を図っている。また、小学校であれば幼稚園や保育園、中学校であれば高校と連携し適切な初動対応を図っている。 ○ 行政との連携については、個人情報保護の強化により、情報共有に保護者の同意が必要であることから、連携が困難なこともある。
<p>《意見・提言等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が担う役割が多岐に渡り、支援体制の限界に直面している。他の支援機関を整備し、連携していくことが必要である。 ○ 発達障がいやその疑いがある子どもが増えており、担任教諭のみでは対応できない状況であり、SSW や SC の充実が求められる。 また、その影響から不登校となる場合があり、子どものためにも保護者や世間に特別支援学級の理解が浸透し、選択肢の一つとしてほしい。

2. 公的相談機関関係者

(1) 区役所保護課職員 (CW)

ヒアリング概要
<p>区役所保護課に属するケースワーカー (CW) からヒアリングを行った。</p> <p>生活保護受給世帯のうち子どもがいる世帯は全体の1割程度あり、ひとり親家庭や精神疾患等の事情を抱えた家庭に対して、生活指導や就労支援、各種手続きへの同行等の自立に向けた支援を行っている。</p> <p>貧困の連鎖を防ぐために中学2～3年生への学習支援を行っているが、学習支援会場が遠い、部活動に集中したい等の事情もあり、十分な参加に結びついていない。</p> <p>また、学習に対する興味、関心を醸成する支援もあわせて重要であると考えている。</p> <p>現金給付の場合は、扶助費の支出の内訳を把握できないため、子どものための教育扶助など本来の目的のために使用されているのか確認が困難である。</p>
特に課題を有する保護者の特徴・課題等
<p>《属性・背景等》</p> <ul style="list-style-type: none">○ 保護者が未就労である家庭○ 保護者に精神疾患や障がいがある家庭○ 援助者のいないひとり親家庭○ 多子世帯のひとり親家庭○ 日本語のコミュニケーションや文書読解が困難な外国籍の保護者
<p>《生活習慣や日常生活》</p> <ul style="list-style-type: none">○ 扶助費の計画的なやりくりが困難で、月末に生活が困窮するケースがみられる。○ 精神疾患や障がい等により食事、掃除、洗濯等の基本的な生活習慣を営むことが難しく、不健康・不衛生な生活を送っているケースがみられる。○ 精神疾患や障がい等により仕事に就くことが難しい方が多い。また、就労者の場合であっても、非正規雇用が多い。○ 精神疾患により、医療機関へ長期入院するケースがある。
<p>《子どもとの関わり》</p> <ul style="list-style-type: none">○ 精神的に子どもに依存しているケースや、外国籍の保護者の場合、子どもが日本語を話せることが多いため、保護者が日常生活で子どもに依存しているケースがみられる。○ 保護者の精神疾患や障がい等により、子どもの食事や風呂等の世話ができないケースがみられる。○ 自立に向けて積極的な保護者は、子どもに生活保護受給世帯であることを知られないように振舞う場合もある。

特に課題を有する子どもの特徴・課題等

《属性・背景等》

- 不登校
- 発達障がいの疑い
- 対人関係が苦手
- 要保護児童

《生活習慣や日常生活》

- 一旦高校へ進学したものの退学し、その後通信制の高校へ進む子どもや、中学卒業後や高校中退後に家へ引きこもる子どもがいるケースがある。

《保護者との関わり》

- 保護者が未就労の場合、常に在宅しているため、子どもも保護者と在宅で過ごして不登校となるケースがみられる。
- 子ども自身が生活保護受給世帯であることで、経済的な理由等から大学進学を諦めて、就職することもある。

支援のあり方に関する課題等

- 生活保護受給世帯を対象とした学習支援は、高校進学に向けた学習指導も行うものの、不登校や引きこもりの子どもの居場所づくりの側面もある。
- 生活保護費の給付の過程で、児童扶養手当等の他の制度の給付額は把握できるが、世帯状況等の詳細までは把握できない。
- 学校とは基本的に書面上のやりとりのみだが、不登校などの特別なケースは学校から確認があることもある。
- 区役所保健子ども課や児童相談所とはケース検討会議で連携できている。
また、CWのみでは支援が難しい子どもがいる世帯では、区役所保健子ども課の保健師も積極的に関わってもらっている場合もある。

(2) 主任児童委員

ヒアリング概要

熊本市が委嘱している主任児童委員 11 名からヒアリングを行った。

各校区 2 名ずつで児童福祉を専門的に担当し、地域の子育て支援活動の企画運営や関係機関の調整、乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）、地域の保健師等から依頼のある見守り活動等により、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行っている。

保健師や民生委員等の支援を拒む家庭もある中、初動対応における保護者との信頼関係の形成が重要で、スキルアップのための研修などの適切なフォローが必要である。

また、個人情報保護の意識の高まりや地域の繋がりの希薄化等の社会的な背景により問題が表面化しづらくなった現代においては、民生委員・児童委員、行政、校区の保健師、学校等の関係機関が円滑に情報共有できる体制整備が必要である。

特に課題を有する保護者の特徴・課題の事例

《属性・背景等》

- 子どもへの関心が薄いひとり親家庭
- 精神疾患や障がい等により子どもと関わるのが困難な保護者
- 保護者が夜間（不規則）就労している家庭
- 周囲との接触がないみなし仮設の家庭

《生活習慣や日常生活》

- 精神疾患により、家事ができず、不衛生な生活環境にあることがある。
- 育休後は職場復帰するため、子育てサークルへの参加も一時的で、長期的・継続的な繋がりが少ない。
- 外出しない、子育てサークル等にも参加しないなど社会的繋がりが少ない。
- 乳児家庭全戸訪問時に連絡がつかない家庭や家に入れてもらえない家庭もある。

《子どもとの関わり》

- 夜間就労や共働きにより、公園や家庭で子どもだけで過ごさせている等、親子の関係が希薄化している。
- 子どもに発達障がいの疑いがあっても認めず、将来の社会的な自立のための対応が遅れることがある。

特に課題を有する子どもの特徴・課題等

《属性・背景等》

- 保護者の精神疾患等により児童相談所に保護される児童
- 不登校児童
- 偏食による肥満

《生活習慣や日常生活》

- 食事代わりにスナック菓子を食べていることがある。
- 保護者不在のため、公園で子どもだけで遅くまで遊んでいる。
- 外遊びが少ない。

《保護者との関わり》

- 食事、掃除、洗濯等をしてもらえず、食事代わりにスナック菓子を食べていたり、学校で先生におにぎりを用意してもらったり、下着を洗濯してもらったりする子どもがいる。

支援のあり方に関する課題等

《現状・課題等》

- 地域の繋がり希薄化により、特に経済的な要因による家庭の問題は表面化しづらくなっている。
- 現在はマンション・アパートも増え、セキュリティの問題から訪問も難しくどこにどんな人が住んでいるのか分からない。
- 子ども食堂の活動を紹介するにも誰が必要としているのか分からない。子育てサークル等で情報提供しても必要な対象者へ情報が伝わらず、支援へ繋がらない。
- 個人情報保護により、行政と学校、民生委員等との情報共有ができていない。また、児童虐待に関する個別の検討会議に主任児童委員へ出席依頼がないこともある。
- 情報共有がなされても、民生・児童委員と保護者の信頼関係がなければ、不信感から訪問を拒む保護者もあり、支援まで繋がらない。
- 夏休み等の給食がない期間に、子どもが家庭で食事ができているか不安。

《意見・提言等》

- 民生・児童委員、行政、校区の保健師、学校等の関係機関が円滑に情報共有できる体制整備が必要である。また、支援を行う上での根拠となる法整備が必要である。
- 重篤かつ複合化したケースもあり、一つの機関では解決困難であるため、複数の機関が連携、協力しなければ子どもの貧困、虐待、不登校、社会的養護等への支援は困難である。
- 保健師や民生委員等の支援を拒む家庭もあるため、初動対応における保護者との信頼関係の形成のためのスキルアップ・フォローアップが必要である。特に乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）の訪問支援員については、フォロー研修等による継続的なスキル向上の機会が必要である。
- ボールの使用禁止等により公園で気軽に遊べなくなっている。子どもの居場所を作ることが必要である。
- 子どもが乳幼児期には、貧困状況にある実感は少なく、将来的にひとり親家庭になる等の家庭環境の変化により子どもの貧困問題が発生するのではないかと考える。
- 小学校の見守り活動において、服装やランドセル等の見た目からは、子どもの貧困問題は表面化せず、対応が難しい。

(3) 母子・父子自立支援プログラム策定員

ヒアリング概要

区役所保健子ども課に配置する母子・父子自立支援プログラム策定員にヒアリングを行った。

母子・父子世帯の保護者の就労支援を行っているが、対象者の多くは離婚前に就労経験が乏しいひとり親家庭の母親である。加えて、低年齢、DV被害、精神疾患等、複雑な事情を抱えている場合も多く、就労支援に留まらず、家事や子育てといった様々な悩み相談等にも対応している。

未就労は、経済的な貧困へ直結する。また、未就労の場合には子どもの就学資金の借入れができないなど進学の妨げとなり、貧困の連鎖を生む要因となる。

支援にあたっては、ハローワーク、保健師等の関係機関や児童扶養手当、ひとり親家庭自立支援給付金事業等の他の支援事業との連携により効果的な支援の実施に努めているが、就労支援への認知度、理解が低いという課題がある。

特に特徴的な保護者の特徴・課題の事例

《属性・背景等》

- 低収入の母子家庭
- DV被害者の母子家庭
- 母が低年齢の母子家庭
- 外国籍のひとり親家庭
- 家族に精神疾患があるひとり親家庭
- 多子世帯のひとり親家庭
- 両親に頼れないひとり親家庭

《生活習慣や日常生活》

- 離婚後家を出て、新居・仕事・保育園探し为重なり苦労している。特に保育園探しが一番の問題で、仕事を探すには無認可保育園に預けざるを得ない状況であるが、月払いでは保育料を支払えないため、日払いの保育園を見つける。
- 元配偶者から養育費を受けとっておらず、交流が断絶している場合もある。
- 子どもに障がいがあると、送迎や預け先の問題からパート以外の就労が難しい。
- お金がなく食べるものがないという方に生活保護申請を案内することもあるが、保育園への送迎や通勤のために車が必要なため、生活保護受給により車を所有できなくなることを躊躇し、申請まで至らないこともある。
- 就労に対して、児童扶養手当受給中の母親は比較的、積極性があり、前向きである。しかし、多子世帯の中には、子どもの数で手当額が増えるため、就労意欲に結びつかない場合もある。将来的には支給されなくなるが、先を見据えることが難しい。
- 外国籍の方で、言葉は話せても読み書きができないことがある。仕事の条件も厳しいため仕事が続かない。
- ひとり親に対する支援制度を知らない人が多い。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 父子家庭の場合、家事に苦勞する人も多い。また、事態が深刻になってから相談にくる場合が多い。 ○ 地震の時は、車中泊しながら就職活動している母親もいた。
<p>《子どもとの関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもためにがんばるという意識を持っている親が多い。 ○ 子どもに関する相談では、中高生の相談が多いが、最近では小学生の相談も増えてきている。 ○ 就労できる時間的制約や求人内容から、介護職や事務職に就職する場合が多い。介護職は体力的に厳しく、長続きしなかったり、疲労のため子どもにあたってしまうこともある。 ○ 父子家庭の父親は、離婚後初めて子育てをする状態のことが多く、基本的な生活習慣・家事が困難である。特に、女の子の育て方に困難を来たすこともある。

<p>特に課題を有する子どもの特徴・課題等</p>
<p>《属性・背景等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校、ひきこもりがある。時に父子家庭の場合が多い。
<p>《生活習慣や日常生活》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 勉強などの習慣ができていない。 ○ 靴を並べる、あいさつ、返事をする等の基本的な躰を受けていない。 ○ 親の出勤する時刻に合わせて、登校している。
<p>《保護者との関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人でいることに慣れている。 ○ 父親が作った料理を食べない。 ○ 親ががんばっている姿をも見て、子どもも勉強や部活動を一生懸命やるケースもある。

<p>支援のあり方に関する課題等</p>
<p>《現状・課題等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 離婚前の就労経験が乏しい母親が多いため、履歴書の書き方から面接の受け方など細かな就労支援を実施している。また、仕事の話だけでなく、家賃、児童扶養手当、児童手当、養育費、家族の話など細かな聞き取りをし、その情報をハローワークと共有し就労に繋げている。 ○ 要求されるパソコンの技能がない場合は職業訓練の案内をする。転職を考えている人や育児状況の変化を機に、仕事を考え直す（再プログラム策定）件数は年間で約120件程度ある。 ○ 多くの場合は就労支援の期限である6ヶ月以内に就職が決まる。また、就労後1ヵ月後くらいに、就労状況を確認し、離職していた場合はコンタクトをとるといったフォローをしている。なお、就労経験が少なく仕事に繋がり難い方などは、職業訓練を案内する。また、職業訓練期間の後半に連絡し、育児の悩み相談等により就労

意欲の維持に努めている。

- 保健師等の他の支援機関から就労支援に繋がってくる場合もある。
- 子どもの進学の際に、貧困問題に直面する。子どもの希望する学校に進学させたいという思いがあっても、就労していなければ就学資金の借り入れもできない。
- 子どもが希望する部活をさせたいが、ユニフォーム代、遠征費など出費が多いため、経済的な理由から諦める場合もある。
- 塾代が支払えないケースは多い。無料の学習支援を案内することもあるが、地理的要因から使いづらいことも多い。

《意見・提言等》

- 他の支援制度との連携が必要であるため、行政の職員の中で就労支援制度の認知度や理解を深める必要がある。

(4) 養育費専門相談員

ヒアリング概要

養育費の取り決め率及び受給率の向上を図り、ひとり親家庭の生活の安定とその子どもの健やかな成長に結びつけるため、平成20年12月から養育費に関する専門の相談員を区役所保健子ども課に配置し、無料で相談業務や情報提供を行っている。

相談者としては、圧倒的に女性が多く、離婚前後に夫婦間で話し合うことができない場合や、子どもが大学などの進学を控え経済的負担が増えるタイミングでの相談が多い。

離婚時に口約束で養育費を決めていて支払いが滞るケースが多く、強制力を持つ公正証書などの公文書での取り決めを勧めている。養育費がきちんと支払われ、親との面会交流が履行されていることで、離れて暮らしていても子ども自身が愛されていると実感し、それが情緒の安定や自己肯定感の育成にもつながっている。

他の支援制度とも連携が必要であるが、行政職員の中でも養育費相談の認知や理解が低いという課題がある。

特に特徴的な保護者の特徴・課題の事例

《属性・背景等》

- 低収入の母子家庭
- 未婚の母子家庭
- DV被害者の母子家庭
- 母が低年齢の母子家庭
- 家族に精神疾患があるひとり親家庭
- 多子のひとり親家庭
- 両親に頼れないひとり親家庭

《生活習慣や日常生活》

- 養育費を支払う側に、転職や就労形態が不安定で収入が少なく、また、借金やギャンブル依存などの問題を抱えている場合がある。
- 子どもが小さいうちは一緒に過ごしたいと考える人が多いため、パートでなんとかやりくりする人が多い。
- 夜の仕事の方が収入が高いため、夜間の保育所などに預けて働く人もいる。
- 相談者の親も離婚していて、離婚しても何とかなると楽観視しているケースもある。親の意識が相関、連鎖しているように感じられる。
- その場限りの関係で妊娠してしまい、父親の連絡先も分からないケースもある。
- 相手に家庭があり、認知してもらおうとすると慰謝料を請求される等のリスクがあるため、認知を要求せず母親になることもある。
- 圧倒的に女性の相談者が多いが、直接話しを聞きたいと夫婦そろって来所する場合もある。

《子どもとの関わり》

- 離婚をあまり否定的に捉える必要はないが、ひとり親ということで、子どもに負い目を感じている。
- 離婚についてきちんと親から子どもへ説明することで、子どもが離婚の話題に触れてもいいのだと感じることは大事であるが、説明できていないこともある。
- 親が子どもの高校進学をあきらめさせるようなことはあまりない。子どもの進学状況は、親の最終学歴と同程度の学校を選択しているケースが多い。

支援のあり方に関する課題等

《現状・課題等》

- 相談窓口があることを知らず、養育費相談員への相談に繋がらないこともある。
- 養育費については、どうせ支払ってもらえないといった情報が独り歩きしている。相談をする相手がいっても、友人等仲間同士の話しだけでは、適切なアドバイスになっていない場合がある。

《意見・提言等》

- 離婚や養育費の相談だけではなく、今後の生活基盤をしっかりと立てていくため、母子・父子自立支援プログラム策定員との連携が重要である。
- 相談する機関があることが周知されていない。他の支援制度との連携が必要であるため、行政の職員の中で養育費相談の認知や理解を深める必要がある。
- 離婚する際に、養育費や面会交流について取り決め、子どもに対しても離婚や今後の生活についてきちんと説明することで、子どもの心の成長や自信、自己肯定感に繋がる。保護者自身がそのスキルを身につける必要がある。

貧困問題に関する意見等

- 子どもとの面会交流が円滑に行われているケースでは、養育費の支払い率が高い傾向にある。
- 高校進学までの支援制度は整っているが、それ以降は貸付等に頼らなければ難しい。
- 離婚の際、親に捨てられたと感じる子どもが多い。養育費を受け取ることで、自分は捨てられた訳ではないという心の支えになる。
- アメリカでは、離婚時に裁判所に養育プランを提出するなど、共同親権の制度が根付いている。

3. 児童福祉施設関係者

(1) 母子生活支援施設

ヒアリング概要

熊本市内の母子生活支援施設においてヒアリングを行った。

入所者は熊本市内外を含み、その半数の者がDVを理由とし、その他経済的、精神的な事情を理由として、原則2年間を限度として入所している。施設では、母子の自立促進のための就労や家庭生活、児童の教育に関する相談及び助言を行う等の支援をしている。

母親の金銭管理や養育能力に問題があるケースが多く、児童手当や児童扶養手当、生活保護等の各種制度の給付金が、本来の目的に使われないこともある。

就労意識の低下等により、規則正しい生活習慣や子どもの健全な育成を妨げている例もあり、家庭の自立に繋がる支援のあり方が課題である。

特に課題を有する保護者の特徴・課題の事例

《属性・背景等》

- DVを受けた母子家庭
- 精神疾患や障がい等により子どもと関わるのが困難な保護者
- 未婚の母子家庭
- 経済的貧困の母子家庭
- 多子の母子家庭
- ネグレクトの母子家庭
- 日本語のコミュニケーションや文書読解が困難な外国籍の保護者

《生活習慣や日常生活》

- 知的障がいがある方も含め、精神疾患のケースも多い。就労している方もいるが、就労困難な場合も多い。
- 児童手当や児童扶養手当等の給付制度があるため、非正規雇用でも生活が成り立ち、学歴・職歴、能力等に見合う仕事を選ばない方もいる。
- 精神疾患等でコミュニケーションをとるのが難しい方もいる。
- 家計管理、お金の計画的な利用ができない方、カードローンによる借金がある方もいる。
- 光熱水費より、携帯電話代やたばこ代を優先する方もいる。
- 外国籍の場合、ビザの更新方法等の助言を行うが、日本語が理解できないとして避ける方もいる。
- DVを理由として入所した方が、離婚によりDV問題が解消された後で精神的な新たな問題が発生する等、入所者は、一つの問題だけでなく、複数の問題が関与し合って複雑な家庭環境を生み出している。

《子どもとの関わり》

- 精神疾患の理由から就労せず、子どもの面倒も見たくないため、子どもを施設に預けて遊びに出かける方もいる。一方で、一生懸命仕事をして、多忙であっても子どもと関わりを持つとうとする方もいる。この場合、短時間の関わりであっても子どもは満足している。
- 親はスマートフォンにかかりっきりの生活習慣である一方で、子どもには勉強するよう促したりするが、子どもは親の態度から言うことを聞かない。
- 食事、洗濯、入浴等の基本的な生活習慣がなく、それが理由で子どもがいじめられる場合がある。
- 生活保護受給者で親が就労していないため、就労しなくても生活が成立すると子どもが認識し、生活保護の連鎖が発生することがある。また、社会との関わりがないことで規則正しい生活習慣が身についていない。
- 育児の知識がなく、子どもの洗顔、着替え、オムツ替え等の身支度ができないまま保育園に預けたりと基本的な育児ができない方がいる。
- 施設内のランチ会やキャンプ等の様子から、子どもに栄養の偏った食事やインスタント食品を与える、または、食事を与えていないことが分かる。また、親の都合で子どもの食事を作らないことや子どもに食費のみ渡すことがある。
- 子どもの学習に必要な最低限な文房具等を買わないにも関わらず、今必要のないおもちゃや服飾品等を買って与える方がいる。
- 親に非行の経験がある場合、子どもの非行に危機感がなく、子どもの健全育成に関心がない方がいる。
- 親が過度な期待を持ち子どもの意思に反して進学先を決めたことで、不登校となってしまうケースがある一方、努力をせず母子共に楽な道を選択し、将来の可能性を摘んでしまうケースもある。
- 自身の通院はするが、子どもの健診は行かない方がいる。

特に課題を有する子どもの特徴・課題の事例等

《属性・背景等》

- 親をかばう。
- 打たれ弱く、攻撃的。
- いじめられていたり、集団に馴染めていない。
- 発育に遅れはないが、食習慣からの肥満が多い。

《生活習慣や日常生活》

- 基本的な生活習慣が身についておらず、虫歯が多い子どももいる。
- 地域に出ることなく、施設内の子ども達のみで遊ぶ。
- 未就労でも生活が成り立つ状況に育っているため、進学を希望しない。

《保護者との関わり》

- 親の生活をみて、勉強をしない。
- 親に頼らない。

支援のあり方に関する課題等

《現状・課題等》

- 困窮の訴えがあれば支援しやすいが、表現しない場合には難しい。また、支援が必要な状況であることを認めない場合がある。
- 行政の支援制度を案内しても、面倒だという理由で手続きをしない場合がある。また、行政の窓口で説明を受けた場合に、文章の読解が苦手で、内容を理解できていないことがあり、施設職員が窓口へ確認した上で、再度説明を行うことがある。

《意見等》

- 保護者の状況や生活習慣が子どもの健全な養育環境に影響する場合もあり、場合によっては、児童養護施設に子どもを入所させ、定期的な面会する等、状況に応じた適切な対応が必要。
- 行政の制度は現金給付によるものがあるが、教育費の無料化や制服費用の無料化等、直接的に子どもの支援となる現物給付制度が適切であると感じる場合が多々ある。
- 生活保護受給者の子どもに対する学習支援が行われているが、学習指導と不登校対策としての居場所の提供という2つの目的が混在している。対象者の混在によりそれぞれの目的を阻害することがあるため、例えば、前者の目的を果たす手段としては、民間の学習塾の費用を補助するなど利用者の目的に沿った支援が必要。
- 施設退所後も継続して自立した生活ができるような制度設計が必要である。

(2) 乳児院

ヒアリング概要

熊本市内の乳児院においてヒアリングを行った。

経済的な理由による養育困難をはじめ、虐待・ネグレクト、保護者の精神疾患による養育困難を理由に入所し、基本的には2歳までの乳児に対し、担当職員による愛着関係の形成、家庭復帰や里親への引き渡しに向けた支援等が行われている。

また、家庭復帰時には、家庭支援専門相談員が児童相談所と連携し、親子関係の形成支援、家庭復帰後の訪問を実施している。

特に課題を有する保護者の特徴・課題の事例

《属性・背景等》

- 経済的な理由による養育困難
- 保護者の精神疾患による養育困難
- 虐待やネグレクトによる養育困難
- 保護者自身が虐待を受けていた経験を持つ。
- DVの被害者（父親が被害者の場合もある）
- 周囲に相談できる相手がない。
- 10代の保護者

《生活習慣や日常生活》

- 未就労、夜間就労や非正規雇用、頻繁な転職といった不安定な就労状況もある。
- コミュニケーションをとるのが苦手である。
- アルコール依存症で通院中の方もいる。
- 育児に関して完璧を求め、上手くいかないことを悩む。

《子どもとの関わり》

- 子どもとの関わり方や接し方、遊び方があまり分からない。
- 里親や施設に預けることに対して、負い目を感じている。
- 定期的に面会に来る保護者、ほぼ来ない保護者等様々だが、面会に来る保護者は、家庭への引取りを希望する人が多く、面会に来ない保護者は、養護施設への入所や里親への引渡しを希望する人が多い傾向にある。

特に課題を有する子どもの特徴・課題の事例等

《属性・背景等》

- 低体重児が多い。後にホルモン検査を受ける事もある。
- 新生児薬物離脱症候群※で NICU（新生児特定集中治療室）に入っている子がいた。
（※妊婦が抗てんかん薬や向精神薬、アルコール、麻薬などを常用している場合、胎盤を通して胎児にも薬や嗜好品の影響が及び出生後症状が発現すること。）
- 表情が乏しく、感情を上手く表現できない。
- 親と離れても泣かず、自分から甘えない。

○ 対人関係が苦手で、特定の職員以外は受け入れない。近所の人から声をかけられると固まってしまう。
《生活習慣や日常生活》
○ 入所の際、基本的な生活習慣がなく、お風呂に入っておらず臭いがしたりする子どもがいる。また、栄養不足で歯がもろく、虫歯になりやすい子どももいる。
○ 肌荒れがひどくても、病院で治療していない子どももいる。
○ 健診、予防接種を受けていない。また、発達の遅れを指摘されていても、相談に行っていない場合がある。
《保護者との関わり》
○ DVが原因で入所した子どもは、親に寄り付かないことが多い。
○ 面会に来た親に、故意に問題行動をする「ためし行動」をとることがある。

支援のあり方に関する課題等
《現状・課題等》
○ 市や児童相談所のケースワーカーが、1人あたりに担当する件数が多すぎる。
○ 里親制度の利用を推進する国の方針を受け、保護者に里親制度の説明をしているが、里親の絶対数が不足している。
○ 現在の司法制度上では、実親の同意が絶対的であるため、特別養子縁組をするのは難しい
《意見等》
○ 国が求めるような高いスキルを持つ里親を増やすためには、里親への手当てを厚くしなければならない。
○ 国の示す「新しい社会的養育ビジョン」は、実情とあまりに乖離しており、実効性があるのか疑問である。

(3) 児童養護施設

ヒアリング概要

熊本市内の児童養護施設においてヒアリングを行った。

経済的な理由による養育困難のほか、保護者の精神疾患、虐待やネグレクトによる養育困難等により幼児から高校生までの児童が入所しており、基本的な生活習慣や学習支援等の集団行動を通し、信頼関係の形成等の社会的な自立に向けた支援が行われている。

退所後の児童の状況を追跡調査していないため、全てを把握できていないわけではないが、保護者との問題、生活保護受給、入所経験のある児童の子どもが施設入所するなど負の連鎖が生じていることもある。

特に課題を有する保護者の特徴・課題の事例

《属性・背景等》

- 経済的な理由による養育困難
- 保護者の精神疾患による養育困難
- 虐待やネグレクトによる養育困難
- 生活保護の家庭
- 子どもへの関心が薄いひとり親家庭

《子どもとの関わり》

- 今後の家庭復帰の際の資料になることを説明しても、児童相談所に提出する書類を全く書かない方がいる。
- 小学生の子どもの目の前で、「生まれなければ良かった」等と暴言を吐く場合もある。自分も親から言われて育った経験があるのでそれが普通だとの認識や、一方で言われて強くなって欲しいとの誤った考えがある。また、自分の困難を周囲に理解してもらいたい気持ちがある。
- 子どもが施設に入所後、子どもと接しない期間が長くなると、子どもとの接し方が分からない。物を買ってあげるだけではなく、子どもと一緒に料理をするなど、子どもとの絆を深めるように施設職員が助言をしている。

特に課題を有する子どもの特徴・課題の事例等

《属性・背景等》

- ネグレクトが原因で入所した子どもは勉強の習得度が低い傾向が顕著である。
- 中学生で入所してきた子どもがかけ算が分からなかったこともあった。一方で、国立大学に進学した子どももいる。
- 施設入所前から、大人や他者への信頼感が低い子どももいる。入所後に親から約束を破られたために信頼感が低下していく子どももいる。

- 自己肯定感が低い子どもが多く、ネグレクト、虐待等を受けて育った子どもは自分が悪いと思ったり、自分は何も出来ないと言ったりする。

《生活習慣や日常生活》

- 入所時は、虫歯があったり、夜型の生活をしていたり、言葉遣いが悪い傾向があったりする子どももいるが、半年程すると、言葉遣いや生活習慣の改善、表情の変化がみられる。
- 高校進学率は、ほぼ 100 パーセント。退学することはあまりない。
- 高校卒業後、就職したものの妊娠を機に退職し、その後離婚することもある。また、10代で結婚することもある。
- 施設に入所経験のある児童の子どもが、親の離婚等で施設に来るケースもあり負の連鎖を感じる。
- 18、19歳で生活保護を受給している退所者もいる。
- 施設で、お小遣い帳をつけるなど金銭管理のことを教えていても、児童手当等を貯めた数十万円の貯金を持って施設を退所すると管理しきれないことも多い。退所した次の日には50万円程使ってしまったケースもあった。

《保護者との関わり》

- 虐待を受けた子どもでも親が面会に来ると笑顔でかけよったり、お菓子を買ってくれたことを喜んだり、親のことを優しかったと言う。
- 学校生活や部活動経験を通じて成長し、親の言うことに対して正当な不満を持ち、不満を施設の職員に漏らすようになることもある。
- 施設で貯めた子どものお金を目当てに、保護者が子どもに借金を申し込んだりすることもある。返済されることはないと分かった上で子どもはお金を渡すこともある。

支援のあり方に関する課題等

《現状・課題等》

- 地域の子どもや保護者を施設の行事に招待する等、地域に溶け込むことで地域の理解も得られている。近所の子どもが遊びに来たりして、交流もできている。
- 学校で問題を起こす子どもはいない。学校との信頼関係も築いており、配慮してくれることも多い。
- 施設内でも学力向上のため、外部から講師を招いて子ども達に勉強を教えている。
- 職員も勤務時間が不規則で夜勤もあるため、疲労が大きい。
- 施設から里親となると、既に学校で出来ているコミュニティーから離すことになる困難さもある。
- 年齢が上がるにつれて、里親とのマッチングは難しくなる。集団生活から里親のところへ行って寂しさを感じたり、嫉で怒られて嫌になったりすることもある。

4. 公益団体関係者

(1) 子ども食堂

ヒアリング概要

熊本市内の子ども食堂の主催者を対象としたアンケートや聞き取りから現状等や課題を把握した。

運営主体は、校区の婦人会・社会福祉協議会、個人、事業者、個人経営者など様々である。開催頻度は、月1～2回が多い。参加者は団体によって違うが10名～80名程度である。子どもへの食事の提供のみならず、地域の高齢者との交流や食育活動、被災者支援等を行っている。

将来的には、空き家や学生ボランティア等の地域資源の活用や、行政との連携により、高齢者と子どもが互いに学習支援や趣味の教授等を通して生きがいに繋げられる活動を検討している団体もある。

支援のあり方に関する課題等

《現状・課題等》

- 子どもや家庭への周知が課題である。学校の安全・安心メールで周知してもらったこともあった。学校によって、認知度や協力の度合いに差がある。
- 寄付や支援者、自治会等からの補助、校区のイベントでの販売収益を運営費に充てている。
- フードバンクでは缶詰やインスタント食品ばかりでなく、生鮮食品の確保や配布が課題となる。
- 地域貢献してくれる団体等との連携体制を確立するため、講演会を行っている。
- 参加している子どもが困窮世帯かどうかは分からない。

《意見・提言等》

- 子どもたちが立ち寄りやすく、衛生的に使用できる会場が増えるといい。
- 地域との連携も不可欠であり、自治会等の協力が得られるとやりやすい。

貧困問題に関する意見等

- 子ども食堂を利用する子どもから、経済的な貧困が表面化することはあまりないが、服装の汚れや食事の摂取量から懸念される子どもがいる。
- 子どもの保護者に社会性が不足していることもあり、家庭環境が心配される。

(2) 学習支援塾

ヒアリング概要

熊本市内で子どもに無料の学習支援をしているNPO法人においてヒアリングを行った。

法人の理事長がホームレスの支援活動を以前していた時、ホームレスの多くが高校に通っておらず就職が厳しいという実情にあることに直面し、学習をする環境に恵まれない子ども達にその機会を提供し、貧困の連鎖から子ども達を守りたいとの思いから立ち上げた。毎週木曜日と土曜日にそれぞれ、7～10名程度の小学生から高校生までの子ども達に学習支援を行っている。塾に通う子ども達は、熊本県母子寡婦福祉連合会や市保護課からの紹介によるものがほとんどだが、法人のホームページを見て直接、連絡が入ることもある。大学生14名、他に大学の卒業生、教諭経験者や元塾の講師などの社会人が、ボランティアで教えている。

開催場所は民家を借りており、問題集の購入や体験学習などの事業費も必要である。主な収入は、寄付や助成金等によるものであり、資金面で安定した運営を行うことが課題である。

支援のあり方に関する課題等

《現状・課題等》

- 参加者のなかには、不登校で学校には、行けなかった子どももいる。
- 勉強だけではなく、たわいもない話をしたり相談にのったりということもある。
- スタッフの学生は、大学で説明会をするなどして募集している。学生自身が勧誘してくれることもある。
- 中学2、3年生になって、親が進学資金を貯めるため、仕事を掛け持ちし忙しくなり、送迎ができず辞めるケースもある。
- 塾に通うため保護者の送迎が必要で、子どもが中学生ぐらいまでは、なかなか正規の職につくのは難しい。
- 運営資金として助成金をあてたりしているが、助成金の対象とならない事業もあるため、野菜を育てて売った収益や集団回収の収益をあてるなど費用の工面が大変である。
- 教科書が4年に1回変わるため、問題集もそのたびに買い換え、費用がかかる。
- この塾で勉強し、高校に進学した子どもの8割ぐらいが、進学先の高校でもクラスのトップの方にいる。更に大学へ進学するのが困難な子どものため、資金を貯めたいと考えている。
- 大学生が子ども達を教えることにとっても意味がある。子ども達は、大学生のエネルギーな姿に魅力を感じている。大学生に憧れを抱き、自分もそうなりたいと思うことは大事なことである。
- 子ども達が自分で勉強することが大事である。塾はどうやったら自分でできるかの手伝いをしている。子ども達には、学ぶことの大切さを感じ取ってもらいたい。

《意見・提言等》

- 徒歩で来られる距離に住んでいる子どもは2名程度で、それ以外は保護者の送迎により来ている。地域の子どもたちは地域で支える必要があり、学習支援がもっと地域に広がればいいと感じている。

貧困問題に関する意見等

- 貧困の連鎖から子ども達を守るため、学習をする機会を子ども達に提供する必要がある。ただ、見守って、ボランティアに頼ってというのではなく、行政として最終的に何をやっていくのか見据えて取り組んでほしい。

1. アンケート自由記述について

子どもの生活に関する実態調査において、「日常生活で困っていることや悩み事等」について自由記述のあった主な内容をまとめた。

(1) 保護者の悩み、意見、要望

①教育費や子どもにかかる生活費について

- 子育てはお金がかかりすぎる。しょっちゅう集金袋を持って帰ってくる。
- 子どもの成長・進学とともに、出費がどんどん増えて、この先のことを考えると不安。子どもはたくさん産みたいが、経済的な理由で踏み出せない家庭が多いと思う。
- 学校の部活をさせたものの色々お金がかかり、家計が苦しくなり、やめる事になった。部活の先生やまわりの人には本当の事は言えず、子どもとともに悩んだ。
- 大学へは行かせるが、収入が低いので奨学金を受けてもらおうと思っている。親としてそれでいいのか。子どもに借金させるのが心苦しい。
- 子どもなりにお金の心配をしていて、高校へ行けるか不安だと言う。
- 子どもが多く、日常の出費がかなり多い。子育てが終わったころの自分たちの生活の不安がとても大きい。
- 子どもの成績がよくても、経済的に厳しく希望する進路に進ませてあげることができない。一番お金のかかる高校生に対する支援があまりない。塾にも通えず、選択肢が限られている。金銭的に余裕があれば未来はもっと開けるのに心苦しい。(要支援者)
- 公的な教育ローンや生活資金ローンを借りたくても、保証人がいない。保証人の必要がないローンは利息が高い。負の連鎖である。(要支援者)
- エアコンを付ける費用がなく、子どもたちまで体調不良にしてしまった。(要支援者)

②仕事と収入、仕事との両立について

- もっと働きたいが、子どもたちだけになってしまうので時間が増やせない。
- 毎日、仕事、家事、子育て、送迎、部活の手伝い等休息時間がないが子どものためと思い、今は耐えるしかないと思っている。
- 仕事などで時間におわれ、子どもたちの遊びなどにつきあってあげられない。ゆとりがないため、優しく接している時間が少なく、つついきつくあたりしてしまう。
- これから先、子どもの教育費はかかるが、親の介護があるとフルタイムでは働けない。
- 子育て中はパート職ばかりしていたので、年齢的にももう正社員になれることは無く、非正規の仕事をするしかない。

- 自分にも子どもにも負担をかけることない範囲内での仕事をしたいが、なかなか良い時間帯での仕事がない。春、夏、冬の長期休みを考慮するとためらってしまう。
- ひとり親で、仕事をがんばればがんばるほど、帰宅時間は遅くなる。子どもの面倒をみてくれる祖父母も徐々に高齢になり、負担をかけすぎではないかと思いつつも、生活状況を変えることが難しい。
- 男女共同参画社会という風潮が、働く女性の子どもを育てる時間をうばっている。少子化で子どもを守る、育てる方に目を向けるならば、保育所の新設のみならず、母親としての時間を社会の中で認め与えるべきだと思う。仕事と家庭の両立は、時間が足りない。
- ひとり親だが、収入を増やそうとたくさん働くと家にいる時間が減り、子どもに関わる時間が減る。収入を減らすと習い事や塾などに通えず、低学力、結果、将来低収入という悪循環になってしまう。低料金で学習する場所があればいいと思う。（要支援者）
- 普通の生活をしようと思うと、人の何倍も働かないと普通の生活が出来ないので2個3個仕事をかけもちしていると体がボロボロになる。（要支援者）
- 学校行事は行きたいが、勤務先の休暇が取りづらい。仕事がなくなったら、困るので我慢している。ひとり親家庭の事情を理解できる会社は少ないと思う。（要支援者）

③学校や先生について

- 日曜参観をやめてほしい（仕事で休めないときは学校を休ませている。かわいそうで申し訳ない）。運動会の時、他県では弁当は教室でみんな食べている。多様化する家族の形態に対応して欲しい。
- クラスによって帰る時間に差がある。定時に終わらないため習い事に間に合わない。
- 宿題が多すぎる。学校の責任転嫁ではないか。宿題の量がひとり親を考えていない。ひとり親だと、提出物についていろいろ言われるのも非常に困る。寛容さを持ってほしい。
- 先生方の労働時間を見直すと同時に、部活動の時間や日数など見直して欲しい。
- 中学校でも先生の人数を増やして欲しい。多感な年頃でもあるので子どもも悩みは色々あるので各クラスで担任、副担任がいれば目も行き届くのではないかな。
- 学校に、子どものことで相談したいことがあっても、子どもに悪影響が及ぶかもしれないと思うと相談できない。
- 子どもが不登校になった時、色々な相談機関があるのを知ったが、「学校」があるのはとてもありがたく、30人もの子どもたちを先生1人で見る事にとっても違和感を感じる。
- 学校でいじめの調査をすることがあるが、子どもたちは正直に答えないこともある。正直に言うと、その後先生から聞かれるのが面倒くさいらしい。少しでもいじめがなくなればいいと思っている。
- 学校の勉強にはついていけないが、塾に行かせるお金もない。学校での勉強ですむような教育をしてほしい。（要支援者）

④部活動について

- 中学、高校の部活動に最低週 1 日の休みが欲しい。
- 保護者の人間関係が面倒な事もあり、子どもの意欲とは逆の気持ちになることがある。
- 部活動にかかる費用が高い。
- 車が無いと送迎ができず、部活にも入りづらい。
- 土日も練習試合等で親が付き添う必要があり、一日時間がつぶれてしまう。親がまるで部活をしてるのではと思ってしまう。

⑤PTA・地域活動について

- 共働きでフルタイムで働いており、PTA 活動、子ども会活動、地区活動、部活動のサポート等、役割が多く、負担に感じる。
- この地域では子ども会加入が強制。「子ども会」に良い点があるのも充分理解しているが、加入は任意にすべき。
- 必要な事だと分かっているが朝の交通当番の回数が多い。毎月仕事への影響もあり調整が大変。

⑥子どもの将来について

- 希望も大きくある反面、子どもがしっかり自立して生活できるようになるかという不安や、心身共に健康に成長して行けるか等の不安がある。
- 父親や私(母親)に何かあったら生活に困るんだろうなという不安がいつもなんとなくある。
- 子どもの学力のレベルがわからず、今どのような事をさせたらよいか考える。色々と経験させたい気持ちはあるが、親の希望と子どもの希望は違うので、葛藤が常にある。
- 母一人、子一人の為、これからの将来を時折考える。私が亡くなっても一人で生きていけるよう、生計が立てられるよう、学びが仕事に結びつくように人生設計を親が手助けしなければと思っている。
- 将来に対する希望がとても少ない。何になりたい、何をしたい、どこの高校へ行きたいなど、積極性がなくて心配。

⑦勉強について

- 塾もある程度の基本的な学力がないと受け入れてもらえない話を聞くと、塾も入れないのではないかと悪循環な気がする。
- 勉強が全くできず、このままでは進学が難しいのに本人のやる気がなく宿題すらしない。
- 子どもの成績が上がらず高校受験に向けてとても心配。部活と勉強の両立ができるか不安。

⑨子どもの行動・性格について

- ・これまでは色々な話をしてくれていたが、徐々に話をしなくなってきた。成長の一つと思っている。学校生活が楽しいと思っていればいい。
- ・子どもが内気なため、どうすれば周りと触れ合えるようになるのか。
- ・何事に対してもやる気がない。学校や部活での出来事を話したがない。
- ・子どもがしっかりしすぎる。あまりわがままを言わないので心配している。(要支援者)
- ・子どもが反抗期だが、ひとり親なのできつい。(要支援者)

⑩携帯電話・スマートフォン・ゲームについて

- ・携帯電話の使い方について、どこまで制限するべきか悩んでいる。
- ・子どもはゲームに熱中し会話が激減。必要最低限のことは身につけてもらいたいが、繰り返し促しても全く聞く耳もたず、悲しい気持ちになる。
- ・最近、ゲームに依存していて、ゲームに負けたりすると怒ったり、ののしったり、暴言も出るようになった。

⑩健康状態について

(子どもの健康)

- ・ほぼ毎日学校へ通っているが必ず遅刻する。朝、頭痛・腹痛を訴える。
- ・起立性調節障害で体調不良である。社会的自立ができる場や公的に支援してもらえる利用しやすい場があるとうれしい。
- ・子どもがストレス等で体調を崩し学校を休みがちになった。現在はスクールカウンセリングの先生や学校の先生方のおかげで午前中保健室登校をしている。

(保護者の健康)

- ・持病があるため、仕事ができない。面接を受けても、病気の事を伝えると必ずダメになる。
- ・私(母)に精神疾患があり、仕事はもちろん家事もできない。そのせいで夫も精神的に無理がきている。(要支援者)

⑪離婚・養育費・DVについて

- ・父親が家族に当たり散らす。経済的なこともあり、中学の子が高校を卒業するまでは、我慢するしかない。
- ・離婚して経済的には苦しいが、精神的に少し楽になった。子どもには父親がいないのでさみしい思いをさせるのがつらい。(要支援者)
- ・DVを受けていたため、慰謝料はいらないからとやっと離婚したが、生活は苦しい。子どもに罪はないので人並みに育てたい。(要支援者)
- ・養育費を公正証書で取り決めしたものの、払ってもらえない。相手が職を変え、住所もわか

らず連絡がとれない。(要支援者)

- ・離婚をしてくれず、養育費も児童扶養手当も受けられない。(要支援者)

⑫不登校・行き渋りについて

- ・不登校気味で、学校へは行くが教室に入れない。
- ・子どもが不登校であるが、家では暗くないので、さほど心配はしていない。
- ・子どもの不登校が改善できておらず、解決方法も親自身がわからず迷走している。学校やスクールソーシャルワーカーとは連絡を取り合っているが、親もそれがストレスとなっている。
- ・不登校で学校に行けていない。中学校側の対応が担任の先生一人だけが一生懸命されていて、学校全体の取り組みが全く見えてこない。スクールカウンセラーの方もマニュアル通りの回答だった。
- ・子どもが学校へ行けなくなっているが、仕事をしないと収入がなく生活ができないため、子どもの側にいてあげる事ができない。(要支援者)

⑬発達障がい・障がいについて

- ・なんでもかんでも発達障がいだ片付け、理解されていないと思う。「発達障がい」というジャンルで判断するのであれば、もう少し身近な環境(学校)での理解がほしい。
- ・障がいのある子どもに対しての進路や将来など経済的なことも含めて不安がある。
- ・親も子ども悩まず堂々と生活できる場がほしい。色々な提案をくださる支援、介助を必要としている。
- ・もっと発達障がいを持つシングルマザーに対し援助がほしい。子どもを一人で留守番させられず思うように働けなかったり、精神的ストレスが多い。(要支援者)

⑭熊本地震の影響について

(仕事や収入)

- ・震災後仕事も減り、給料も減った。
- ・地震で職場が夫婦ともかわり、収入も減った。家の修理や車の修理も必要な状態だが、日々生活していくことで精一杯。今まで生きてきて、一番つらい状況。
- ・地震後転居し、近所や学校に知り合いが少なく、さみしい。子どもも前の学校に戻れるものなら戻りたい気持ちがあると言う。地震前の持家をすべて失った事でローンの残りが残り、貯蓄もできていない。
- ・地震で家は大丈夫だったが父親の会社が半壊した。家が全壊、半壊の人や、高齢者、母子家庭の人たちには給付金が出るのに、中途半端な位置にいる人たちには何もなく不公平を感じる。
- ・地震後、仕事が通常の2倍に増え、休みがなくなった。残業が多くワークライフバランスがギリギリの状況。

（住環境・生活環境）

- ・家が壊れたまま。家主が直してくれない。
- ・地震後、修理したいが中々思いきれない。毎日の生活が先で修理まで考えられない。
- ・姉弟の部屋を分けてやりたいが、手頃な家賃の賃貸住宅がない。地震の影響か物件自体が非常に少なく、高額で借りられない。
- ・ひとり親家庭で、地震後、実家、みなし仮設と2回の転居をしたせいで、せっかくの義援金も目減りした。現在の住まいを定住居にするには、今の収入では身の丈に合わない家賃のため、予算内の引っ越し先をみつけなければならない。（要支援者）

（精神面、健康について）

- ・地震後、子どもが一人で留守番したり、お風呂に入ったり、エレベーターに乗ることができなくなった。
- ・地震により、再び不登校となった。少しずつ通うようにはなっているが、私自身も落ち込む事が多くなり、同僚や上司に相談したり、カウンセラーやスクールカウンセラーも受けた。
- ・親の私の方が地震の影響を受け、職場へ行けず、病院受診、病欠で収入が不安定。ひとり親でみなし仮設に入居。生活への不安と自分の体調に不安があり、子どもを見る余裕がなくなっている。
- ・小学校まで益城町で生活していたが、地震で家は崩壊した。熊本市内の祖父母の家から熊本市内の中学に通学している。1年たって、やっと平常心になれたようだ。

（避難所について）

- ・子どもが多いことで経済的な面等々で制限することが多かったり、地震の時も避難所等も行きづらく、情報も得られず困った。
- ・重度知的障がい児がおり、地震の時は実家に行くしかなく、避難所には行けなかった。障がい児がいる家庭だけ避難できる場所があればいいと思う。

⑮行政への要望等

- ・収入が少なく、副業も考えるが子どもが小さく見る人もいないので出来ない。預けるにしても夜間料金も高く、近くにない。
- ・育成クラブの終了時間が18時だが、両親共にその時間には仕事が終わらず1人で帰り、1人で家にいるのが心配。また、高学年も預けられるようにしてほしい。4～6年生とはいえ、子どもだけで家にいる時間を少しでも減らしたい。
- ・夏休みなどの長期休暇に入る時に、仕事をする上で子どもたちの預け先にいつも頭を悩ませる。安全でありつつ子ども達にも楽しい休みを過ごしてほしい。
- ・子どもが安全に事故や事件に合わないよう環境を整えてあげたい。通学路の照明や信号機の整備などをしてほしい。
- ・外（公園など）でサッカーや野球をして遊びたいが、思うように外遊びできる場所が近くになく、家でゲーム遊びになってしまうことが多い。

- ・転勤で地元を離れ熊本にきた。夫婦2人の子育てに不安を感じることもしばしばある。ファミサポはちょっと利用しづらいので利用しやすい託児があればと思う。
- ・高校生まで医療機関を無料にしてほしい。
- ・インフルエンザの予防接種も家族分出すと2万くらいになるので、何か補助がほしい。
- ・高等学校の学費は全学校無料になるとよい。
- ・生活保護費では毎月やっていくのが大変。高校まで行って欲しいが金銭的余裕が無い。児童手当や児童扶養手当も4カ月に一度でなく、毎月支給されたほうが助かる。
- ・父親が急逝し、これから先父親がいない生活はとても可哀想だなと思うが、親子3人で頑張っている。ひとり親になって、以外と色々な手当があるなぁと感謝している。
- ・核家族で近くに頼れる親族がいないので、子育てに悩むときも多々あったが、多方面に相談できる相手や機関があるので頼りながら子育てをして来れたと思う。行政レベルで子育て世代を様々な角度から支えて頂けるのは本当に有難い。
- ・子どもを育てるのは、中学生以上からが本当に大変（経済的にも）なので、少子化だからと赤ちゃんの頃だけ手当を増やしている事に疑問を感じる。
- ・ひとり親の家庭に賃貸住宅を安く借りられるような制度を充実させてほしい。（要支援者）
- ・大学進学などを控え、自分も正職員につきたいと思っているが、年を重ねなかなか仕事（正社員）がない。求人は、非常勤職員ばかりなのでボーナスもなく、年齢の高い人の就職支援をしていただきたい。（要支援者）
- ・低料金で利用できる習い事（塾）を公民館等で開いてくれると助かる。ひとり親でも家の近所だと一人で行ける。（要支援者）
- ・中高・大学生・一般に無料で開放できる自習室がほしい（要支援者）
- ・就学援助を受けても一旦は全額支払うのでかなりの負担。払えないというと学校も心配されるから、何としても支払うようにしている。（要支援者）
- ・県外では就学援助の申請や手続きなどは、全て市がおこなっていて、学校に直接申請したり、やりとりすることがないので、親子共に精神的な負担がない。人の目が気になり、申請できない人が結構いる。
- ・子どもが留学をしたいと言って、必要な資金数十万円を借りることができるか役所に相談に行ったが、母子父子寡婦福祉資金貸付制度は利用出来なかった。留学にも利用できる制度があったら教えてもらいたい。（要支援者）
- ・ひとり親だが、収入によって児童扶養手当が少なくなるのは困る。結局頑張って働く時間を増やしても児童扶養手当をへらされると貧困からぬけられない。（要支援者）
- ・児童手当や児童扶養手当はひとり親家族において頼みの綱であるが、中学や18才までである。今の時代、子どもが高校以上の学校に進学するのは当たり前で、進学しないと就職も難しい。お金のかかる時期に公的援助がなくなってしまうので、先行きが不安である。（要支援者）
- ・県は、ひとり親支援が見直され、支援内容が今までより充実しとても有り難く、生活、教育上、塾・親の就労教育等とても助かった。市での具体的な取り組みや支援が身近なところであっただろうかと思う。印象が薄い。（要支援者）

- 実家を離れ、子どもと2人で別の家で暮らそうと思っはいるが、経済的に難しそうでなかなか決断できない。家計の相談とかを、気軽にできるところがあれば教えてもらいたい。(要支援者)
- 子どもが支援クラスに入っているが、手帳の交付やアフタースクール、特別給付金等、とにかく手続きが分かりづらいし時間がかかる。これ以外にも、市の手続きは全て分かりづらいし、面倒な事が多すぎる。もっと簡素化していただきたい。
- 兄弟が発達障がい、ウェルパルで親が受講できるクラスで勉強させてもらった。可能であれば兄弟が受講できるクラスがあればと思う。
- 子どもが知的障がいを持っているが、熊本市は移動支援がない。(要支援者)
- 学校に理由があっで行けなくなった子どもの相談の場や再出発できる教育の場(フリースクールではなく、ふつうの高校や中学に転校できるようにしてほしい)ができればいいと思う。いじめられてどうしようもない時に自殺やひきこもりより、もう一度チャンスをもたらえよう、受け入れてくれる学校がほしい。(要支援者)

(2) 子どもの悩み、意見、要望

①友人関係について

- 友だちがほしい(小5)
- 仲良くしたいわけではない人が強くて、なかなか離れることができない。(小5)
- 仲良くなりたけれど、なれない子がいる。自分から近づくきっかけがない。(小5)
- 仲のいい子同士がかたまりすぎ。(小5)
- 友だちが陰で悪口を言うので、自分の事も言われそうで少し怖い。(小5)
- 趣味の事で友だちが笑ったり、馬鹿にしてくる。(小5)
- いじめではないと思うけど、トイレにいつている時に上靴をかくす子がいる。(小5)
- どうしてもクラスの中に入れない。(中2)
- 友だち付き合いが苦手で、言いたいことが言えない。(中2)
- 最近の中学生はテンションが高すぎて考えや意見が全くあわない。(中2)
- 女子のグループ分けが怖い。(中2)
- いつも学校で一緒にいる友達のことが、実はあまり好きではなく、一緒にいたくないが、ほかに一緒にいられる友達がいないので、どうしてよいか分からない。(中2)
- かまちょ(=かまってちょうだい)が多い。(中2)
- 好きな人についてひやかされる。(中2)

- 人の気持ちを考えずに言ったりしている人がいると思う。(中2)
- 友だちができない。クラスの女子にはずされている。家がほっとする。家族のありがたさが分かった。(高校生、要支援者)

②学校や先生のこと

- 学校の宿題が多く、ねる時間がおそくなっていることがある。(小5)
- 低学年の子が友達にいじめられているところを見た。先生にどう伝えればいいのか分からない。(小5)
- 帰りの時間が長くて習い事に間に合わない。他のクラスは、早く終わっている。(小5)
- 先生がいや。人の話をきいてくれず、決めつける。(小5)
- 全員遊びでしたくなくても必ずしなくちゃいけない。(小5)
- 先生から毎日怒られて、辛い。(小5)
- 給食の牛乳の量が多すぎて飲みきれない。残すのはもったいないのでいつも悩んでいる。だから給食が憂鬱だ。(小5)
- 授業に遅れてわからない。先生の書くスピードが早くついていけない。(小5)
- 学校が死ぬほど楽しくない。(中2)
- 学校がとてもたのしい。(中2)
- クラスが荒れぎみなので、授業に集中できない時がある。(中2)
- 学校の授業であてられたとき、答えきれない。皆に失敗したら笑われるかもしれなくて、こわい。(中2)
- 学校のトイレを、きれいにしてほしい。(中2)
- 相談するまでは、先生等、大人の人は関係ないから無理やり入らないでほしい。(中2)
- 塾に行っているのがあたりまえの世の中なので、塾に行っていない子の不安を大きくさせると思う。塾に行っている子は、学校の授業で寝てしまう子が多い。それじゃ意味がない。(中学生、要支援者)
- 学校の先生の授業がわかりにくい。塾に通っている前提で授業をされているような感じがする。(高校生、要支援者)
- お小遣いがもらえないのに学校はアルバイトの許可を出してくれない。(高校生、要支援者)

③勉強のこと

- 漢字が読めない。書けない。(小5)
- 勉強を好きになれない。(小5)
- 勉強をして、あたまがよくなりたけれど勉強をしようと思っても、やる気がでないし、どんなことをすればいいかわからない。(小5)
- 家庭学習のやり方がよくわからない。勉強に熱心に取り組める方法を知りたい。(中2)
- 塾などを自分の中ではがんばっているのに、結果が出ない。(中2)

④部活動について

- 部活で頑張りたい。(小5)
- 部活やめたい。(中2)
- 練習をどれだけしても上手くなれない。(中2)
- 部活がハードで勉強時間が少なく、勉強よりも部活中心の生活になっている。(中2)
- 部活の事で色々プレッシャーや心配事があるけど、プラスに考えるようにしたい。(中2)

⑤自分の健康や身体・生活のこと

- なかなか身長が伸びない。(小5)
- 体の成長にとまどう時がある。(小5)
- 朝が眠く起きられない。夜は眠くなく、眠れない。(小5)
- わすれ物が多い。(小5)
- 小学校高学年なのに思春期が、来ている感じがしない。(小5)
- お母さんが仕事に行っていて、ほとんど家にいないから、家に帰ってシーンとしていて、それがこわい。(小5)
- 体格の事でよく馬鹿にされる。外では平気にふるまっているが、内心すごく傷ついている。このことを中々相談出来ない。(中2)
- どうしたら早くニキビが治せるか。(中2)
- ゲームのしすぎで学校に遅刻することが多いので解消しようと思う。(中2)
- 生活リズムが上手くできない。ストレス発散が難しい。(中2)

⑥ほしいもの

- 習い事をしたいけれど親が入れてくれない。(小5)
- スマホがほしい。(小5)
- 我が家にインターネットがない。(中2)
- 経済的な問題で、外食が出来ない。(中学生、要支援者)
- お金がなく参考書を買うことや、したいことを制限しなければならなくなる。(中学生、要支援者)
- 自分の部屋で集中して勉強がしたい。部屋がほしい。(中学生、要支援者)
- 無料の塾を作ってほしい。(高校生、要支援者)
- おこづかいがもらえない。(高校生、要支援者)
- 金銭面で周りの高校生みたいに遊べない。(高校生、要支援者)
- 学校や図書館以外で無料で自主学習できる場所を増やしてほしい。(高校生、要支援者)
- 時間がほしい
1週間に1回しかあそべない。(小5)
習い事が多くて学校の宿題があってとてもつかれて学校が楽しくない。(小5)
塾がある日は、睡眠時間があまりとれず、学校で眠くなってしまうときがある。(中2)
お手伝いばかりで、あまり宿題以外の勉強時間がとれない。(中2)

⑦家族のこと

- 兄弟がひきこもりで、家族の笑顔が、もどらない。(小5)
- 父にゲームを無理やりやらされて寝る時間とても遅くなる。(小5)
- 親から暴言をはかれる。(小5)
- 弟がお母さんばかりとる。(小5)
- どうしても両親と意見がくい違いすぎてイライラする。自分のことをあまり理解してくれていないと感じている。(中2)
- お母さん、働き過ぎで体こわしそう。(高校生、要支援者)
- 父と連絡がとれない。(高校生、要支援者)

⑧自分の将来について

- 自分はどのような将来に進んでいけばいいのか、1日に1回程度は悩む。(小5)
- 将来思った職業につけるか心配。中学受験を受けようと思うけど受かるか心配。(小5)
- 将来の夢をお母さんには、はずかしくて言えない。(小5)

- 自分は本当にこのままでいいのか。（小5）
- 自分の将来が全く想像できない。夢が無い。（中2）
- 中学生になってから急に進路の話などされるようになって、自分でもどうすればいいのかわからなくなる。（中2）
- 進路も行きたいところはないけど、親に押しつけられてる感じがして、とても嫌。どうしたら素直に親の話を聞けるのか悩む。（中2）
- 夢はあるけれど、親は賛成はしていない。私も成功するとは思ってないけど、チャレンジしたいと思っている。（中2）
- 生活が貧しい。将来に希望が持てない。（中学生、要支援者）
- 将来親が亡くなった後に一人で生きて行けるか不安で、しょっちゅう気持ちがどんよりしてしまう。親が亡くなった後、どういう行動をしたらいいのか（公共料金の支払いなど）を教えてください。相談窓口がほしい。（高校生、要支援者）

⑨地震について

- また、地震があったら怖い。（小5）
- 家が仮設なのでせまい。（中学生、要支援者）

2. 調査票

(1) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票（保護者用）

熊本市子どもの生活に関する実態調査 | 保護者向け調査票A票

調査主体 熊本市 健康福祉局 子ども未来部 子ども支援課

- この調査は、熊本市内の公立小学校5年生又は中学校2年生のお子さんがいっしょやる保護者の方に、日頃のお子さんとの関わりや家庭状況等について伺うものです。
- 熊本市では、子どもの将来のために必要な環境整備と教育の機会確保を図り、全ての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指しています。
- 経済面や社会的な理由などによる困難を含めた子どもの生活実態を把握し、課題に適切に対応していくために行う調査ですので、ぜひ協力いただきますようお願いいたします。
- この調査の実施に当たっては、個人情報保護法と統計法を遵守し統計処理するため、個人が特定されることは絶対ありません。また、学校は調査票の配布・回収に関する協力のみを行っていただいています。したがって、回答いただいた内容を、学校関係者が見ることは絶対ありません。なお、この調査は熊本県と協同して実施しており、統計的に処理したデータとして、熊本県へ提供することがあります。
- この調査票は保護者の方に回答いただくものですが、別途お子さんに対する調査票（子ども向け調査票：B票）があります。調査結果は、それと組み合わせながら統計分析を致します。
- この調査で「お子さん」とは、調査票をお持ち帰りいただいた小学校5年生又は中学校2年生のお子さんのことを指します。「お父さん」と書かれた質問については、そのお子さんについてのみお答えください。
- また、兄弟姉妹などで調査票が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれの調査票に回答してください。
- 回答は、お答えできる範囲で回答してください。
- 調査に回答いただきましたら、配布時の元の封筒に、この調査票A票（白色）と子ども向け調査票B票（緑色）をまとめて入れ、封をしつうえ、学校に提出されるようお子さんに伝えてください。 ※提出期限は、7月21日（金）です。
- 調査に関することや御不明な点などについては、以下の問合せ先までお願いします。
学校は質問等への対応はできません。

この調査に関する問合せ先

- 調査に関することや御不明な点などがありましたら、お問い合わせください。
熊本市 健康福祉局 子ども未来部 子ども支援課
電話：096-328-2158（平日8：30～17：15）
FAX：096-351-2183
E-mail：kodomoshien@city.kumamoto.lg.jp

記入方法（見本です）

- それぞれの質問について次のように答えてください。
(例) あなたの好きな色は何ですか。
1. 赤 ② 青 3. 黄色 4. その他
※ お答えは、あてはまる番号に○をつけてください。
※ ○のつけ方は、質問文の終わりに「あてはまる番号1」や「あてはまる番号全」などと書いてありますので、それぞれの答え方に沿ってください。

【まず、お子さんとの関係性についてお尋ねします】

■ 問1 この調査に回答いただいている方は、お子さんに対してどのようなお立場（続柄）になりますか。（あてはまる番号1）に○をつけてください

1. 父 2. 母 3. 祖父母 4. 親戚
5. 施設職員・里親等 6. その他

※ 5. を選ばれた方は、問3から問15のみお答えください。

※あなたの世帯について、記入日時点の状況を教えてください。
※世帯とは、普段、住居と生計をともにしている方々（世帯員）の集まりを言います。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。
単身赴任や旅行・出張などで一時的に別居している方も含みます。

問2-1 世帯の人数は何人ですか。（あなたとお子さんを含めた人数について、あてはまる番号1）に○をつけてください

1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人
6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上

問2-2 世帯で同居する方（単身赴任、出張等で一時的に別居している場合を含む）を選んでください。（お子さんからみた続柄で、あてはまる番号全）に○をつけてください

1. お子さん本人 2. 父 3. 母 4. 兄・姉
5. 弟・妹 6. 祖父 7. 祖母 8. 親戚
9. その他

(1) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票（保護者用）

問 2-3 世帯員のうち、18歳未満の子どもの数は何人ですか。(お子さんを含めた人数について、あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人

6. 6人 7. 7人以上

【家庭でのお子さんとの生活についてお尋ねします】

■問3 お子さん本人と、その父母の現在の健康状態はどうですか。(父、母、お子さんそれぞれ、あてはまる番号1つに○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください。)

父	母	お子さん
1. よい	1. よい	1. よい
2. まあよい	2. まあよい	2. まあよい
3. 普通	3. 普通	3. 普通
4. あまりよくない	4. あまりよくない	4. あまりよくない
5. よくない	5. よくない	5. よくない
6. 分からない	6. 分からない	6. 分からない

■問4 あなたの世帯では、お子さんの保護者の方が食事をどのくらいつくりますか。(保護者には、お子さんの父母のほか、祖父母や親戚などを含めます。1日に1食でも、目玉焼きなどの簡単な料理を含めて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほとんど毎日 2. 週に4～5日程度 3. 週に2～3日程度

4. 月に数日 5. ほとんどつくらない

■問5 あなたの世帯で、お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で多いものを選んでください。(保護者には、お子さんの父母のほか、祖父母や親戚などを含めます。あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる

2. お子さんの夕食時間には家にいる (1. を除く)

3. お子さんの寝る時間には家にいる (1. 2. を除く)

4. お子さんが寝た後に帰ってくる (1. 2. 3. を除く)

5. 保護者の帰宅時間は全く決まっていない

6. その他

■問6 あなたの世帯では、お子さんと一緒に遊びや料理、会話等をする時間は、1日あたりどのくらいですか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

平日	休日
1. ほとんどない	1. ほとんどない
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間以上	6. 3時間以上

■問7 あなたの世帯では、以下のようなことがどの程度ありますか (①～⑤の項目それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	よくある	時々ある	ほとんどない	ない
①子どもと一緒に学校の話を話す	1	2	3	4
②子どものことについて家族で話し合う	1	2	3	4
③子どもの前で保護者が大喧嘩をする	1	2	3	4
④保護者の不安やイライラ等の感情を子どもに向けてしまう	1	2	3	4
⑤子どもだけで夜間に留守番をする	1	2	3	4

(1) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票 (保護者用)

- 問12-1 あなたは、問11で回答した希望どおりお子さんが進学できそうだとお考えですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
1. そう思う 2. そう思わない 3. 分からない
⇒ ※2. を選んだ方は、問12-2も回答してください
- 問12-2 問12-1で「**そう思わない**」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は、問13にお進みください。その理由について教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
1. お子さんの希望とは違うから 2. 現在のお子さんの学力や成績から考えて
3. 経済的な余裕がないから 4. 特に理由はない
5. 分からない 6. その他
- 問13 無料または低料金で利用できるボランティア等が行う学習支援制度があった際、利用したいと思いますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
1. 現在利用している 2. 利用したいと思う 3. 利用するつもりはない
- 【学校や地域との関わりについてお尋ねします】**
- 問14 あなたの世帯では、授業参観や運動会など、お子さんの学校行事にどの程度参加していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
1. 頻繁に参加している 2. どちらかと言えば参加している
3. ほとんど参加していない 4. 参加していない
- 問15 あなたの世帯では、地区の祭りなど、地域の行事にどの程度参加していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
1. 頻繁に参加している 2. どちらかと言えば参加している
3. ほとんど参加していない 4. 参加していない

- 【お子さんの日常生活と教育についてお尋ねします】**
- 問8 お子さんの成績はどれくらいですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
1. 成績良好 2. まあまあ良好 3. 普通
4. やや遅れている 5. 遅れている 6. 分からない
- 問9 お子さんの通学状況はどうですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
1. ほぼ毎日通っている 2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席は年間30日以上60日未満である 4. 欠席は年間60日以上1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている 6. 分からない
- 問10 あなたのお子さんは、学校が終わってから夕食までの間、主に誰と過ごしていますか。(あてはまる番号全てに○をつけてください)
1. 父 6. お子さんの友人
2. 母 7. 放課後児童クラブの支援員
3. 祖父母 8. お子さんひとり
4. 親戚 9. 塾などの習い事の先生など
5. 兄弟姉妹 10. その他の人
11. 分からない
- 問11 あなたは、お子さんをどの学校まで進学させたいと希望されていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
1. 中学校 5. 大学
2. 高等学校 6. 大学院
3. 専門学校 7. その他
4. 短期大学 8. 分からない

(1) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票（保護者用）

【保護者の方の最終卒業学校や経済状況等についてお尋ねします】

■問 16 お子さんの父母の最終学歴を教えてください。(父母それぞれについて、あてはまる番号1-7に○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください)

父	母
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校卒業	2. 高等学校卒業
3. 専門学校卒業	3. 専門学校卒業
4. 短期大学卒業	4. 短期大学卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他	7. その他

■問 17 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1-7に○をつけてください)

1. 持ち家 (家族名義を含む)	2. 賃貸住宅 (6. を除く)	3. 公営住宅
4. 社宅・寮	5. 応急仮設住宅	6. みなし仮設住宅
7. 親類・知人宅に同居	8. その他	

■問 18 お子さんの父母の現在の就業状況を教えてください。(父母それぞれについて、あてはまる番号1-7に○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください)

父	母
1. お勤め (正社員、正規職員)	1. お勤め (正社員、正規職員)
2. お勤め (パート・アルバイト)	2. お勤め (パート・アルバイト)
3. お勤め (契約・派遣社員等)	3. お勤め (契約・派遣社員等)
4. 自営業	4. 自営業
5. 無職 (求職中)	5. 無職 (求職中)
6. 無職 (求職中ではない)	6. 無職 (求職中ではない)

■問 19 前年 (2016年1月～12月) の世帯全員を合わせた所得の合計 (収入から税や保険料を支払った後の額) はおよそいくらかでしたか。(あてはまる番号1-17に○をつけてください)

1. 50万円未満	17. 800～850万円未満
2. 50～100万円未満	18. 850～900万円未満
3. 100～150万円未満	19. 900～950万円未満
4. 150～200万円未満	20. 950～1000万円未満
5. 200～250万円未満	21. 1000～1100万円未満
6. 250～300万円未満	22. 1100～1200万円未満
7. 300～350万円未満	23. 1200～1300万円未満
8. 350～400万円未満	24. 1300～1400万円未満
9. 400～450万円未満	25. 1400～1500万円未満
10. 450～500万円未満	26. 1500～1600万円未満
11. 500～550万円未満	27. 1600～1700万円未満
12. 550～600万円未満	28. 1700～1800万円未満
13. 600～650万円未満	29. 1800～1900万円未満
14. 650～700万円未満	30. 1900～2000万円未満
15. 700～750万円未満	31. 2000万円以上
16. 750～800万円未満	32. 分からない

(1) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票（保護者用）

■問 20 あなたの世帯では、以下の手当や援助等を受けていますか。(①～⑥の項目それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	受けている	受けたことがある	受けたことはない	受けたことが分らない
①児童手当	1	2	3	4
②就学援助費（※1）	1	2	3	4
③児童扶養手当（※2）	1	2	3	4
④生活保護	1	2	3	4
⑤行政からの貸付金（※3）	1	2	3	4
⑥元配偶者からの養育費	1	2	3	4

※1 経済的な理由で就学が困難な児童生徒に対し、学用品費などを援助する制度

※2 ひとり親家庭等（母子家庭、父子家庭等）に支給される手当

※3 ひとり親家庭等を対象とした母子父子寡婦福祉資金貸付制度、奨学金など

■問 21 あなたの世帯では、経済的理由で、次のような経験をしたことがありますか。おおよそ直近1年の間でお考えください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 食費（嗜好品を除く）を切りつめた	7. 必要な服や靴を買い控えた
2. 電気、ガス、水道などが止まった	8. 冠婚葬祭のつきあいを控えた
3. 医療機関を受診できなかった	9. 家族の祝い事を控えた
4. 税金の支払いが滞った	10. 家族旅行を控えた
5. 家賃やローンの支払いが滞った	11. その他
6. 電話などの通信料の支払いが滞った	12. なし

■問 22 あなたの世帯では、経済的理由で、(お子さんが希望したにもかかわらず) 次のような経験をしたことがありますか。おおよそ直近1年の間でお考えください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 医療機関を受診できなかった	7. スポーツや部活動に参加できなかった
2. 本や絵本が買えなかった	8. 学習塾に通えなかった
3. お小遣いを渡せなかった	9. 誕生日等の祝い事を祝えなかった
4. 必要な服や靴を買えなかった	10. 地域行事に参加できなかった
5. 遠足や修学旅行に参加できなかった	11. その他
6. 習い事に通えなかった	12. なし

【あなた御自身のお気持ちや悩みについてお尋ねします】

■問 23 あなたは、自分の将来に対して前向きな希望を持っていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 希望を持っている
2. 希望を持っている時もあれば、ない時もある
3. 希望が持てない
4. 分からない

■問 24 あなたは、自分だけでは解決することが難しい大きな悩みを抱えていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 大きな悩みを抱えている
2. 大きな悩みを抱えている時もある、ない時もある
3. 大きな悩みを抱えていない
4. 分からない

■問 25-1 あなたは、悩みや子育ての相談などができる人はいいますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. 相談できる人が欲しいが、いない
3. 相談する人は必要ない	4. 分からない

⇒1. 2. を選んだ方は、問 25-2 も回答してください

■問 25-2 問 25-1 で「1. いる」「2. 相談できる人が欲しいが、いない」と答えた方にお尋ねします。それ以外の方は問 26 にお進みください。相談できる相手または相談したいと思う相手は誰ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 配偶者	6. スクールカウンセラー
2. 親・親族	7. 民生委員・児童委員
3. 友人・知人	8. 職場関係
4. 隣人・地域の人	9. 公的な相談機関
5. 学校の先生	10. 民間団体やボランティア

(1) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票（保護者用）

■問 26 日常生活で困っていることや悩み事等がありましたら、ご自由にお書きください。

【最後に熊本地震後の生活状況等についてお尋ねします】

■問 27 熊本地震の住居への影響や現在の状況について、あてはまる番号 に○をつけてください。

①地震前の住居	1. 持ち家 2. 民間賃貸住宅 3. 社宅・会社の寮 4. 公営住宅 5. 親類・知人宅に同居 6. その他
②地震による被害	1. 被害なし 2. 一部損壊 3. 半壊 4. 大規模半壊 5. 全壊
③現在の居所	1. 被災前と同じ（修理等なし） 2. 被災前と同じ（新築・修理等） 3. 被災後に転居等した

■問 28 熊本地震の影響で、地震前と現在で、就業形態（正規・非正規雇用など）の変化はありますか。（あてはまる番号 に○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください）

父		母	
1. 変わらない	1. 変わらない	1. 変わらない	1. 変わらない
2. 変わった	2. 変わった	2. 変わった	2. 変わった
↓ (変わった方は以下もお答えください)	↓ (変わった方は以下もお答えください)	↓ (変わった方は以下もお答えください)	↓ (変わった方は以下もお答えください)
1. 安定した（非正規⇒正規など）	1. 安定した（非正規⇒正規など）	1. 安定した（非正規⇒正規など）	1. 安定した（非正規⇒正規など）
2. 不安定になった（正規⇒非正規など）	2. 不安定になった（正規⇒非正規など）	2. 不安定になった（正規⇒非正規など）	2. 不安定になった（正規⇒非正規など）

■問 29 熊本地震の影響で、地震前と現在を比べ、収入の変化はありましたか。（あてはまる番号 に○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください。）

父		母	
1. 変わらない	1. 変わらない	1. 変わらない	1. 変わらない
2. 変わった	2. 変わった	2. 変わった	2. 変わった
↓ (変わった方は以下もお答えください)	↓ (変わった方は以下もお答えください)	↓ (変わった方は以下もお答えください)	↓ (変わった方は以下もお答えください)
1. 増えた	1. 増えた	1. 増えた	1. 増えた
2. 少し減った（1～2割減）	2. 少し減った（1～2割減）	2. 少し減った（1～2割減）	2. 少し減った（1～2割減）
3. かなり減った（3割以上減）	3. かなり減った（3割以上減）	3. かなり減った（3割以上減）	3. かなり減った（3割以上減）

調査はこれで終了です。
長いお時間、調査に細協力いただき、ありがとうございました。

(2) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票 (子ども用)

くまもと子ども生活に関する実態調査 子ども向け調査票B票
 調査主体 熊本市役所 子ども支援課

- この調査は、熊本市内の小学校5年生、中学校2年生の皆さんの学校や家での生活の様子などについて尋ねるものです。皆さんのまわりにある様々な課題をできるだけ解決し、皆さんの将来を少しでも良くするために必要なもので、ぜひ協力してください。
- 小学校5年生、中学校2年生のあなたが自分で答えてください。保護者の方に見せたり、相談したりする必要はありません。
- 自分自身で思ったとおりに答えてください。答えに迷う場合は、あなたの気持ちや考えに一番近いものを選んでください。また、答えられない、答えたくない質問は答える必要はありません。
- この調査は、あなたの名前を書く必要はありません。あなたが個人を特定するものではありませんので、安心して答えてください。また、答えたい内容を学校の先生が見ることも絶対ありません。
- 回答が終わったら、封筒に、保護者の方が回答した別の調査票(白色)とこの調査票(緑色)をまとめて入れ、封をして学校に提出してください。※提出期限は7月21日(金)です。
- 調査にすることや分からない点などがあった場合は、以下の問合せ先までお願いします。学校は質問などへの対応はできません。

■ 調査に関することや不明な点などがありましたら、下記までお問い合わせください。
 熊本市役所 子ども支援課
 電話：096-328-2158 (平日8:30~17:15)

質問への答え方 (原本です)

■ それぞれの質問について次のように答えてください。
 (例) あなたの好きな色は何ですか。
 1. 赤 ② 青 3. 黄色 4. その他
 ※ お答えは、あてはまる番号に○をつけてください。
 ※ ○のつけ方は、質問文の終わりに「あてはまる番号1つ」や「あてはまる番号全て」などと書いてありますので、それぞれの答え方に沿ってください。

[まず、あなたご自身についてお聞きします]
 ■問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号1つ)に○をつけてください)
 1. 小学生 2. 中学生

■問2 あなたの性別について、あてはまる番号1つに○をつけてください。
 1. 男性 2. 女性 3. 答えたくない

[勉強と学校生活についてお聞きします]
 ■問3 あなたは、週にどのくらい保護者の方に宿題(勉強)を見てもらいますか。(保護者には、あなたの父母のほか、祖父母(おじいちゃん、おばあちゃん)や親戚などの大人を含みます。あてはまる番号1つに○をつけてください)
 1. ほぼ毎日 2. 週に4~5日 3. 週に2~3日
 4. 週に1日程度 5. ほとんどない

■問4 あなたは、平日(月~金曜日)は、学校の授業以外に1日にどのくらい勉強しますか。(塾での勉強時間を含めて、あてはまる番号1つに○をつけてください)
 1. ほとんどしない 2. 1時間より少ない 3. 1~2時間
 4. 2~3時間 5. 3~4時間 6. 4~5時間
 7. 5時間より多い

(2) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票 (子ども用)

■問5 あなたは、休日(土日、祝日)は、1日にどのくらい勉強しますか。(塾での勉強時間を含めて、あてはまる番号1つ)に○をつけてください

- | | | |
|-------------|--------------|----------|
| 1. ほとんどしない | 2. 1時間よりも少ない | 3. 1～2時間 |
| 4. 2～3時間 | 5. 3～4時間 | 6. 4～5時間 |
| 7. 5時間よりも多い | | |

■問6 あなたは、週にどのくらい読書をしますか。(マンガや雑誌を除き、あてはまる番号1つ)に○をつけてください

- | | | |
|------------|--------------|------------|
| 1. ほとんどしない | 2. 30分よりも少ない | 3. 30分～1時間 |
| 4. 1～2時間 | 5. 2時間よりも多い | |

■問7-1 あなたは、学校は楽しいと思いますか。(あてはまる番号1つ)に○をつけてください

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 1. すごく楽しい | 2. まあまあ楽しい | 3. あまり楽しくない |
| 4. 全く楽しくない | 5. わからない | |
- ※1. ～ 2. を選んだ方は、問7-2も答えてください
 ※3. ～ 5. を選んだ方は、問7-3も答えてください

■問7-2 問7-1で「1. すごく楽しい」、「2. まあまあ楽しい」と答えた方にお聞きします。それ以外の方は、問7-3にお進みください。あなたがそう思う理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 勉強が好きだから | 2. 友達といるのが楽しいから |
| 3. 先生が好きだから | 4. 部活動やクラブ活動が楽しいから |
| 5. 何となく | 6. その他 |

■問7-3 問7-1で「3. あまり楽しくない」、「4. 全く楽しくない」、「5. わからない」と答えた方にお聞きします。それ以外の方は、問8にお進みください。あなたがそう思う理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 勉強が嫌いだから | 2. 授業がわからないから |
| 3. 友達が好きだから | 4. 先生が嫌いだから |
| 5. いじめられるから | 6. 何となく |
| 7. 学校に行っても意味がないから | 8. わからない |

■問8 あなたは、将来的に、将束どの学校まで進学したいですか。(あてはまる番号1つ)に○をつけてください

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 中学校 | 5. 大学 |
| 2. 高等学校(高校) | 6. 大学院 |
| 3. 専門学校 | 7. その他 |
| 4. 短期大学 | 8. わからない |

■問9-1 あなたは、塾(家庭教師や通信制の家庭学習教材を含みます)に通っていますか。(習字やそろばん、ピアノなどの習い事は含みません。あてはまる番号1つ)に○をつけてください

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1. 通っている | 2. 通っていない |
| ⇒※2. を選んだ方は、問9-2も答えてください | |

■問9-2 問9-1で「2. 通っていない」と答えた方にお聞きします。それ以外の方は、問10-1にお進みください。塾に通っていない理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| 1. 近くに通いたい塾(家庭教師・通信制の家庭学習教材)がないから | 5. 行きたくないから |
| 2. スキル-物アや部活動などで忙しいから | 7. その他 |
| 3. 通いたい塾、保護者に月謝などの負担をかけられないから | |
| 4. 通わなくても十分に学習ができるから | |

(2) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票 (子ども用)

■問 10-1 あなたは、スポーツクラブ (学校の部活動以外の球技や水泳、ダンスなど) や部活動に入っていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 入っている 2. 入っていない
⇒ ※ 2. を選んだ方は、問 10-2 も答えてください

■問 10-2 問 10-1 で「2. 入っていない」と答えた方にお聞きします。それ以外の方は、問 11-1 にお進みください。入っていない理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 入りたいが、費用などが合わないから 2. 勉強や塾、習い事で忙しいから
3. 入りたいが、保護者に月謝などの負担を掛けられないから
4. その他 5. 特に理由はない

問 11-1 あなたは、習字やそろばん、ピアノなどの習い事をしていませんか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. している 2. していない
⇒ ※ 2. を選んだ方は、問 11-2 も答えてください

■問 11-2 問 11-1 で「2. していない」と答えた方にお聞きします。それ以外の方は、問 12 にお進みください。習い事をしていない理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 習いたいと思う習い事がないから 2. 勉強や塾、部活動で忙しいから
3. 習いたいが、保護者に月謝などの負担を掛けられないから
4. その他 5. 特に理由はない

【放課後の過ごし方についてお聞きします】

■問 12 あなたは、学校が終わってから夕食までの間、主にどこで過ごしていますか。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 自分の家
2. 親戚の家
3. 祖父母の家
4. あなたの友人の家
5. 児童育成クラブ
6. 塾
7. 公園、広場
8. 図書館、公民館、児童館
9. ゲームセンター
10. ショッピングモール
11. 体育館やグラウンド
12. 習い事の教室など
13. その他

■問 13 あなたは、学校が終わってから夕食までの間、主に誰と過ごしていますか。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 父
2. 母
3. 祖父母
4. 親戚
5. 兄弟姉妹
6. あなたの友人
7. 児童育成クラブの先生
8. あなたひとり
9. その他の人
10. わからない

■問 14 あなたは、保護者の方と学校のできごとについて話をしますか。(保護者には、あなたの父母のほか、祖父母や親戚などの大人を含みます。あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほとんど毎日話をする 2. たまに話をする
3. あまり話をしない 4. 全く話をしない

■問 15 あなたは、平日 (月～金曜日) は、1日に何時間くらいテレビをみますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほとんど見ない 2. 1時間より少ない 3. 1～2時間
4. 2～3時間 5. 3～4時間 6. 4～5時間
7. 5時間より多い

(2) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票 (子ども用)

■問 16 あなたは、平日 (月～金曜日) は、1日に何時間くらいゲームをしますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. ほとんどしない | 2. 1時間より少ない | 3. 1～2時間 |
| 4. 2～3時間 | 5. 3～4時間 | 6. 4～5時間 |
| 7. 5時間より多い | 8. 持っていない | |

■問 17 あなたは、平日 (月～金曜日) は、1日に何時間くらい携帯電話 (スマートフォンなど) を使用しますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|--------------|-------------|----------|
| 1. ほとんど使用しない | 2. 1時間より少ない | 3. 1～2時間 |
| 4. 2～3時間 | 5. 3～4時間 | 6. 4～5時間 |
| 7. 5時間より多い | 8. 持っていない | |

■問 18 あなたは自分が使うことができる、ア～コのものがありますか。ある場合は、「1. ある」の番号に○をつけてください。ない場合はそれが必要と思うものであれば「2. 必要と思う」、必要と思わない場合は「3. 必要でない」の番号に○をつけてください。

	ある	ない
ア. 学習のための本 (参考書)	1. ある	3. 必要でない
イ. 子ども部屋などの勉強する場所	1. ある	3. 必要でない
ウ. パソコン	1. ある	3. 必要でない
エ. クラブ、部活動などの用具	1. ある	3. 必要でない
オ. 自転車	1. ある	3. 必要でない
カ. 携帯電話	1. ある	3. 必要でない
キ. 習い事の道具	1. ある	3. 必要でない
ク. 自分で選んだ服	1. ある	3. 必要でない
ケ. テレビ	1. ある	3. 必要でない
コ. ほとんどの友達が持っているゲームなど	1. ある	3. 必要でない

【あなたの健康についてお聞きします】

■問 19 あなたは、毎日どのくらい歯磨きをしますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | | |
|-------------|-------|-------|------------|
| 1. 毎食後 (3回) | 2. 2回 | 3. 1回 | 4. ほとんどしない |
|-------------|-------|-------|------------|

■問 20 あなたは、現在むし歯がありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. ある (治療済または治療中) | 2. ある (治療していない) |
| 3. ない | 4. わからない |

■問 21 あなたは、どのくらいお風呂 (シャワーも含む) に入りますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|----------------|--------------------|------------|
| 1. 毎日またはほとんど毎日 | 2. 4～5日に1回 | 3. 2～3日に1回 |
| 4. 週に1回程度 | 5. 入らないまたはほとんど入らない | |

■問 22 あなたは、平日 (月～金曜日) は、ほぼ同じ時刻に起きていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. ほぼ同じ時刻に起きている | 2. どちらかと言えば同じ時刻に起きている |
| 3. あまり同じ時刻に起きていない | 4. 起きる時刻は毎日異なる |

■問 23 あなたは、平日 (月～金曜日) は、ほぼ同じ時刻に寝ていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. ほぼ同じ時刻に寝ている | 2. どちらかと言えば同じ時刻に寝ている |
| 3. あまり同じ時刻に寝ていない | 4. 寝る時刻は毎日異なる |

■問 24 あなたは、平日 (月～金曜日) は、平均して何時間くらい寝ていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|-------------|----------|------------|
| 1. 4時間より少ない | 2. 4～5時間 | 3. 5～6時間 |
| 4. 6～7時間 | 5. 7～8時間 | 6. 8時間より多い |

(2) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票 (子ども用)

【あなたの食生活についてお聞きします】

■問 25-1 あなたは、週にどのくらい朝食を食べますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日 ⇒ 問 26-1 へ 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日
4. 週に1日程度 5. ほとんど食べない

※ 2. ～ 5. を選んだ方は、問 25-2 も答えてください

■問 25-2 問 25-1 で「1. ほぼ毎日」と答えた方以外にお聞きします。「1. ほぼ毎日」と答えた方は、問 26-1 にお進みください。あなたが朝食を食べない理由を教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 食べる時間がない 2. おなかが空いていない
3. 用済されていない 4. 食べる習慣がない
5. わからない 6. その他

■問 26-1 あなたは、週にどのくらい夕食を食べますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日 ⇒ 問 27 へ 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日
4. 週に1日程度 5. ほとんど食べない

※ 2. ～ 5. を選んだ方は、問 26-2 も答えてください

■問 26-2 問 26-1 で「1. ほぼ毎日」と答えた方以外にお聞きします。「1. ほぼ毎日」と答えた方は、問 27 にお進みください。あなたが夕食を食べない理由を教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 食べる時間がない 2. おなかが空いていない
3. 用済されていない 4. 食べる習慣がない
5. わからない 6. その他

■問 27 あなたは、週にどのくらい保護者の方と一緒に朝食を食べますか。(保護者には、あなたの父母のほか、祖父母や親戚などの大人を含みます。あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日
4. 週に1日程度 5. ほとんど食べない

■問 28 あなたは、週にどのくらい保護者の方と一緒に夕食を食べますか。(保護者には、あなたの父母のほか、祖父母や親戚などの大人を含みます。あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日
4. 週に1日程度 5. ほとんど食べない

【あなたの考えや気持ちについてお聞きします】

■問 29 あなたは、将来のためにも、今、勉強やスポーツ・特技を頑張りたいと思いますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. そう思う 2. どちらかと言えそう思う
3. どちらかと言えそう思わない 4. そう思わない
5. わからない

■問 30 あなたは、将来の夢・希望や目標を持っていきますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 持っている 2. どちらかと言え持っている
3. どちらかと言え持っていない 4. 持っていない
5. わからない

■問 31 あなたは、難しいことでも失敗を恐れず何かに挑戦したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. そう思う 2. どちらかと言えそう思う
3. どちらかと言えそう思わない 4. そう思わない
5. わからない

(2) 子どもを持つ世帯へのアンケート調査票 (子ども用)

■問 32 あなたは、自分には良いところがあると思いますか。(あてはまる番号1つ)に○をつけてください

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかと言えばそう思う |
| 3. どちらかと言えばそう思わない | 4. そう思わない |
| 5. わからない | |

【あなたの悩みやサポートしてくれる方(助けてくれる方)についてお尋ねします】

■問 33 あなたは、自分だけでは解決することが難しい大きな悩みがありますか。(あてはまる番号1つ)に○をつけてください

- | |
|---------------------------|
| 1. 大きな悩みなどがある |
| 2. 大きな悩みなどがある時もあるが、ない時もある |
| 3. 大きな悩みなどはない |
| 4. わからない |

■問 34-1 あなたは、悩みなどを相談できる人はいますか。(あてはまる番号1つ)に○をつけてください

- | | | |
|---------------|-------------------|--------------------|
| 1. いる | ⇒問 34-2 も答えてください。 | 2. 相談できる人が欲しいが、いない |
| 3. 相談する人は必要ない | | 4. わからない |

■問 34-2 問 34-1 で「1. いる」と答えた方にお尋ねします。それ以外の方は問 35 にお進みください。あなたが悩んでいるときに、相談に乗ってくれる人は誰ですか。(あてはまる番号1つ)に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 家族 (両親、祖父母、兄弟姉妹など) | 2. 親戚 (おじさん、おばさん、いとこなど) |
| 3. 担任の先生やほかのクラスの先生 | 4. 保健室の先生 |
| 5. スクールカウンセラー | 6. 塾や習い事の先生 |
| 7. 学校の友達 | 8. その他の友達 |
| 9. その他の人 | |

■問 35 あなたが今悩んでいることや心配なこと、困っていることや誰かに相談したいと思っていることがあれば教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください。)

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 1. 家族のこと | 2. 学校の勉強のこと |
| 3. 友人関係 | 4. 進路のこと |
| 5. その他のこと | 6. 悩んでいることや心配なこと、困っていることではない |

■問 36 最後に、日常生活で困っていることや悩み事などがありましたら、ご自由にお書きください。

--

質問は以上です。調査に協力いただき、誠にありがとうございました。

(3) 親支援助者へのアンケート調査票 (保護者用)

熊本市子どもの生活に関する実態調査 | 保護者向け調査票A票

調査主体 熊本市 健康福祉局 子ども未来部 子ども支援課

- この調査は、熊本市の支援制度などを活用されており、12～18歳のお子さんがいらっしゃる保護者の方に、日頃のお子さんとの関わりや家庭状況等について伺うものです。
- 熊本市では、**子どもの将来のために必要な環境整備と教育の機会確保を図り、全ての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指しています。**
- **経済面や社会的な理由等による困難を含めた実態を把握し、課題に適切に対応していくために**行う調査ですので、ぜひご協力いただけますようお願いいたします。
- この調査の実施に当たっては、**個人情報保護法と統計法を遵守し統計処理するため、個人が特定されることは絶対ありません。**
- この調査票は保護者の方に回答いただくものですが、別途お子さんに対する調査票(子ども向け調査票：B票)があります。調査票Bは対象の年齢(12～18歳)のお子さんにお渡しいただき、ご記入いただけますようお願いいたします。調査結果は、調査票Bと組み合わせながら統計分析を致します。
- ※世帯に12～18歳のお子さんが複数いらっしゃる場合は、**どのお子さんが答えても構いません。**
- この調査で「お子さん」とは、別紙調査票Bをご記入いただくお子さんのことを指します。「お子さん」と書かれた質問については、そのお子さんについてのみお答えください。
- **調査に回答いただきましたら、同封している返信用封筒(水色)に、この調査票Aと子ども向け調査票B(白色)をまとめて入れ、封をしたうえ、8月3日(木)までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。**
- 調査に関することやご不明な点などについては、以下の問合せ先までお願いします。

この調査に関する問合せ先

熊本市 健康福祉局 子ども未来部 子ども支援課
 電話：096-328-2158 (平日8:30～17:15)
 FAX：096-351-2183
 E-mail：kodomoshien@city.kumamoto.lg.jp

質問への回答方法 (見本です)

- それぞれの質問について次のように答えてください。
 (例) あなたの好きな色は何ですか。
 1. 赤 ② 青 3. 黄色 4. その他
 ※ お答えは、あてはまる番号に○をつけてください。
 ※ ○のつけ方は、質問文の終わりに「あてはまる番号1つ」や「あてはまる番号全て」などと書いてありますので、それぞれの答え方に沿ってください。

【あなたとあなたの世帯のことについてお尋ねします】

- 問1 お住まいの区を教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
 1. 中央区 2. 東区 3. 西区 4. 南区 5. 北区

※この調査票で「お子さん」について回答していただく項目は、**調査票B**を記入されるお子さんについてお答えください。

- 問2 この調査に回答いただいている方は、お子さんに対してどのようなお立場(続柄)になりますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)
 1. 父 2. 母 3. 祖父母 4. 親戚
 5. 施設職員・里親等 6. その他

※ 5. を選ばれた方は、問3-1から問14-2のみお答えください。

※あなたの世帯について、記入日時点の状況を教えてください。
 ※世帯とは、普段、住居と生計をともにしている方々(世帯員)の集まりを言います。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含まれます。
 単身赴任や旅行・出張等で一時的に別居している方も含まれます。

■ 問3-1 世帯の人数は何人ですか。(あなたとお子さんを含めた人数について、あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人
- 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上

(3) 要支援者へのアンケート調査票（保護者用）

■問 3-2 世帯で同居する方（単身赴任、出張等で一時的に別居している場合を含む）を選んでください。（お子さんから見た総柄で、あてはまる番号^{番号}全てに○をつけてください）

1. お子さん本人 2. 父 3. 母 4. 兄・姉
5. 弟・妹 6. 祖父 7. 祖母 8. 親戚
9. その他

■問 3-3 世帯員のうち、18歳未満の子どもの数は何人ですか。（お子さんを含めた人数について、あてはまる番号^{番号}1つに○をつけてください）

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人
6. 6人 7. 7人以上

【家庭でのお子さんとの生活についてお尋ねします】

■問 4 お子さん本人と、その父母の現在の健康状態はどうですか。（父、母、お子さんそれぞれ、あてはまる番号^{番号}1つに○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください）

父	母	お子さん
1. よい	1. よい	1. よい
2. まあよい	2. まあよい	2. まあよい
3. 普通	3. 普通	3. 普通
4. あまりよくない	4. あまりよくない	4. あまりよくない
5. よくない	5. よくない	5. よくない
6. 分らない	6. 分らない	6. 分らない

■問 5 あなたの世帯では、お子さんの保護者の方が食事をどのくらいつづけますか。（保護者には、お子さんの父母のほか、祖父母や親戚等を含みます。1日に1食でも、目玉焼き等の簡単な料理を含めて、あてはまる番号^{番号}1つに○をつけてください）

1. ほとんど毎日	2. 週に4～5日程度	3. 週に2～3日程度
4. 月に数日	5. ほとんどつづらない	

■問 6 あなたの世帯で、お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で多いものを選んでください。（保護者には、お子さんの父母のほか、祖父母や親戚等を含みます。あてはまる番号^{番号}1つに○をつけてください）

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる
2. お子さんの夕食時間には家にいる（1. を除く）
3. お子さんの寝る時間には家にいる（1. 2. を除く）
4. お子さんが寝た後に帰ってくる（1. 2. 3. を除く）
5. 保護者の帰宅時間は全く決まっていない
6. その他

■問 7 あなたの世帯では、お子さんと一緒に出かけたり会話をするなど、お子さんと関わる時間は、1日あたりどのくらいですか。（平日、休日それぞれについて、あてはまる番号^{番号}1つに○をつけてください）

平日	休日
1. ほとんどない	1. ほとんどない
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間	3. 30分～1時間
4. 1時間～2時間	4. 1時間～2時間
5. 2時間～3時間	5. 2時間～3時間
6. 3時間以上	6. 3時間以上

■問 8 あなたの世帯では、以下のようなことがどの程度ありますか（①～⑤の項目それぞれについて、あてはまる番号^{番号}1つに○をつけてください）

	よくある	時々ある	ほとんどない	ない
①子どもと一緒に学校の話をする	1	2	3	4
②子どものことについて家族で話し合う	1	2	3	4
③子どもの前で保護者が大喧嘩をする	1	2	3	4
④保護者の不安やイライラ等の感情を子どもに向けてしまう	1	2	3	4
⑤子どもだけで夜間に留守番をする	1	2	3	4

(3) 要支援者へのアンケート調査票（保護者用）

【お子さんの日常生活と教育についてお尋ねします】

■問9 お子さんが就学中の方にお尋ねします。それ以外の方は問14-1へお進みください。

お子さんの成績はどれくらいですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|------------|-----------|----------|
| 1. 成績良好 | 2. まあまあ良好 | 3. 普通 |
| 4. やや遅れている | 5. 遅れている | 6. 分からない |

■問10 お子さんの通学状況はどうですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. ほぼ毎日通っている | 2. 欠席は年間30日未満である |
| 3. 欠席は年間30日以上60日未満である | 4. 欠席は年間60日以上1年未満である |
| 5. 欠席が1年以上続いている | 6. 分からない |

■問11 あなたのお子さんは、学校が終わってから夕食までの間、どのように過ごしていますか。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 家で家族と過ごしている | 8. 学校や図書館などで勉強している |
| 2. 家でひとりで過ごしている | 9. 家の外でひとりで過ごしている |
| 3. 塾や習い事 | 10. 知り合い・親戚の家で過ごしている |
| 4. 部活動 | 11. アルバイトなど |
| 5. 地域のクラブ活動 | 12. その他 |
| 6. 友達の家で遊んでいる | 13. 何をしているか知らない |
| 7. 友達と外で遊んでいる | |

■問12 あなたは、お子さんをどの学校まで進学させたいと希望されていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|---------|----------|
| 1. 中学校 | 5. 大学 |
| 2. 高等学校 | 6. 大学院 |
| 3. 専門学校 | 7. その他 |
| 4. 短期大学 | 8. 分からない |

■問13-1 あなたは、問12で回答した希望どおりお子さんが進学できそうだとお考えですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|-----------------------------|-----------|----------|
| 1. そう思う | 2. そう思わない | 3. 分からない |
| ⇒ ※2. を選んだ方は、問13-2も回答してください | | |

■問13-2 問13-1で「2. そう思わない」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は、

問14-1にお進みください。その理由について教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. お子さんの希望とは違うから | 2. 現在のお子さんの学力や成績から考えて |
| 3. 経済的な余裕がないから | 4. 特に理由はない |
| 5. 分からない | 6. その他 |

■問14-1 自宅や学校以外の場所で、無料で、ボランティアなどと気をつかわずに落ち着いて過ごせる居場所があれば、お子さんに利用させたいと思いますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|-----------------------------|---------------|----------|
| 1. 利用させたいと思う | 2. 利用するつもりはない | 3. 分からない |
| ⇒ ※1. を選んだ方は、問14-2も回答してください | | |

■問14-2 問14-1で「1. 利用させたいと思う」と回答した方へお尋ねします。それ以外の方は問15へお進みください。その場所でのようなことができればよいと思えますか。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 読書や会話をしながら落ち着いて過ごす |
| 2. ボランティアで勉強を教えてもらいながら、自分のペースで学習できる |
| 3. 家、学校、友達のことについて相談にのってもらう |
| 4. その他 |

【学校や地域との関わりについてお尋ねします】

■問15 お子さんが就学中の方にお尋ねします。それ以外の方は問16へお進みください。

あなたの世帯では、授業参観や運動会など、お子さんの学校行事にどの程度参加していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 頻繁に参加している | 2. どちらかと言えば参加している |
| 3. ほとんど参加していない | 4. 参加していない |

(3) 要支援者へのアンケート調査票（保護者用）

■問 16 あなたの世帯では、地区の祭りなど、地域の行事ほどの程度参加していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 頻繁に参加している | 2. どちらかと言えば参加している |
| 3. ほとんど参加していない | 4. 参加していない |

【保護者の方の最終卒業学校や経済状況等についてお尋ねします】

■問 17 お子さんの父母の最終学歴を教えてください。(父母それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください)

父		母	
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業	1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校卒業	2. 高等学校卒業	2. 高等学校卒業	2. 高等学校卒業
3. 専門学校卒業	3. 専門学校卒業	3. 専門学校卒業	3. 専門学校卒業
4. 短期大学卒業	4. 短期大学卒業	4. 短期大学卒業	4. 短期大学卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業	5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了	6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他	7. その他	7. その他	7. その他

■問 18 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|-----------------|----------------|------------|
| 1. 持ち家（家族名義を含む） | 2. 賃貸住宅（6.を除く） | 3. 公営住宅 |
| 4. 社宅・寮 | 5. 応急仮設住宅 | 6. みなし仮設住宅 |
| 7. 親類・知人宅に同居 | 8. その他 | |

■問 19 お子さんの父母の現在の就業状況を教えてください。(父母それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください)

父		母	
1. お勤め（正社員、正規職員）	1. お勤め（正社員、正規職員）	1. お勤め（正社員、正規職員）	1. お勤め（正社員、正規職員）
2. お勤め（パート・アルバイト）	2. お勤め（パート・アルバイト）	2. お勤め（パート・アルバイト）	2. お勤め（パート・アルバイト）
3. お勤め（契約・派遣社員等）	3. お勤め（契約・派遣社員等）	3. お勤め（契約・派遣社員等）	3. お勤め（契約・派遣社員等）
4. 自営業	4. 自営業	4. 自営業	4. 自営業
5. 無職（求職中）	5. 無職（求職中）	5. 無職（求職中）	5. 無職（求職中）
6. 無職（求職中でない）	6. 無職（求職中でない）	6. 無職（求職中でない）	6. 無職（求職中でない）

■問 20 前年（2016年1月～12月）の世帯全員を合わせた所得の合計（収入から税や保険料を支払った後の額）はおおよそいくらかでしたか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 50万円未満 | 17. 800～850万円未満 |
| 2. 50～100万円未満 | 18. 850～900万円未満 |
| 3. 100～150万円未満 | 19. 900～950万円未満 |
| 4. 150～200万円未満 | 20. 950～1000万円未満 |
| 5. 200～250万円未満 | 21. 1000～1100万円未満 |
| 6. 250～300万円未満 | 22. 1100～1200万円未満 |
| 7. 300～350万円未満 | 23. 1200～1300万円未満 |
| 8. 350～400万円未満 | 24. 1300～1400万円未満 |
| 9. 400～450万円未満 | 25. 1400～1500万円未満 |
| 10. 450～500万円未満 | 26. 1500～1600万円未満 |
| 11. 500～550万円未満 | 27. 1600～1700万円未満 |
| 12. 550～600万円未満 | 28. 1700～1800万円未満 |
| 13. 600～650万円未満 | 29. 1800～1900万円未満 |
| 14. 650～700万円未満 | 30. 1900～2000万円未満 |
| 15. 700～750万円未満 | 31. 2000万円以上 |
| 16. 750～800万円未満 | 32. 分からない |

(3) 支援者へのアンケート調査票 (保護者用)

■問 21 あなたの世帯では、以下の手当や援助等を受けていますか。(①～⑤の項目それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	受けている	受けたことがある	受けたことはない	受けることが分らない
①児童手当	1	2	3	4
②就学援助費(※1)	1	2	3	4
③児童扶養手当(※2)	1	2	3	4
④生活保護	1	2	3	4
⑤行政からの貸付金(※3)	1	2	3	4

※1 経済的な理由で就学が困難な児童生徒に対し、学用品費などを援助する制度

※2 ひとり親家庭等(母子家庭、父子家庭等)に支給される手当

※3 ひとり親家庭等を対象とした母子父子寡婦福祉資金貸付制度、奨学金など

■問 22-1 離婚・非婚の方のみにお尋ねします。それ以外の方は問 23 へお進みください。
元配偶者等との「養育費」や「慰謝料」の取り決めはありましたか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 養育費と慰謝料の取り決めはあった 2. 養育費だけあった
3. 慰謝料だけあった 4. なかった 5. その他
⇒1. 2. を選んだ方は問 22-2 も回答してください

■問 22-2 問 22-1 で「1. 養育費と慰謝料の取り決めはあった」「2. 養育費だけあった」と回答した方へお尋ねします。それ以外の方は問 23 へお進みください。その養育費は今でも支払われていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 定期的に支払われている 2. 支払われたり、支払われなかったりする
3. 支払われていない 4. 支払いは完了している
⇒1. 2. を選んだ方は問 22-3 も回答してください

■問 22-3 問 22-2 で「1. 定期的に支払われている」「2. 支払われたり、支払われなかったりする」と回答した方へお尋ねします。それ以外の方は問 23 へお進みください。月の平均総額(子どもすべてに支払われる総額)はいくらですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 3万円未満 2. 3～5万円未満 3. 5～8万円未満
4. 8～10万円未満 5. 10万円以上

■問 23 あなたの世帯では、経済的理由で、次のような経験をしたことがありますか。おおむね直近1年の間でお考えください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 食費(嗜好品を除く)を切りつめた 7. 必要な服や靴を買うのを控えた
2. 電気、ガス、水道などが止まった 8. 冠婚葬祭のつきあいを控えた
3. 医療機関を受診できなかった 9. 家族の祝い事を控えた
4. 税金の支払いが滞った 10. 家族旅行を控えた
5. 家賃やローンの支払いが滞った 11. その他
6. 電話などの通信料の支払いが滞った 12. なし

■問 24 あなたの世帯では、経済的理由で、(お子さんが希望したにもかかわらず)次のような経験をしたことがありますか。おおむね直近1年の間でお考えください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 医療機関を受診できなかった 7. スポーツや部活動に参加できなかった
2. 本が買えなかった 8. 学習塾に通えなかった
3. お小遣いを渡せなかった 9. 誕生日等の祝い事を控えなかった
4. 必要な服や靴を買えなかった 10. 地域行事に参加できなかった
5. 修学旅行に参加できなかった 11. その他
6. 習い事に通えなかった 12. なし

【あなたご自身のお気持ちや悩みについてお尋ねします】

■問 25 あなたは、自分の将来に対して前向きな希望を持っていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 希望を持っている
2. 希望を持っている時もある、ない時もある
3. 希望が持てない
4. 分からない

(3) 要支援者へのアンケート調査票（保護者用）

■問 26 あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号^{まる}1つに○をつけてください)

- 1. とても信頼している
- 2. 信頼している
- 3. あまり信頼していない
- 4. 信頼していない

■問 27 あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号^{まる}1つに○をつけてください)

- 1. とても期待している
- 2. 期待している
- 3. あまり期待していない
- 4. 期待していない

■問 28 あなたは、自分だけでは解決することが難しい大きな悩みなどを抱えていますか。(あてはまる番号^{まる}1つに○をつけてください)

- 1. 大きな悩みなどを抱えている
- 2. 大きな悩みなどを抱えている時もあれば、ない時もある
- 3. 大きな悩みなどを抱えていない
- 4. 分からない

■問 29-1 あなたは、悩みや子育ての相談などをできる人はいいますか。(あてはまる番号^{まる}1つに○をつけてください)

- 1. いる
 - 2. 相談できる人が欲しいが、いない
 - 3. 相談する人は必要ない
 - 4. 分からない
- ⇒ 1. 2. を選んだ方は、問 29-2 も回答してください

■問 29-2 問 29-1 で「1. いる」「2. 相談できる人が欲しいが、いない」と答えた方にお尋ねします。それ以外の方は問 30 にお進みください。相談できる相手または相談したいと思う相手は誰ですか。(あてはまる番号^{まる}全てに○をつけてください)

- 1. 配偶者
- 2. 親・親戚
- 3. 友人・知人
- 4. 隣人・地域の人
- 5. 学校の先生
- 6. スクールカウンセラー
- 7. 民生委員・児童委員
- 8. 職場関係
- 9. 公的な専門の相談機関
- 10. 行政の窓口
- 11. 民間団体やボランティア

■問 30 あなたは、現在または将来的に、お子さんに対する、どのような支援があるといいと思いますか。(あてはまる番号^{まる}全てに○をつけてください)

- 1. 保護者がいないときに子ども預かる場やサービスの提供
- 2. 低い家賃で住める場所 (寮や下宿のようなところ)
- 3. 生活や就学のための経済的補助
- 4. 進路や生活についてなんでも相談できる場所
- 5. 仲間と出迎え、一緒に活動できる場所
- 6. 地域における子どもの居場所の提供
- 7. 読み書きや計算など基礎的な学習への支援
- 8. 進学を見据えた体系的な学習支援
- 9. 会社などでの職場体験の機会
- 10. 仕事に就けるようにするための就労に関する支援
- 11. その他
- 12. 特になし
- 13. 分からない

■問 31 日常生活で困っていることや悩み事等がありましたら、ご自由にお書きください。

【最後に熊本地震後の生活状況等についてお尋ねします】

■問 32 熊本地震の住居への影響や現在の状況について、あてはまる番号^{まる}1つに○をつけてください。

①地震前の住居	1. 持ち家	2. 民間賃貸住宅	3. 社宅・会社の寮
	4. 公営住宅	5. 親類・知人宅に同居	6. その他
②地震による被害	1. 被害なし	2. 一部損壊	3. 半壊
	4. 大規模半壊	5. 全壊	
③現在の居所	1. 被災前と同じ (修理等なし)		
	2. 被災前と同じ (新築・修理等)		
	3. 被災後に転居等した		

(3) 要支援者へのアンケート調査票（保護者用）

■問 33 熊本地震の影響で、地震前と現在で、就業形態の変化はありますか。（父母それぞれについて、あてはまる番号[1]に○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください）

父	母
1. 変わらない 2. 変わった ↓ (変わった方は以下もお答えください) 1. 安定した (非正規⇒正規など) 2. 不安定になった (正規⇒非正規など)	1. 変わらない 2. 変わった ↓ (変わった方は以下もお答えください) 1. 安定した (非正規⇒正規など) 2. 不安定になった (正規⇒非正規など)

■問 34 熊本地震の影響で、地震前と現在を比べ、収入の変化はありましたか。（父母それぞれについて、あてはまる番号[1]に○をつけてください。お子さんの父母がおらず、祖父母等がお子さんを養育している場合は、その方の性別に従ってご記入ください。また、ひとり親等の場合は、該当する項目のみご記入ください）

父	母
1. 変わらない 2. 変わった ↓ (変わった方は以下もお答えください) 1. 増えた 2. 少し減った (1～2割減) 3. かなり減った (3割以上減)	1. 変わらない 2. 変わった ↓ (変わった方は以下もお答えください) 1. 増えた 2. 少し減った (1～2割減) 3. かなり減った (3割以上減)

調査はこれで終了です。
長いお時間、調査にご協力いただき、ありがとうございました。

(4) 要支援者へのアンケート調査票 (子ども用)

熊本市子どもの生活に関する実態調査 | 子ども向け調査票 B 票

調査主体 熊本市役所 子ども支援課

- この調査は、熊本県内の 12～18 歳の皆さんの学校や家での生活の様子などについて尋ねるものです。皆さんのまわりにある様々な課題をできるだけ解決し、皆さんの到来を少しでも良くするために必要なもので、ぜひ協力してください。
- 同じ家に住む兄弟姉妹の中で、12～18 歳の方が複数いる場合は、どなたか 1 人が回答してください。12～18 歳であれば誰が回答しても構いません。
- 自分自身で思ったとおりに回答してください。答えに迷う場合は、あなたの気持ちや考えに一番近いものを選んでください。
- この調査は、あなたの名前を書く必要はありません。あなた個人を特定するものではありませんので、安心して答えてください。
- 調査に回答いただきましたら、同封している返信用封筒 (水色) に、この調査票 B と保護者向け調査票 A (ピンク色) をまとめて入れ、封をしたうえ、8 月 3 日 (木) までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。
- 調査に関することやわからない点などがあつた場合は、以下の問合せ先までお願いします。

この調査に関する問合せ先

熊本市役所 子ども支援課
 電話：096-328-2158 (平日8:30～17:15)
 FAX：096-351-2183
 E-mail：kodomoshien@city.kumamoto.lg.jp

質問への回答方法 (見本です)

■ それぞれの質問について次のように答えてください。
 (例) あなたの好きな色は何ですか。

1. 赤 ② 青 3. 黄色 4. その他

※ お答えは、あてはまる番号に○をつけてください。
 ※ ○のつけ方は、質問文の終わりに「あてはまる番号1つ」や「あてはまる番号全て」などと書いてありますので、それぞれの答え方に沿ってください。

【まず、あなたご自身についてお尋ねします】

- 問1 あなたの年齢について、あてはまる番号1つに○をつけてください。
 1. 12歳 2. 13歳 3. 14歳 4. 15歳
 5. 16歳 6. 17歳 7. 18歳
- 問2 あなたの性別について、あてはまる番号1つに○をつけてください。
 1. 男性 2. 女性 3. 答えたくない

- 問3 あなたが現在通っている学校を教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. 中学校 } 1.または2.と回答した方は問4へ
- 2. 高校 }
- 3. 学校には行っていない } 3.または4.と回答した方は問16-1へ
- 4. 学校には行かず働いている }

【勉強と学校生活についてお尋ねします】

- 問4 あなたは、平日 (月～金曜日) は、学校の授業以外に1日にどのくらい勉強しますか。(塾での勉強時間を含めて、あてはまる番号1つに○をつけてください)
- 1. ほとんどしない 2. 1時間より少ない 3. 1～2時間
 4. 2～3時間 5. 3～4時間 6. 4～5時間
 7. 5時間より多い

(4) 煙草消費者へのアンケート調査票 (子ども用)

■問5 あなたは、休日(土日、祝日)は、1日にどのくらい勉強しますか。(塾での勉強時間を含めて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|------------|--------------|----------|
| 1. ほとんどしない | 2. 1時間より少し多い | 3. 1～2時間 |
| 4. 2～3時間 | 5. 3～4時間 | 6. 4～5時間 |
| 7. 5時間より多い | | |

■問6 あなたは、学校の勉強がよくわかりますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. よくわかる | 2. だいたいわかる |
| 3. あまりわかりません | 4. ほとんどわかりません |

■問7 あなたは、週にどのくらい読書を読みますか。(マンガや雑誌を除き、あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|------------|--------------|------------|
| 1. ほとんどしない | 2. 30分より少し多い | 3. 30分～1時間 |
| 4. 1～2時間 | 5. 2時間より多い | |

■問8-1 あなたは、学校は楽しいと思いますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 1. すごく楽しい | 2. まあまあ楽しい | 3. あまり楽しくない |
| 4. 全く楽しくない | 5. わかりません | |
- ※1. または 2. を選んだ方は、問8-2も回答してください
 ※3. ～ 5. を選んだ方は、問8-3も回答してください

■問8-2 問8-1で「1. すごく楽しい」、「2. まあまあ楽しい」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は、問8-3にお尋ねください。あなたがそう思う理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 勉強が好きだから | 2. 友達といるのが楽しいから |
| 3. 先生が好きだから | 4. 部活動やクラブ活動が楽しいから |
| 5. 何となく | 6. その他 |

■問8-3 問8-1で「3. あまり楽しくない」、「4. 全く楽しくない」、「5. わかりません」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は、問9にお尋ねください。あなたがそう思う理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 勉強が嫌いだから | 2. 授業がわからないから |
| 3. 友達と嫌いだから | 4. 先生が嫌いだから |
| 5. いじめられるから | 6. 何となく |
| 7. 学校に行っても意味がないから | 8. わかりません |

■問9 あなたは、将来どの学校まで進学したいですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 中学校 | 5. 大学 |
| 2. 高等学校(高校) | 6. 大学院 |
| 3. 専門学校 | 7. その他 |
| 4. 短期大学 | 8. わかりません |

■問10-1 あなたは、塾(家庭教師や通信制の家庭学習教材を含みます)に通っていますか。(習字やそろばん、ピアノなどの習い事は含みません。あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 通っている | 2. 通っていない |
|----------|-----------|
- ⇒ ※2. を選んだ方は、問10-2も回答してください

■問10-2 問10-1で「2. 通っていない」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は、問11-1にお尋ねください。塾に通っていない理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 近くに通いたい塾(家庭教師・通信制の家庭学習教材)がないから |
| 2. 塾・クラブや部活動などで忙しいから |
| 3. 通いたい塾、保護者に月謝などの負担をかけられないから |
| 4. 通わなくても十分に学習ができるから |
| 5. 行きたくないから |
| 6. 特に理由はない |
| 7. その他 |

(4) 親戚者へのアンケート調査票 (子ども用)

■問 11-1 あなたは、スポーツクラブ (学校の部活動以外の球技や水泳、ダンスなど) や部活動に入っていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 入っている 2. 入っていない
⇒※2. を選んだ方は、問 11-2 も回答してください

■問 11-2 問 11-1 で「2. 入っていない」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は、問 12-1 にお進みください。入っていない理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 入りたいが、保護者に月謝などの負担をかけられないから 2. 勉強や塾、習い事で忙しいから
3. 入りたいが、保護者に月謝などの負担をかけられないから
4. その他 5. 特に理由はない

■問 12-1 あなたは、習字やそろばん、ピアノなどの習い事をしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. している 2. していない
⇒ ※2. を選んだ方は、問 12-2 も回答してください

■問 12-2 問 12-1 で「2. していない」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は、問 13 にお進みください。習い事をしていない理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 習いたいと思う習い事がないから 2. 勉強や塾、部活動で忙しいから
3. 習いたいが、保護者に月謝などの負担をかけられないから
4. その他 5. 特に理由はない

【放課後の過ごし方についてお尋ねします】

■問 13 あなたは、学校が終わってから夕食までの間、主にどこで過ごしていますか。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 自分の家 7. 図書館、公民館、児童館
2. 祖父の家 8. ゲームセンター
3. 親戚の家 9. ショッピングモール
4. あなたの友人の家 10. 体育館やグラウンド
5. 塾 11. 習い事の教室など
6. 公園、広場 12. その他

■問 14 あなたは、学校が終わってから夕食までの間、主に誰と過ごしていますか。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

1. 父 6. あなたの友人
2. 母 7. あなたひとり
3. 祖父母 8. その他の人
4. 親戚 9. わからない
5. 兄弟姉妹

■問 15 あなたは、保護者の方と学校のできごとについて話をしますか。(保護者には、あなたの父母のほか、祖父母や親戚などの大人を含みます。あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほとんど毎日話をする 2. たまに話をする
3. あまり話をしない 4. 全く話をしない

■問 16-1 あなたは、自宅や学校以外の場所で、無料で、ボランティアなど気をつかわずに落ち着いて過ごせる居場所があれば、利用したいと思いますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 利用したいと思う 2. 利用するつもりはない 3. 分らない
⇒ ※1. を選んだ方は、問 16-2 も回答してください



(4) 親文 読者へのアンケート調査票 (子ども用)

■問 16-2 問 16-1で「1. 利用したいと思う」と回答した方へお尋ねします。それ以外の方は問 17へお進みください。その場所でのようなことができればよいと思いますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 読書や会話をしながら落ち着いて過ごす |
| 2. ポランテアで勉強を教えてもらいながら、自分のペースで学習できる |
| 3. 家、学校、友達のことについて相談のつってもらう |
| 4. その他 |

■問 17 あなたは、平日 (月～金曜日) は、1日に何時間くらいテレビを見ますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. ほとんど見ない | 2. 1時間より少ない | 3. 1～2時間 |
| 4. 2～3時間 | 5. 3～4時間 | 6. 4～5時間 |
| 7. 5時間より多い | | |

■問 18 あなたは、平日 (月～金曜日) は、1日に何時間くらいゲームをしますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. ほとんどしない | 2. 1時間より少ない | 3. 1～2時間 |
| 4. 2～3時間 | 5. 3～4時間 | 6. 4～5時間 |
| 7. 5時間より多い | 8. 持っていない | |

■問 19 あなたは、平日 (月～金曜日) は、1日に何時間くらい携帯電話 (スマートフォンなど) を使いますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | | |
|--------------|-------------|----------|
| 1. ほとんど使用しない | 2. 1時間より少ない | 3. 1～2時間 |
| 4. 2～3時間 | 5. 3～4時間 | 6. 4～5時間 |
| 7. 5時間より多い | 8. 持っていない | |

■問 20-1 学校に通っている方にお尋ねします。それ以外の方は問 21へお進みください。現在、定期的にアルバイトをしていますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|
- ⇒ ※ 1. を選んだ方は、問 20-2～4 も回答してください

■問 20-2 問 20-1で「している」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は問 21へお進みください。働いている時間を教えてください。(週と1日あたりそれぞれについて、あてはまる番号1□に○をつけてください)

週何日働いているか	1日 (平日) 何時間 働いているか	1日 (休日) 何時間 働いているか
1. 週1日以下	1. 働いていない	1. 働いていない
2. 週2～3日	2. 2時間未満	2. 2時間未満
3. 週4～5日	3. 2～4時間未満	3. 2～4時間未満
4. 毎日またはほとんど毎日	4. 4～6時間未満	4. 4～6時間未満
	5. 6時間以上	5. 6時間以上

■問 20-3 問 20-1で「している」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は問 21へお進みください。1ヶ月のアルバイト代は平均していくらですか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 1万円未満 | 2. 1～3万円未満 | 3. 3～5万円未満 |
| 4. 5～7万円未満 | 5. 7万円以上 | |

■問 20-4 問 20-1で「している」と回答した方にお尋ねします。それ以外の方は問 21へお進みください。アルバイト代の使い道を教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

- | |
|------------------------|
| 1. 自分のおごつかいとして使っている |
| 2. 家の生活費にしている |
| 3. 自分の習い事や塾、学費などに使っている |
| 4. 自分の将来のために貯金している |
| 5. その他 |

(4) 親交者へのアンケート調査票 (子ども用)

■問 25 あなたは、平日 (月～金曜日) は、ほぼ同じ時刻に寝ていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. ほぼ同じ時刻に寝ている
- 2. どちらかと言えば同じ時刻に寝ている
- 3. あまり同じ時刻に寝ていない
- 4. 寝る時刻は毎日異なる

■問 26 あなたは、平日 (月～金曜日) は、平均して何時間くらい寝ていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. 4時間より少ない
- 2. 4～5時間
- 3. 5～6時間
- 4. 6～7時間
- 5. 7～8時間
- 6. 8時間より多い

【あなたの食生活についてお尋ねします】

■問 27-1 あなたは、週にどのくらい朝食を食べますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. ほぼ毎日⇒問 28-1へ
 - 2. 週に4～5日
 - 3. 週に2～3日
 - 4. 週に1日程度
 - 5. ほとんど食べない
- ※ 2. ～ 5. を選んだ方は、問 27-2 も回答してください

■問 27-2 問 27-1 で「1. ほぼ毎日」と回答した方以外にお尋ねします。「1. ほぼ毎日」と回答した方は、問 28-1 にお進みください。あなたが朝食を食べない理由を教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. 食べる時間がない
- 2. おなかが空いていない
- 3. 用意されていない
- 4. 食べる習慣がない
- 5. わからない
- 6. その他

■問 28-1 あなたは、週にどのくらい夕食を食べますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. ほぼ毎日 ⇒問 29へ
 - 2. 週に4～5日
 - 3. 週に2～3日
 - 4. 週に1日程度
 - 5. ほとんど食べない
- ※ 2. ～ 5. を選んだ方は、問 28-2 も回答してください

■問 21 あなたは自分が使うことができる、ア～コのものがありますか。ある場合は、「1. ある」の番号に○をつけてください。ない場合はそれが必要と思うものであれば「2. 必要と思う」、必要と思わない場合は「3. 必要でない」の番号に○をつけてください。

	ある	ない
ア. 学習のための本 (参考書)	1. ある	3. 必要でない
イ. 子ども部屋などの勉強する場所	1. ある	3. 必要でない
ウ. パソコン	1. ある	3. 必要でない
エ. クラブ、部活動などの用具	1. ある	3. 必要でない
オ. 自転車	1. ある	3. 必要でない
カ. 携帯電話	1. ある	3. 必要でない
キ. 趣味・習い事の道具	1. ある	3. 必要でない
ク. 自分で選んだ服	1. ある	3. 必要でない
ケ. テレビ	1. ある	3. 必要でない
コ. ほとんどの友達が持っているゲームなど	1. ある	3. 必要でない

【あなたの健康についてお尋ねします】

■問 22 あなたは、毎日どのくらい歯磨きをしますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. 毎食後 (3回)
- 2. 2回
- 3. 1回
- 4. ほとんどしない

■問 23 あなたは、どのくらいお風呂 (シャワーも含む) に入りますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. 毎日またはほとんど毎日
- 2. 4～5日に1回
- 3. 2～3日に1回
- 4. 週に1回程度
- 5. 入らないまたはほとんど入らない

■問 24 あなたは、平日 (月～金曜日) は、ほぼ同じ時刻に起きていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- 1. ほぼ同じ時刻に起きている
- 2. どちらかと言えば同じ時刻に起きている
- 3. あまり同じ時刻に起きていない
- 4. 起きる時刻は毎日異なる

(4) 親文筆者へのアンケート調査票 (子ども用)

■問 33 あなたは、難しいことでも失敗を恐れず何かに挑戦したいと思いますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかと言えばそう思う |
| 3. どちらかと言えばそう思わない | 4. そう思わない |
| 5. わからない | |

■問 34 あなたは、自分には良いところがあると思いますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかと言えばそう思う |
| 3. どちらかと言えばそう思わない | 4. そう思わない |
| 5. わからない | |

■問 35 あなたは、どんなときに楽しいと感じますか。(あてはまる番号全□に○をつけてください)

- | |
|------------------------------|
| 1. 家族と一緒にすごしているとき |
| 2. 学校にいるとき (部活動含む) |
| 3. 友達といるとき |
| 4. 塾に行ったり習い事をしているとき |
| 5. テレビを見ているとき |
| 6. ゲームをしているとき |
| 7. ひとりで過ごしているとき |
| 8. パソコンや携帯電話、スマートフォンを使っているとき |
| 9. 働いて (アルバイト含む) いるとき |
| 10. 買い物などをしているとき |
| 11. 地域の活動や行事に参加しているとき |
| 12. その他 |
| 13. 楽しいと感じることはない |

■問 28-2 問 28-1で「1. ほぼ毎日」と回答した方以外にお尋ねします。「1. ほぼ毎日」と回答した方は、問 29 にお進みください。あなたが夕食を食べない理由を教えてください。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 食べる時間がない | 2. おなかが空いていない |
| 3. 用済されていない | 4. 食べる習慣がない |
| 5. わからない | 6. その他 |

■問 29 あなたは、週にどのくらい保護者の方と一緒に朝食を食べますか。(保護者には、あなたの父母のほか、祖父母や親戚などの大人を含みます。あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に4～5日 | 3. 週に2～3日 |
| 4. 週に1日程度 | 5. ほとんど食べない | |

■問 30 あなたは、週にどのくらい保護者の方と一緒に夕食を食べますか。(保護者には、あなたの父母のほか、祖父母や親戚などの大人を含みます。あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に4～5日 | 3. 週に2～3日 |
| 4. 週に1日程度 | 5. ほとんど食べない | |

【あなたの考えや気持ちについてお尋ねします】

■問 31 あなたは、将来のためにも、今、勉強やスポーツ、特技を頑張りたいと思いますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかと言えばそう思う |
| 3. どちらかと言えばそう思わない | 4. そう思わない |
| 5. わからない | |

■問 32 あなたは、将来の夢・希望や目標を持っていますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 持っている | 2. どちらかと言えば持っている |
| 3. どちらかと言えば持っていない | 4. 持っていない |
| 5. わからない | |

(4) 要支援者へのアンケート調査票 (子ども用)

■問 39 最後に、日常生活で困っていることや悩み事などがありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

【あなたの悩みやサポートしてくれる方 (助けてくれる方) についてお尋ねします】

■問 36 あなたは、自分だけでは解決することが難しい大きな悩みなどがありますか。

(あてはまる番号1□に○をつけてください)

1. 大きな悩みなどがある
2. 大きな悩みなどがある時もあるが、ない時もある
3. 大きな悩みなどはない
4. わからない

■問 37-1 あなたは、悩みなどを相談できる人はいますか。(あてはまる番号1□に○をつけてください)

1. いる
 2. 相談できる人が欲しいが、いない
 3. 相談する人は必要ない
 4. わからない
- ⇒ 1. 2. を選んだ方は、問 37-2 も回答してください

■問 37-2 問 37-1 で「1. いる」「2. 相談できる人が欲しいが、いない」と回答した方に
お尋ねします。それ以外の方は問 38 にお進みください。あなたが悩んでいると
きに、相談に乗ってくれる人または乗って欲しい人は誰ですか。(あてはまる番号
全てに○をつけてください)

1. 家族 (両親、祖父母、兄弟姉妹など)
2. 親戚 (おじさん、おばさん、いとこなど)
3. 担任の先生やほかのクラスの先生
4. 保健室の先生
5. スクールカウンセラー
6. 塾や習い事の先生
7. 学校の友達
8. 職場・アルバイト先の人
9. その他の友達
10. その他の人

■問 38 あなたが今悩んでいることや心配なこと、困っていることや誰かに相談したいと思
っていることがあれば教えてください。(あてはまる番号全てに○をつけてくださ
い。)

1. 家族のこと
2. 学校の勉強のこと
3. 友人関係
4. 進路・将来のこと
5. その他のこと
6. 悩んでいることや心配なこと、困っていることはない

熊本市子どもの生活等実態調査
結果報告書

平成 30 年 2 月発行

熊本市健康福祉局子ども未来部子ども支援課

〒860-8601 熊本県熊本市手取本町 1 番 1 号

電話 096-328-2158

調査委託 公益財団法人 地方経済総合研究所

